

---

# 大日本リーグ-大連戦記-

桃山忠海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大日本リーグ - 大連戦記 -

### 【Nコード】

N2934R

### 【作者名】

桃山忠海

### 【あらすじ】

21世紀、大日本帝国。プロ野球も拡大して28チームにまで膨れ上がった。その中のひとつである大連バトルシップスのシーズンを追う。

## 序章

時は21世紀、西暦20XX年の春。

前世紀中盤に勃発寸前だった日米決戦を回避した大日本帝国はそれ以来今に至るまで平安を享受していた。

そして今年もこの季節が始まる。プロ野球開幕の季節が。

1936年に7球団で結成された日本職業野球連盟は多くの苦難を経て今や28球団に拡大。

日本列島のみならず台湾、朝鮮半島、そして満洲国にもプロ野球の球団が誕生していた。

その歴史の中で外地球団誕生の嚆矢となった台湾2球団加盟問題の際、ある考えが持ち上がった。

現在の1リーグ制では球団が増えると対応できなくなるのでアメリカ式の2リーグ制を目指すべき、というものである。

この考えに基づき、連盟を発展的解消させて中央リーグと海洋リーグを立ち上げ、統括機関として大日本野球機構（NPB）が設立された。

その上で日本列島と台湾のチームは列島、朝鮮と満洲のチームは大陸と分割された。

いずれはアメリカのメジャーリーグを上回る規模と国際性を持った

リーグに、という野心を抱きながら。

以下に示すのが現在NPBに所属する28球団である。その他各地に独立リーグが存在する。

中央列島（6球団）

東京カイツ（旧東京ジャイアンツ）

大阪ダイナマイツ（旧タイガース）

名古屋インダストリーズ（旧名古屋軍）

広島フィッツシイズ（旧名古屋金鯱軍）

横浜サンズ（旧大東京軍）

京都リンクス

中央大陸（8球団）

平壤ホワイトヘッズ

開城レッドソックス

光州クラウンズ

大連バトルシップス

奉天ラビッツ

新京ユニオンズ

ハルビントルーパーズ

チチハルクレイーンズ

海洋列島（8球団）

福岡コンドルズ(旧南海軍)

埼玉ウイングス(旧東京セネタース 翼軍)

千葉スターズ(旧ゴールドスター 大映)

札幌フライヤーズ(旧セネタース 東急)

神戸ベアーズ(旧阪急軍)

仙台イーグルス(旧イーグルス 黒鷲軍)

台北エレファント

台南フェニックス

海洋大陸(6球団)

釜山パイレーツ

京城ツインズ

元山アスレティック

大田グリーンズ

安東エンジェルス

吉林アトムズ

## 序章（後書き）

とりあえず1シーズンを目標に、続くといいな。きつと飽きてしま  
うんだろっなとか思いつつもやれるまではやってみよう。

## 大連戦力分析 投手編

「先発」

吉野

張尊

瑞穂

フローデセン

赤坂

松浦

「リリーフ」

黄直哉

野藤

趙雅憲

石風呂

小松原

比山

大胆なトレードを敢行したことは投手陣に刺激を与えたようで、ブルペンは例年以上に活性化している。そのトレードで加入した瑞穂智幸（26）は紅白戦、オープン戦で安定感抜群の投球を披露しており、首脳陣の評価を日増しに高めている。「コントロールもいいし、決め球のスライダーも強力。最低でも8勝はできる實力を持っているし2桁勝利も十分可能。」と天沼智久投手コーチ（43）もその實力に太鼓判を押している。また、新外国人のウィル・フロードセン（28）は2mを超える長身から投げ下ろされるストレートとチェンジアップの切れ味抜群で吉野大吾（29）、張尊（36）に次ぐ先発入りは確実視されている。

残り2枠はサバイバルとなっている。新人の赤坂忠徳（22）、

2年目の松浦心（19）といった若手に加えて趙雅憲（32）、原克馬（33）ら経験豊富なベテランも虎視眈々と機会をうかがう。大学ナンバーワン投手と言われ、ドラフトで競合の末に引き当てた赤坂は長身から繰り出されるストレートとフォークが武器。キャンプのシートノックでは星渡、清水という主力打者相手に50球を投げ込みヒット性の当たりが1本と、実力の片鱗を見せた。

松浦は伸びやかなフォームから放たれるストレートの伸びが魅力的な好素材。昨年1年間二軍で走りこみ中心のハードなメニューをこなした成果が出て、下半身が見違えるほどたくましくなった。赤坂や松浦のような若手投手の成長なくしてチームの浮上はおぼつかないだけに期待がかかる。また、ロースター漏れの外国人投手を獲得に動くという話もある。

リリーフは昨年までのストッパー西坂有司（30）がトレードで退団した穴をいかに埋めるかが大きな課題である。劉瑞生監督（48）はストッパー候補として比山仁（25）と小松原泰誠（27）の名前を挙げ、この2人を調子によって使い分ける構想を立てている。確かに両者には西坂に勝るとも劣らない球威を備えている。しかし、比山は精神面のもろさ、小松原は怪我の多さという弱点を指摘されており構想通りに事が運ぶかは未知数である。あるいはストレートに定評のある松浦をリリーフに起用という案も考えられるだろう。

中継ぎには趙雅憲、黄直哉（33）、野藤秀親（30）、石風呂幹伸（26）などタフで試合を作る能力に長けた投手が揃っているものの、ここ一番の場面で痛打されるケースが目立った。特に小井、星野といった左打者との相性が悪かった。そこで期待されているのは育成枠出身でこのキャンプから支配下登録されたサウスポーター平野錦（19）だ。公称170cmの小柄な体をさらに小さく折り



たたむサイドスローから繰り出されるクセ球は左打者にとっては極めて打ちにくい。まずは左キラーとして活路を見出したい。また、昨年は怪我に泣いた伊東聡司(34)、北甲大(31)といった選手も復帰してくればブルペンは充実してくるだろう。

それ以外に期待できる選手としては、昨年46試合登板の斎場次巳(24)、初先発初勝利を記録した王貞成(20)、希少なアンダーロー投手永市邦彦(27)といった名前が挙げられるか。昨年甲子園を沸かせた汐風有希(18)は将来の大連投手陣を担うであろう才能。育成枠のマシュー・リンド(24)は昨年終盤二軍で連続完封を記録するなどパワーのあるところを見せた。即一軍で通うストレートを持っているだけに安定した制球力が身に付けばシーズン途中での支配下登録も期待できる。

## 大連戦力分析 野手編

予想メンバー

- 8 星渡
- 7 ノーリー
- 5 パウロ
- 9 林
- 3 柳中平
- 4 近堂
- 6 柵橋
- 2 清水

大胆な変動があつた投手に比べると野手の動きは少ない。昨年4位に終わった原因のひとつである二遊間は未だに固定されておらず不安定な部分も大きい。若手選手の奮闘がチーム浮上の鍵となる。星渡に続いて台頭する若手野手は現れるのか。

捕手は今季も清水尚起（31）となりそうだ。よく響く大声でチームを鼓舞する光景はスタジアムの名物となっている。投手陣からの信頼も厚い好人物で、意外性のある打撃も魅力。

第二捕手だつた伊勢田亨（39）は昨年限りで引退したが、その代わりとなりうる選手が今季トレードで獲得した金重男（33）である。打撃力の高い捕手として知られており、バックアップとしては十分すぎるほどの実力を持っている。場合によっては清水を追いやって正捕手となるかも知れない。中西定治（24）や南翔介（19）といった若手も控えている。打撃力の評価が高い中西や強肩の南がどこまで一軍に迫れるかにも注目したい。このポジションは特殊性が高く、怪我人が出ると一気に厳しくなるので体調管理には気

をつけてほしい。

一塁手は柳中平（29）で安泰だろう。190cmを超える長身を軽妙に動かしての守備はまさに鉄壁で、チームに安定感を与えている。打撃は本塁打こそ少ないもののシユアなバツティングに定評がある。「去年までは柳中平といえば守備の人、みたいに言われてたけど、今季は打撃の中平にイメージチェンジしたい。」と本人も言うように、春季キャンプでは例年以上にバツティング練習に精を出す姿が印象的だった。今季は3割2桁本塁打とゴールデングラブ賞を目標に定めているが普段の実力を発揮できれば十分に可能な数字だ。昨年は代打の切り札として大いに名を売った古池吉郎（24）も面白い。持ち前のパンチ力のあるバツティングを今季も発揮できるなら柳を脅かす存在となる。

二塁手は昨年森茂常弘（31）や大上徳博（23）が健闘したが力不足は否めなかった。やはりここ数年低迷しているものの潜在能力の高さに疑いのない近堂貴久（28）の復活に期待したい。4年前に・302 21本64打点を記録した打棒を取り戻す事こそが大連最大の補強となる。守備のうまい森茂、スピードに定評のある大上とうまく使い分ければなかなか強力な布陣となるが。

三塁手は地球の裏側、ブラジルから来た褐色の大砲パウロ・ミネイロ（24）が定着している。20歳で入団して以来、高い身体能力で驚異的な活躍を見せている。ただ送球が大暴投となるなど技術的に荒っぽいのは事実で外野コンバート案も取りざたされている。もしパウロが外野となった場合の三塁手はユーティリティプレイヤーのクラウド・ノーリー（35）が想定されている。昨年は主に遊撃手を守っていたので三塁手も難なくこなせるだろう。

太刀川勇太（20）、佐々沢辰巳（20）といった若手が二軍で

力を付けつつ一軍昇格を狙うがレギュラーとなるとまだ先の話。内野手の層ははつきり言って薄いので、内外野そつなく守れるノーリ―が離脱となった場合かなり危険な状態になってしまう。体調管理術に関しては選手間でも尊敬されるほどプロ意識が高いノーリ―だが、もう30代中盤と肉体的に衰えが始まってでも不思議ではない年齢となっている。そろそろポストノーリ―を考えるべき時期に入っていると言えるだろう。

遊撃手は決定打に欠ける。横浜から移籍した20年目のベテラン立石篤志(37)は春季キャンプでベテランらしい妙味を見せているものの年齢が年齢だけに多大な期待は禁物。内野手のリザーブとして期待するのが無難であろう。

遊撃手候補の中で劉監督が一番期待しているのは昨年二軍の首位打者となった棚橋和隆(23)だ。三拍子揃った大型遊撃手として期待されながらここまで一軍では結果が出ていない棚橋だが、その潜在能力は二軍成績からも証明されている。一軍の水に慣れることが出来れば面白い。また昨年前半に台頭したものの怪我で後半戦を棒に振った俊足豪打の本郷建策(25)も5月の復帰を予定している。棚橋か本郷か、チームの将来を占う上でも今季の遊撃手争いは極めて重要になりそうだ。

外野手は左からノーリ―、星渡晃兵(23)、林葉輔(38)となる。21年目のベテラン林は首位打者1回本塁打王と打点王2回の実績を持つ大打者。すでに2000本安打は達成しているがまだまだ通過点。年齢のせいかパワーは多少衰えたものの打撃技術はむしろ深まっており、昨年はリーグ3位の.326を記録した。「前(24歳のシーズン)の首位打者は若さと勢いだけだったけど、今はその代わりに技も多少は覚えたし(二度目の首位打者を)狙いたいね。」と気負いなく語る林には達人の風格さえ漂う。今季も不

動のクリーンナップとして活躍するだろう。

中堅手の星渡は女性人気チームナンバーワンの若き実力派。美形。昨年から潘一鶴打撃コーチ（56）と取り組んだ打撃改造が実って長打力が向上した事で「トリプルスリーに一番近い男」とも呼ばれるようになった。「トリプルスリー？意識していません。大事なのは去年の成績（.294 23本38盗塁）を超えること。」と謙虚に語るも、将来の話になると「本塁打王と盗塁王を同時に取れる選手が理想。その目標に近づいていくうちにおのずと（トリプルスリーは）付いてくるでしょう。」と色気を見せた。

磐石の3選手だが、彼らとて安泰とは言い切れないほど控えの層も厚い。打撃に定評のある河剛紀（23）や折口元文（30）、俊足強肩の水内賢（24）、守備範囲の広い高遼二（26）など多彩な選手が揃っており、今のレギュラーに取って代わろうとする野心に満ち溢れている。

打順に関して、まず确实といえるのは二番ノーリー、四番林、そして八番清水である。オープン戦を見てもこの3人はほぼ固定されている。一方、その他の打順はかなり流動的で、開幕してからも実験は続くかも知れない状況である。

レギュラーの中では一番俊足の星渡は一番で起用される可能性が高いが、伸びてきた長打力を生かすために三番という線もある。ただ、そうなると一番打者の候補がいなくなるのでやはり星渡が一番か。昨年主に三番を任されたパウロは身体能力の高さが魅力だが、同時に荒っぽさも持ち合わせているので打順を下げて自由に打たせる案もあるという。また三番候補として劉監督が真っ先に名を挙げている棚橋はオープン戦で及第点の活躍を見せているが、シーズン通してとなると未知数な部分も多く多大な期待は禁物。あるいは現

在オープン戦で打撃好調の近堂を三番という手も考えられるか。

昨年は五番が多かった柳だが、オープン戦では二番で使われたり七番に置かれたりと読みにくい。巧みな打撃技術を持ち、何番に入っても対応できる強みを持っているのでシーズンでも様々な打順に座る事になるのではないか。とにかく、チームとしては三番打者を固定させたい。そうすればおのずと他の打順も決まってくるはずだ。

戦力分析 光州

光州 前年8位

「先発」

奥森

坪倉

スミス

陳良文

筑原

片平

「リリーフ」

宮内

李吉男

河原林

ラストー

大越

戸田垣

「スタメン」

3 大深

4 真野

8 マイヤー

9 小金井

5 久保岡

2 山岡

4 白知秋

7 朴芳一

黄金時代は完全に過去のものとなった。昨年は序盤から最下位を独走。6月で今井幸一監督は休養となり、陳文安ヘッドコーチが監督代行に就任するなどゴタゴタに終始してしまった。昨年まで投手コーチを務めていた辺大建監督(51)のもとで再建のシーズンとなる。

投手陣は昨年9勝を挙げた3年目の奥森和世(20)が柱となりそうだ。150キロを超えるストレートとスライダーの威力に加え、若くして非常にクレーバーな投球術を心得ているので計算できる。今季は2桁勝利がノルマ。また、昨年は新人ながら初登板初完投と希望を見せた坪倉徹道(19)も好調だ。ベテラン片平正義(38)やジャック・スミス(36)といったベテランも若手には負けないという意地を見せたい。しかしやはり高卒2年目や3年目の投手がチームの中心を担わざるを得ないとはいかにも心許なく、今季も苦戦は必至か。

リリーフは戸田垣修宏(30)の負傷離脱が致命的だった。代役となった大越路雄(21)はいきのいいストレートとフォークボールを武器に健闘したものの、若さが出て手痛い一撃を浴びる場面も多く、7敗と安定感を欠いた。そこでリリーフ専門の新外国人ホセ・ラスター(28)を獲得した。しかしこのラスター、確かにストレートは威力があるもののコントロールはいまいちでどこまで対応できるか。戸田垣の復活と大越の成長に期待するほうが無難だ。

野手は朴芳一(36)、ジェス・マイヤー(35)、小金井大智(39)のベテラン外野勢以外は相変わらず磐石だが内野手はまだまだ。二塁手は新人の白知秋(22)を据えるがシーズンを通じてどこまでやれるかは完全に未知数。大深直十(26)や久保岡武徳(23)もグッドプレイヤーではあるがもう一皮剥けないと厳しい。やはり小金井らベテラン頼りになるのも致し方なしか。



その小金井は昨年もリーグ2位の38本塁打を放つなど衰えなし。6月には不惑を迎える不出世の大型スラッガーの引退はまだまだ先の話になりそうだ。マイヤーの鍛えられた肉体、朴の老獪さといったベテランならではの持ち味を見るのも楽しい。また、契約更改の際に今季限りでの現役引退を明言した勝田真言(41)にも注目。黄金時代には強打の二塁手として活躍し、現在では代打の切り札としてその名前がアナウンスされると「カッタコール」が巻き起こる人気選手。打撃にこだわった職人の雄姿を目に焼き付けておきたい。

全体的に、有望ではあるが今は未熟な若手と四十路に手が届くベテランが主力となっている極めていびつなチーム構成となっているのはいかにも苦しい。本来ベテランたちに取って代わるべき大深や久保岡、投手では陳良文(28)や筑原明(26)といった選手がもう一つ伸びきらない。

辺監督はキャンプで早朝の散歩を行うなどチームとしての一体感を高めるために苦心しており、今のところ一定の成果は出ている。しかし、若手の威勢の良さや小金井、朴、片平といったベテラン勢の余念のなさは目に付くものの中堅選手がチームを引っ張っているという姿はあまり見られなかった。あえて厳しい言い方をすると自覚に欠けている。今季はベストナインを狙うというくらいの気迫を持って精進してほしい。

戦力分析 奉天

奉天 前年1位

「先発」

星村

宇治

王丈広

サンタナ

李佑里

春野

「リリース」

乙部

片倉

松本

朴賢侍

ファン

丸茂

「スタメン」

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

3 ベンソン

2 漢

4 佐藤

昨年は漢隆太郎（24）、西崎聡（23）といった若手の台頭や、坂本潔監督（58）の巧みな選手起用が光り6年ぶりの優勝を果たした。となると今季の目標は連覇といきたいところだが坂本監督は「（昨年の優勝は）まぐれみたいなもん。まだまだウチにそんな力はない。」と慎重な物言い。確かに個々の選手を見てみると他を圧倒する実力を有しているというわけではない。しかし、選手は野球をよく理解し、緻密な作戦を忠実に遂行できるという強さがある。今季も確実にAクラスに入ってくるだろう。

投手陣で心身ともに充実しているのは昨年14勝を上げたエース星村愁輔（29）だ。オフには待望の第一子も誕生し、今季は15勝とチームの連覇をと意気込んでいる。また、育成枠を経て昨年は11勝とブレイクしたホセ・サンタナ（25）は見るたびに良くなっている。春季キャンプにチームOBで野球評論家の真田光春氏（43）から教わったフォーカボールも自分のものにした印象で、その迫力ある荒れ球ストレートと相まってかなり強力な武器となりそう。昨年の好成績に溺れず常に向上心を持ち続ける研究熱心なところも成績を伸ばした一因か。奉天には野球に対して真面目な選手が多い。坂本監督の現役時代から変わらぬ伝統は佐藤竜一（37）、王丈広（33）らを経てサンタナ、漢、西崎ら若手選手にまで脈々と続いている。

リリーフも不安要素は薄い。経験豊富で大崩れしないベテラン片倉千比呂（35）、サイドスローに転向してから道が開けた松本伊吹（24）、昨年いきなり台頭した速球が魅力の乙部公文（21）、昨年トラリアウトから加入して終盤に好投を続けた小林大良（29）などバラエティ豊かな投手を取り揃えており他球団からうらやましがられている。抑えの切り札は3年目を迎える中国系アメリカ人ケリー・ファン（30）で確定的。大学時代は東都の大魔神と呼ばれた新人の丸茂東遊（22）の球威はプロでも通用しそうだ。この強

カリリフ陣をどのように運用していくのか。坂本監督の極めて贅沢な悩みは尽きない。

野手に爆発力を加えるため獲得した大型大砲ギャリー・ベンソン（32）はこれまでのところ日本的な変化球攻めに戸惑っている様子だ。しかし丸太のように太い腕から繰り出されるスイングは迫力十分。もつとも、ベンソンが期待外れだとしても攻守に堅実な蔡均森（26）が控えており大幅なマイナスとはならない。奉天には横山早樹（27）、長谷川智樹（28）など安定して好成績を残す選手が多い。横山は俊足好守の異色三塁手。ストレートの球威に逆らわない綺麗なバッティングが持ち味。長谷川は四番センターが板についてきた。攻走守どれも優れた5ツールプレイヤーとしては屈指の存在で今季の目標は3割40本。

攻守に洗練された実力を持っており、満洲を代表する強豪である。若手からベテランまで、誰もが一丸となってチームの勝利のために邁進する姿は他球団の模範となるべきものである。若手も続々と台頭しており、今季は投手では丸茂、長沢広之（19）、野手では田辺裕矢（20）、黄勇真（21）らがキャンプでアピールを続けており、一軍枠のサバイバルレースも盛況だ。リーグのみならず日本一の称号をも狙える位置にいる。

戦力分析 開城

開城 前年5位

「先発」

朴仲哲

佐々木

田中清

ハイマー

山畑

岡武

「リリース」

川原

森

車智文

正田

夕チトナ

黒垣

「スタメン」

8 西平

4 笠原

5 肥後

7 高弘美

3 ハイロ

6 竹端

9 曹真永

2 金順基

連覇を狙った昨年だったがまさかのBクラスに沈んだ。原因は高弘美（37）や田中清史（36）といったベテラン勢の不調にある。彼らの復活はあるのか。また、戦力になるほど成長する若手は出てくるのか。6年目を迎えたデニス・シグマール監督（47）の青い瞳には何が映るか。

一昨年の優勝は朴仲哲（33）、佐々木良平（35）、田中の三本柱がしっかりと機能していたからこそ達成出来たもの。しかし昨年は14勝の朴は健在だったものの佐々木は長いイニングになると球威が落ちるようになってきたし、田中に至っては6勝11敗4・67とまったくの不振に陥ってしまった。新外国人のケリー・ハーマー（31）や山畑博俊（28）は、技量的に先発ローテーションの5番手6番手は適任だがエースの穴埋めを任せるには荷が重い。

そこで期待されるのが新人の岡武聡次（22）や2年目の前宮幸弥（19）といった若手の台頭だ。岡武は速球はそれほどでもないものの多彩な変化球を使い分けて打者を手玉に取ることが出来る実戦派。前宮はサイド気味のスリークォーターからいきのいい速球をビシビシと放る。佐々木や田中といった先輩投手にどこまで近づけるか。ベテランが健在な今のうちが勝負。

リリーフは昨年、車智文（33）、森伸和（32）、川原直秀（29）の磐石リリーフトリオが不調や怪我によって全滅。肘の手術に踏み切った車は今季も絶望と報道されている。しかし昨年終盤は川原がセットアッパーとして復調、アレン・タチトナ（26）、黒垣尊雄（23）といった新勢力の台頭もあった。徐々に力を付けてきている正田竜介（24）あたりも絡めてリリーフ陣を再編する必要がある。タチトナ、黒垣はいずれも馬力任せの重い球が武器の本格派だが不安定なところもあるのでベテランの技巧派森の復調は欠かせない。リリーフに関しては新外国人補強も含めて様々な角度か

ら検討しているという。

野手に関しては一にも二にも高の不調に尽きる。昨年は、今までなら確実にHRだった打球がフェンス手前で失速する場面も多く、パワーの衰えを感じさせるシーズンとなってしまった。高は自他共に認める「不器用な男」。かつてライバルと目された林のように自分のバッティングスタイルを変化させる姿は想像し難い。それだけに春季キャンプでは通常より重いバットで振り込むなどパワー復活のための練習を積極的になした。「今季駄目なら進退も考える。」という言葉には悲壮感が漂う。

対照的に好調なのは肥後吉誠(36)だ。昨年は高に変わって四番を任された試合もあるほどの好調さだったが、今季もその流れは変わっていない。紅白戦やオープン戦でも安定したバッティングを披露しており、この年齢にして本格的に打撃開眼したようだ。場合によっては肥後がチームの打撃の中心を担うことになるかも知れない。捕手は金順基(28)と浜野路典(30)の併用と見られていたがここに来て浜野が顔面にデッドボールを受けて痛恨の離脱。開幕は金で行きそうだ。

ベテランの衰えにより若手選手の薄さが露呈したとも言える昨シーズン。投手は岡武、前宮らがいるものの野手は竹端邦仁(22)が堅実な守備を武器に売り出してきたくらいで吉田大輔(23)、李連次(21)といった中軸候補は未だに一軍戦力としては未熟で心許ない。昨年はベテラン肥後の好調が続いたため戦力としての被害は少なかったが、それもいつまで続くか分からない。実力でベテランに引導を渡すような生きのいい選手の出現に期待したい。

## 戦力分析 ハルビン

ハルビン 前年3位

「先発」

引田

ライル

林正幹

岡倉

立石

ノリツジ

「リリース」

藤崎

鈴木真

横浦

権伸郎

名々見

堀

「スタメン」

7 ポルト

6 鈴木壮

8 篠原

2 田坂

6 井沢

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午



不動の正捕手として豊富な投手陣をリードしつつ打撃でも四番に座り抜群の長打力を見せる田坂実正（33）のチームで、田坂の調子次第では優勝も最悪の展開もありうる。田坂以外の選手も粒揃いでかなり強力なチームのはずだがなかなか優勝に届かない。杉山敏樹監督（54）以下「今年こそは優勝を」と意気込んでおり、チーム一丸となつて目標に突き進みたい。

投手陣の鍵は年毎に成長している若きエース引田純平（25）だ。ここ3年で6勝 9勝 13勝とステップアップしており、今季は15勝を狙う。新球として手元で小さく変化するスライダーを習得するなど準備は万全。真のエースに覚醒するか。岡倉一範（41）はのらりくらりと交わす投球術を完全にマスターしたようでまだまだ選手寿命は尽きそうにない。元々は速球が武器のストッパーだったことを忘れさせる老練の技巧は玄人に人気。

若手の注目株は立石駿大（21）だ。昨年8月に先発で初勝利を上げると以降はローテーションに定着して4勝。この上昇気流を何としても自分のものになりたいとキャンプでは精力的な投げ込みを敢行。立石に先を越された形の李正明（23）も負けじと投げ込みを続け、ブルペンでは常に火花が散っている。新外国人のギャリー・ノリッジ（29）も含めてチーム内の争いはかなり活発になっている。

リリーフは張秀君（29）が負傷によつて開幕に間に合わないことが決定したが、このチャンスを逃すまいと燃える若手投手は多い。特に堀満裕（24）、鄭明真（22）、笠持宗美（20）の3人が面白い。コントロールの良い堀、大きく曲がるスライダーを持つ鄭、勢いのあるストレートで押しまくる笠持とタイプが違っただけに起用方法に注目される。鈴木真之（30）、藤崎進（25）、名々見忠志（30）といったメンバーで長年固定されているリリーフ陣に新

たな風が吹くことは間違いなさそうだ。

野手は田坂の存在感がありすぎてか田坂以外の打者はやや迫力に欠けているようにも写る。特に内野陣は経験豊富なベテランが揃っており技巧に優れるがパワーはやや心許ない。遊撃手の井沢千代尋（26）はライナー性の強烈な打球を飛ばす技術は確かで今の状態でも十分悪くはないのだが、チームの浮上となると更なるレベルアップを望みたいし、彼の技量を持ってすればそれは不可能ではないはずだ。

昨年は固定されていなかったライトのポジションは鈴木壮介（23）と田中海（24）の争いとなっている。鈴木は左打者で田中は右打者なので相手投手によって使い分けての起用となりそうだ。年俸1000万円から昨年一番レフトに定着した掘り出し物のウイリー・ポルト（26）は生まれ驚異的なスピードとパンチ力を発揮するがムラがありすぎた。しかしそのムラこそがチームに一番欠けていた怖さを生み出していたのも事実。何をやってくるかわからない「サンダーポルト」は相手にとって脅威となる。

ここ数年はいいチームだがただそれだけ、優勝には物足りないという評価に甘んじている。今季はそのような風評も吹き飛ばす迫力がほしい。井沢や篠原光良（28）はこの辺で小さくまとまるか、大陸的なスケールを身につけて大きく成長するかの瀬戸際の年といえる。5年目を迎える杉山監督体制の集大成として優勝なるか。

戦力分析 千手八ル

千手八ル 前年7位

「先発」

リ

小早川

薮花

金伸和

? 尚記

楊元男

「リリース」

ハンセン

長谷部

片岡

朴幸久

高麗

通

「スタメン」

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

名将高鉄龍監督（64）が就任して3年目。昨年はチームとして粘り強い戦いを見せ、秋まで4位争いを演じた。最後はズルズルと連敗して脱落したが、4年連続となる最下位からはようやく脱出した。今季は昨年以上の上昇気流を巻き起こしてAクラスを狙う。若手の台頭著しくリーグの台風の目となりうる存在だ。

昨年の健闘を支えたのはリッチ・リー（29）の大活躍であったと断言しても良いだろう。来日1年目ながら絶対的なエースとして君臨し、奪三振のタイトルを獲得。伸びのあるストレートをコーナーいっぱいにもコントロールよく投げ込む投球スタイルは見ていて気持ちいい。新たに2年契約を結んだが、Aクラスを狙うならこの2年が最大のチャンスである。

大ベテラン小早川守（42）は昨年8勝を上げる奮闘を見せたがこの年齢ではいつまで持つかわからない。また、新人ながら夏からローテーションの一角を担った薮花忠光（19）はオープン戦では成長した姿を披露しているがこちらはまだ若すぎて未知数。本来リーに続いてほしいのは金伸和（33）あたりだが、この面子では過度の期待はできず、やはりリーに負担がかかる布陣となる。また、ロースター漏れの外国人投手を狙っているようで、その投手が加入すればローテーションに入ってくるだろう。

リリーフも中心となつて奮闘したのは外国人投手のバーナード・ハンセン（34）であったがそれ以外の投手もかなり結果を残した。特に、長らく期待されていた大器長谷部建（29）が昨年ようやくリリーフとして活路を見出したのは大きい。それまで見られなかった勢いあるストレートを武器に相手打者をねじ伏せる投球は圧巻だった。秋には息切れしたか炎上する場面が見られたものの8月までの投球を今季も続けられるなら大きな戦力となる。若い高麗一弥（21）とベテラン通順平（36）の珍妙な味を醸し出す凸凹ダブル

ストッパーも高監督の巧みな起用によってかなりの安定感を誇った。今季も併用策か、あるいは新たな一手があるのか。高監督の采配にも注目したい。

打者はようやく星野徹也（29）とニール・カーセロ（33）以外にも信用できる打者が育ってきた。特に昨年一番打者に定着した万城原拓（22）と、打撃の成長により打順も下位から上位に座るようになった丸木夏裕（25）の台頭が大きい。万城原が出塁して丸木とともに揺さぶり吉住竜兵（26）、星野、カーセロのクリーナナップで得点というパターンの定着しつつある。また、昨年固定できなかった二塁手は楚明英（20）が俊足と思い切りのいいバツティングで評価を高めている。堅実な守備力を誇る本田正行（30）を控えに回し、楚をレギュラーとして育成する腹だ。

ドラフトでは赤坂を抽選で外すと外れ1位に寺沼芳之投手（18）、2位に神沢純外野手（18）と高校生中心の指名。あくまでも将来を見据えた育成を主軸としており、今季の戦力は昨年とほとんど変わっていない。それだけに順位を上昇させるには現有戦力の底上げが必須となる。キャンプやオープン戦を見ていると、確かに生き生きとしたムードの中で成長は見られるものの、Aクラスを狙うにはやや戦力が足りない印象だ。資本的に強力とはいえないチームで、大型補強は難しいだけに育成路線で活路を見出していくしかない現実の中、どのように勝機を見出していくか注目したい。

戦力分析 新京

新京 前年2位

「先発」

久慈

張良吉

応周剛

際田

カウリ

金城

「リリーフ」

阿野

今井

水岡

朴圭大

鈴木芳

畑

「スタメン」

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 七沢

6 バジーノ

4 呉高波

5 ボンズ

満洲国の首都新京を本拠地とする都会派のチーム。昨年二軍監督から一軍に昇格した若き指揮官安部智彦（44）の的確な指導のもとで洗練した野球を見せる。今年の目標は言うまでもなく優勝だ。投手も野手も駒が揃っており、昨年優勝の奉天と並んで優勝候補の筆頭である。

昨年の最多勝投手久慈一正（30）は今季も投手陣の柱としてフル回転することは間違いない。エースの周りにはベテランの張良吉（38）、勢いにあふれた若きエース応周剛（25）、4年目を迎えるメキシカン左腕ナルシソ・カウリ（31）と様々なタイプの先発が揃っている。前任の大貝四郎監督が整備したこれらの投手陣に昨年加わったのが金城僚（23）。完成度の高い投球を見せて新人王を獲得した。また、昨年は怪我で働けなかったからと登録名を本名の義郎から変更した際田恭吾（29）もオープン戦ではなかなかの投球を見せている。ストレートの伸びが戻れば大きな戦力となる。

リリーフは大貝監督時代からチームの屋台骨を支えてきた朴圭大（34）、鈴木芳博（33）、畑陽一（35）は未だに健在なもの、それ以外の層が薄い。阿野恒助（27）のスライダー、今井貴秀（26）のストレートなど立派な武器を持っているが良い時と悪い時の差が大きく信頼性はいまいち。ベテラン頼みからの脱却は安部監督の課題である。水岡純直（20）や宋源良（21）といった期待の若手をリリーフとして起用する案もあるようだがうまくいくか。

野手陣はまさに穴がないという表現がぴったりの布陣。特に内野守備は見ているだけでもその流麗さに息をのむ。助っ人としては打撃力がそれほど高くないハリー・ボンス（30）、ジョー・バジーノ（33）の2人だが、この二人が組む三遊間はまさしく鉄壁。深いゴロを逆シングルでキャッチし、ジャンピングスローから矢のよ

うな送球が放たれてバッターを刺すプレーはメジャーリーグのダイナミックな魅力がある。

全体的に長打力に欠けるのが弱点だが足の速い選手が多く、小技を駆使しながらコツコツと得点を重ねるスタイルが得意。昨年レギュラーに名乗りを上げた武沼駿（20）、呉高波（21）も俊足と好守に定評がある選手であり、その点は徹底している。武沼はアイドルのようにスマートな体の割にはパンチ力も秘めており、長打を磨く道もありそう。昨年首位打者に輝いた英時之（27）も正捕手に定着した頃は打撃力が弱かったが次第に実力を付けて今やリーグ屈指のバッターに成長した。武沼や呉といった若手が英に続けば打撃の問題も解決できるだけに、確実な成長を期待したい。

最多勝の久慈、首位打者の英らを擁しながらも優勝を逃したのはここ一番で勝ちきれない勝負弱さが出てしまったのが大きな原因であった。キャプテンに任命された矢野元道哉（26）は「昨年の悔しさを忘れることはない。これを晴らすには優勝しかない。」とチームの気持ちを代弁した。その言葉を裏付けるかのように、今季はキャンプを見てもそれまでとは密度が違った。監督以下チームの全員が優勝に向けて燃えており、洗練を超えた気迫を身につけつつある。今の流れをシーズンに入っても維持し続けることが出来れば間違いなく栄冠は新京の頭上に輝くだろう。



戦力分析 平壤

平壤 前年6位

「先発」

呉拓哉

松宮

マーフィー

中山

森

金朋良

「リリース」

菅

大河内

西向

サーデー

井垣

近藤

「スタメン」

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 カストロ

6 奈良橋

7 幕内

2 仲里

レギュラー陣だけ見れば上位チームとも遜色ないメンバーである。しかし一枚皮を剥くと脆弱な本性があらわになる。金源直監督（53）は選手層を厚くするために奮闘しているがまだ発展途上。長いシーズン、怪我人や不振に陥る選手は必ず出てくるだけに、選手層の薄さは致命的な結果を招きかねない。ファンは多いがチームはもう一つという悪評をこころで吹き飛ばしたいところだが力不足は否めないのが実情である。

呉拓哉（26）、松宮春日（25）の若きダブルエースは今季も健在。呉はコントロールにますます磨きがかかり安定した投球を続けている。松宮はストリートを生かすためにカットボールに挑戦。オープン戦では曲がりきらないカットボールを痛打される場面が目立ったが感触は良好だと本人は言う。この二人以外は誰が出てもしようなものだけに、順位浮上には呉と松宮が車輪のようにフル回転する必要がある。

また、ここに来て先発候補の新外国人ケビン・ウィッグス（31）の獲得も決定した。150キロを超えるストリートが武器の右腕ということだ。森敏郎（33）、金朋良（31）といった消去法的に先発として使われている投手にはいい刺激となるだろう。本来なら彼らがしっかりしていないといけないのだが。

リリーフはやや弱い。大河内稔（34）、菅緑郎（38）といった経験豊かな選手が昨年は不調で勝てた試合を何度も落とし、いかにストッパー井垣吉見（26）まで回すかは今季も課題となりそうだ。金監督が期待しているのは昨年途中に入団して力強いピッチングを披露したフランク・サーデー（31）と今季移籍加入でオープン戦では気合のこもった投球を見せている前田道雄（30）、そして若い近藤健輔（21）だ。しかしどの選手も未知数な部分が多いだけに過信は禁物。大河内や菅が調子を取り戻すのに期待する

のが常道だが、未だに形が見えてこない。投手陣のやりくりには今季も頭を悩ませそうだ。

四番として長らく君臨してきたアレックス・カストロ（38）だが、昨年は長打力に衰えが見られた上に怪我で後半戦は欠場していた。趙民陽（26）は四番として代役を超える働きを見せただけに今季はカストロから趙に四番を禅譲する模様だ。鳥内隆幸（35）、奈良橋純（34）に二遊間コンビも攻守に熟練のプレーを見せ、小谷駿馬（27）、志田憲一（28）はグラウンドを縦横無尽に動き回りと、レギュラーは強力だが控えとなるといささか弱々しい。

カストロ離脱時に三塁手を務めた鈴木勇氣（23）の澁刺としたプレーも悪くなかったが穴を埋めるには至らず。代打の切り札として高い打撃力を持つ李偉誌（30）も守備が苦手な上に、スタメンに置くと打撃も悪化する傾向があり使い辛い。年齢を見ると内野手の世代交代は間近。そろそろレギュラーとなりうる若手の台頭が望まれる。

全体的に悪くない選手が揃っている。しかし悪くないではなく良い選手がいないとシーズンを勝ち抜くことは出来ない。キャンプやオープン戦では鈴木、成田翔吾（20）といった若手が躍動しており、今後に期待できるが現状はまだ足りない。一朝一夕に選手層を厚くできるものではないだけに今季も厳しい戦いか。マスゲームを応用した独自の応援スタイルは他チームと一線を画しており平壤名物となっている。この熱烈なファンに報いるためにもまずはアクラスを目指して戦いたい。

## 日程とか用語解説（暫定）

4月1日～10月19日 リーグ戦

5月14日～6月21日 交流戦

6月28日 第一次ドラフト会議

7月16日～7月18日 オールスター戦

7月23日～8月24日 対抗戦

10月22日～11月3日 プレオフ

11月5日～11月13日 大日本シリーズ

11月16日 第二次ドラフト会議

### リーグ戦

NPB28球団はそれぞれ中央リーグか海洋リーグに所属しており、その中でさらに日本列島あるいは台湾にある球団と、朝鮮半島あるいは満洲に本拠地を置く球団とで分かれている。リーグ戦はカンファレンスごとの戦いである。大連の場合は中央リーグ大陸カンファレンスに所属し、同じカンファレンスに所属するほかの7球団とのぎを削っている。一番対戦する機会が多い、いわゆる普通のペナントレース。

### 交流戦

同じリーグに所属するがカンファレンスが違う球団と対戦する。大

連の場合は中央リーグ列島カンファレンスに所属する東京大阪名古屋広島横浜京都の6球団と対戦する。1球団とはホーム2試合ビジター2試合の合計4試合組まれる。よって大連は6×4の24試合、逆に中央リーグ列島カンファレンス所属の球団は大陸の8球団と対戦するので8×4の32試合対戦する。所属の多いカンファレンスの球団は比較的余裕のある日程となる。試合数の差はリーグ戦で埋めているので総試合数は150で同じ。

### オールスター戦

夢の球宴とは使い古された言葉だが、要はそれである。各球団から選りすぐりの精鋭たちが一堂に会して熱い戦いを繰り広げる。また、オールスターの直後に対抗戦が始まるので、その予行演習、あるいは前哨戦という側面もある。列島で1試合、大陸で1試合、今のところNPB球団の本拠地となっていない都市で1試合の日程が基本。2試合の年もある。割と移動は大変。今季は第1戦は大連、第2戦は千葉、第3戦は仙台で開催される。第3戦は本来新潟で行われる予定だったが、3月11日の災害復興援助のため急遽東北地方での開催が決まった。

### 対抗戦

リーグ同士の対決。現在は両リーグともに所属球団の数は14だが総当たりというわけではなくちょっとややこしい対戦方式になる予定でもやっぱりやめて総当りにするかもしれない。とか無駄に色々考えたが昨年のAクラスとBクラスに分けて戦うことにした。試合数は28で決定しているので日程はずれない。

### ドラフト

6月の第一次ドラフト会議は各球団の1位指名で、11月に行われる第二次ドラフト会議はそれ以降というイメージ。これもプレーオフ含めて日程が変わるかもしれない。第一次は、すでにドラフト指

名間違いなしという選手にはさつさと内定を与えようというもの。リアルで言うと東海大学菅野とか東洋大藤岡あたりか。まずは全球団が1名指名して重複すると抽選。抽選に外れた球団は昨年のリーグ、カンファレンスの順位で順番を決めてウェーバー方式で指名。ここで交渉権が決まるのは各球団1人の合計28人。

第一次で指名されなくても夏の甲子園や都市対抗で猛アピールした選手は第二次ドラフト会議で上位指名となる。これも実質1位指名といえる。なお第一次ドラフトで指名拒否した選手も指名対象となる。こちらは今季の順位で順番を決める完全ウェーバー方式。何人指名してもいい。昨年の大連で言うと第一次で指名したのが赤坂で、第二次は汐風ら高校生数名を指名した。リアルでのドラフト会議は10月27日。やっぱこっちの設定もその辺にしようかと今はちょっと考えている。

## プレーオフ

150試合のペナントレースを戦った結果、各カンファレンスで3位以内に入ったチームに出場権が与えられる。大連の場合、昨年は8球団が所属する中央リーグ大陸カンファレンスで4位だったのでプレーオフ進出を逃した。

ルールは、まず第1ラウンドは2位対3位で行われる。2位チームの本拠地で試合をして先に2勝したほうが勝ち。アドバンテージはなし。第2ラウンドは第1ラウンドの勝者対1位で、これも先に2勝したほうが勝ち。1位のチームに1勝のアドバンテージが与えられる。この第2ラウンドでカンファレンスの代表チームが決まる。第3ラウンドは同じリーグの第2ラウンド勝者同士による対決で、先に3勝したほうが勝ち。大日本シリーズへの出場権を得る。

## 大日本シリーズ

もはやその名の通り、東アジア圏最強のプロ野球チームを決定する戦いである。設定として台湾、朝鮮は大日本帝国時代の領土そのままで自治権を確立している感じ。なお遼東半島の租借期間は終わっていて満洲国に返還されている。プレーオフを勝ち進んだ2チームによる決戦で、先に4勝したほうが日本一の称号を得る。

引き分けを考慮しない場合最大7試合。4月1日からの約8ヶ月に及ぶ戦いは冬と入れ替わるように終幕を迎える。そして次の春には再び始まり、続いていく。

# 第1回個人成績表(4月1日～4月24日)

対戦一巡記念 第1回個人成績表(4月1日～4月24日全21試合)

打撃成績(試合数)	打数	安打	打率	HR打点
林 葉輔	21	7	0.333	5
星渡晃兵	21	7	0.333	3
近堂貴久	21	6	0.286	2
柳 中平	21	7	0.333	1
パウロ	21	8	0.381	2
棚橋和隆	21	8	0.381	2
ノーリー	21	7	0.333	2
清水尚起	21	6	0.286	2
- 以下規定未満 -	-	-	-	-
立石篤志	4	2	0.500	0
水内 賢	2	2	1.000	0
森茂常弘	6	9	1.500	0
折口元文	5	5	1.000	1
古池吉郎	7	7	1.000	0
金 重男	4	2	0.500	0
河 剛紀	2	1	0.500	0
宮畑圭助	1	1	1.000	0
大上徳博	4	0	0.000	0
高 遼二	3	0	0.000	0
- 投手打撃成績(HR打点は全員0なので省略) -	-	-	-	-
松浦 心	6	3	0.500	3
フローデセン	4	1	0.250	6
吉野大吾	3	8	2.667	5



瑞穂智幸	4 試合	9 打数	1 安打	. 1 1 1
赤坂忠徳	3 試合	8 打数	0 安打	. 0 0 0
張 尊	4 試合	7 打数	0 安打	. 0 0 0
趙 雅憲	3 試合	3 打数	0 安打	. 0 0 0

### 打撃まとめ

想像以上に打低だった。星渡と林は素晴らしいがそれ以外は2割台前半がずらりと並んでいる。劉監督はほとんどスタメンをいじらない我慢の采配をしているが打線が期待に応えるのはいつになるのか。控えの数字もさっぱり。ほぼ代走専門の大上や守備要員の高はいいとして、代打として登場する選手があまりにも打てていない。特に古池の7打数0安打はまずすぎる。まだ始まったばかりだしこれからの上昇に期待したい。守備は安定しているのでロースコアでもある程度はやっていけている部分もあるが打線がしっかりしないと沈没していくのは明白だ。投手で面白いのはフローデセン。パワーがあるので9番目の打者としても期待できる。そして松浦初ヒツトおめでとう。次は初勝利を狙え。

投手成績(試合数)	投球回	自责点	防御率	勝敗	セーブ	
フローデセン	4 試合	3 0 回	1 / 3	6 点	1 . 7 8	2 勝 0 敗
吉野大吾	3 試合	2 3 回	7 点	2 . 7 4	3 勝 0 敗	
瑞穂智幸	4 試合	2 7 回	1 0 点	3 . 3 3	1 勝 2 敗	
張 尊	4 試合	2 3 回	1 0 点	3 . 9 1	1 勝 2 敗	
- - 以下規定未満 - -						
野藤秀親	6 試合	6 回	0 点	0 . 0 0	2 勝 0 敗	
平野 錦	3 試合	1 回	2 / 3	0 点	0 . 0 0	0 勝 0 敗
黄 直哉	3 試合	1 回	1 / 3	0 点	0 . 0 0	0 勝 0 敗
王 貞成	1 試合	2 回	0 点	0 . 0 0	0 勝 0 敗	
松浦 心	6 試合	1 4 回	1 点	0 . 6 4	0 勝 0 敗	
石風呂幹伸	3 試合	5 回	1 点	1 . 8 0	0 勝 0 敗	

比山 仁	1 1 試合	1 0 回	1 / 3	3 点	2 . 6 1	0 勝 1 敗 9
セーブ						
斎場次巳	4 試合	6 回	3 点	4 . 5 0	0 勝 0 敗	
赤坂忠徳	3 試合	1 7 回	2 / 3	1 0 点	5 . 0 9	2 勝 1 敗
小松原泰誠	6 試合	6 回	4 点	6 . 0 0	0 勝 0 敗	
原 克馬	2 試合	1 回	2 / 3	4 点	9 . 6 0	0 勝 0 敗
趙 雅憲	3 試合	8 回	1 / 3	1 4 点	1 5 . 1 2	0 勝 2 敗

#### 投手まとめ

打撃陣とは比べ物にならないほど安定している。先発ローテーションに入った瑞穂フロードセンといった新加入選手がすっかり戦力になっている。初登板で炎上した赤坂も以降の2試合は好投しておりさらなる成長も期待できそう。リリーフは勝ちパターンで野藤小松原比山、同点やビハインドで黄松浦平野、敗戦処理で石風呂斎場と大まかに区分されているようだ。まだ試合数が少なく1試合炎上すると急激に悪化するので防御率はあまり参考にはならない部分もある。原や趙は二軍落ちでも仕方ないが。注目はリリーフで6試合14回を1失点の松浦。趙の代わりに先発ローテーションに入るのは決定的だが先発でも今の安定感を維持できれば面白い。

## 第1回個人成績表（4月1日～4月24日）（後書き）

5月9日、この手のデータは一括して前に置くことにしました。割り込み実験も成功のようです。個人的なことを言つと今の話数と試合数がちょうど10ずれているだけの状況は今何試合目だったという確認しやすいので便利なのですが、この手のデータを加えるとなるとずれてしまう。解決策としてデータを10個加えればいいと思いついたのでどうにか次の試合が始まる前には加えておきたい。

## 第2回個人成績表（4月1日～5月9日）

交流戦直前記念 第2回個人成績表（4月1日～5月9日全35試合）

打撃成績（試合数	打数	安打	打率	HR打点
林 葉輔	35	12	0.343	3
星渡晃兵	35	12	0.333	4
棚橋和隆	35	13	0.371	3
柳 中平	35	12	0.343	2
近堂貴久	35	12	0.343	4
清水尚起	35	11	0.314	1
パウロ	35	13	0.371	7
- - 以下規定未満 - -				
本郷建筑	1	1	1.000	0
立石篤志	9	6	0.667	1
金 重男	8	4	0.500	0
ノーリー	22	7	0.318	0
折口元文	10	1	0.100	1
河 剛紀	6	6	1.000	0
フェリックスA	6	6	1.000	0
水内 賢	14	3	0.214	1
森茂常弘	10	1	0.100	0
高 遼二	12	1	0.083	0
古池吉郎	7	7	1.000	0
大上徳博	8	1	0.125	0
宮畑圭助	1	1	1.000	0
- - 投手打撃成績（HR打点はリンドの1打点のみ） - -				
Mリンド	1	0	0.000	1

Wフロードセン	6試合	17打数	3安打	.176
松浦 心	8試合	06打数	1安打	.167
吉野大吾	6試合	16打数	2安打	.125
瑞穂智幸	6試合	14打数	1安打	.071
赤坂忠徳	5試合	12打数	0安打	.000
張 尊	5試合	08打数	0安打	.000
石風呂幹伸	5試合	03打数	0安打	.000
趙 雅憲	3試合	03打数	0安打	.000

### 打撃まとめ

ノーリー離脱というトラブルがあつたもののレギュラー選手の奮闘により大分数字は改善された。特に上昇したのは棚橋と柳中平。棚橋は一軍の水に慣れてきたか。柳は打順を2番にしてから急上昇してきた。ともに第2回の期間（4月26日～5月9日の間）の打率は3割を突破している。第1回成績表で3割突破していた星渡と林はさらに成績が向上。特に林は第2回の期間で打率.420と絶好調。打率の低い近堂やパウロはホームラン、打点で貢献している。パウロは例年夏場に強いのでこれからの爆発に期待できる。控えは相変わらず微妙。金や立石といったベテランが存在感を見せる一方、ノーリー離脱後レフトに起用された高や水内の打撃不振は深刻で新外国人アンジェロ獲得を決定した。劉監督は交流戦第1試合から7番レフトでの起用を示唆している。アンジェロが活躍すればかなり強力な打線となるだけに、この外国人の働きはチームにとって重要な意味を持つてくる。

投手成績（試合数	投球回	自责点	防御率	勝敗	セーブ
吉野大吾 6試合	47回	10点	1.91	6勝	0敗
瑞穂智幸 6試合	43回	12点	2.51	1勝	3敗
Wフロードセン 6試合	42回	1/3	1.2点	2.55	3勝
1敗					

- - 以下規定未満 - -

平野 錦	7 試合	0 4 回	1 / 3	0 0 点	0 . 0 0	1 勝 0 敗
Mリンド	1 試合	0 2 回	2 / 3	0 0 点	0 . 0 0	1 勝 0 敗
野藤秀親	1 1 試合	1 1 回	0 2 点	1 . 6 4	2 勝 0 敗	
王 貞成	5 試合	1 1 回	0 2 点	1 . 6 4	0 勝 0 敗	1 セーブ
松浦 心	8 試合	2 7 回	0 5 点	1 . 6 7	2 勝 0 敗	
黄 直哉	6 試合	0 4 回	1 / 3	0 1 点	2 . 0 8	0 勝 0 敗
比山 仁	1 7 試合	1 6 回	1 / 3	0 4 点	2 . 2 0	0 勝 1 敗
1 4 セーブ						

張 尊	5 試合	2 7 回	2 / 3	1 0 点	3 . 2 5	1 勝 2 敗
小松原泰誠	1 1 試合	1 0 回	2 / 3	0 4 点	3 . 3 8	0 勝 0 敗
赤坂忠徳	5 試合	2 9 回	2 / 3	1 3 点	3 . 9 4	2 勝 3 敗
石風呂幹伸	5 試合	1 1 回	1 / 3	7 点	5 . 5 6	0 勝 0 敗
斎場次巳	6 試合	0 9 回	0 6 点	6 . 0 0	0 勝 0 敗	
原 克馬	2 試合	0 1 回	2 / 3	0 4 点	9 . 6 0	0 勝 0 敗
趙 雅憲	3 試合	0 8 回	1 / 3	1 4 点	1 5 . 1 2	0 勝 2 敗

### 投手まとめ

大連はやはり投手のチームであると言えるだろう。先発で規定到達の3人はいずれも安定したピッチングを披露している。赤坂、松浦といった若手も実力があるところを見せている。怪我で離脱したベテラン張は先日二軍戦で登板したしそろそろ復帰しそう。そしてリリーフは小松原、野藤、比山を軸に左右のキラー平野、黄やロングリリーフもできる王などなかなか駒が揃ってきた。今のメンバークがきつくなってきたても二軍でリリーフとして調整を続けている趙や伊東、原といったベテランが控えており大きな問題はない。打撃陣も上向いてきたので交流戦はかなり楽しみだ。

### 5月14日追記

本来交流戦スタートは本日だったが日程の都合でいきなり休養日

となった大連。その間隙を縫うように大連の永市邦彦投手（27）と吉林のヴィクトル・エ・ドラグノフ内野手（25）との交換トレードを成立させた。永市投手はアンダースローから投じられるカーブ、スライダーなど多彩な変化球が武器で、今季の登板はないものの主に中継ぎとして通算112試合で1勝5敗3セーブ防御率5.36。ドラグノフ内野手はハルビン国際学園の4番エースとして甲子園に出場した際スタルヒン2世と注目されたロシア系選手。197cmの長身を生かしたパワフルな打撃が持ち味で、大連は代打として起用する見込みだ。

### 第3回個人成績表（4月1日～6月22日）

交流戦終了記念 第3回個人成績表（4月1日～6月22日全59試合）

打撃成績（試合数	打数	安打	打率	HR	打点
林 葉輔	59	200	.335	6	33点
星渡晃兵	59	227	.308	6	18点
パウロ	59	226	.279	1	13点
柳 中平	57	209	.273	3	16点
棚橋和隆	58	225	.262	8	30点
近堂貴久	56	203	.251	7	23点
清水尚起	56	172	.209	2	15点
- - 以下規定未満 - -					
ドラグノフ	5	7	.429	0	2点
金 重男	16	21	.381	0	2点
立石篤志	14	10	.300	1	4点
本郷建筑	8	15	.267	0	1点
ノーリー	23	77	.208	0	8点
アンジェロ	24	90	.200	3	13点
折口元文	11	11	.182	1	1点
森茂常弘	15	18	.167	0	0点
古池吉郎	13	12	.167	0	0点
フェリックス	6	6	.167	0	0点
水内 賢	17	34	.147	1	3点
李 春稀	8	14	.143	0	1点
河 剛紀	7	7	.143	0	1点
高 遼二	14	10	.100	0	1点
中西定治	2	2	.000	0	0点



大上徳博	15試合	1打数0安打	.000	0本0点
宮畑圭助	1試合	1打数0安打	.000	0本0点
- 投手打撃成績 (HR打点はリンドの1打点のみ) -				
Mリンド	1試合	01打数1安打	1.000	
フローデセン	10試合	23打数4安打	.174	
張 尊	9試合	17打数2安打	.118	
赤坂忠徳	9試合	23打数2安打	.087	
吉野大吾	10試合	24打数2安打	.083	
松浦 心	12試合	16打数1安打	.063	
瑞穂智幸	10試合	24打数1安打	.042	
石風呂幹伸	5試合	03打数0安打	.000	
趙 雅憲	3試合	03打数0安打	.000	

### 打撃まとめ

交流戦24試合を終えた時点での通算成績はこのようになっていく。清津シリーズはカウントしていない。ここまでチームを引っ張ってきた林と星渡の数字はさすがに落ち着いてきた。と言うよりそれまでが打ちすぎだっただけで適性に戻ったと言ったほうが正しい。

この2人に代わって打ちまくったのがパウロ。交流戦期間中は4割近い打率を叩き出し、通算打率も5分上げてきた。しかし清津シリーズは欠場し、その後体調不良を理由に二軍落ちした。詳細は不明だが一刻も早い復帰が望まれる。柳中平や近堂も3割近い打率でなかなか良かった。控えの層が厚くなった事で休みを入れながら試合に出場できるようになったのが好調の一因であろう。新加入のアンジェロはなかなか勝負強いところを見せているが打率は低かった。交流戦が終わったらすぐ二軍で調整させたがどこまで修正できるか。

その控えで目に付くのは今季途中にトレードで加入したドラグノフと、赤坂とのバッテリーが確立した感がある2番手捕手の金重男

である。ドラグノフは打率4割超と存在感を見せている。移籍によって心がけが変わったと本人も口にするように、ボールに食らいつく姿勢が出るようになってきた。素材が良すぎるゆえにそれに溺れていたが、ついに気付いてくれたようだ。金は打撃に定評があるという前評判通りの好成績を残している。正捕手の清水は打撃が強いわけではないので好調を維持できるとさらにチャンスが広がっていくだろう。立石は相変わらず勝負強いし、本郷も怪我の影響で守備範囲はやや狭まったもののやはり打撃のセンスは抜群だ。また、開幕一軍もまったく打てずに二軍で調整を続けていた古池が交流戦期間中は打率4割と巻き返してきた。今後は改めて代打として出番が増えそうだ。代走の大上、守備要員の森茂や高遼二は多少打てなくても問題ないが河剛紀や折口は打てないと厳しいので今は二軍で調整している。

投手成績（試合数 投球回自責点 防御率 勝敗セーブ）

吉野大吾	10	77	15	1.75	8	1	敗
赤坂忠徳	9	60	23	1.9	2	8	2
瑞穂智幸	10	71	23	2.3	2	8	9
フローデセン	10	63	23	2.3	3	2	5
勝	3	敗	3				

- - 以下規定未満 - -

平野 錦	13	8	2	3	0	0	0	1	勝	0	敗	1	セーブ
------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

Mリンド	1	2	2	3	0	0	0	0	1	勝	0	敗
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

黄 直哉	11	9	1	1	1.00	0	勝	0	敗
------	----	---	---	---	------	---	---	---	---

松浦 心	12	5	6	1	0	1.6	4	勝	0	敗
------	----	---	---	---	---	-----	---	---	---	---

比山 仁	25	2	4	1	3	5	1	8	5	0	勝	1	敗
------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6セーブ

張 尊	9	5	5	2	3	1	5	2	4	3	3	勝	3	敗
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

野藤秀親	15	1	4	1	3	4	2	5	1	2	勝	1	敗
------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小松原泰誠	1 6 試合	1 5 回	2 / 3	5 点	2 . 8 7	1 勝 0 敗
伊東聡司	6 試合	7 回	3 点	3 . 8 6	1 勝 1 敗	
石風呂幹伸	9 試合	1 8 回	9 点	4 . 5 0	0 勝 1 敗	
王 貞成	9 試合	1 5 回	8 点	4 . 8 0	0 勝 0 敗	1 セーブ
斎場次巳	6 試合	9 回	6 点	6 . 0 0	0 勝 0 敗	
原 克馬	2 試合	1 回	2 / 3	0 4 点	9 . 6 0	0 勝 0 敗
趙 雅憲	4 試合	9 回	1 / 3	1 4 点	1 3 . 5	0 勝 2 敗

### 投手まとめ

投手陣は吉野が相変わらず好調をキープ。オールスター投票でも2位に入るなどエースとして大いに存在感を見せている。そして影の防御率王松浦も素晴らしい。規定投球回数寸前で防御率は吉野より良好。そのピッチングは実質1年目とは思えないほど堂々としている。その名の通り心が強いのだろう。ピンチでもまったく動じずに持ち前の質が良いストレートをガンガン投げ込んでいくとそうそう打たれるものではない。赤坂は金重男とのバッテリーを確立したことで成績が上昇してきた。データや理論とはまた違う相性というものはやはりあるのだろう。瑞穂や張尊も防御率2点台で安定している。一方で不安なのはフローデセンだ。交流戦では炎上が続く防御率もかなり悪化した。うまく巻き返せるか。

リリーフで特に優れた活躍を見せているのはストッパーの比山である。チーム最多の25試合に出場して16セーブと欠かせない戦力となっている。小松原、野藤、平野、黄直哉といった投手も長らく安定しており勝ちパターンや接戦の際は頼りになる。ベテランの伊東やサウスポーの石風呂、そして先発から本職の中継ぎに再転向した趙雅憲も控えており、ようやく投手陣にも選手層といえるべきものが出来てきた。とはいえ全体的に実績のない選手が多いので夏場はどうなるか、今後優勝争いとなるとどうか、それは誰にも分からない。

### 第4回個人成績表（4月1日～7月21日）

前半戦終了記念 第4回個人成績表（4月1日～7月21日全74試合）

打撃成績（試合数	打数	安打	打率	HR	打点
林 葉輔	72	24	.335	3	9本43点
星渡晃兵	72	27	.375	3	7本25点
パウロ	63	24	.381	2	12本36点
棚橋和隆	73	28	.384	2	10本42点
柳 中平	68	25	.368	2	3本20点
近堂貴久	68	24	.353	2	7本27点
清水尚起	67	20	.299	2	3本18点
- 以下規定未満 -	-	-	-	-	-
立石篤志	21	17	.810	3	1本6点
金 重男	24	39	1.625	2	0本2点
ドラグノフ	19	50	2.632	2	0本5点
本郷建筑	13	20	1.538	2	0本1点
一村富郎	1	4	4.000	0	0本0点
アンジエロ	37	139	3.757	2	45本19点
ノーリー	31	88	2.839	2	0本8点
太刀川勇太	5	5	1.000	0	0本0点
古池吉郎	22	21	.955	1	1本1点
折口元文	11	11	1.000	1	1本1点
水内 賢	25	47	1.880	1	1本3点
大上徳博	20	12	.600	1	0本1点
李 春稀	10	18	1.800	1	0本2点
森茂常弘	15	18	1.200	1	0本0点
フェリックス	6	6	1.000	0	0本0点

高 遼二	1 9 試合	2 0 打数 3 安打	. 1 5 0	0 本 1 点
河 剛紀	7 試合	7 打数 1 安打	. 1 4 3	0 本 1 点
山元則年	7 試合	8 打数 1 安打	. 1 2 5	0 本 1 点
中西定治	6 試合	9 打数 0 安打	. 0 0 0	0 本 0 点
岩下菜央人	2 試合	4 打数 0 安打	. 0 0 0	0 本 0 点
宮畑圭助	1 試合	1 打数 0 安打	. 0 0 0	0 本 0 点
- 投手打撃成績 (HR はなし 打点は リンドの 1 打点のみ) -				
M リンド	1 試合	0 1 打数 1 安打	1 . 0 0	
フローデセン	1 2 試合	2 7 打数 6 安打	. 2 2 2	
張 尊	1 2 試合	2 5 打数 2 安打	. 0 8 0	
赤坂忠徳	1 1 試合	2 7 打数 2 安打	. 0 7 4	
吉野大吾	1 2 試合	2 8 打数 2 安打	. 0 7 1	
松浦 心	1 5 試合	2 1 打数 1 安打	. 0 4 8	
瑞穂智幸	1 3 試合	2 6 打数 1 安打	. 0 3 8	
石風呂幹伸	1 1 試合	0 4 打数 0 安打	. 0 0 0	
趙 雅憲	1 0 試合	0 3 打数 0 安打	. 0 0 0	
北 甲大	2 試合	0 1 打数 0 安打	. 0 0 0	

### 打撃まとめ

全 1 5 0 試合中の 7 4 試合という事で今シーズンもほぼ折り返し地点まで到達した。これを倍にしたらそのまま今季成績になるわけではないが、今季の全容はそれなりに見えてきたとは言えるだろう。さて、相変わらず良好なパフォーマンスを発揮し続けている林と星渡に関してはあえて言うこともない。ともに今のところ青島シリーズを除いて全試合出場を果たした上でこの成績とくればオールスターに選出されるのも当然だろう。

これに続くのはパウロ・ミネイロ。交流戦から一気に調子を上げてきた矢先の体調不良で今回の期間はほとんど欠場してしまったが、熱河シリーズで戦列に復帰していきなり 2 試合でホームランを含む

3安打と健在をアピール。対抗戦に向けて頼もしい男が帰って来た。アンジェロと近堂は今回の期間中打率が3割を越えていた。特にアンジェロの好調は、パウロ欠場によって空いた5番の穴を埋めたという意味で重要だった。日本的な投手の攻めに慣れてきたと言うことなので今後は更なる成績向上も期待できそうだ。棚橋は堅調。打点をよく稼いでいるが現在の優勝争いを抜け出すためにはもう一皮むけてくれると良い。

控えではドラゲノフがパウロ欠場という緊急事態に代役としてよく奮闘してくれた。また捕手は清水と金重男の併用と言える状態となっている。清水は次の成績表が出る頃には規定打席を割っているだろう。打撃は金のほうが上手だが守備は清水のほうが達者というある意味分かりやすい構図となっている。3番手として中西がちょくちょく使われたが、まだこの2人との差は大きいと言えそうだ。代打では立石がベテランらしい集中力を発揮した。本郷もまあまあ。対抗戦は指名打者を使う試合も出てくるが、誰を起用するのか楽しみだ。投手陣はフローデセンが2割台に戻ってきたがそれ以外は総じて低調。

投手成績 (試合数)		投球回		自責点		防御率		勝敗		セーブ	
吉野大吾	12	9	2	2	1	2.05	8	勝3	敗3		
赤坂忠徳	11	7	4	2	4	2.92	5	勝3	敗3		
フローデセン	12	7	7	2	3	2.6	3	勝0	敗1	4	
勝4	敗										
瑞穂智幸	13	8	3	1	3	3.1	3	勝3	敗5	3	勝5
以下規定未満	-										
北 甲大	3	4	0	0	0	0.00	0	勝0	敗0		
Mリンド	1	2	2	3	0	0.00	0	勝0	敗0	1	勝0
平野 錦	19	12	1	1	0	0.75	1	勝0	敗1	1	セーブ
黄 直哉	13	11	1	1	0	0.82	0	勝0	敗1	1	セーブ

野藤秀親	2 1 試合	2 0 回	5 点	2 . 2 5	3 勝 1 敗
松浦 心	1 5 試合	7 0 回	1 5 点	1 . 9 3	5 勝 1 敗
比山 仁	2 9 試合	2 8 回	6 点	1 . 9 3	1 勝 1 敗 1 9 セーブ
張 尊	1 2 試合	7 1 回	2 / 3	1 5 点	1 . 8 8 6 勝 3 敗
小松原泰誠	1 9 試合	1 8 回	1 / 3	5 点	2 . 4 5 1 勝 0 敗
伊東聡司	1 1 試合	1 3 回	4 点	2 . 7 7	2 勝 1 敗
石風呂幹伸	1 2 試合	2 4 回	1 0 点	3 . 7 5	0 勝 2 敗
王 貞成	1 0 試合	1 7 回	9 点	4 . 7 6	0 勝 0 敗 1 セーブ
斎場次巳	6 試合	9 回	6 点	6 . 0 0	0 勝 0 敗
趙 雅憲	1 1 試合	2 2 回	1 7 点	6 . 9 5	0 勝 2 敗
原 克馬	2 試合	1 回	2 / 3	0 4 点	9 . 6 0 0 勝 0 敗

### 投手まとめ

投手陣は相変わらず良好な成績をキープしている。先発の柱である吉野は期間中2連敗だが、打ち込まれたというより打線の援護に恵まれなかっただけなので問題はない。今回の期間で一番素晴らしかったのはベテランの張尊で、3試合16イニングを無失点で終えた。防御率も1点台まで下げてきた。もう少しで規定投球回数に到達する松浦も未だに1点台をキープしておりオールスターにも選出された。そしてルーキーの赤坂も規定到達した投手の中ではチームで2番目の防御率と素晴らしい成績。松浦とは新人王争いのライバルとなっているが、2人とも「チームが勝つことが一番大事」などと穏やかなことを言っている。しかしそれは表面上の話で、実際はかなり熱い火花を散らしているようだ。

リリーフでは小松原離脱というアクシデントがあったものの、野藤、平野、比山らがよく奮闘したお陰でダメージは最小限に抑えられた。伊東、北、石風呂、趙といった中堅ベテラン勢のリリーフも地味ながらしつかりした働きも見逃せない。こういった脇役が自分の仕事をきっちりこなすチームは強い。趙は一見酷い防御率だが、

これでもこの期間だけで防御率を半減させている。先発挑戦は失敗に終わったが、一軍でずっと出てきた投手が疲れてくる夏場にこそ、彼のようなユーティリティ・ピッチャーは真価を発揮する。つまり、主力で目立っている選手だけが戦力ではないという事だ。



#### 第4回個人成績表（4月1日～7月21日）（後書き）

当初は13日までの計72試合で集計したのですが青島シリーズを追加して21日までの計74試合に変更。選手成績に2試合分追加して本分も若干修正。これから夕食の安いうなぎ食べながらフレッシオールスター見ますわ。

## 第5回個人成績表(4月1日～8月24日)

対抗戦終了記念 第5回個人成績表(4月1日～8月24日全10  
2試合)

打撃成績(試合数 打数安打 打率 HR打点)				
林 葉輔	9 9 試合	3 2 9 打数	1 1 0 安打	. 3 3 4 1 2 本 6 点
1 点				
星渡晃兵	1 0 0 試合	3 8 5 打数	1 2 0 安打	. 3 1 2 1 0 本
3 5 点				
パウロ	9 0 試合	3 4 1 打数	9 6 安打	. 2 8 2 1 5 本 4 9 点
棚橋和隆	1 0 0 試合	3 9 4 打数	1 0 6 安打	. 2 6 9 1 2 本
4 8 点				
柳 中平	9 4 試合	3 5 1 打数	9 0 安打	. 2 5 6 5 本 2 8 点
- - 以下規定未満 - -				
立石篤志	3 8 試合	3 7 打数	1 3 安打	. 3 5 1 1 本 1 1 点
宮畑圭助	1 2 試合	1 9 打数	6 安打	. 3 1 6 1 本 3 点
ドラグノフ	4 0 試合	8 2 打数	2 5 安打	. 3 0 5 0 本 9 点
古池吉郎	4 0 試合	5 3 打数	1 5 安打	. 2 8 3 4 本 9 点
アンジエロ	6 2 試合	2 3 8 打数	6 1 安打	. 2 5 6 7 本 2 8 点
近堂貴久	7 5 試合	2 5 7 打数	6 5 安打	. 2 5 3 7 本 2 9 点
金 重男	4 3 試合	9 5 打数	2 4 安打	. 2 5 3 2 本 9 点
一村富郎	1 試合	4 打数	1 安打	. 2 5 0 0 本 0 点
清水尚起	8 3 試合	2 5 6 打数	5 8 安打	. 2 2 7 4 本 2 6 点
ノーリー	3 5 試合	9 4 打数	2 1 安打	. 2 2 3 0 本 8 点
本郷建筑	3 1 試合	7 2 打数	1 5 安打	. 2 0 8 1 本 4 点
太刀川勇太	5 試合	5 打数	1 安打	. 2 0 0 0 本 0 点
折口元文	1 1 試合	1 1 打数	2 安打	. 1 8 2 1 本 1 点
高 遼二	2 3 試合	2 3 打数	4 安打	. 1 7 4 0 本 1 点

水内 賢	2 6 試合	4 7 打数	8 安打	. 1 7 0	1 本 3 点
李 春稀	1 0 試合	1 8 打数	3 安打	. 1 6 7	0 本 2 点
フェリックス	6 試合	6 打数	1 安打	. 1 6 7	0 本 0 点
岩下菜央人	4 試合	6 打数	1 安打	. 1 6 7	0 本 0 点
大上徳博	3 2 試合	2 6 打数	4 安打	. 1 5 4	0 本 1 点
河 剛紀	7 試合	7 打数	1 安打	. 1 4 3	0 本 1 点
森茂常弘	2 2 試合	2 3 打数	3 安打	. 1 3 0	0 本 0 点
山元則年	7 試合	8 打数	1 安打	. 1 2 5	0 本 1 点
中西定治	7 試合	1 1 打数	1 安打	. 0 9 1	0 本 0 点
曾 剛仁	7 試合	5 打数	0 安打	. 0 0 0	0 本 0 点

- 投手打撃成績（HRはなし打点はリンド・フローデセンの各1打点のみ） -

Mリンド	1 試合	0 1 打数	1 安打	1 . 0 0
池田武治	1 試合	2 打数	1 安打	. 5 0 0
フローデセン	1 7 試合	3 1 打数	8 安打	. 2 5 8
張 尊	1 7 試合	3 1 打数	2 安打	. 0 6 5
赤坂忠徳	1 6 試合	3 2 打数	3 安打	. 0 9 4
吉野大吾	1 7 試合	3 4 打数	2 安打	. 0 5 9
松浦 心	1 8 試合	2 1 打数	1 安打	. 0 4 8
瑞穂智幸	1 7 試合	3 0 打数	2 安打	. 0 6 7
石風呂幹伸	1 8 試合	0 4 打数	0 安打	. 0 0 0
趙 雅憲	1 6 試合	0 3 打数	0 安打	. 0 0 0
北 甲大	8 試合	0 1 打数	0 安打	. 0 0 0

### 打撃まとめ

全150試合のシーズンは2/3となる100試合を突破。対抗戦が終了してこれからは直接同リーグ同カンファレンスの球団同士が戦う通常のシーズンに戻る。大連の戦いはまさに佳境を迎えようとしている。その大連で最も頼れる打者である4番林は高値安定。打率に加えて打点もチームトップを独走しており4番として磐石の

存在である。星渡も3割をキープ。ホームラン数チームトップのパウロも大分数字が安定してきた。対抗戦で打率を伸ばしたのが棚橋。ホームラン数は林と同じ12本とパワーがあり、ショートの守備も堅実でチームの重要な戦力となった。逆に数字を落としたのが柳中平。2番ファーストという特異なチーム体質のお陰でファーストチヨイスとなつていているが、今は控え選手がかなりの活躍を見せておりその立場は安泰とは言えなくなつてきた。

清水と近堂は規定打席を割つた。近堂は怪我による離脱が、清水は併用策が原因である。対抗戦期間において金重男は清水を試合数打席数ともに上回つた。ただ打率は落ち着いてきたし当分は併用策となるだろう。さて控えに関してだが、前述の通りこの対抗戦では控え選手が攻守に素晴らしい活躍を見せてチームを盛り立てていた。ドラグノフの打率・375を筆頭に立石・351古池・344宮畑・316とレギュラー以上の数字を残す選手が続出。これはレギュラーの怪我や指名打者などでチャンスが増えて、そのチャンスを生かそうと発奮したのが一因だろう。それにしても怪我人に関してはセカンドの選手が狙い撃ちされたようだった。レギュラーの近堂、どこでも守れるノーリー、近堂がいない間にレギュラークラスとして奮闘した本郷、次々と倒れていった。今は近堂が復帰したがここまで14打数2安打ともうひとつの数字。守備もまだ万全ではないように試合途中で森茂と交代という場面が多かつた。セカンドをどうすべきかはなかなか解決しないチームの課題である。投手はフロードセンがようやく1打点を挙げた。彼の打棒からすると遅すぎたくらいである。

投手成績（試合数 投球回自責点 防御率 勝敗セーブ）

吉野大吾 17試合 127回27点 1.91 11勝4敗

フロードセン 17試合 113回2/3 34点 2.69

7勝4敗

瑞穂智幸	1 7 試合	1 1 2 回	1 / 3	3 7 点	2 . 9 6	4 勝 7 敗
赤坂忠徳	1 6 試合	1 0 4 回	1 / 3	4 0 点	3 . 4 5	7 勝 6 敗
- - 以下規定未満 - -						
Mリンド	1 試合	2 回	2 / 3	0 点	0 . 0 0	1 勝 0 敗
平野 錦	2 5 試合	1 6 回	2 点	1 . 1 3	1 勝 0 敗	1 セーブ
比山 仁	3 8 試合	3 7 回	6 点	1 . 4 6	1 勝 1 敗	2 6 セーブ
小松原泰誠	2 4 試合	2 3 回	1 / 3	6 点	2 . 3 1	2 勝 0 敗
黄 直哉	2 1 試合	1 8 回	2 / 3	5 点	2 . 4 1	1 勝 0 敗
セーブ						
張 尊	1 7 試合	9 6 回	2 / 3	2 7 点	2 . 5 1	9 勝 4 敗
野藤秀親	3 2 試合	3 0 回	2 / 3	9 点	2 . 6 4	3 勝 2 敗
池田武治	1 試合	6 回	2 点	3 . 0 0	0 勝 1 敗	
松浦 心	1 8 試合	8 3 回	2 9 点	3 . 1 4	5 勝 4 敗	
石風呂幹伸	1 8 試合	3 3 回	1 2 点	3 . 2 7	0 勝 2 敗	
伊東聡司	1 7 試合	1 9 回	1 / 3	8 点	3 . 7 2	2 勝 2 敗
北 甲大	8 試合	9 回	1 / 3	4 点	3 . 8 6	0 勝 0 敗
斎場次巳	8 試合	1 1 回	2 / 3	6 点	4 . 6 3	0 勝 0 敗
セーブ						
趙 雅憲	1 6 試合	3 3 回	1 7 点	4 . 6 4	1 勝 2 敗	
王 貞成	1 0 試合	1 7 回	9 点	4 . 7 6	0 勝 0 敗	1 セーブ
原 克馬	3 試合	2 回	2 / 3	5 点	1 6 . 8 8	0 勝 0 敗

### 投手まとめ

投手陣は吉野を軸に安定した数字を出し続けている。中心となる吉野の充実感が素晴らしい。防御率は1点台で勝ち星は11とエースとしての球団にも誇れる数字である。規定投球回数に到達している4人のうち吉野以外は今季大連に加入した選手。新外国人フローデセンは打撃も投球も良好なパフォーマンス。移籍の瑞穂は勝ち星に恵まれないが防御率は2点台で十分戦力となっている。ルーキ

―赤坂はこの期間苦しむ場面が多かったが悪くない。規定未満の先発ではベテラン張尊が吉野に次ぐ9勝を挙げて健在を見せている。一方炎上が続いた松浦は二軍落ちとなった。その松浦に代わって先発した池田武治は6回2失点と及第点の出来。池田の活躍はこれからの順位争いにも必要不可欠となるであろう。

リリーフは比山が対抗戦期間中の防御率が0.00と抜群の安定感を見せた。途中からは小松原も復帰してさらに安定したリリーフ陣に。右腕の黄直哉、左腕の平野は相変わらず強いし、ロングリリーフもこなして試合を作ってくれるタフな石風呂と趙雅憲もかなり数字を上げてきた。野藤、北、伊東などやや疲れを見せた投手もいたがこれからが順位を決する直接対決となる。いかにして乗り切るか、劉監督と天沼投手コーチの腕の見せどころである。

## 第6回個人成績表（4月1日～9月11日）

13連戦直前記念 第6回個人成績表（4月1日～9月11日全1  
16試合）

打撃成績（試合数	打数	安打	打率	HR	打点
林 葉輔	113	37	.329	3	29
73点					
星渡晃兵	114	44	.386	3	15
39点					
パウロ	103	39	.379	2	7
54点					
棚橋和隆	114	44	.386	2	6
61点					
柳 中平	105	38	.362	2	6
9点					
- - 以下規定未満 - -					
立石篤志	43	40	.930	1	12
ドラグノフ	49	10	.204	3	11
大上徳博	45	70	.156	0	5
宮畑圭助	19	30	.158	1	3
フェリックス	7	2	.286	0	0
河 剛紀	16	19	.263	0	4
アンジエロ	73	27	.262	2	9
古池吉郎	49	65	.262	4	10
近堂貴久	80	26	.257	7	30
金 重男	51	11	.250	2	11
一村富郎	1	4	.250	0	0
ノーリー	35	9	.223	0	8

清水尚起	9 試合	2 8 2 打数	6 2 安打	. 2 2 0	4 本	2 6 点
本郷建筑	3 1 試合	7 2 打数	1 5 安打	. 2 0 8	1 本	4 点
太刀川勇太	5 試合	5 打数	1 安打	. 2 0 0	0 本	0 点
折口元文	1 1 試合	1 1 打数	2 安打	. 1 8 2	1 本	1 点
高 遼二	2 3 試合	2 3 打数	4 安打	. 1 7 4	0 本	1 点
水内 賢	2 6 試合	4 7 打数	8 安打	. 1 7 0	1 本	3 点
李 春稀	1 0 試合	1 8 打数	3 安打	. 1 6 7	0 本	2 点
岩下菜央人	4 試合	6 打数	1 安打	. 1 6 7	0 本	0 点
山元則年	7 試合	8 打数	1 安打	. 1 2 5	0 本	1 点
森茂常弘	2 6 試合	2 7 打数	3 安打	. 1 1 1	0 本	0 点
中西定治	7 試合	1 1 打数	1 安打	. 0 9 1	0 本	0 点
曾 剛仁	7 試合	5 打数	0 安打	. 0 0 0	0 本	0 点
南 翔介	1 試合	1 打数	0 安打	. 0 0 0	0 本	0 点
- - 投手打撃成績 (HRはなし打点はリンド・フロージェセンの各1 打点のみ) - -						
Mリンド	1 試合	0 1 打数	1 安打	1 . 0 0		
フロージェセン	1 9 試合	3 5 打数	9 安打	. 2 5 7		
池田武治	4 試合	8 打数	2 安打	. 2 5 0		
吉野大吾	1 9 試合	3 8 打数	3 安打	. 0 7 9		
赤坂忠徳	1 9 試合	3 8 打数	3 安打	. 0 7 7		
瑞穂智幸	1 9 試合	3 3 打数	2 安打	. 0 6 1		
張 尊	1 9 試合	3 5 打数	2 安打	. 0 5 7		
松浦 心	1 8 試合	2 1 打数	1 安打	. 0 4 8		
石風呂幹伸	2 0 試合	0 4 打数	0 安打	. 0 0 0		
趙 雅憲	2 0 試合	0 3 打数	0 安打	. 0 0 0		
斎場次巳	1 0 試合	0 2 打数	0 安打	. 0 0 0		
北 甲大	9 試合	0 1 打数	0 安打	. 0 0 0		

### 打撃まとめ

かなり中途半端な場所で区切ったとは思っている。本来はもう少し



し先の予定だった。しかしこれからは日程が詰まってくる。特に来週は休みなしで試合が続くので一端ここで切らないと次の成績まとめは30数試合分の成績をまとめる必要が出てくる。それはちよつと厳しいということ短いながらも今日の段階でまとめることにした。10月の頭にもう1回まとめるのと全日程が終了したときの2回まとめが残っている。いや、もう2回しか残っていないのだ。第1回のあとがきに続けるのが目標みたいな事を書いていたが、それは今でも偽りない心境である。その上で自画自賛するようだが、よくここまで続いたものだ。そしてあと少しも頑張ろう。死ななければどうにかなる数字だ。

成績について、今回の期間で特に好調だったのは星渡、大上の二番コンビだ。ともに打率は3割を突破、特に大上は打率.386と怒涛の好成績を収め、1割台だった打率を3割ちよつとにまで上げてきた。また、大上は選球眼がよく四球も多く選んでいる。その2人をホームへ還するのが棚橋、林である。ともに10打点以上稼いでいる。打率は下がったが勝利への貢献度は高い。一方難しいのは一三塁の選手である。パウロは期間中打率が1割台と低迷。しかしチーム最多のホームラン数の大砲は貴重な存在だ。ドラグノフが好調だったが柳中平も3割越えでポジションがなかった。DHがあれば、と劉監督も頭を抱えているかも知れない。

控えは、近堂が意外な代打適性を見せた。しかし現状は立石、古池、宮畑、河剛紀と代打要員は豊富なので、守備や走塁をより完璧な状態に戻すためあえて二軍での調整を命じた。二遊間は大上と棚橋の同期コンビで今は磐石だし、控えには安定した守備力の森茂もいるのでとりあえずは大丈夫だろう。併用策を取っている捕手に関しては、今季はこのままがいいだろう。投手陣は、新加入の池田がマウンド同様バッターボックスでも澁刺としたプレーを見せる。

投手成績(試合数)		投球回		自責点		防御率		勝敗		セーブ	
吉野大吾	19	試合	140	回	29	点	1.86	13	勝	4	敗
フローデセン	19	試合	126	回	23	点	4.1	2	勝	9	敗
7勝6敗											
瑞穂智幸	19	試合	120	回	39	点	2.93	5	勝	7	敗
赤坂忠徳	19	試合	125	回	13	点	4.1	2	勝	9	敗
8勝7敗											
- 以下規定未満 -											
Mリンド	1	試合	2	回	23	点	0.00	1	勝	0	敗
平野 錦	3	試合	21	回	5	点	2.14	1	勝	0	敗
1セーブ											
比山 仁	4	試合	40	回	6	点	1.35	1	勝	1	敗
27セーブ											
小松原泰誠	3	試合	29	回	8	点	2.48	2	勝	1	敗
黄 直哉	2	試合	23	回	23	点	5.0	1	勝	0	敗
1セーブ											
張 尊	1	試合	9	回	23	点	2.7	2	勝	5	敗
野藤秀親	3	試合	34	回	23	点	1.1	2	勝	8	敗
3勝2敗											
池田武治	4	試合	25	回	13	点	1.78	3	勝	1	敗
松浦 心	1	試合	8	回	29	点	3.14	5	勝	4	敗
石風呂幹伸	2	試合	35	回	15	点	3.86	0	勝	2	敗
伊東聡司	1	試合	20	回	13	点	3.54	2	勝	2	敗
北 甲大	9	試合	10	回	13	点	3.48	0	勝	0	敗
斎場次巳	1	試合	17	回	8	点	4.24	0	勝	0	敗
1セーブ											
趙 雅憲	2	試合	39	回	18	点	4.15	1	勝	2	敗
王 貞成	1	試合	17	回	9	点	4.76	0	勝	0	敗
1セーブ											
原 克馬	3	試合	2	回	23	点	16.88	0	勝	0	敗

### 投手まとめ

投手陣は松浦が対抗戦で姿を消したが、入れ替わりの池田がこの期間中に3試合先発で3連勝と絶好調。防御率も良好で苦しい終盤の戦いをしっかりと支えてくれている。吉野は言うまでもないとして、それ以外の先発投手も2点台に抑えてきた。瑞穂離脱は痛いだが、

そろそろ松浦が再昇格と言われている。

リリース陣も順調すぎるほどに順調。駒が豊富にあり、パワーアップの小松原・比山、サイドスローの黄直哉・平野、タフな野藤・趙雅憲法などタイプも様々で用途に応じて無理なく起用できている。リリースの駒が揃っているので先発陣も安心して降板できるようになった。登板数が多いのは比山、野藤、小松原、平野といった面々だが、数年前までは中途半端な投手というイメージが強かったりそもそもチームに在籍していなかったりした。育成の成功もあるが、ここまで伸びた最大の要因は実戦で厳しい場面を抑えていくことによる成長である。これは優勝争いしないとできない貴重な経験だ。先発に怪我人が出ると苦しくなるがどこまで持つか。

第6回個人成績表（4月1日～9月11日）（後書き）

全然記念じゃないけどまあいいや。ゴールが見えてくると俄然ガッツが出てくるというもの。

## 第7回個人成績表(4月1日～10月2日)

最終決戦寸前記念 第7回個人成績表(4月1日～10月2日全1  
35試合)

打撃成績(試合数 打数安打 打率 HR打点)

林 葉輔	132	442	152	.344	17	本
90点						
星渡晃兵	133	518	160	.309	12	本
43点						
棚橋和隆	130	512	144	.281	14	本
69点						
パウロ	121	461	122	.265	21	本
64点						
- 以下規定未満 -						
立石篤志	51	46	16	.348	1	本12点
フェリックス	14	15	5	.333	0	本1点
大上徳博	64	134	40	.299	0	本9点
宮畑圭助	25	36	10	.278	1	本3点
ドラグノフ	65	142	38	.268	1	本11点
近堂貴久	83	273	72	.264	8	本32点
柳 中平	107	387	101	.261	6	本2
9点						
一村富郎	1	4	1	.250	0	本0点
アンジエロ	91	347	86	.248	11	本4
2点						
金 重男	62	142	35	.246	3	本14点
古池吉郎	64	94	23	.245	4	本13点
河 剛紀	19	22	5	.227	0	本4点

ノーリー	3	5	試合	9	4	打数	2	1	安打	.2	2	3	0	本	8	点			
清水尚起	1	0	7	試合	3	2	3	打数	7	0	安打	.2	1	7	5	本	2	9	点
本郷建筑	3	1	試合	7	2	打数	1	5	安打	.2	0	8	1	本	4	点			
太刀川勇太	5	試合	5	打数	1	安打	.2	0	0	0	本	0	点						
水内 賢	3	0	試合	4	9	打数	9	安打	.1	8	4	1	本	3	点				
折口元文	1	1	試合	1	1	打数	2	安打	.1	8	2	1	本	1	点				
高 遼二	2	3	試合	2	3	打数	4	安打	.1	7	4	0	本	1	点				
李 春稀	1	0	試合	1	8	打数	3	安打	.1	6	7	0	本	2	点				
岩下菜央人	4	試合	6	打数	1	安打	.1	6	7	0	本	0	点						
山元則年	7	試合	8	打数	1	安打	.1	2	5	0	本	1	点						
森茂常弘	3	5	試合	3	4	打数	3	安打	.1	1	8	0	本	0	点				
中西定治	7	試合	1	1	打数	1	安打	.0	9	1	0	本	0	点					
曾 剛仁	7	試合	5	打数	0	安打	.0	0	0	0	本	0	点						
南 翔介	1	試合	1	打数	0	安打	.0	0	0	0	本	0	点						
- - 投手打撃成績（HRはなし打点は松浦3打点リンド・フローデ																			
セン各1打点） - -																			
Mリンド	1	試合	0	1	打数	1	安打	.1	.0	0									
フローデセン	2	2	試合	4	0	打数	9	安打	.2	2	5								
池田武治	7	試合	1	4	打数	3	安打	.2	1	4									
吉野大吾	2	3	試合	4	9	打数	5	安打	.1	0	2								
松浦 心	2	1	試合	3	0	打数	3	安打	.1	0	0								
赤坂忠徳	2	2	試合	4	6	打数	3	安打	.0	6	5								
瑞穂智幸	1	9	試合	3	3	打数	2	安打	.0	6	1								
張 尊	2	2	試合	3	9	打数	2	安打	.0	5	1								
石風呂幹伸	2	3	試合	0	5	打数	0	安打	.0	0	0								
趙 雅憲	2	2	試合	0	3	打数	0	安打	.0	0	0								
斎場次巳	1	0	試合	0	2	打数	0	安打	.0	0	0								
北 甲大	9	試合	0	1	打数	0	安打	.0	0	0									

打撃まとめ

もはやシーズンも最終局面。次のまとめは150試合終了した時点で行われるので途中経過としては今回が最後となる。さて、今回の期間で特に良好なパフォーマンスを発揮したのは棚橋と林の三四番コンビである。棚橋は打率3割8分を超える好成績でシーズン打率も大きく上げてきた。林はそれを上回り、なんと4割をはるかに超える大爆発っぷりだった。一番重要な時期を迎えるに当たって得点源に当たりが出ているのは頼もしい。この2人を盛り立てる上位打線の星渡も好調。さらにチーム1位、リーグでも4位のホームラン数を誇るパウロを含めた4人が規定到達選手である。さすがというか、やはり規定到達するほどの選手は成績も良いものだ。

規定未到達のレギュラークラスでは、大上が今回の期間中もほぼ3割をキープして貢献している。持ち前の俊足に加えて守備も内外野を守る起用さがあり、なかなか面白い選手に成長した。復帰の近堂も3試合で12打数5安打といきなりハイペースでヒットを量産している。アンジエロ、ドラグノフは数字を落としたが、ここらでもう1回鞭を入れなおしたいところだ。柳中平は最近ようやくホームラン数が伸びてきたという所での離脱だけに痛かった。残念ながらレギュラーシーズン内の復帰は未定ということだ。

その他に伸びてきたのはフェリックス・アマラウである。試合数は少ないものの3割を超える打率。昨日プロ初打点を挙げるなど、実は現在チームで一番の昇り龍かも知れない。まだまだ荒削りながらもダイナミックなプレーと野球に対して真摯な姿勢は好感が持てるナイスガイである。しかしここでやっかいなのが4人までという外国人枠。現在大連はフロデーセン、パウロ、アンジエロ、フェリックスに使っているがそろそろノーリーが復帰する。その場合誰かが落ちる事になるが、ローテーションやスタメンではないフェリックスがその第一候補となるのは仕方ない。まだ若く将来のある選手なのでしっかり育てほしい。投手は松浦が満塁の走者一掃という

大仕事を成し遂げた。

投手成績（試合数 投球回自責点 防御率 勝敗セーブ）

吉野大吾	23 試合	169 回	32 点	1.70	15 勝	5 敗
フローデセン	22 試合	145 回	2/3	4.8 点	2.97	
7 勝 7 敗						
赤坂忠徳	22 試合	144 回	1/3	4.8 点	2.99	9 勝 9 敗
- 以下規定未満 -						
Mリンド	1 試合	2 回	2/3	0 点	0.00	1 勝 0 敗
比山 仁	48 試合	46 回	8 点	1.57	1 勝	2 敗 3 2 セーブ
黄 直哉	31 試合	26 回	5 点	1.73	1 勝	0 敗 1 セーブ
小松原泰誠	39 試合	38 回	8 点	1.89	2 勝	2 敗
平野 錦	37 試合	27 回	1/3	6 点	1.98	1 勝 0 敗 1
セーブ						
池田武治	7 試合	40 回	10 点	2.25	5 勝	1 敗
野藤秀親	43 試合	41 回	2/3	1.1 点	2.38	4 勝 2 敗
松浦 心	21 試合	105 回	30 点	2.57	8 勝	4 敗
瑞穂智幸	19 試合	120 回	39 点	2.93	5 勝	7 敗
伊東聡司	22 試合	24 回	8 点	3.00	2 勝	2 敗
譚 秋雲	3 試合	3 回	1 点	3.00	0 勝	0 敗
張 尊	22 試合	119 回	2/3	4.2 点	3.16	9 勝
6 敗						
石風呂幹伸	23 試合	39 回	15 点	3.46	0 勝	2 敗
北 甲大	9 試合	10 回	1/3	4 点	3.48	0 勝 0 敗
趙 雅憲	22 試合	45 回	18 点	3.60	1 勝	2 敗
王 貞成	13 試合	22 回	10 点	4.09	1 勝	0 敗 1 セーブ
斎場次巳	10 試合	17 回	8 点	4.24	0 勝	0 敗 1 セーブ
原 克馬	3 試合	2 回	2/3	5 点	1.68	0 勝 0 敗

投手まとめ



投手陣では吉野が19試合中4試合に先発して数字をアップさせた。これまでは10勝したら10敗するようなどこか頼りない所があったが、今季は大幅に若返った先発陣をトップに立って引っ張ることで自覚が芽生えたようで堂々たるエースに成長した。その新たな先発陣である赤坂、フローデセンも安定した活躍を見せている。今回の期間中で特に良かったのが復帰した松浦で、立ち直るところかさらに成長している。一方気にかかるのが張尊である。3試合連続でKOされ、今は二軍で調整している。あと1勝で2桁勝利となるが、達成してくればチームにとって弾みとなるので何とか戻ってきてほしい。瑞穂の離脱も痛かったが、先日二軍戦で登板するなど復帰間近である。

リリーフは相変わらず、いやむしろ秋になつてより好調の度合いを深めているようにも思える。防御率1点台の選手が増えた。また、趙雅憲がついに3点台まで防御率を落としてきた。ビハインドでのロングリリーフ中心というタフな役割を要求されているが、これが趙にとってベストな起用方法なのかも知れない。石風呂、伊東あたりのやや渋めの数字を残している中継ぎもそれは大切な戦力である。

## ドラフト結果一覧

### 各球団1位指名

東京

萱野 将之 大投右右 今季注目度ナンバー1の剛速球右腕

大阪

金 竜善 大外左左 朝鮮半島屈指のスラッガーと名高い外野手で強肩も魅力

名古屋

周 高亮 大投右左 台湾の無名大学出身だが長身でセンス抜群の隠し球

広島

野々村 浩輔 大投右右 コントロール抜群の右腕で大舞台の経験も豊富

横浜

三上 鵬介 大投右右 ゴツゴツした肉体から150キロ台の速球を放る右腕

京都

高畑 修介 高内右左 高卒屈指の長打力を秘めており内野守備も巧み

平壤

白坂 一郎 大投右左 全身をダイナミックに躍動させる独特な投球フォーム

開城

磯貝 美之里 高投右右 最速144キロの右腕だが野手としてのセンスも抜群

光州

磐田 聡文 大投右左 サイドに近いスリークォーターからmax  
147キロのクセ球

大連

竹松 龍徳 高投左左 昨年突如台頭してきた「熱河の昇龍」は未  
だに成長中

奉天

孫 定富 社投右右 右サイドスローからキレのいい球を投げ込む  
実戦派

新京

黄 嘉仁 社内右右 社会人3年目で対応力も身につけた強打のサ  
ード

ハルビン

章 慶源 高捕右右 高校通算52本塁打を放った満洲を代表する  
強打の捕手

チチハル

本野 貴明 大内右左 軽快な守備とシユアな打撃が魅力の大学ナ  
ンバー1ショート

福岡

井上 元気 高投左左 中央球界では無名も九州屈指の大型左腕と  
名高い

埼玉

顔井 笙平 大投右右 多彩な変化球を操る関西大学野球ナンバ  
ー1右腕

千葉

藤尾 貴彦 大投左左 大学ナンバー1左腕と言われる本格派  
札幌

李 博人 社投左左 アメリカでのプレー実績もある隠し球左腕

神戸  
海野 泰介 高外右左 シュアなバッティングに定評あるセンス抜群の外野手  
仙台  
高橋 元史 社投左左 最速153キロを誇る社会人屈指の本格派左腕  
台北  
音原 豊 高内右左 フィリピン人とのハーフでしなやかな打撃を見せる内野手  
台南  
趙 元悦 大投左左 地元台南出身の速球派左腕でスライダーも即戦力級

釜山  
茶田 六磨 大外右右 鍛え上げた肉体から長打連発のスラッガー  
京城  
森崎 倫一 大内右左 広角に打ち分けるバッティングセンスは高評価  
元山  
佐藤 光人 社内右両 27歳にして指名された社会人屈指の守備名人  
大田  
後関 徳丸 大投右右 粗っばいが力強いストレートが魅力のストッパー候補  
安東  
曹 大豊 高内右左 その名の通り高校通算45本塁打のパワーヒッター  
吉林  
林 由松 大投右右 大学に入ってから台頭した最速154キロ右腕

27日に開催された第一次ドラフト会議はこのような結果になった。今年の目玉とされていた萱野、藤尾の大学生投手はそれぞれ東京、千葉に交渉権が確定した。その他の指名選手も前々から指名を明言していた有名選手あり、まったく予想外のサプライズ指名ありでよりどりみどりだった。特に高校生はこれから始まる甲子園予選において、かなりマークされる存在となる。

さて、大連は昨年全満洲高校野球大会で衝撃的なピッチングを見せた「熱河の昇龍」こと黒水高校の竹松龍徳投手を指名した。ドラフト巧者と言われる大連らしい見事な指名だ。日本列島ではほとんど知られておらず、向こうの新聞では無名選手のサプライズ指名と捉えられているようだが、多少なりとも大陸のアマチュア野球事情に詳しい者であれば誰もが納得する指名である。

竹松は小学生の頃はサッカークラブに、中学生に入ってからは陸上部に所属しており、本格的に野球を始めたのは高校生に入ってからという珍しい経歴を持っている。しかしセンスを見込んだ黒水高校の姜錦栄監督による猛練習によって急速に成長し、今では満洲屈指の逸材と呼ばれるまでになった。竹松の特徴は何と言っても左腕から繰り出される力強いストレートである。189cm83kgの堂々たる体躯から投げ下ろされる豪球は最速149キロをマーク。角度もあり極めて打ちにくい。変化球はほとんど投げない。

感覚としては左右の違いはあれど2年前の松浦と似ている。一般的には無名でもその地域では名が知れていた逸材を大連が一本釣り。その松浦は今季2年目にして台頭。先発ローテーションの一角として早くも5勝を上げており、チームの躍進に欠かせない戦力となっている。

二人に共通するのは知識や技術を吸収するスピードの速さだ。昨年の大会での竹松は、当初は光るものはあれどあまりにも荒削りだったのでそこまで注目を浴びる存在ではなかった。しかし日程が進むにつれて一足飛びに投手として洗練されていった。特に改善されたのはコントロールで、初戦では10四死球だったものが最後の準決勝ではわずか1四球。準々決勝では9回二死までヒットを許さずという快投を見せるなど、優勝した奉天学院をしのぐほどのインパクトを残した。本人は「大会で色々な投手を見て自分が至らないことを知ったので少しでも良くなるように試行錯誤した」と言う。成長に対して貪欲なので、松浦が早々と一軍で出てきたように竹松も早期の活躍が期待できそうだ。

違いとしてはストレートの質である。柔の松浦、剛の竹松と言ったところか。松浦ほどのしなやかさは確かにない。しかし竹松はまさに豪速球、重い球とはこのような球の事だと確信させるようなゴツゴツした質感のストレートを放る。将来訪れるであろう大連黄金時代に君臨する松浦、赤坂、竹松というアジア最強の先発三本柱、などと夢想するのは私だけではないはずだ。それほどに魅力の尽きない左腕だ。

## 大日本リーグ オールスター戦

出場選手

中央リーグ

投手

加藤 由樹(京都) 2

浅生 達也(名古屋) 2

辻川 久児(大阪) 7

沢沼 拓(東京) 1

ハリントン(広島) 1

サーフエイト(広島) 1

江島 慎一郎(横浜) 1

丸茂 東遊(奉天) 1

吉野 大吾(大連) 3

松浦 心(大連) 1

久慈 一正(新京) 4

長谷部 建<sup>チチハル</sup> 1

堀 満裕<sup>ハルビン</sup> 1

朴 仲哲(開城) 3

奥森 和世(光州) 1

捕手

何 慎介(東京) 8

漢 隆太郎(奉天) 2

田坂 実正<sup>ハルビン</sup> 6

内野手

畠田 克洋(京都) 1

江端和広(名古屋) 8

平尾 圭一（大阪） 3  
板本 隼人（東京） 4  
室田 修男（横浜） 3  
横山 早樹（奉天） 2  
趙 民陽（平壤） 1  
万城原 拓<sup>チチハル</sup> 1  
笠原 裕（開城） 3

外野手

青井 宣久（京都） 7  
バレンタイン（京都） 1  
ムートン（大阪） 2  
永野 久俊（東京） 1  
林 葉輔（大連） 1 1  
星渡 晃兵（大連） 3  
武沼 駿（新京） 1  
小金井 大智（光州） 1 3

海洋リーグ

投手

馬 浩孝（福岡） 4  
ガルミツシュ（札幌） 5  
竹田 勝久（札幌） 5  
唐 有己（千葉） 1  
平尾 佳久（神戸） 3  
落合 高磨（台北） 2  
ドルーザス（台南） 1  
馬 将広（仙台） 4  
高橋 豊（京城） 5



安部 隼人(京城) 2  
吳 章広(釜山) 3  
羊谷 満泰(元山) 2  
胡 和直(安東) 2  
樺島 陽彦(安東) 1  
野口 芳樹(吉林) 4  
孔 会良(大田) 6

捕手

島田 基広(仙台) 3  
黒崎 智大(千葉) 6  
王 重賢(大田) 2

内野手

唐崎 宗伸(福岡) 8  
李 忠資(千葉) 7  
淵崎 滋(台北) 1  
李 勝利(台南) 4  
万 剛福(埼玉) 4  
永島 裕文(埼玉) 7  
立原 正美(釜山) 1 2  
羅 久聖(京城) 5

外野手

永田 勝(札幌) 1  
伊知嶺翔吾(千葉) 1  
丁 貴竜(神戸) 2  
花城 三月(釜山) 2  
キングマン(元山) 4  
松田 誠(吉林) 3

指名打者

稲田 篤保（札幌） 7  
 コリス（京城） 1

試合結果

第1戦 7月16日 大連 中央4 - 0 海洋 ハリントン ガ  
 ルミツシュ HR何慎介 MVP何慎介 表彰選手 板本（中央）、  
 高橋（海洋）、横山（中央）  
 海洋 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ガルミツシ  
 ュ（3） - 高橋（2） - ドルーザス（1） - 落合（1） - 樺島（1）  
 中央 0 0 2 0 0 1 1 0 - 4 辻川（1） -  
 吉野（1） - ハリントン（1） - 朴仲哲（1） - 松浦（1） - 堀  
 （1） - 江島（1） - 浅生（1） - サーフエイト（1）

1イニングごとに違う投手を送り込む豪華絢爛な投手絵巻を披露した中央リーグが先勝。チームやリーグを超えた日本のエースである海洋リーグ先発ガルミツシュから3回に先制の2ランホームランを放った何慎介がMVPに輝いた。本日3安打の板本も表彰させるなど今季は不甲斐ない戦いに終始している東京勢が力を見せた。投手表彰は2回をパーフェクトに抑えた京城のエース高橋豊が受賞。6回、2アウト二三塁から花城が放った強烈なライナーをダイビングキャッチしたサード横山の守備も表彰された。

第2戦 7月17日 千葉 海洋3 - 2 中央 平尾 長谷部  
 S安部 HR丁貴竜、コリス MVPコリス 表彰選手 キングマ  
 ン（海洋）、平尾（海洋）、武沼（中央）  
 中央 0 0 1 0 1 0 0 0 0 2 久慈（3） -  
 朴仲哲（1） - 奥森（1） - 堀（1） - 長谷部（1） - サーフエ

イト(1)  
 海洋 0 1 0 0 0 2 0 - 3 唐有己(3)  
 - 竹田(2) - 呉章広(1) - 平尾(1) - 馬浩孝(1) - S安部(1)

第2戦は海洋リーグが接戦を制して勝利。7回、長谷部から逆転の2ランホームランを放ったコリスがMVPを受賞。38歳のコリスはメジャーでもオールスターに選出された経験を持つ実力派で、日本(正確には大陸がメインだが)でもさすがの打棒を発揮している。元山の人気外国人キングマンは本日3安打1四球と好調で表彰された。7回表のイニングをしっかりと抑えて勝利投手となった神戸の平尾が投手表彰。本日無安打ながらもセンターとして素晴らしい守備を見せて球場を沸かせた新京の武沼も表彰された。

第3戦 7月18日 仙台 中央9 - 5 海洋 松浦 野口 H  
 R万城原、星渡、立原、コリス MVP万城原 表彰選手 星渡(中央)、松浦(中央)、島田(海洋)  
 海洋 1 0 0 2 0 0 1 1 0 5 馬将広(3)  
 - 野口(1) - 羊谷(1) - 胡和直(1) - 孔会良(1) - 馬浩孝(1/3) - ドルーザス(2/3)  
 中央 0 3 0 1 1 0 1 3 - 9 加藤(3) -  
 奥森(1) - 松浦(1) - 丸茂(1) - 沢沼(1) - 浅生(1) - 辻川(1)

1勝1敗で迎えた第3戦は3月11日の災害復興を願って仙台で開催。海洋リーグの先発は仙台に所属する馬将広で、中央リーグも東北の高校を出た加藤を先発に立てた。試合は激しい打撃戦となったが、最後は中央リーグが押し切った。勝利打点となる4回のホームランを含む3安打3打点を挙げたチチハルの万城原がMVPに選

出された。4安打の星渡もMVP候補だったが打撃表彰に。投手表彰は松浦。そして守備表彰には星渡の盗塁を刺すなどの活躍を見せた捕手の島田が選出された。

開幕 大連艦隊好発進

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (4 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

3 柳中平 (3 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 瑞穂 (2 - 0) - 古池 (1 - 0) - 野藤 - 小松原 - 比山

「ビジター」光州

3 大深

6 真野

8 マイヤー

9 小金井

4 白知秋

7 朴芳一

5 久保岡

2 山村

1 奥森

光 0 0 0 0 0 1 0 0 0  
 男 - ラスター - 李敏登  
 奥森 - 李吉

大 0 0 0 2 0 0 1 0 0 1  
 瑞穂 (6)

- 野藤 (1) - 小松原 (1) - S 比山 (1)

4

日本列島は未曾有の大災害に見舞われた影響で開幕延期となったが大陸では通常通り4月1日の開幕日を迎えた。本日から交流戦を含めて全150試合のシーズンが始まる。150試合を消化して各リーグの上位3チームがプレーオフに出場し、リーグ王者を決める。そしてリーグ王者同士が日本一を賭けて対決する大日本シリーズが開催されるのは11月。4月から11月までの足掛け8ヶ月に及ぶ長い戦いは今ここに始まった。28チームの中から勝利の栄冠を手にするのは果たしてどこになるのか。

開幕戦は前年4位で今季はプレーオフ進出を目指す大連と、前年最下位に沈み今季は捲土重来を期す光州が対決。光州の開幕投手は若きエース奥森、そして大連は今季京城から移籍してきたばかりの瑞穂を開幕投手に起用するというサプライズ采配をいきなり繰り出してきた。その瑞穂が監督の期待に応える快投を見せた。

1回、瑞穂は先頭打者の大深、真野を連続三振に打ち取り、マイヤーには粘られたもののショートゴロに仕留めた。それから4回までは1人の走者も出さず。とにかくコントロールが冴え渡っていた。際どいコースでも勇気を持って投げており、よほど自信をつけてきたのだろう。

好投の瑞穂を援護したい大連打線が火を噴いたのは4回。先頭の棚橋が三遊間を破る痛烈なヒットで出塁。これが大連の今季初ヒットとなる。続く林が四球を選び一二塁。パウロ三振で一死後、柳中平がカウント2-0（ボールを先に表記）から投じられた甘く入ったスライダーを痛打。右中間を破るタイムリー2ベースで2点を先制した。

6回には先頭の林がセンターオーバーの3ベースヒットで早速追加点のチャンスを作るとパウロがレフト前にタイムリーヒットで1

点追加。柳、近堂と相次いで四球で出塁しノーアウト満塁になったところで奥森は降板し、李吉男がマウンドに登った。3年目の奥森は気持ちの入ったピッチングを見せたが、若さゆえの気負いもあつたか全体的にコントロールが不安定で5四球と実力を発揮しきれずに終わった。李吉男は清水をサードゴロ本塁封殺からファーストに転送してのダブルプレー、瑞穂の代打古池をライトフライに打ち取りピンチをしのいだ。

7回には光州の新外国人投手ラスターが登板したが、先頭打者の星渡がカウント3-1から投じられた外角よりのストレートをライトスタンド最前列に弾丸ライナーで叩き込み4点目をあげた。光州は6回に小金井の二塁打から白知秋の送りバントと朴芳一の犠牲フライで1点を返すのが精一杯。7回からは大連の継投策の前に無安打でゲームセット。

大連のいい部分ばかりが出た開幕戦となった。特に瑞穂や比山の堂々としたピッチングは昨年までには見られないものだった。また、星渡は昨年より明らかに打球の力強さが増しております面白く存在となった。一方光州は淡白な攻めで初の開幕投手となった奥森を見殺しにしてしまった。新外国人ラスターは152キロを計測したがいきなり被弾。コントロールも不安定で常にボール先行のピッチングだった。このままでは今季も苦しい戦いとなりそうだ。

#### その他の試合結果

1勝	奉天	2 - 1	開城	1敗
1敗	ハルビン	2 - 6	チチハル	1勝
1勝	新京	7 - 0	平壤	1敗

チャンスを掴むか手放すか

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (5 - 2)

6 棚橋 (5 - 0)

9 林 (2 - 1)

5 パウロ (3 - 0)

3 柳中平 (4 - 3)

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (4 - 1)

1 張尊 (1 - 0) - 宮畑 (1 - 0) - 松浦 - 古池 (1 - 0) - 原 -

小松原 - 比山

「ビジター」光州

3 大深

6 真野

8 マイヤー

9 小金井

4 白知秋

7 朴芳一

5 久保岡

2 山村

1 坪倉

光 0 1 0 0 1 0 0 2 0 4 坪倉 - 山西

- ラスター - 河原林 - 宮内 2 敗

大 1 3 1 1 0 0 1 0 - 7 張尊 (5)

- 松浦 (2) - 原 (2 / 3) - 小松原 (1 / 3) - S 比山 (1)



## 2勝

1回、星渡、ノーリーと連続ヒットでノーアウト一二塁のチャンス。棚橋のセカンドゴロで二塁封殺もダブルプレーは免れてワンナウト一三塁。林のセンターへの大きなフライで星渡生還。早速先制点を奪った。光州は2回、一死後に白が四球で出塁。次打者朴の3球目にヒットエンドランを仕掛ける。朴は外角寄りのストレートをうまく捕らえてライト前ヒット。エンドラン成功でランナー一三塁となる。久保岡は三邪飛に倒れるも山村が見逃せば低すぎてボール球だったスライダーを力で強引にレフト前へ持っていった。山村の同点タイムリーで試合は振り出しに。

援護をもらった坪倉だが、2回裏に崩れてしまった。柳、近堂の連続ヒットでノーアウト一二塁からバッター清水に対する3球目が暴投となりランナーそれぞれ進塁。4球目のカーブを清水は綺麗にセンター返し。これがタイムリーヒットとなり大連2点追加。一死後先頭に帰りバッター星渡は四球。ノーリーがライト前タイムリーを放ち4対1とした。この打席、ノーリーは5球連続ファールで粘り9球目の内角低めに投じられたストレートをうまく流し打ちした。経験豊富なノーリーの粘り勝ち。

3回には一死後に柳がライトスタンドに突き刺さるホームランで追加点。4回に投手の張をストレートの四球で歩かせるに及び、光州の辺監督は坪倉を諦めて山西を投入。奥森、坪倉と期待されている若手投手を開幕から起用したがともに敗戦投手に。交代した山西だがいきなり星渡に四球。ノーリーをサードフライ、棚橋をセンターフライに打ち取るも林に死球で二死満塁。パウロが押し出し四球を選んだ。山西は昨年は先発も経験した24歳で、期待されている選手ではあるのだがこのような投球をしていると信頼を勝ち取ることは出来ない。

5回表、張はランナーに出て疲れたのか先頭打者となる山西に代打の呂俊大と大深に連続四球。真野がライト前タイムリーを放ち6対2に。しかしここで大深が中途半端な走塁をしてしまい9-4-6と渡り封殺。反撃のムードに水を刺す、あまりにも迂闊なミスだった。続くマイヤーはショートゴロダブルプレーに終わり、攻勢の機運はあつという間にしぼんでいった。張は5回までで余裕の降板。それから光州のラスター、大連の松浦が快調なピッチングを見せてともに2回を無安打に抑える。

次に試合が動いたのは7回裏。この回から登板した河原林を捕らえた。先頭の林がツーベースヒット。パウロ凡退も柳がストレートをセンター前に弾き返して二三塁。近堂も柳と同じく河原林のストレートをうまく流してライト前タイムリーで7点目。

意地を見せたい光州は続く8回表、松浦に代えてこの回から登板の原から大深の代打佐藤皆雄が詰まりながらもレフト前に落ちるヒットで出塁。真野もライト前ヒットで続き、マイヤー四球でノーアウト満塁。カウント2-1から投じられたスライダーを完璧に捕らえて打球は右中間へ。抜けるか。しかし間一髪でセンター星渡がダビングキャッチのファインプレー。これが犠牲フライになって一点を返す。続く白は三振も朴がタイムリーを放ち真野がホームに還り7対4となった。ここで大連は原を下げて小松原を繰り出す。小松原は力強いストレートで久保岡を三振に斬ってピンチ脱出。9回は比山が3人でゲームセットまで持ち込んだ。

大連は序盤の猛攻が勝利につながった。張はヒットは打たれるものの要所を押さえるピッチングで5回2失点。続いて登板した松浦は公式戦初登板とは思えない、物怖じしないピッチングを見せた。特に20歳年上の小金井相手に投じたストレートは肝が据わってい

ないと投じられないもので、間違いなく将来エースになる器である。光州は大深のボーンヘッドこそ近年の低迷の象徴であろう。あまりにも淡泊。あまりにも中途半端。ラスターが2試合目にしてなかなかの投球を見せたのが救いか。

#### その他の試合結果

1勝1敗	奉天	0 - 3	開城	1勝1敗
2敗	ハルビン	1 - 2	チチハル	2勝
2勝	新京	4 - 3	平壤	2敗



北欧をルーツに持つ金髪碧眼の大男が初登板でいきなり完封勝利の鮮烈デビューを飾った。その男、ウイル・フローデセンは身長2mを超える恵まれた体格を誇るが、本日は最高145キロと球速はそうでもない。これなら打てるだろうと思えてくる。しかし、そう思った時点ですでに彼の術中にはまっているのだ。手元で小さく変化するボールで芯を外す投球こそがフローデセンの真骨頂だ。この日奪った27のアウトのうち、三振によるアウトは4つ。それに対して内野ゴロによるアウトは18を数えた。光州打線はヒットこそ出るものの次の打者は内野ゴロでダブルプレーという展開が3度あるなど、フローデセンを捕らえきれないうちに完封を許してしまった。

大連打線は初回、二死から棚橋が四球を選び出塁すると、林がライトフェンス直撃のタイムリー2ベースを放ち、昨日と同じく初回から先制点を入れた。それからはフローデセン、陳の両先発がランナーを出すものの失点は許さない投球を続けた。

5回、大連は一死後星渡が陳のスライダーを捕らえてライトポール際にホームラン。ここで陳の緊張の糸が切れたかのように投球が乱れた。ノーリー四球、棚橋レフト前ヒットで一二塁から林が一塁線を破るタイムリーヒット。パウロもレフト前にタイムリーを放ち陳をノックアウト。続いて登板した李吉男は柳を三振にしとめるも近堂がセンターオーバーのタイムリー3ベースで5対0に。打者一巡の猛攻で試合は決まった。後はフローデセンのテンポよい投球の前に内野ゴロを量産するだけだった。

これで大連は開幕3連勝。目標とする優勝に向けてこれ以上ない好スタートを切った。大日本リーグの日程では、月曜日は基本的に移動日となっている。今週もそうで、明日は試合なく大連選手団は朝鮮半島に移動し、次節の対戦相手の本拠地である開城へ向かう。

開城での3連戦が終わると今度は移動日なく新京に移動して3連戦を行う。月曜休みで3連戦を週に2回。これが基本的な日程となる。大陸を本拠地とする球団は列島の球団よりも移動距離が長く、体的にもかなり消耗が激しい。それだけに選手の体調管理や層の厚さが問われる事になる。

#### その他の試合結果

2勝1敗 奉天 7 - 5 開城 1勝2敗  
1勝2敗 ハルビン 9 - 2 チチハル 2勝1敗  
3勝 新京 6 - 4 平壤 3敗

半島へ 次なる戦い

「ホーム」開城

8 西平

4 笠原

5 肥後

7 高弘美

3 ハイロ

6 竹端

9 曹真永

2 金順基

1 ハイマー

「ビジター」大連

8 星渡(4 - 1)

7 ノーリー(3 - 0)

6 棚橋(3 - 1)

9 林(4 - 2)

5 パウロ(4 - 0)

3 柳中平(4 - 1)

4 近堂(3 - 0)

2 清水(3 - 1)

1 吉野(3 - 0) - 比山

大 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 吉野(8)

- S 比山(1) 4勝

開 0 0 0 0 0 0 1 1 0 2 2 ハイマー -

森 1勝3敗

新外国人で今日の試合が初登板となる開城の先発ハーマーの立ち上がりが不安定なところを攻め立てた。星渡がセンター前ヒット、ノーリー四球、棚橋はライト前ヒットでいきなりノーアウト満塁。ここで頼りになる主砲林が左中間を破る走者一掃のタイムリー2ベース。鮮やかな猛攻で一気に勝負を決めるかに見えた。しかしこの一撃でようやくハーマーの目が覚めたか、続くパウロ、柳を連続三振。近堂をショートゴロに打ち取ってこれ以上の失点を許さず。それ以降は150キロに達する速球と多彩な変化球で大連打線を手玉に取った。結果的に敗戦投手となったが力は確かなところを見せた。

大連の先発は吉野。昨年は10勝を上げてエースとしての自覚が芽生えつつあっただけに開幕投手が自分ではなく移籍してきたばかりの瑞穂だった事はシヨックだっただろう。「エースは俺だ」と言わんばかりの気迫に満ちた投球を見せた。特にストレートの切れ味が良く、スライダーを見せ球にフィニッシュはストレートで三振というパターンが有効だった。6回までに被安打2とほぼ完璧なピッチングを見せた。

7回裏、開城先頭のベテラン肥後が初球を叩きレフト前ヒット。高もライト前にしぶとく転がして続く。吉野はハイローをセカンドゴロのダブルプレーにしとめてツーアウト三塁とするも、竹端邦仁にセンター前タイムリーヒットを打たれてしまう。竹端は高卒5年目の俊足好守に定評のある選手。昨年から一軍で使われだしたが打撃は課題としていた。今日の吉野から放ったタイムリーで自信をつけたのは間違いないだろう。

8回裏、開城は一死後、好投のハーマーの代打吉田大輔が振り逃げで出塁。西平はファールで粘った末にレフト前に転がしてチャンスを広げる。笠原は三振に仕留めたが肥後にセンター前タイムリーを浴びる。元々・270前後の選手だった肥後が昨年突如・312



を記録した事をフロックと見る向きもあったがどうやら本格的に覚醒したようだ。なおもツアウト二三塁。一打同点のピンチもここで吉野奮起。高を三振に打ち取りピンチ脱出。9回は比山が1四球を出したものの4人で締めて勝利を手にした。

吉野はここその場面でさすがの力を見せた。開城の主砲高を三振に取ったストレートは本日の最速149キロを計測。同点は許さなという気迫のこもったナイスボールだった。開城にとってホームーが使えるめどが立ったのは大きい。昨年は先発不足に泣いたが、解消するための補強はどうやら当たったようだ。

#### その他の試合結果

4 敗	光州	4 - 9	新京	4 勝		
2 勝	2 敗	奉天	4 - 5	ハルビン	2 勝	2 敗
2 勝	2 敗	チチハル	2 - 4	平壤	1 勝	3 敗

初の敗北 屈辱の初陣

「ホーム」開城

8 西平

4 笠原

5 肥後

7 高弘美

3 ハイロ

6 竹端

9 曹真永

2 金順基

1 山畑

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 ノーリー (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウ口 (4 - 2)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (3 - 0) - 森茂 (1 - 0)

2 清水 (3 - 0) - 古池 (1 - 0)

1 赤坂 (1 - 0) - 黄直哉 - 折口 (1 - 1) - 松浦 - 河剛紀 (0 -

0) - 高遼二 - 石風呂 - 金重男 (1 - 0)

大 0 1 0 0 1 0 0 0 0 0 2 赤坂 (3

1 / 3) - 黄直哉 (2 / 3) - 松浦 (2) - 石風呂 (2) 4勝1敗

開 3 0 1 2 0 0 0 1 - 7 山畑 - 正田

- 東 2勝3敗

今日がナンバーワン大卒ルーキー赤坂のプロ初登板となる。しかし黄金ルーキーといえども人の子ということか、今日はまったく低調な出来だった。初回、緊張からかコントロールの定まらない赤坂を開城の経験豊富なバッター達が襲った。先頭打者の西平が三塁線を破る2ベースでいきなりプロの技量を見せる。笠原はファーストゴロに打ち取り初のアウトを奪ったがランナー三進。そして36歳の肥後、37歳の高、ハイローに連続タイムリーを浴びる。経験豊富なベテランは追い込まれても慌てることなくきつちりと合わせてきた。貫禄の勝利だった。続く竹端も強烈なライナー性の打球だったが柵橋がナイスキャッチ。これで多少は落ち着いたか曹真永から三振を奪った。

2回、大連はパウロの一発で1点を返すも開城の猛攻は初回のみで終わらなかつた。3回には高がHRをレフトスタンドに放り込んで追加点。そして4回、先頭打者である曹真永の打球は何でもないピッチャーゴロだったが、これを一塁に悪送球してしまう。続く金順基は外角の真ん中寄りに入ったストレートを狙われてフェンス直撃のタイムリー2ベース。山畑の送りバントと西平への四球でワннаウト一三塁。ここで笠原がセンター返しでタイムリーヒットを放ち、赤坂はノックアウト。黄直哉に交代する。サイドスローの黄は肥後を注文通りのセカンドゴロダブルプレーに仕留めた。赤坂のプロ初登板は3回と1/3を6失点KOと、プロの洗礼を浴びる結果に終わった。

大連はランナーを出しながらも肝心なところで後一本が出なかつた。得点はパウロと黄の代打折口元文のいずれもソロホームランのみ。そこまで調子がいいとはいえなかつた開城先発の山畑を助けってしまった。7回から登板した開城の若手投手である正田と東に抑えられるうちに4番手の曹真永にHRを打たれて2対7に。最後は石

風呂の代打金重男が三振に倒れてゲームセット。今季初の敗北を喫した。

赤坂のデビュー戦は悔しい結果となった。しかし赤坂本人はこの試合で通用したものの、通用しなかったものが何かを見極め、修正するには良い機会を得たとも言える。一回裏に曹真永から奪った三振は実力の片鱗を見せた。力はある。後はそれをいかに発揮するかが肝要だ。

#### その他の試合結果

1勝4敗	光州	6 - 3	新京	4勝1敗
3勝2敗	奉天	4 - 1	ハルビン	2勝3敗
3勝2敗	チチハル	9 - 5	平壤	1勝4敗

連敗 打ち合いも及ばず

「ホーム」開城

8 西平

4 笠原

5 肥後

7 高弘美

3 ハイロ

6 竹端

9 曹真永

2 金順基

1 岡武

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 3)

7 ノーリー (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウ口 (4 - 0)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

2 清水 (4 - 0)

1 趙雅憲 (1 - 0) - 齋場 - 立石 (1 - 1) - 原 - 石風呂 - 折口 (0 - 0) - 大上 - 松浦 - 古池 (1 - 0) - 野藤

大 0 0 2 0 2 0 2 1 0 7 趙雅憲 (2

0 / 3) - 齋場 (2) - 原 (1) - 石風呂 (1) - 松浦 (1) -

野藤 (1) 4 勝 2 敗

開 1 1 5 0 2 0 0 0 - 9 岡武 - 川原

両チームの先発をはじめとした投手陣の出来が低調で乱打戦となった。開城の先発岡武は先頭打者星渡にデッドボールをぶつけてしまつ、この回こそ無失点に抑えたものの波乱を予感させるには十分の試合開始だった。対する大連先発の趙雅憲も球威が不足しており不安定な出来。一死後、笠原に右中間に運ばれて2ベース、肥後と高に四球で早くも満塁のピンチを迎えるとハイローに対する4球目をきつちりライトまで打ち上げられ、犠牲フライで開城先制。

2回裏、金順基が低めのストレートをしっかりと捕らえて2ベース。岡武が犠打を決めて2アウト三塁から西平にタイムリーヒットを浴びる。しかし直後の3回表、大連打線が不安定な投球を続けた岡武をようやく捕らえ始める。星渡がショート内野安打で出塁するとすかさず盗塁。そしてノーリーのレフト前ヒットでノーアウト一三塁。棚橋はショートゴロダブルプレーとなるもその間に1点。そして四番林が真ん中に入ってきたストレートをライトスタンドに叩き込んだ。これは岡武の失投だったが見逃さなかった林もさすが。これで同点となったがそれも束の間だった。

3回裏、先頭の肥後が初球をホームラン。高、ハイローの連打から竹端に四球でノーアウト満塁となったところでピッチャー交代。趙雅憲は先発もリリースもこなす投手陣の便利屋といえる存在だが今日はかなり乱れてしまった。肥後へ投じたボールのコースはそこまで悪くなかったが全体的に球威がなかった。ノーアウト満塁でマウンドを譲り受けた斎場だが、彼も流れを止めることは出来なかった。金にセンター前タイムリーヒットを浴びて2失点。岡武は三振も西平と笠原にもタイムリーを浴びてこの回5失点。なお西平のタイムリーの際に竹端に続いて金もホームを狙ったが林の好返球に阻まれてツアアウト。再び回ってきた肥後を捕邪飛に打ち取りどうに

かこの回を終えるも決定的な差がついてしまった。

5回表、先頭打者は投手である斎場の代打立石篤志。今季移籍してきた37歳のベテランが大連での初打席で三塁線を抜くしびといヒット。星渡も続いてノーアウト一三塁からノーリーのライト犠牲フライで立石生還。続く柵橋は粘った末に左中間フェンス直撃の強烈なライナーを放ちタイムリー2ベース。今季3番シヨートに抜擢されたもののなかなか結果が出せなかった柵橋だったが、いに待望の一撃が出た。ここで開城シグマール監督は岡武をあきらめて川原投入。後2アウトで勝利投手の権利を得るところだったが今日の打球では与えられないのも致し方なし。川原は林とパウロとともにセンターフライに仕留めて反撃を断ち切る。その裏には笠原の2ランホームランが飛び出し4-9に。

7回、意地を見せたい大連の反撃が始まる。4番手石風呂の代打折口が四球を選び代走大上徳博に交代。星渡が左中間真つ二つのタイムリー3ベースと、ノーリーがセカンドとライトの間に落とす渋いヒットで2点。8回にはセットアップであるタチトナから近堂がレフトへのホームランを放ち7-9まで追い上げるも9回は黒垣に抑えられて万事休す。大連は7回に松浦、8回には勝ちパターンに継投に使われる野藤まで繰り出したが及ばなかった。

これで大連は連敗となった。序盤に点を取られすぎた。特に趙と原は30代で経験も積んできただろうに不甲斐ない。一方若手は柵橋がついに三番打者の水になれてきたようで痛烈なタイムリーヒットを放った。また、松浦の意気のよさも大連ファンには希望だっただろう。しかし負けは負け。次は優勝候補筆頭と名高い新京との対戦となる。移動も大変だろうが気を入れかえて新たな対決に臨みたいところだ。

その他の試合結果

1勝5敗	光州	3 - 6	新京	5勝1敗
3勝3敗	奉天	1 - 2	ハルビン	3勝3敗
4勝2敗	チチハル	8 - 2	平壤	1勝5敗



## 熱戦のプレリムード

「ホーム」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 七沢

6 バジーノ

5 ボンズ

4 呉高波

1 久慈

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (4 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 0)

5 パウロ (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (4 - 0)

2 清水 (3 - 2)

1 瑞穂 (2 - 0) - 立石 (0 - 0) - 大上 - 小松原 - 比山

大 0 1 0 0 0 0 1 0 2 瑞穂 (7) -

小松原 (1) - 比山 (1) 4勝2敗1分

新 0 0 0 1 1 0 0 0 0 2 久慈 - 鈴木芳

- 畑 5勝1敗1分

優勝候補新京と今季一番伸びていると評判の大連の今季第一戦は互いに譲らぬ白熱した展開となった。先発はともに開幕投手を務めた瑞穂と久慈の投げ合い。久慈はいうまでもなく、瑞穂も大連移籍で本来の実力を開花させつつあり投手戦が予想される。果たして、初回は両者とも三者凡退。しかし2回表、パウロが外角低めのストリートをレフトスタンド上段に持っていく特大ホームランをかつ飛ばした。久慈のストレートはよく切れており、これは滅多なことでは打てないぞと思わせた直後の一発だった。パウロの規格外のパワーで大連先制。

一巡目は瑞穂に抑えられた新京打線だが、4回から本領発揮。一死後、武沼がショート内野安打で出塁。三塁よりの痛烈な打球を柵橋はよく追いついたが武沼の俊足が一步勝った。英は3球目にバスターエンドランを仕掛け、これが見事に三遊間を抜くヒットでランナー一二塁。劉照凱ライトフライで武沼は三塁へ。七沢が2・2から瑞穂が投じたスライダーをレフトライン際に落として同点に追いつく。

5回裏には先頭打者のボンズがレフトスタンドに突き刺さるホームランで逆転。フィールディングや強肩といった守備能力に注目が集まる機会が多いこの黒人選手ではあるが、緻密なトレーニングで鍛え抜かれた肉体は抜群のパワーを誇る。打たれた瑞穂のストリートのコースは悪くなかったが腕力で持っていた形だ。パウロにするボンズにしる、外国人選手特有の爆発的なパワーは常に脅威である。

久慈は7回を被安打数5の1失点で降板。8回からは逃げ切りの継投策で鈴木芳博を繰り出したが結果的にはこれが裏目に出た。先頭打者瑞穂の代打立石は粘って四球を選び、代走に大上徳博が入る。星渡の送りバントとノーリーのファーストゴロで大上はそれぞれ進

塁してツーアウト三塁。バッター棚橋が2 - 2からの5球目となるチェンジアップをセンター前に落として大上生還。同点に追いつく。最終回は大連は比山、新京は畑と両チームの抑えの切り札を投入し、ともに3人で終了。今季は日本列島の災害の影響からリーグ全体で延長戦を実施しないと決定したため、畑が近堂をセカンドフライに抑えたところでゲームセットとなった。

なかなか見ごたえのある戦いとなったが最後は引き分けに終わった。延長戦廃止の影響で今季は引き分けが多くなる。延長12回までであった去年までとはまた違った戦いになってくるだろう。ルール変更により早く対応して、現行のルールの中でいかに良い成績を残すかもチームの実力だ。スキージャンプなんかはコロコロと変更してる印象があるが本当にお疲れ様というか何というか。日本勢が復活する日は来るのだろうか、と関係ない話はここまでにしよう。

#### その他の試合結果

4勝3敗	ハルビン	9 - 3	光州	1勝6敗
3勝4敗	チチハル	0 - 1	奉天	4勝3敗
1勝6敗	平壤	5 - 7	開城	4勝3敗

## 熱戦のプレリユード（後書き）

なお試合時間がどうとかいう話は一切考慮しない模様。

完敗も光あり

「ホーム」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 七沢

6 バジーノ

5 ボンズ

4 呉高波

1 際田

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (2 - 1)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (3 - 0)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (2 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 張尊 (2 - 0) - 松浦 (1 - 0)

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 張尊 (5)

- 松浦 (3) 4勝3敗1分

新 2 0 0 0 2 0 0 0 - 4 際田 6勝

1 敗1分

火の玉のようなストレートを武器にエースとして君臨していたが、ここ数年は怪我に泣かされてきた新京の際田投手。今季の復活にかける気迫にあふれた完封劇だった。初回はコントロールが定まらず、星渡とノーリーにフォアボールを与えたが柵橋を三振。続く林にライト前に運ばれたが劉照凱の好返球で間一髪星渡を殺した。このプレーでようやくエンジン全開となったか、続くパウロをストレート主体で押しまくり、最後はピッチャーフライに仕留めた。爆発的なパワーを持つパウロを力で押さえ込むほどストレートに威力が戻ってきた。

際田を援護したい新京は直後の一回裏、先頭の矢野元が四球を選び出塁。武沼が送りランナー二進。英はセンターフライに倒れたものの、先ほど強肩を披露した劉照凱が外角に逃げるスライダーを捕らえ、レフトスタンドに放り込んだ。先制の2ランホームラン。守備で乗った勢いを打撃にも持ってきた形となった。

それから4回までは張は老獪な技術で、際田はパワーでそれぞれ無失点に抑えたが5回裏、際田がバットでも魅せた。一死後に登場した際田は三塁線を抜く痛烈なゴロを放ち二塁打に。続く矢野元の右中間に落ちるヒットで際田ホームイン。3点差に突き放す。続く武沼はボテボテのサイドゴロだったがパウロが一塁に悪送球でワンアウト二三塁に。英のレフト犠牲フライで0-4となった。

際田の力強いピッチングは最終回まで衰えず、11奪三振を手土産に3年ぶりの完封勝利を成し遂げた。ヒーローインタビューではその瞳に光るものが浮かんだ。陽気な性格で知られる際田だが実際は繊細で、怪我の苦しみゆえに精神的に荒れた時期もあったという。しかしそれもこの日の完封劇でひとつ報われた。大連の今日の収穫は3回を投げて被安打1無失点の松浦。ある程度長いイニングでも安定した投球を披露しており、先発として試しても面白いのではな

いか。ドラフト指名時は素材型といわれたがなかなかコントロールがまとまっており、スライダーやチェンジアップといった変化球の精度も良い。肉体が完成すればストレートはまだまだ伸びそうで楽しみな逸材だ。

#### その他の試合結果

4勝4敗	ハルビン	1 - 6	光州	2勝6敗
4勝4敗	チチハル	3 - 2	奉天	4勝4敗
2勝6敗	平壤	8 - 5	開城	4勝4敗

逆転 炎となつて

「ホーム」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 七沢

6 バジーノ

5 ボンズ

4 呉高波

1 張良吉

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

7 ノーリー (3 - 1) - 5

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (2 - 0)

5 パウロ (4 - 2)

3 柳中平 (3 - 1) - 大上 - 7 高遼二

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (3 - 0) - 古池 (1 - 0) - 金重男

1 フローデセン (3 - 0) - 平野 - 野藤 - 河剛紀 (1 - 1) - 比山

大 1 0 0 0 0 0 0 0 2 3 フローデセン

(6 2 / 3) - 平野 (1 / 3) - 野藤 (1) - S比山 (1)

5 勝 3 敗 1 分

新 0 0 0 0 0 0 2 0 0 2 張良吉 - 今井

- 朴圭大 - 鈴木芳 - 畑 6 勝 2 敗 1 分



新京との第3戦。未勝利のまま終われない大連は新京先発張良吉の立ち上がりを攻め立てる。先頭の星渡がショートのを越すヒットで出塁。盗塁とノーリーの送りバントで三進。続く棚橋、林は連続四球でワンナウト満塁の大チャンスを迎える。しかし続くパウロの打席で二塁ランナーの棚橋が牽制死。直後の第3球でパウロはライト前タイムリーを放ち大連が先制点を挙げるも牽制死がなければ2点取れていた公算が高いためにもつたないミスだった。

そこからは試合終盤まで動きのない展開。フローデセンは今日も変化球が冴え、内野ゴロを量産していた。張良吉も落ち着いた投球術で攻撃をかわしていつて結局5回1失点で降板。後はブルペンに任せ、味方の逆転を待つ。

7回裏、フローデセンを新京打線が捕らえる。この回もテンポの良い投球で2アウトまで取ったが呉高波がセンター前ヒット。ここで投手朴圭大の代打には37歳のベテラン袁海鵬が告げられた。矢野元道哉の成長でここ2年は代打の切り札として起用されること多い選手だが、ここで真価を發揮。外角低めに小さく落ちる変化球を強引にレフト前に持っていた。袁の代走として石田平を投入。続く矢野元は外角の、やや高めに入ったボールを強振してセンターオーバーで走者一掃のタイムリー2ベースで逆転。続く武沼も三遊間を抜かれたが前身守備を敷いていたのでランナー矢野元は自重。ツーアウトから連打を浴びて次の打者は昨年の首位打者である英時之。ここで大連の劉瑞生監督はプロ初登板となる平野錦を繰り出した。平野は初登板なので緊張したかいきなり3球連続ボールスタートだったが4球目はストライク。そして5球目の内角をえぐるスクリーンを英は打ち上げて捕邪飛。ワンポイントとしての期待に応えた。

両チームのリリーフは安定した投球を見せ、このまま終わるかに思えたが、9回表、新京の抑えの切り札畑陽一を打ち崩した。先頭のパウロは三振に倒れるも続く柳中平がレフト線に流し打ちの2ベースヒット。代走に大上を起用。続く近堂はライト前にヒットも前進していた劉の強肩を警戒したランナー大上は自重して一三塁。ここで大連は代打攻勢をかけた。清水の代打古池はサードフライに倒れたが、ピッチャー野藤の代打河剛紀が2-1から投じられたスライダーをレフト前に叩きつけて同点に追いつく。続く星渡の3球目のフォークがワイルドピッチとなりランナーそれぞれ進塁。そして4球目のスライダーを引っ張ってライト前ヒット。これで近堂が生還して3-2と大連逆転。河もホームを狙ったが劉の強肩が勝利、クロスプレーの末アウトでチェンジ。

9回裏、大連は大上に代えて高遼二を入れてレフトに高、レフトのノーリーがサード、サードのパウロがファーストに入った。そして代打で登場した古池と河に代えてストツパーの比山とキャッチャーの金重男を投入。金はボンズを三振に切ったフォークを後逸して振り逃げの出塁を許してしまう。しかし不安な展開はそこまで。呉をセカンドフライ、畑の代打玄新光を三振、矢野元をショートゴロに打ち取って二塁フォースアウトで試合終了。新京との3連戦は1勝1敗1分とまったくの五分で終わった。

今日の殊勲者は7回に英を抑えた平野だと言っても過言ではないだろう。平野は緑ヶ原高校では松浦と左右のダブルエースとして君臨していた。しかしドラフト1位指名の松浦に対して平野は育成枠で入団。左投げのサイドスローという特徴はあるものの身長は低く球威も平凡。そこで昨年は体力強化とリリースポイントの見づらいフォームのマスターに力を注いだ。その甲斐あって今季の春季キャンプで支配下登録。オープン戦でも左打者にはかなりの強さを見せた。重圧のかかる場面での初登板だったが見事に仕事を果たした平

野。リリーフ陣にまた一人、頼もしき若武者が加わった。逆に新京は1戦目の鈴木芳博に続いて畑と経験豊富なベテランリリーフが相次いで炎上。リリーフ陣再編成の時期か。

その他の試合結果

4勝5敗	ハルビン	3 - 7	光州	3勝6敗
4勝5敗	チチハル	4 - 6	奉天	5勝4敗
2勝7敗	平壤	0 - 4	開城	5勝4敗

帰還　そして大勝

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 2)

7 ノーリー (4 - 2)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (3 - 0)

3 柳中平 (3 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 吉野 (4 - 1)

「ビジター」チチハル

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

1 金伸和

斉 0

1

1

0

0

0

0

0

0

0

0

2

金伸和 -

国松 - 渡辺

4勝6敗

大 3

3

0

4

0

0

0

1

-

1

1

吉野 (9)

6勝3敗1分

1週間ぶりに本拠地に帰還した大連は今日からチチハルを迎えての3連戦と平壤を迎えての3連戦が予定されている。チチハルは最下位常連の暗黒チームだったが名将高鉄龍監督の指導の下で力をつけてきた。しかし今日のチチハルの出来は最悪だった。

初回の大連の攻撃、先頭の星渡は平凡なサードゴロだったが丸木の送球を星野が落球して星渡出塁。星野にエラーが記録された。続くノーリーの送りバントで星渡二進。棚橋はストライクを2球続けながら3球目はデッドボール。林は初球打ちでレフト前タイムリーを決めて大連先制。パウロは四球でワンナウト満塁から柳のセンター前タイムリーヒットで2点追加。1回終了時点で早くも3点差だが、これはほんの序章に過ぎなかった。

2回裏、先頭のピッチャー吉野がレフト前ヒットで出塁。チチハル先発金伸和は明らかに球威不足でギリギリの投球。このような状態で抑えられるわけもなく星渡、ノーリー、棚橋に連続安打を浴びこの回も2失点。ノーアウト一三塁で国松元史と交代した。国松は林に犠牲フライを打たれて1失点したもののパウロをレフトフライ、柳をショートゴロに抑えて大連の攻撃を終了させた。

チチハル攻撃陣は2回にカーセロのホームラン、3回には二死から万城原がレフトオーバーの2ベースを放つ。丸木四球を挟んで吉住のライト前ヒットで1点ずつ返した。しかし4回裏にまたしてもミスから決定的な失点を許してしまう。

4回裏の一死後、ノーリーがセンター前ヒットで出塁。棚橋はスライダーを引つ掛けてセカンドゴロでダブルプレーかと思いきや楚明英の二塁への送球が高くそれてしまいセーフ。続く林は内角へのストリートを引つ張って一塁線を破るタイムリーヒット。続くパウロに対する4球目、カウント1-2からのフォークボールが暴投と

なり柵橋がホームに帰還して8点目。パウロをサードフライに打ち取ってツーアウトランナー二塁としたが柳と近堂に連続四球で満塁として清水にセンター前タイムリーヒットで2点追加。結局この回は4点入り、10対2となる。

それ以降はかなり淡泊な試合展開となった。大連は8回に、5回から登板していた渡辺清輝から柵橋が今季初のホームランをライトスタンドに叩き込んで11対2とした。吉野は安定した投球で5安打2四球2失点の完投勝利。

序盤にエラーが失点に結びついて大差がついてしまった。投手陣も集中力が切れたような四死球連発からタイムリーを浴びる残念な出来。チチハルを率いる高監督は就任直後からチームのぬるま湯体質の排除に取り組んだ。その成果は多少は現れつつあるのだがまだまだ未完成なのでこのような試合を披露してしまった。もっとも先発投手が吉野と金伸和の時点である程度は見えていた勝敗ではある。チチハルの浮上には選手の意識のみならず質の改善も重要になってくる。

#### その他の試合結果

3勝7敗	光州	1 - 5	奉天	6勝4敗		
2勝7敗	1分	平壤	3 - 3	ハルビン	4勝5敗	1分
5勝5敗	開城	3 - 4	新京	7勝2敗	1分	



前日の惨敗を受けてチチハルの高鉄龍監督はスタメンをいじってきた。4打数無安打の上エラーを犯した楚明英をスタメンから外し、30歳の本田正行を起用した。先発は高卒2年目の薮花忠光。勢いのあるフォームから放たれるストリートと抜群のマウンド度胸が持ち味の投手だ。大連は新人の赤坂忠徳。前回のプロ初登板では屈辱を味わった赤坂だが、今日は緊張もほぐれたか状態は明らかに良化していた。

先制はチチハル。2回、先頭の星野が四球で出塁するとすかさず盗塁を決めてランナー二塁となった。カーセロはショートフライも、和泉が強烈なライナー性の打球をセンター前に飛ばして星野が生還。4回には吉住がレフトポール際にホームランを放って点差を2点とする。しかし赤坂の失投はこの程度で、全体的にはストリートがよく伸びており、決め球のフォークを有効に活用していた。対するチチハルの先発薮花は、毎回のようランナーを出すものの持ち前の度胸を発揮して5回までは無失点に抑えていた。

6回裏、先頭の林のライト前ヒットとパウロ四球でノーアウトランナー一二塁。柳は薮花の左打者の内角をえぐるようなストリートに押されてファーストフライに倒れたが、近堂が内角をつくシュートをレフトスタンドに叩き込んで逆転のスリーランホームラン。ここ2年の近堂は確実性を求めるあまり窮屈そうなプレースタイルとなり、かえってミスを犯す事が多かったが、今季ここまでのプレーを見た限りようやく吹っ切れたようだ。

赤坂は7回を2失点で降板。後は小松原、比山の必勝リレーがしつかり0に抑えてチチハルに連勝。赤坂はプロ初勝利。今日のようなピッチングを1年間続けることが出来れば間違いない2桁勝利を狙える、というほど快心の出来だった。本日は新京が敗れたため、大連が同率首位に復帰した。赤坂、松浦、平野、棚橋と若い戦力が



次々に躍動している。この流れは一時の勢いなのか実力なのか。実力だとすれば今後が楽しみだ。

その他の試合結果

3勝8敗 光州 5 - 6 奉天 7勝4敗

2勝8敗1分 平壤 1 - 9 ハルビン 5勝5敗1分

6勝5敗 開城 6 - 2 新京 7勝3敗1分

## シーソーゲーム 3連勝を狙え

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 3)

7 ノーリー (4 - 1)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (5 - 3)

5 パウロ (5 - 2)

3 柳中平 (3 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 1) - 古池 (1 - 0) - 金重男

1 趙雅憲 (2 - 0) - 立石 (0 - 0) - 野藤 - 小松原 - 松浦 - 森茂

(0 - 0) - 比山

「ビジター」チチハル

6 万城原

5 丸木

8 和泉

3 星野

7 カーセロ

9 倉田

4 本田

2 李秀一

1 ? 尚記

斉 1 0 0 1 0 0 3 0 5 ? 尚記 - 片岡

- 通 - 高麗 4勝7敗1分

大 1 0 1 0 0 1 1 0 5 趙雅憲 (6)

- 野藤 (1) - 小松原 (2 / 3) - 松浦 (1 / 3) - 齋場 (1)

7勝3敗2分

本日、チチハルはメルビン・ウィリアムス投手（30）の獲得を発表した。198cmの長身から威力のあるストリートとスライダ―、チエンジアップが武器の右腕で先発要員として期待しているという。先発要員を獲得したという事は今の先発ローテーションの中から誰かが外れるという事。サバイバルを制するには数字を上げるしかない。そうした観点で見ると今日のチチハルの先発？尚記は及第点だったと言える。

大連は投手以外開幕から不変のスタメン。一方チチハルは前日の試合で途中交代した吉住が大事を取って欠場。3番に和泉康之を置いて6番ライトに倉田慎矢を起用した。また、前日は無安打ながらも守備を無難にこなした本田は継続起用。

1回、チチハルの先頭打者万城原が趙の3球目をライトスタンド前列に叩き込む先制の先頭打者ホームラン。しかしその裏、大連も星渡が先頭打者ホームランを放つという派手な展開で試合開始となる。大連はその後も棚橋、林の連打でチャンスを作るもパウロがシヨートゴロダブルプレーに終わり逆転はならず。

3回裏、大連は一死後ノーリーが四球を選び出塁。棚橋のサードゴロでランナー入れ替わり。ここで林が3球連続ファールなど粘った末に9球目を捕らえた。後一步でホームランの大飛球は惜しくもライトフェンス直撃だったが逆転の2ベースとなった。しかしその直後、チチハルの主砲星野が右中間にホームランで同点。趙はどうも打球が良く飛ぶ。ボールは全28球団統一されているのでやはり本人の球質が問題か。

6回裏、明らかに球威が落ちた？がヒット、四球、四球でノーア

ウト満塁の状況を作り出したところで降板。5回まではなかなか安定していたが、これも加齢ゆえか。リリーフで登板の片岡は清水を三振に打ち取ったが、趙の代打立石がレフトへの犠牲フライを打ち上げて3対2と再び突き放す。7回裏にはパウロのタイムリーヒットも飛び出して4対2とする。

7回より大連は野藤 小松原と継投策に出た。しかし8回に小松原がチチハル打線に捕まった。この回のチチハルは先頭が守備型捕手の李秀一、次打者は投手の片岡なので代打攻勢を仕掛けた。まず李の代打張万がストレートを引つ張ってライト前に落とされた。続いて登場したのは本日大事を取ってスタメンから外れていた吉住竜兵。吉住は期待に堪えてレフト線を破る2ベースで二三塁と絶好のチャンスを作った。吉住の代走で楚が登場。トップに戻って万城原はセカンドゴロでランナー動けず。丸木はセンターへの犠牲フライで1点差に迫ると、本日自身初の三番に入った和泉が左中間真つ二つのタイムリー2ベースで同点。こうなると勢いは俄然チチハルだ。四番星野にもタイムリーが出てこの回3点、5対4と逆転に成功する。チチハルは通、高麗のダブルストッパーを繰り出した。しかしまだ試合は終わらなかった。

8回裏、近堂三振、清水の代打古池ショートフライであっさり2アウトとなったが、ピッチャー松浦の代打森茂が死球で出塁。森茂は昨年二塁手を守る機会がチーム最多だったが今季は近堂にポジションを奪われ、ここまで控えに甘んじている。とりあえず出塁には成功した。トップに戻って星渡がライト前ヒットを放ったが、ここで森茂が三塁を狙う。暴走気味だったがライト倉田の送球は右にずれて暴投となり森茂はそのまま生還で同点。星渡は二塁に進み一打出れば逆転だったがノーリーはセンターフライに終わり、9回も動きなく5対5の同点のまま試合終了。

両チームに優勢な流れは来たが結局は痛み分けに終わった。通算では大連が2勝1分と勝ち越しに成功。本日も新京が破れたので単独首位に立った。チチハルはミスで与えた失点も多く、まだチームの完成度は道半ばといった印象。大連は次もホームで平壤と対戦する。

#### その他の試合結果

3勝8敗1分	光州	4 - 4	奉天	7勝4敗1分
2勝9敗1分	平壤	0 - 3	ハルビン	6勝5敗1分
7勝5敗	開城	2 - 0	新京	7勝4敗1分

## 傷ついた王の反撃

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 0)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 瑞穂 (3 - 1) - 平野 - 黄直哉

「ビジター」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 カストロ

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 呉拓哉

平	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	呉拓哉	3
勝9敗1分													
大	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	瑞穂 (8)	
0 / 3	-	平野 (2 / 3)	-	黄直哉 (1 / 3)						7	勝4敗2分		

ここまで7勝3敗1分で首位と好調な大連と2勝9敗1分で最下位に低迷する平壤。しかも大連ホームとあつては大連が優勢と見られていたのも必定。しかし平壤のエース呉拓哉が意地を見せた。

平壤はここまで打率1割台でホームラン0のカストロクの打順を下げて昨年後半主に4番を担った趙民陽をその位置に据えた。2回表、早速その趙がセンター前ヒットを放ったが、カストロクが4球目のボール球に手を出してセカンドゴロダブルプレーとなった。38歳のカストロクはパワーに加えて選球眼も明らかに衰えており今季で見納めとなりそう。

4回に平壤が先制。先頭の小谷が四球で出塁すると盗塁と犠打で三塁まで進んだ。3番小谷はサードゴロに打ち取ったが、趙が速球に逆らわない、うまいバッティングでレフト線に先制タイムリーを放った。中距離砲タイプの趙だがバットコントロールのうまさには定評があり、それが遺憾なく発揮された。5回には7番の幕内裕正がレフト観客席前列にホームランを放った。守備と強肩で知られる29歳が打撃でも仕事をした。

大連の反撃は6回、ピッチャーの瑞穂自らがレフト前ヒットで出塁。トップに戻って星渡がライト線に2ベースヒットを放ちノーアウト二三塁とチャンスを広げると続くノーリーの打球はショートゴロ。併殺崩れの間瑞穂ホームインで1点差とした。しかしそれ以降は呉に体よく抑えられた。

9回表に平壤は先頭の小谷、鳥内の連続ヒットでチャンスを作った。ここで瑞穂降板。志田、趙と左打者が続くところで平野を投入した。平野は志田をファーストフライ、趙を三振に打ち取って見事に仕事を果たした。カストロクに交代して7回裏の守備から登場していた右打者の鈴木勇氣には右サイドスローの黄直哉を投入した。黄

は鈴木をショートゴロに打ち取って最終回の反撃に託したが、呉はそれまで同様の安定感抜群なピッチングを披露して三者凡退でゲームセツト。最後のバッターとなった柳中平をショートゴロに仕留めた瞬間スタジアムからため息が漏れた。不調にあえいでいた平壤が実力を見せて勢いに乗った大連を破った。

呉は持ち前のコントロールに加えて今日はカーブがよく切れていた。今日は呉を褒めるしかないだろう。また、4番に入った趙民陽が先制のタイムリーを放つなど今後の巻き返しを予感させる試合だった。瑞穂も悪くなかったが及ばなかった。

#### その他の試合結果

5勝7敗1分	チチハル	3 - 1	新京	7勝5敗1分
8勝5敗	開城	6 - 4	光州	3勝9敗1分
6勝6敗1分	ハルビン	3 - 4	奉天	8勝4敗1分



回りはじめた両輪

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 ノーリー (4 - 1)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 0)

3 柳中平 (3 - 0)

4 近堂 (3 - 1)

2 清水 (3 - 0)

1 張尊 (1 - 0) - 折口 (1 - 0) - 石風呂 - 森茂 (1 - 0) - 斎場

「ビジター」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 カストロ

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 松宮

平	1	0	0	0	0	0	0	3	松宮	4勝
9敗1分										
大	0	0	0	0	0	0	0	0	張尊	(6)
- 石風呂 (2)										
- 斎場 (1)										
7勝5敗2分										

連勝を狙う平壤の先発は呉拓哉とダブルエースを形成している松宮春日。大連はベテランの張尊を繰り出して迎え撃つ。しかし昨日のエース対決を制した勢いか、今日も先制は平壤。初回、2球でツアウトを取った張尊だが、3番の志田憲一がこれまた初球のスライダーを打ちセンターバックスクリーンに叩き込んだ。不意打ちのような一撃が決まった。

張はそれ以降ランナーを出しながらも要所を押さえるピッチングで無失点のまま来ていたが、球威が落ち始めた6回に再び平壤の打撃陣が牙をむいた。一死後、先制のホームランを放った志田が三遊間を抜けようかという強いゴロを打ち、大連のシヨート柵橋はよく追いついたものの一塁送球は間に合わず内野安打となった。続いて本日も4番に座る趙民陽がセンター前ヒットでランナー一二塁。チャンスで5番のカストロだが、3球目のスライダーを空振りした際に足首をひねって負傷退場してしまった。代打としてカウント2-1から打席に立った鈴木勇氣は初球から積極的にスイングして、4球ファールを続けた後に投じられた低めのやや真ん中に入ったスライダーを強振。レフトノーリーの上を越えてフェンス直撃のタイムリー2ベースで一気に2点追加。今日の松宮にはそれで十分だった。

今日とはとにかく松宮だ。プロ入りしてから今までで最高のピッチングで大連を4安打2四球9奪三振で完封勝利。定評のあるストリートに加えて、新たに覚えたカットボールが有効に機能していた。ストリートは凄いが一本調子で打ちこむのはたやすいという風評は過去のものになりつつある。春季キャンプでは積極的な投げ込みを敢行するなどエースとしての自覚が芽生えてきつつある松宮だが、常に今日のようなピッチングを続けられればおのずと結果はついてくるだろう。4位に転落した大連はこの2試合で得点がわずか1と打撃陣が抑えられている。本拠地で3連敗だけは避けたいだけに奮起に期待したい。

その他の試合結果

5勝8敗1分	チチハル	4 - 9	新京	8勝5敗1分
8勝5敗1分	開城	7 - 7	光州	3勝9敗2分
7勝6敗1分	ハルビン	2 - 1	奉天	8勝5敗1分

大逆転 負けてたまるか

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 ノーリー (3 - 1) - 大上

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 2)

3 柳中平 (4 - 0)

4 近堂 (4 - 1)

2 清水 2 - 1)

1 フローデセン (2 - 1) - 黄直哉 - 立石 (1 - 0) - 野藤 - 比山

「ビジター」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 鈴木

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 マーフィー

平 0 0 1 0 0 1 0 0 0 0 2 マーフィー -

大河内 - サーデー - 近藤 4勝10敗1分

大 0 0 1 0 0 0 0 3 - 4 フローデセン

(6 2 / 3) - 黄直哉 (1 / 3) - 野藤 (1) - S比山 (1)

8勝5敗2分

最下位に沈んでいた平壤に本拠地でまさかの連敗。3タテの屈辱だけは避けたい大連はフローデセンが先発。平壤は3年目のリッキーマーフィーを先発と、外国人対決となった。また、昨日の試合で負傷退場したカストロは登録抹消され、5番サードには鈴木勇気が入った。

先制点はまたも平壤。3回表、先頭の幕内がレフト前ヒット。仲里はきつちり送ってランナーは二塁へ。マーフィーは三振に切ったがトップに戻って小谷駿馬がカウント2-1から3球目のカットボールを叩いてライト線へのタイムリー2ベースとした。

大連もその裏にすぐさま反撃。先頭の清水が四球で出塁すると投手のフローデセンがライト前に弾き返すヒット。フローデセンはかなり強い打球を飛ばすことが出来るので9番目の打者としても面白い存在だ。トップに戻って星渡がセンター後方に大きなフライを打ち上げ、同点の犠牲フライとした。

6回表、平壤は先頭の鳥内がレフトへの2ベースでチャンスを作ると、志田のライトフライでランナー三進。4番の趙はサードゴロに打ち取ったが今日5番に入った元氣者の鈴木勇氣に5球目のチェンジアップをライト前に打ち返され、逆転のタイムリーを浴びる。長らく4番サードとして君臨していたカストロの登録抹消というチャンスをもにしようとして張り切っている鈴木がここで結果を残したのは本人にとっても平壤の金監督にとっても喜ばしい事だろう。フローデセンは次の7回にツーアウト一三塁のピンチを作ったところで降板。代わった黄直哉は鳥内をセカンドフライに打ち取って追加失点を逃れた。

平壤はここから継投策で逃げ切りを図る。しかし8回に大連の意

地が炸裂した。平壤のマウンドにはこの回からサードイヤーが立っていたが、ややコントロールに難があり先頭のノーリーにストレートの四球を与える。ここが勝負所と見た劉監督は代走に大上を投入。大上は期待通り2球目に盗塁を成功させてチャンスを広げた。柵橋のセカンドゴロの間に三塁まで進むと4番林はストレートを完璧に打ち返したセンターオーバーのタイムリー2ベースで同点に追いついた。ここでサードイヤーは降板し、21歳の近藤健輔が登板。しかし流れを止めることはできず。パウロは2球で追い込まれるも4球目のフォークがすっぽ抜けた高めの球を捕らえ、センターバックスクリーンに逆転の2ランホームランをぶち込んだ。その飛距離は実に136mで、打った瞬間にそれと分かる完璧な当たりだった。9回は比山で安泰。3人できっちり試合終了まで持っていた。ここまで無失点のピッチングを続けている野藤が2勝目を上げた。

大連は最後の最後で打撃陣が躍動して勝利を手にした。しかし平壤は強かった。特に呉、松宮の両エースが見事なピッチングを見せて大連打線を寄せ付けなかった。打撃も趙や志田といった主力の状態が上がってきた。カストロは退場したものの代役の鈴木は攻守にガッツあふれるプレーを見せており面白そう。開幕ダッシュに失敗したが巻き返す力を持っていると証明する3連戦だったといえるだろう。

#### その他の試合結果

5勝9敗1分	チチハル	2 - 8	新京	9勝5敗1分
8勝6敗1分	開城	2 - 4	光州	4勝9敗2分
8勝6敗1分	ハルビン	5 - 1	奉天	8勝6敗1分

劉監督ついに動く

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

8 篠原

2 田坂

6 井沢

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 林正幹

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 ノーリー (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 0)

5 パウ口 (4 - 0)

3 柳中平 (4 - 0)

4 森茂 (4 - 2)

2 清水 (2 - 0)

1 吉野 (1 - 0) - 近堂 (0 - 0) - 野藤 - 小松原 - 折口 (1 - 0)

- 比山

大 0 0 3 0 0 0 2 0 0 5 吉野 (6)

- 野藤 (1) - 小松原 (1) - S比山 (1) 9 勝 5 敗 2 分

哈 0 0 0 0 0 3 0 0 0 3 林正幹 - 藤

崎 - 鈴木真 8 勝 7 敗 1 分

ハルビンの先発は林正幹と予想した大連劉監督は昨年林正幹に対して6打数5安打と得意にしていた森茂常弘を7番セカンドに起用。開幕からまったく変わらなかったオーダーがついに動いた。その森茂は期待に応え、勝利を呼び込む働きを見せた。

3回、先頭の森茂が林正幹の初球のストレートを早速センター前に弾き返した。清水四球で一二塁となり、吉野の送りバントを林正幹は三塁に送球したが森茂の足が勝りフィールドースチョイスとなつてノーアウト満塁と先制のチャンスが訪れた。トuppに戻つて星渡は浅いライトフライでランナー動けず。続くノーリーに対する3球目、カーブがすっぱ抜けた球がデッドボールとなり押し出して1点先制。続く棚橋はライトへ2点タイムリーを放ち3対0とした。

大連先発の吉野は今日も安定したピッチングを見せた。しかし6回、先頭のボルトがセカンドにボテボテのゴロを打つたが驚異的な俊足で内野安打をもぎ取る。盗塁と鈴木壮介の送りバントで三塁まで進むと、篠原がレフト前にタイムリーで1点。さらに4番キャッチャーの田坂実正がボール・ストライク・ボールから4球目となる外角へのスライダーをジャストミート。一瞬で打球はレフトスタンドに消えていった。これで3対3の同点。勢いに乗つたハルビン打線はさらに井沢、ロバーツが連続ヒットで一気に逆転のチャンスを作つたが吉野が踏ん張つて追加点を許さなかつた。これが勝負の分かれ目となつた。

4回以降三者凡退を続けていた林正幹だが、7回には先頭の森茂にライト前ヒットを浴びて出塁を許してしまう。清水は送つてランナー二塁。吉野の代打には本日スタメンを外れた近堂が送られた。近堂は4球連続ファールなど粘つた末にフォアボールを選んだ。トuppに戻つて星渡はかなり大きなライトフライを打ち上げ、鈴木壮



介は追いついたがタッチアップで森茂は三進。続くノーリーは内角のストリートを強く振りぬき、サード南吉展の頭上を抜くタイムリ―2ベースで5対3と突き放す。後は大連お得意の継投策で逃げ切った。9回はハルビンの代打攻勢が当たり、2アウト二三塁のピンチとなったがボルトをショートフライに打ち取ってゲームセット。前年3位のハルビン相手に勝利を手にした。4安打ながら5得点という効率の良さが光った。

スタメンに起用された森茂の活躍が光った。林正幹から2安打を放ち、しかもどちらも得点を記録した。よほど相性がいいのだろう。そしてそれを見極めた起用を見せた劉監督の手腕も見事。ハルビンはほとんどの回を三者凡退に抑えながら出塁させた回はすべて失点を喫してしまった。途中同点に追いついたまでは良かったのだが。

#### その他の試合結果

9勝5敗2分 新京 1 - 1 光州 4勝9敗3分

5勝10敗1分 平壤 2 - 1 奉天 8勝7敗1分

9勝6敗1分 開城 1 2 - 7 千手ハル 5勝10敗1分

## 劉監督ついに動く(後書き)

昨日と今日で自軍選手の成績も載せてみました。それに乗じて過去試合のスコアの誤記や文章の一部を修正。

水に慣れつつある赤坂

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

8 篠原

2 田坂

6 井沢

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 ノリツジ

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 ノーリー (4 - 1)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (2 - 1)

5 パウ口 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

4 森茂 (2 - 0) - 近堂 (2 - 1)

2 清水 (4 - 3)

1 赤坂 (4 - 0) - 平野 - 比山

大	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	赤坂 (7
1 / 3)	- 平野 (2 / 3)	- S 比山 (1)				1	0	勝5	敗2	分		
哈	0	0	0	0	0	2	0				2	ノリツジ -
横浦 - 張秀君 - 鈴木真	8	勝8	敗1	分								

大連の先発は3試合目の登板となるルーキー赤坂だが、どうやら完全にプロに慣れたようだ。今日も力強いストレートを軸に安定した投球で2勝目を上げた。

初回、制球の定まらないハルビン先発ノリツジを攻める。先頭の星渡とノーリーが連続四球でいきなり先制のチャンス。柵橋は送りバントでランナーそれぞれ進塁すると、4番林がライトへ犠牲フライを打ち上げて星渡生還。続いてパウロが三塁線を破る痛烈なタイムリーヒットで2点目。柳中平もレフト前に落としてチャンスを広げたが、前日の活躍が認められて引き続きスタメンに起用された森茂は三振でこの回はここまで。

赤坂は初回、先頭打者のボルトにレフト前ヒットを浴びるも動じず、鈴木をサードゴロ、篠原を三振、田坂をセンターフライに打ち取る上々の立ち上がり。4回にはヒットで出塁した篠原光良を牽制で刺すなど、冷静にハルビン打線を抑えていった。

大連の追加点は6回、先頭の柳が2ベース。森茂の代打近堂がショートとレフトの間に落ちるポテンヒットで続く。そして清水は前身守備をしていたセンター篠原の頭上を越えるタイムリー2ベースを決めて4対0に。5回には井沢の盗塁を刺した事で気が良くなつたか、定評があるとは言えない打撃でもいいところを見せて正妻が赤坂を強力援護。8回にもレフト前にヒットを打って今日3安打の猛打賞となった。

赤坂はそれからテンポよく抑えて完封も見えてきた8回、疲労が意識しすぎたかコントロールがやや不安定になった。一死後、郭当午に四球。郭の代走金四南は初球から盗塁成功で赤坂を揺さぶる。そしてハルビンの代打の切り札原田三希がレフト前にタイムリーヒットを打って1点返される。トップに戻ってボルトはセーフティ

バント、鈴木壮介の代打助川拓男にタイムリーヒットを打たれた所で降板。完投は次回以降におあずけとなった。交代して入った左殺しの平野は篠原をセカンドゴロダブルプレーに抑えて見事に反撃の火を消した。9回は比山が、今日は3人で抑えてハルビンに連勝した。

赤坂はナンバー1ルーキーの評判に偽りなしという投球を見せた。とにかく肝が据わっている。平野も自分の仕事を着実にこなして自信をつけてきている。ハルビンは貯金0になってしまった。追撃しきれない淡白さが気にかかる。

#### その他の試合結果

10勝5敗2分	新京	6 - 0	光州	4勝10敗3分
5勝11敗1分	平壤	2 - 5	奉天	9勝7敗1分
9勝7敗1分	開城	1 - 3	千手八ル	6勝10敗1分

普蘭店への片道切符

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

8 篠原

2 田坂

6 井沢

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 立石

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

7 ノーリー (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウ口 (4 - 2)

3 柳中平 (3 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 趙雅憲 - 松浦 (2 - 1) - 古池 (1 - 0) - 齋場 - 森茂 (1 - 0)

大 0 0 0 1 0 1 0 0 0 0 2 趙雅憲 (1

/ 3) - 松浦 (5 2 / 3) - 齋場 (2) 1 0 勝 6 敗 2 分

哈 7 0 0 0 1 0 0 1 - 9 立石 9 勝

8 敗 1 分

ハルビンに連勝した大連。3連勝を狙って次節の奉天戦に弾みをつけたかったが、すべての希望は1回で霧散した。

1回裏、ハルビンのトップバッターボルトがレフト前ヒットで出塁すると、牽制をかくぐり盗塁成功。鈴木壮介のファーストゴロでボルトは三塁へ進むと、篠原がライト前に先制のタイムリーヒット。これを皮切りにハルビン打線が爆発。田坂レフトフェンス直撃のタイムリー2ベース、井沢四球、ロバーツー塁線を破る2点タイムリーヒット、南吉展ライト前タイムリーヒット、郭当午四球、拳句の果てにピッチャー立石駿大にも右中間を破る2点タイムリーヒットを許してしまう。趙はわずかアウト1つしか取れずにノックアウト。続いて登板した松浦がボルトをショートゴロ、鈴木壮介をサードフライに打ち取ってようやくハルビンの攻撃が終了する。その間の失点は7と傷はあまりにも深かった。

ハルビン先発の立石は序盤の大量得点で気楽に投げることが出来た。毎回のようにヒットを浴びるもよく後続を絶ち、失点は4回に近堂に浴びたタイムリーと6回の林に打たれたソロホームランの2点に抑えて自身初となる完投勝利。4回にノーリーの強烈なファーストライナーを郭当午が好捕してダブルプレーに仕留めるなどバツクの堅守にも助けられた。

とにかく初回、先発趙雅憲の背信投球に尽きる。一体どうしたと  
いうのか。今季の趙はまるで安定感が感じられない投球しかなかった。試合後、趙と代打でここまで期待に応えられなかった古池吉郎の二軍降格が決定し、二軍の本拠地がある普蘭店へ向かった。普蘭店でもう一度自分のピッチングを見つめなおしてほしい。趙に代わって先発ローテーションに入るのは今日5回と2/3を5回に井沢のソロホームランを打たれた1失点のみに抑えた松浦だろう。7回から登板した斎場は8回に四球でランナーをためてボルトにライ

ト前タイムリーを浴びたがもはや大勢に影響なし。石風呂とともに敗戦処理を淡々とこなしてくれればよい。

二軍の話が出たついでに二軍の構造について。二軍は地域ごとの独立リーグに参戦しているような状況で、例えば大連は安東、奉天とともに遼寧リーグに参加している。遼寧リーグには營口、鞍山、撫順などNPB28球団の二軍とは一切関係がないチームも各地に存在している。その内実は将来のNPB加盟を目指す球団、地域密着しながら堅実に経営を続ける球団、若手選手を育成してNPB球団に加入させるのが主目的の球団、軍人の福利厚生のための球団など様々である。

満洲のNPB球団で言うと、最初に誕生したのは大連と新京の2球団だった。その後奉天、吉林が加わった。ハルビン、チチハル、安東は地域リーグから昇格したチームである。台湾の2球団は元々NPBとは無関係の台湾リーグに所属していたものを加入させた。台湾が海洋リーグなら満洲は中央リーグのシマだ、と言わんばかりに積極的に球団を加えたので満洲は中央リーグ所属球団が多い。朝鮮半島の7球団は中央3海洋4で割と偏りが無い。

#### その他の試合結果

11勝5敗2分	新京	7-5	光州	4勝11敗3分
5勝12敗1分	平壤	0-9	奉天	10勝7敗1分
9勝7敗2分	開城	4-4	チチハル	6勝10敗2分



一瞬の崩壊 永遠の後悔

「ホーム」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

3 ベンソン

2 漢

4 佐藤

1 星村

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

7 ノーリー (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 0)

3 柳中平 (3 - 0)

4 近堂 (4 - 3)

2 清水 (3 - 0) - 水内 (1 - 1)

1 瑞穂 (2 - 0) - 折口 (1 - 0) - 王貞成 - 河剛紀 (1 - 0)

大 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 瑞穂 (6)

- 王貞成 (2) 1 0 勝 7 敗 2 分

奉 0 0 0 0 0 0 0 0 - 5 星村 1 1

勝 7 敗 1 分

前年首位の奉天を相手に大連はここまで3試合に登板していずれも好投した瑞穂智幸を先発に立てた。しかし今日は中盤に大崩れしてしまった。一方奉天の星村は安定感のあるピッチングを展開して経験の違いを見せ付けた。

5回までは両先発が安定したピッチングを見せて1点を争う投手戦を展開した。試合が動いたのは6回。先頭の横山がショート内野安打で出塁し、すかさず盗塁を成功させる。ローマンは12球粘った末にフォアボールを奪い取った。西崎がライト前ヒットを打ってノーアウト満塁となり打席には4番長谷川智明。ボール、ストライク、ファール、ボール、ファール、ファール、ボールでフルカウントとなった後の8球目の外角低めへのストレートの判定はボール。押し出しで奉天が先制点を挙げた。これで瑞穂の投球に狂いが生じた。続く間口浩司に三塁線を破られ2失点。これは内角真ん中よりの甘いストレートを叩かれたもので瑞穂ほどの制球力がある投手にしては珍しい、完全なる失投だった。ベンソンは抑えたものものいきなりボールを3球続ける危なっかしさ。漢隆太郎の犠牲フライと佐藤竜一のライト前タイムリーでこの回5失点と大崩れ。

大連は7回、柳中平が四球で出塁、近堂がレフト前ヒットでワンアウト一三塁のチャンスを作るが清水は三振、瑞穂の代打折口はセカンドゴロ二塁封殺で得点ならず。8回も先頭星渡がサードへのポテテノゴロを内野安打にしてノーリーが送り得点圏にランナーを進めたが棚橋センターフライ、林四球、パウロ三振でまたも0に終わる。9回一死後、近堂が猛打賞となる右中間への2ベースを打つと、清水の代打として本日登録された水内賢がライト前ヒットでどうにか1点を返すことに成功。しかしその直後に水内は牽制死でこの流れは終わり。最後は河剛紀三振でゲームセット。

長谷川に対する瑞穂の押し出し判定は微妙だったが、そこで切り

替えられずにズルズルと追加点を許したのはまずかった。星村はピッチを迎えても集中力を切らさず、完封直前で失点を喫しても冷静さを保ち続けた。そういった点を含めて両チームの経験や完成度の差が現れた初戦だったといえる。収穫としては、今季初登板の王貞成がなかなか力のあるストリートを放っていたので期待できそうだ。また、元気者の水内が怪我から復帰したことでベンチの雰囲気も良くなりそう。牽制死は迂闊だったが。まだ4月、シーズンは始まったばかりでいくらでも取り返せる。

#### その他の試合結果

4勝12敗3分	光州	0 - 2	開城	10勝7敗2分
9勝8敗2分	ハルビン	1 - 1	新京	11勝5敗3分
6勝12敗1分	平壤	2 - 0	チチハル	6勝11敗2分

レフトスタンドに消えた勝利

「ホーム」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

3 ベンソン

2 漢

4 佐藤

1 宇治

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 ノーリー (2 - 0)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウ口 (4 - 1)

3 柳中平 (3 - 1)

4 近堂 (4 - 0)

2 清水 (3 - 1)

1 張尊 (3 - 0) - 小松原 - 水内 (1 - 0) - 比山

大 2 0 1 0 1 0 0 0 0 4 張尊 (7) -

小松原 (1) - 比山 (1 / 3) 1 0 勝 8 敗 2 分

奉 0 0 0 0 1 0 0 1 3 5 宇治 - 小林 -

松本 - 片倉 1 2 勝 7 敗 1 分

奉天の先発宇治光介は初回いきなり8球連続ボールでランナー二塁と乱調。大連は柵橋の左中間へのタイムリーと林の犠牲フライであっさり先制点を奪った。その後も宇治はコントロールが安定せず。3回には一死後林、パウロ、柳中平に連打を浴びて1失点。5回には四球でためたランナーを清水のセンター前タイムリーで帰されて合計5回4失点だった。被安打4はともかく四死球7はいただけない。しかしリリーフで登板した小林大良、松本伊吹、片倉千比呂が好投し、それ以上の失点を許さなかった。結果としてはそれが終盤の展開に影響を及ぼした。

大連先発の張尊は実力を発揮して7回を間口のホームランによる1失点のみに抑える。8回からは小松原と比山を送り出すがこの2人がどうもピリツとしなかった。8回裏、まず登板した小松原は一死後にピッチャー松本の代打黄勇真にストレートを叩かれ左中間への2ベースでピンチを作るとトップの横山にタイムリーヒットを浴びて4対2となる。そして9回の比山はいきなり長谷川、間口に連打を浴びる。ベンソンは三振に打ち取ってアウトを1つ奪うが続く漢隆太郎との対決、ボール、ボール、ストライクのカウント2-1からの4球目に投じたストレートを完璧に捕えられた。ライナー性の打球は一直線にレフトスタンドに吸い込まれ、逆転サヨナラの3ランホームランとなった。終盤まで3点のリードがあったものを守りきれず痛恨の連敗を喫してしまった。

劇的な敗北。しかしリリーフは1年を通じてすべて完璧に抑えられるものではないのでこんな日も出てくる。比山の実績からすると今までこうならなかったのが不思議なくらいであるとも言える。今日の比山は去年までの弱気な投球が蘇ったかのようだった。しかし今日の敗戦を比山やリリーフ陣の責任とするだけで終わらせるのは良くない。打撃陣は今日の宇治からはもっと点を取らないといけなかったし、奉天のリリーフ陣に抑えられて追加点による援護ができ

なかったのも反省材料。張の年に何度も見られないような力の入った投球が報われなかったのは残念だが、問題点をしっかりと反省しながら気持ち切り替えて、明日の勝利に向かって突き進まなければならぬ。

#### その他の試合結果

4勝13敗3分	光州	3 - 7	開城	11勝7敗2分
9勝9敗2分	ハルビン	0 - 3	新京	12勝5敗3分
6勝13敗1分	平壤	4 - 6	千手ハル	7勝11敗2分

## 逆襲のアベックホームラン

「ホーム」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

3 ベンソン

2 漢

4 佐藤

1 サンタナ

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 0)

7 ノーリー (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 フローデセン (3 - 1) - 高遼二 (0 - 0) - 比山

大	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	フローデセ
ン (8)	-	S	比山 (1)	(1)	1	1	勝8	敗2	分		
奉	0	0	0	0	0	1	1	0	2	サンタナ	-
乙部 - 小林	1	2	勝8	敗1	分						

昨日は9回裏に逆転サヨナラホームランを打たれるという劇的な展開で勝利を逃した大連。何としても勝利して悪い流れを断ち切りたい。先発は大連がフローデセン、奉天はサントナと外国人同士の対決。前半は投手戦。サントナがパワフルなストリートで押しまくれば、フローデセンは多彩な変化球で打たせて取るという対照的な投球スタイルでスコアボードに0を並べた。

試合が動いたのは6回、一死後林が内角高めへのストリートに力負けせずに振りぬいた打球は観客席に飛び込む先制のソロホームラン。続くパウロも外角へのスライダーをパワーでレフトスタンド中段に叩き込んだ。ここまで2連敗、このままでは終われないという意地を見せた林とパウロの連続ホームランで試合の主導権を握った。続く7回には先頭打者清水の2ベースとフローデセンの送りバントで作ったワンナウト三塁のチャンスで星渡がセンターへ犠牲フライを決めて3点目。

奉天の反撃はその裏。先頭打者ベンソンの代打市松元気がサード内野安打で出塁。それにしても、打率1割台でホームランなしと不振のベンソンを奉天坂本監督はよくここまで使い続けてきたものだがそろそろ見切られそうだ。続く漢のセカンドゴロでランナー入れ替わり。佐藤は四球を選んで一二塁。ここでサントナの代打蔡均森が2球目をセンター返し。フローデセンの股の間を抜けてセンター前タイムリーヒットとなった。トップに戻って横山にも四球でワンナウト満塁とピンチを迎えたが、ローマンには内角低めのカットボールを打ち損じさせ、ボテボテのピッチャーゴロを1-2-3と転送してダブルプレー。辛くもピンチをしのいだ。

続く8回裏には一死後長谷川からホームランを打たれ、続く間口と、前の回に代打で出場してそのままファーストについた市松に連続安打を食らってまたもピンチを迎える。続く漢には外角のやや高



く入ったストレートをセンター前に運ばれ、間口はホームを狙ったが星渡の好返球が飛び出して同点ならず。続く佐藤は148キロのストレートで三振で守りきった。

9回には昨日逆転サヨナラホームランを打たれた比山を登板させる。比山は劉監督の信頼に応えて三者凡退に抑えた。3人目の打者ローマンに対するウイニングショットとなった外角低めに決まる152キロのストレートは見事なもので、もはや昨日の悪夢は払拭されているようだった。

フロードセンは終盤ピンチを招いたが粘り強い投球で被害を少なく抑えた。また、星渡の返球などバツクもよく盛り立てた。雨降って地固まるということか、昨日の敗戦でチームの結束は一層強くなったようだ。これで対戦は一巡した。大連の貯金は3とそこそこの位置につけている。しかし本番はこれからだ。良いも悪いも含めたいろいろな出来事がチームに降りかかるだろう。その時にどう対処するかで今後の成績は決まってくるので気を抜かずにこれからも精進していつてほしい。

#### その他の試合結果

5勝13敗3分	光州	10 - 8	開城	11勝8敗2分
9勝10敗2分	ハルビン	3 - 5	新京	13勝5敗3分
7勝13敗1分	平壤	7 - 5	チチハル	7勝12敗2分

## 逆襲のアベックホームラン（後書き）

4月25日、個人成績表を掲載。しかし見辛い。しかもピヤツと算出したので間違っているかも知れない。5月9日、個人成績表を別の場所に移す。

# 傷ついた勝利

「ホーム」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 鈴木

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 中山

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

7 ノーリー (1 - 1) - 高遼二 (2 - 0) - 水内 (1 - 0)

6 棚橋 (5 - 3)

9 林 (3 - 2)

5 パウ口 (4 - 1) - 3

3 柳中平 (4 - 2) - 5 森茂 (1 - 0)

4 近堂 (4 - 0) - 大上

2 清水 (3 - 1)

1 吉野 (3 - 1) - 王貞成 (1 - 0)

大 2 2 0 0 0 3 0 0 0 0 0 7 吉野 (6)

- S 王貞成 (3) 1 2 勝 8 敗 2 分

平 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 1 中山 - 本田

- 金朋良 - 大河内 7 勝 1 4 敗 1 分

結果的には平壤に快勝の大連ではあるが、深い傷を伴う勝利であった。初回一死後、ノーリーの打球は三塁方向へのポテポテのゴロ。全力疾走したノーリーはその甲斐あってセーフとなったが、ベースを踏んだ際に靱帯を痛めて退場してしまった。代走には高遼二が送られて試合再開。ノーリーの激走に報いようと燃えた棚橋がライトオーバーの3ベースを放ち、大連が先制点を挙げた。続く林もセンター前にタイムリーヒットで2点目。

2回一死後、清水が四球で出塁すると投手の吉野が甘く入ったストリートを見逃さずショートの上を越えるヒットを放つ。トップに戻って星渡が一塁線を襲うタイムリーヒットと高の犠牲フライでこの回も2点追加。5回には棚橋、林が連打でノーアウト一三塁としたところでパウロがレフトスタンドにホームランを叩き込んで7対0とした。

大連の先発吉野は相変わらず好調をキープ。5回に平壤のキャッチャー仲里鉄也からホームランを打たれたものの非常にテンポのよいピッチングを見せて6回を3安打1失点で無傷の4勝目を手にした。本来なら完投でもおかしくないペースだったが、これからゴールデンウィークは延々と試合が続くので大局を見据えて降板させた。ちなみに14連戦が行われる予定である。代わってマウンドに立った王貞成は3回をヒット2本の無失点に抑えてセーブが記録された。

7回裏からパウロをファーストに置いてファースト柳中平と交代で森茂がサードを、近堂に代えて大上がセカンドを守った。これは内外野どこでも守れたノーリーの穴埋めテストの一環で、どの選手がどこの守備位置なら良いかを実戦で試したものである。ファーストパウロは刺殺3つと補殺1つ、サード森茂は補殺を1つ記録し、セカンド大上は守備機会なしだった。とりあえず今日は無難にこなしなが長く使つとどうなるかは分からない。

数字としては平壤に快勝した大連ではあるが、ノーリーの負傷退場という深い痛みを伴う勝利であった。チームバツティングや守備での貢献もさることながら、野球に関しては妥協を許さないストイックさと、野球を離れた際のおおらかな人格でチームの精神的支柱として働いていたことも見逃せない。ノーリーを失った大連はどのように戦っていくか。今日の試合には勝利したが今後を考えると正念場を迎えたといえる。

#### その他の試合結果

8勝12敗2分	チチハル	6 - 3	光州	5勝14敗3分
12勝9敗1分	奉天	2 - 7	新京	14勝5敗3分
10勝10敗2分	ハルビン	1 - 0	開城	11勝9敗2分

赤坂見殺し 噛み合わせ打線

「ホーム」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 鈴木

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 ウイツグス

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 水内 (3 - 1) - 立石 (1 - 0) - 高遼二

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウ口 (3 - 2)

3 柳中平 (3 - 1)

4 近堂 (3 - 0) - 金重男 (1 - 1) - 大上

2 清水 (4 - 1)

1 赤坂 (2 - 0) - 河剛紀 (1 - 0) - 黄直哉 - 平野 - 折口 (1 -

0)

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 赤坂 (6)

- 黄直哉 (1) - 平野 (1) 1 2 勝 9 敗 2 分

平 0 0 0 0 1 0 0 1 0 0 - 2 ウイツグス

- サーデー - 近藤 - 井垣 8 勝 1 4 敗 1 分

ノーリーが登録抹消された大連は先発に水内を2番レフトで起用。初回、その水内が平壤の新外国人ケビン・ウィッグスの2球目のストリートを振りぬきショートのを越すヒットで出塁。しかしエンドラン失敗で盗塁死して先制点のチャンス潰してしまふ。2回にはパウロがサード内野安打で出塁もダブルプレー。3回は一死後清水がライト前ヒットで出塁し赤坂が送って二塁へ。トップの星渡死球で一二塁となったが水内はサードフライで終了。4回は一死後林のライト前ヒットとパウロ、柳の連続四球でワンナウト満塁となるが近堂が小さく曲がる変化球に手を出してしまい最悪のセカンドゴロダブルプレー。6回は二死後パウロ柳が連打も近堂三振。チャンスは多いのだがなかなか生かすことができない。

そうこうしているうちに、平壤が攻勢に出た。4回裏、先頭の趙民陽がレフト線に二塁打を放つ。鈴木勇氣はファーストライナーに抑えたが6番の奈良橋純に外角に逃げるスライダーをうまく流され先制のライト前ヒットを浴びる。初回はランナーを2人出したもののそれ以降は安定していた赤坂だが、奈良橋がさすがの技術を見せた。赤坂は6回を1失点で降板。よく抑えたが打線の援護に恵まれなかった。7回裏には黄直哉が小谷駿馬にホームランを打たれて2失点目となった。8回には平野がワンポイントではなくその回を丸ごと投げきった。左の志田憲一と趙民陽はもちろん、右打者の鈴木勇氣に対してもなかなか堂々としたピッチングを見せてセカンドフライに打ち取った。

平壤の先発ウィッグスはコントロールは良いとはいえない投手で球威も並。毎回のようランナーを出すものの微妙に変化するボールがやっかいで捕らえきるまではいかず、気付いたら6回無失点で降板していた。以降はサーデー、近藤、井垣と平壤の継投策で逃げ切られた。結局大連は9安打を放ちながらも得点は0で赤坂を見

殺しにしてしまった。赤坂はストレートはいまいち走らず1回は苦  
労したが、2回以降はスライダーを軸にしたピッチングに切り替え  
て好投し、対応力の高さを見せた。それだけに何とか勝利を与えた  
かったが、残念な結果に終わってしまった。

ノーリー不在の影響が全てではないにせよ、早速不安要素を曝け  
出してしまった。何でも器用にこなせるノーリー不在の中でどのよ  
うに得点パターンを構築していくか。水内はよく健闘していたし、  
控えで言う和金重男が大連移籍後初めてとなるセンター前ヒットを  
放ったのも良いニュースだったとは言える。無得点という閉塞感の  
ある負け方だったが明日にでもそれを打ち破ってほしい、と思う  
もの。実際は当然実験が必要か。

#### その他の試合結果

9勝12敗2分	千手ハル	8 - 4	光州	5勝15敗3分
13勝9敗1分	奉天	5 - 1	新京	14勝6敗3分
11勝10敗2分	ハルビン	12 - 3	開城	11勝10敗2分



松浦初勝利 乱れ飛ぶホームラン

「ホーム」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

5 鈴木

6 奈良橋

9 幕内

2 仲里

1 前田

「ピジター」大連

8 星渡 (3 - 2)

7 水内 (3 - 0) - 河剛紀 (2 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウ口 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 0)

4 近堂 (3 - 2)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 松浦 (2 - 0) - 立石 (1 - 1) - 野藤 - 小松原 - 森茂 (0 - 0)

- 比山

大 0 1 0 2 0 0 2 0 0 5 松浦 (6)

- 野藤 (1) - 小松原 (1) - S比山 (1) 1 3 勝 9 敗 2 分

平 0 1 0 0 0 1 0 0 0 2 前田 - 西向

- 森 8 勝 1 5 敗 1 分

大連は2年目の松浦が、平壤は元山から戦力外通告を受けたものの合同トライアウトを経て今季から加入した前田道雄が先発。ともに今シーズンは中継ぎからスタートして先発に配置転換された投手である。大連の2番レフトは今日も引き続き水内が入る。

初回、大連は先頭の星渡が四球で出塁するとすかさず盗塁を決めてチャンスを作るが水内三振、パウロライトフライで星渡は三塁へ進むも林はセカンドゴロで先制ならず。その裏、松浦の初先発、初球は147キロのストレートが外角低めに決まるストライクだった。その後ボールを2球続けたが、4球目の高めに入るストレートはバツター小谷を詰まらせてサードフライに打ち取り、先発として初のアウトを奪う。その後も鳥内はショートゴロ、志田はセンターフライに抑えて無難な立ち上がりを見せた。

大連は2回、簡単にツーアウトを取られたが7番の近堂がカウント2-2からやや高めのスライダーを左中間に叩き込む先制のホームランとした。しかしその裏、鈴木勇氣にレフトポール際に飛び込むソロホームランを打たれ同点とされてしまう。

4回、大連は先頭の棚橋が今季2本目となるホームランをライトスタンド中段に叩き込むと、一死後はパウロもレフトスタンドにソロホームランを放ち松浦を強力援護。松浦は初先発だと気負うこともなく、リリースで見たものと同じような、伸びやかなストレートを投げ込んでいた。6回一死後趙民陽にホームランを打たれ、なおも鈴木と奈良橋に連打で一三塁と、長打が出れば逆転のピンチを迎えたが幕内をサードフライ、仲里を三振に打ち取った。

松浦は直後の攻撃で代打を送られたので6回2失点で降板となったが、十分合格点が与えられる内容でプロ初勝利を手にした。そし

て松浦の代打で登場した立石が初球のストレートを振りぬいた打球はレフトポール直撃。ベテランが放った一昨年の8月以来のホームランで前田をノックアウト。代わって登板した西向大志だが、トップに戻って星渡が内角をえぐるカーブをコンパクトなスイングでジヤストミート。ライトスタンドに飛び込む連続ホームランで松浦の勝利投手を確固たるものとした。後は野藤、小松原、比山の継投策で逃げ切った。

前日の停滞する雰囲気ホームラン攻勢で吹き飛ばした。大連の5点と平壤の2点はすべてソロホームランによるもので、なかなか派手な試合だった。逆に言うとタイムリーヒットはなかったので、打線のつながりという課題は据え置かれたままではあるが。最近立石が実質代打の一番手となっていて、打てなくても粘って四球を選ぶなどベテランらしい味を随所に見せている。肩を痛めたこともあり守備はほとんどできないのは往年の名ショートを記憶している者としては淋しいが、それでも野球の姿勢など若手は学ぶものが多い。次節はホームに戻り奉天と対戦する。

#### その他の試合結果

10勝12敗2分	チチハル	1 - 0	光州	5勝16敗3分
14勝9敗1分	奉天	8 - 6	新京	14勝7敗3分
12勝10敗2分	ハルビン	5 - 4	開城	11勝11敗2分

完封アノド完封

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 高遼二 (2 - 0)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

3 柳中平 (3 - 1)

2 清水 (3 - 0)

1 瑞穂 (3 - 0)

「ビジター」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

2 漢

3 市松

4 佐藤

1 星村

奉 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
9 敗 2 分  
星村 1 4 勝

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
瑞穂 (9)

1 3 勝 9 敗 3 分

2位奉天と3位大連の直接対決、しかも大連は瑞穂、奉天は星村の先発対決が1週間を経て再び見られるということで注目されていた一戦。前回屈辱的な結果に終わった瑞穂が気迫のこもったピッチングを見せれば、星村はさらに安定感を高めた磐石の投球を披露し、華麗なる投手戦が繰り広げられた。この2人の対決、9回ではあまりにも短すぎた。

初回、瑞穂は先頭打者の横山とローマンを連続三振、西崎も完全に詰まらせてのピッチャーフライと力強いボールで三者凡退に抑えた。対する星村はよく低めに制球された変化球が冴えて星渡、高遼二、棚橋といずれも内野ゴロに打ち取った。いつになく球威のあるボールで牛耳る瑞穂と相変わらず破綻のないコントロールの星村という構図のまま、4回までどちらもノーヒットという展開で試合は進行していった。

ようやくヒットが生まれたのは5回裏、二死後に柳中平が外角げのストリート逆らわれないバッティングで綺麗に流し、レフト前に落ちるヒット。しかし清水はタイムングを崩されたピッチャーゴロに打ち取られて続かず。奉天の初ヒットは6回表、一死後8番打者の佐藤竜一がサードへのセーフティーバントを成功させた。ここまですトはおろか出塁すらなかった奉天だがベテランの技巧で完全試合ペースにピリオドを打った。星村の送りバントで二塁まで進んだが横山はレフトフライで得点は許さない。

結局両者を止めたのは回数制限のルールだった。星村は被安打4の四球2、瑞穂は被安打3の無四球、いずれも9回を無失点で投げきり勝敗はつかず。7回表、二死後に長谷川と間口の連続ヒットでランナー一三塁まで進めたのが唯一得点のチャンスらしいチャンスだったが、瑞穂は本日最速の149キロを計測する力投で市松をキヤッチャーゴロにねじ伏せた。大連の攻撃では、星渡が1安打1四

球でその度に今日2番に入った高が送りバントを決めたが結局三塁に進めることは出来なかった。4回には星渡を二塁に置いて林が右中間に痛烈なライナーを飛ばし先制かと思われたが、ライト西崎のダイビングキャッチが飛び出すなど守備も両チームとも無失策としまっていた。

本日4月29日は昭和の日である。この試合はまさに昭和の初期プロ野球が勃興した当時の大エースによる投げあいを再現したかのような展開であった。渤海に沈みゆくオレンジの夕日に照らされた大地に伸びる影はマウンドを守る孤独なヒーローの姿を鮮やかに切り取っていた。

#### その他の試合結果

1 1 勝	1 2 敗	2 分	チチハル	3 - 1	ハルビン	1 2 勝	1 1 敗	2 分
9 勝	1 5 敗	1 分	平壤	7 - 3	光州	5 勝	1 7 敗	3 分
1 4 勝	7 敗	4 分	新京	2 - 2	開城	1 1 勝	1 1 敗	3 分

快勝のち辛勝

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

7 高遼二 (2 - 0)

6 棚橋 (3 - 2)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (3 - 0)

4 近堂 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 0)

2 清水 (2 - 1)

1 張尊 (1 - 0) - 平野 - 石風呂 (1 - 0) - 小松原 - 野藤 - 比山

「ビジター」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

2 漢

3 蔡均森

4 佐藤

1 宇治

奉 0 0 0 0 0 2 0 1 3  
 - 張公吉 1 4 勝 1 0 敗 2 分  
 宇治 - 松本

大 0 0 0 3 1 0 0 0 0 0 0 4  
 張尊 (4 2

/ 3) - 平野 (1 / 3) - 石風呂 (1 1 / 3) - 小松原 (2 /

3) - 野藤 (1) - S 比山 (1) 1 4 勝 9 敗 3 分

前日の投手戦の余韻も覚めやらぬ対奉天の第2ラウンドは奉天が宇治、大連は張尊が先発マウンドに立った。宇治は初回到2四球を与えるなど前回と同じくコントロールが不安定。対する張尊はまったく磐石な投球。コントロールに加えてスライダーの切れ味が抜群で大きく曲がるカーブを見せ球にスライダーで打ち取るピッチングが有効に働いた。

先制点はもちろん大連。3回、先頭の星渡がショートへの内野安打で出塁するとすかさず盗塁と送りバントで三塁まで進み、棚橋のセンター前ヒットで悠々ホームに生還した。さらに林のライト前ヒットとパウロへの四球で満塁としたところで近堂が左中間へのタイムリーヒットで棚橋と林がホームに生還。パウロもホームを狙ったがレフト間口の返球に阻まれる。この回は3点を奪った。

続く4回には先頭打者清水が死球で出塁すると、バントの構えをしたピッチャーの張に対する2球目が暴投となってランナー二塁へ。4球目を張はしっかり送りバントを決めると、トップに戻って星渡がライトに犠牲フライで4点目。今日の張の調子を見ると崩れはしないだろうから大連の快勝か。そんな空気が漂ってきた5回表、張にアクシデントが襲った。一死後の漢隆太郎の打席である。初球のストレートを漢は強振し強烈なピッチャー返しで張の右足に直撃した。打球は左に転がったところをショートの前橋が捕球してアウトにしたものの、軸足を痛めた張はここで降板してしまう。ここまで被安打1の無四球であとアウト1つで勝利投手の権利を得るところだったが致し方ない。奉天の打線は蔡、佐藤と左打者が続くので左キラー平野を登板させたが、緊急ゆえかコントロールが定まらず蔡に四球を与えてしまった。続く佐藤には散々粘られたものの11球目で三振を奪って終了させた。



6回からは石風呂が登板。6回は3人で終わらせたので、その裏に打席に回ってきててもそのまま打たせたが7回に捕まってしまう。まず先頭の西崎にはストレートのフォアボールでみすみす出塁させると、4番長谷川には高さが甘くなったストレートを痛打、三塁線を破られて二三塁。間口の犠牲フライで1点を返される。漢にはライト前タイムリーを浴びて2点目。続く蔡はゆるいサードゴロだったがパウロが間に合わないセカンドに投げてフィルダースチョイス。ここで大連劉監督は石風呂をあきらめて小松原投入。小松原は佐藤に対して四球で満塁のピンチを招いたがピッチャー松本の代打浜口浩司を三振、トップに戻って横山をセカンドゴロに押さえ込みピンチ脱出。

大連の攻撃は松本と張公吉の前に棚橋の1安打のみに抑えられる。そして9回表、大連のリリーフエース比山に奉天打撃陣が牙をむいた。先頭の間口がストレートを捕らえて三塁線を破る2ベースでいきなりピンチを迎えると、続く漢はレフト前ヒットでノーアウトランナー一三塁となり、蔡のライトフライで1点を返される。佐藤は四球を選んでランナー一二塁。ここで代打市松元気が登場。ヒットで同点、長打が出れば逆転という場面。市松は初球から積極的にスイングしてきた。空振り、ボール、ファール、ファールでカウント1-2とした後の5球目、決め球の完全にボール球のフォークを市松にすくい上げられる。レフトライン際、飛距離は十分。しかし惜しくもボールの左側を通過してファールに。あわやホームランという大飛球で観る者をひやひやさせたが、比山は落ち着いて151キロのストレートを外角低めに投げ込んで市松を空振り三振に仕留めてゲームセット。張尊の好投も降板もはるか過去の話と思わせるような辛勝だった。

先発の張尊は安定したピッチングを見せたが、アクシデントによるまさかの降板で以降の継投策はややいびつな形となった。勝利投

手は極めて微妙な状態だが、2年目の平野にプロ初勝利が記録された。28日には緑ヶ原高校の頃から平野とダブルエースを形成していた松浦がプロで初勝利を挙げたばかり。この2人のような若手投手が切磋琢磨していけば投手陣全体のレベルアップにもつながるだけに次々と台頭してきてほしい。

#### その他の試合結果

1 1 勝 1 3 敗 2 分	チチハル	2 - 9	ハルビン	1 3 勝 1 1 敗 2 分
1 0 勝 1 5 敗 1 分	平壤	5 - 4	光州	5 勝 1 8 敗 3 分
1 5 勝 7 敗 4 分	新京	7 - 1	開城	1 1 勝 1 2 敗 3 分

## フェリックスの風

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 2)

7 高遼二 (3 - 0) - 水内 (2 - 1)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (5 - 2)

4 近堂 (5 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

2 清水 (3 - 1)

1 フローデセン (2 - 0) - 斎場 - フェリックス (1 - 0) - 王貞

成 - 折口 (1 - 0) - 黄直哉

「ビジター」奉天

5 横山

6 ローマン

9 西崎

8 長谷川

7 間口

2 漢

3 蔡均森

4 佐藤

1 サンタナ

奉 0 2 1 0 2 2 0 0 0 7  
サンタナ -

小林 - 丸茂 - 朴賢侍 - ファン 1 5 勝 1 0 敗 2 分

大 0 0 0 1 0 0 3 1 0 5  
フローデセ

ン (5) - 斎場 (2) - 王貞成 (1) - 黄直哉 (1)  
1 4 勝 1 0

敗3分

前日降板した張尊は二軍落ちが決定した。球団の発表では軽症だが念のためにローテーションを1回飛ばす程度との事だ。今日はここまで4試合を投げて2勝0敗防御率1点台と抜群の活躍を見せているフロードセンが先発。しかし今日のフロードセンはいつもよりやや球にキレがなかったように思えた。多彩な変化球が生きているのはスピードガンには現れないストレートのパワーがあつてこそ。今日のフロードセンが奉天打線に打ち崩されたのもその辺に原因がありそうだ。

1回、先頭の横山にいきなり四球を与えたものの後続はしっかりと抑えたフロードセンだったが、2回、先頭の間口に内閣低めに投じたストレートをレフトスタンドに叩き込まれる。間口がフロードセンに力勝ちして奉天が先制すると、続く漢と蔡に連打を浴びて一三塁のピンチを招く。これもパワーで押し切るようなヒットだった。佐藤の犠牲フライによって1失点に加わりこの回は2失点。

3回にも失点してしまう。一死後、長谷川が右中間を破る3ベースヒットと間口への敬遠気味の四球で一三塁となる。それにしても今季の間口浩司は本当に調子がいい。大連戦に限らずよく打っており現在の打率は4割を越えている。大卒の低位指名で入団し、2年目と3年目は独立リーグの鞍山で武者修行に励んだ苦労人が33歳にして本格的な覚醒の時期を迎えつつあるのか。さて、試合のほうは続く漢のショートゴロ併殺崩れの間1点追加してこの時点で大連が3点のビハインド。

一方大連の投手陣はサンタナの荒れ球に対してなかなか絞りがきれない。3回には先頭の星渡がレフト前ヒットで出塁したが高遼二が球威に押されてバントがピッチャーへの小フライとなりランナ

ーを進められないなど残塁が目立った。4回に近堂がレフトスタンドにホームランを放ち1点を返したが直後の5回表、ローマンを四球で出塁させてしまう。西崎をライトフライに打ち取ったまでは良かったが4番の長谷川智明に対する初球のスライダーを完璧に読まれたように振りぬかれて、バックスクリーンに到達するライナー性のホームランを浴びてしまった。フローデセンはこの回限りで降板。5回を5失点と、満洲に来て初の炎上を喫した。

6回にも奉天の打撃が火を噴いた。ターゲットはこの回から登板した斎場。一死後、ピッチャーの سانتアナがレフトへの痛烈なライナー性の打球がヒットとなり出塁。トップに戻って横山がセカンドの頭上を越える流し打ちでランナー一三塁として、ローマンのライトへの犠牲フライでまた1点を加える。さらに横山は盗塁と西崎のセカンドゴロの間に三塁まで進むと長谷川がレフト前にタイムリーヒットを打って7点目とした。6回終了時点で7対1とまったく不甲斐ない戦いに球場内には酔客の痛烈なヤジも飛び交いつつあった。しかしこのままで終わらないのが今季の大連である。

7回、ついに大連打線が سانتアナを捕らえる。先頭打者は代打で出場のフェリックス・アマラウ（登録名フェリックス）。負傷したノーリーと入れ替わりで初の一軍昇格を決めたブラジル出身の19歳。初球から体がちぎれんばかりの猛烈なフルスイングで観客の度肝を抜いた。これは空振りだったが、3球目、高めに外れるボールを振りぬいた打球はまるでロケットエンジンを積んだようなスピードでスタンドに飛び込んでいった（ライトポールの右に切れてファール）。結果は三振だったがどんよりしたムードをフルスイングで一掃した。トップに戻って星渡がレフト線を破る2ベースヒットでチャンスを作ると、高の代打水内が右中間にタイムリー2ベースを放つ。棚橋と林は四球でワンナウト満塁。ここで奉天は سانتアナを諦めて小林大良を投入。7回の سانتアナは疲労が原因であろうが

球威が鈍っていた。

次の打者パウロは同郷の後輩フェリックスの姿に一番刺激を受けた選手の一人であろう。内角低めに投げられたストレートを強引に引つ張る得意の形で三塁線を破る2点タイムリーヒットでこの回は3点を返す。8回には清水が今季第1号のホームランをレフトスタンドに放ち2点差まで追い上げた。9回は2アウトになってから林とパウロが連打を放ちホームランが出れば逆転サヨナラということになるまで来たが近堂三振でゲームセット。及ばなかったものの追い上げを見せてくれたのは良いことだ。

明日からはホームでハルビンを迎えて4連戦、その次はビジター遠征してチチハルと4連戦とタイトな日程が続くがこれが終わると交流戦が始まる。交流戦はかなり休みの多い日程となるので今を乗り越えれば楽になる。ノーリリー、張尊と怪我人も出てきたが今のムードはそれほど悪くない。全員でカバーしよう、点差がついても諦めないという空気に満ちており、その辺は昨年までとは明らかに違っている。

#### その他の試合結果

12勝13敗2分	チチハル	7 - 1	ハルビン	13勝12敗2分
10勝16敗1分	平壤	2 - 8	光州	6勝18敗3分
15勝8敗4分	新京	9 - 13	開城	12勝12敗3分

## ハイパー吉野 ハルビンを完封

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 4)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1) - 大上

5 パウロ (4 - 0)

4 近堂 (4 - 0)

7 水内 (3 - 1) - フェリックス (1 - 0) - 高遼二

2 清水 (2 - 0)

1 吉野 (2 - 0)

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

8 篠原

4 口バーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 林正幹

大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	吉野 (9)
野	1	3	勝	1	3	敗	2	分					林正幹 - 依
哈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
1	5	勝	1	0	敗	3	分						

ゴールドデンウィーク特別編成でここからは普段の3連戦ではなく4連戦が休みなく2節続く。大連はまずホームでハルビンを迎えて戦う。先発の谷間も生まれるのでうまく戦っていかないといけない。今日の先発は調子のいい吉野。また、打順の変更があり、柳中平が2番に置かれている。高遼二はスタメンとして出場した試合では未だにノーヒットなので控えに戻して7番レフトには水内が入っている。

結論から先に言っとこの打線組み換えは成功した。2番に入った柳中平の打棒が爆発した。1打席目にレフト前ヒット、2打席目はライト前、3打席目はセンター前と広角に打ち分けてあつという間に猛打賞達成。そして3打席目の6回にはその直後に棚橋のホームランが飛び出して2点を先制した。さらに8回にもハルビンの2番手依野からレフトライン際に落として本日4打数4安打打率10割の大当たり。今日の柳はどこに投げても打たれるという雰囲気でハルビンの林、依野両投手はたまったものではなかっただろう。

好調を維持する吉野が今日も磐石のピッチングを披露した。ボールに力があつたので得意のカーブとのコンビネーションも冴えていたので援護は2点あればもう十分だった。特に圧巻だったのは7回の三者連続奪三振の場面。先頭は4番田坂実正。187cm91kgの恵まれた体格に加えて極めて柔軟な打撃をする実力者を見逃し、ファール、空振りと3球で仕留めた。次の篠原光良は外角低めに投げられた148キロのストレートで見逃し三振。3人目のアラン・ロバーツは追い込んだ後3球連続ファールと粘られたが最後は大きく曲がるカーブの前にバットは空を切った。吉野は被安打4の完封で今季負け無しの5勝目。この勢いはちよつとやそつとでは止まりそうもない。

その他の試合結果



1	6	勝	8	敗	4	分	新	京	7	-	2	千	千	八	ル	1	2	勝	1	4	敗	2	分
1	5	勝	1	敗	2	分	奉	天	1	-	9	光	州	7	勝	1	8	敗	3	分			
1	3	勝	1	敗	3	分	開	城	3	-	0	平	壤	1	0	勝	1	7	敗	1	分		

## ハイパー吉野 ハルピンを完封（後書き）

古本まつり行って満洲に関する本を購入。資料として使うわ、とかやってたら帰宅後眠たくなって寝ていたらしい時間になってしまった。

不思議な投手リンド

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 0)

3 柳中平 (3 - 2)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (4 - 0)

4 近堂 (4 - 1)

7 水内 (3 - 1)

2 清水 (3 - 1)

1 王貞成 - 河剛紀 (1 - 0) - リンド (1 - 1) - 平野 - フェリッ

クス (1 - 0) - 小松原 - 野藤 - 立石 (1 - 0) - 比山

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 田中

6 井沢

2 田坂

8 篠原

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 ノリツジ

哈 1 0 1 0 0 0 1 0 3 ノリツジ -

鈴木真 - 横浦 1 3 勝 1 4 敗 2 分

大 0 1 0 3 0 1 0 0 5 王貞成 (3)

- リンド (2 2 / 3) - 平野 (1 / 3) - 小松原 (1) - 野藤

(1) - S比山(1) 16勝10敗3分

いわゆる先発の谷間に当たる今日の試合、大連の先発はリリースでぼちぼち投げていた王貞成。昨年も数試合先発を経験している地元大連出身の右腕である。その王は初回、いきなりボルトに内野安打を打たれて盗塁もされるがボルトの俊足相手ではどうしようもない。ハルビンの2番に入っている田中海のファーストゴロでボルトは三塁まで進むと、井沢のライト前ヒットで帰還してハルビンが1点先制した。井沢は3番に置かれたことで得意のライナー性の鋭い打撃が見られるようになった。王は3回に田中海に今季初となるホームランを献上するなど3回を2失点で降板。2番手には4月の終わりに支配下登録されたばかりのマシュー・リンドが一軍初登板という大胆な采配を繰り出してきた。

リンドは198cm82kgとまだ肉体的には未完成ながら非常にキレのあるストレートを投じてくる。めちゃくちゃなフォームでもちろんコントロールも全然ないがそれゆえの迫力はある。データが揃っていないこともありハルビンの打者はリンドの球威とノーコンに翻弄されっぱなしだった。4回は先頭の篠原にストレートの四球、ロバーツにも3連続ボールで8球目によやくストライクを入れたものの次の球もボールで結局フォアボール。しかし南吉展と郭当午に対しては突然ストライクが入るようになった。本人いわく「緊張が取れた」ということらしい。完璧な投球で連続三振を奪った。続くピッチャーのノリッジに対してはまたしてもノーコンがぶり返して四球。ツーアウト満塁で打者はボルトだが、ボルトは初球のストレートを引っ掛けてピッチャーゴロに抑え、本塁封殺で無失点に抑えた。

リンドの不思議なピッチングでハルビン先発ノリッジのリズムが乱れたか、直後の4回裏に大連の猛攻が出た。まず、先頭の棚橋が

左中間フェンス直撃の2ベースヒットと林の四球でチャンスを作る。パウロ凡退も近堂がライト前に流してタイムリーヒットで1点。続いて2回にはソロホームランを放った水内はサードゴロもフィルダーストチョイスで満塁となり、清水のレフト後方への犠牲フライで3対2と逆転に成功。そしてピッチャーリンドはそのまま打たせたとこるまさかのセンター前タイムリーヒットを飛ばした。棒立ちの打撃フォームでまったく打てそうになかったがわからないものだ。とにかくこの回の3点で勝負はかなり有利になった。

リンドは5回も1安打と1四球を出すものの5人で抑えた。6回はツーアウト満塁としたところで降板し、代わった平野が左打者の井沢をきっちりセカンドゴロに仕留めた。まったく荒削りな投手だが素材は特Aものだ。

大連は7回に柳中平がこの回から登板したハルビンの2番手鈴木真之からライトスタンド最前列にホームランを打って5点目とする。ハルビンは8回に野藤を攻め立てて郭当午の3ベースヒットと代打原田三希のセンター返しによるタイムリーヒットで5対3まで追いつけたがそこまで。9回は比山の前に3人で攻撃終了して試合終了。借金生活に戻った。

先日からちよくちよく代打として出場しているフェリックスにせよ、本日の勝利投手となったリンドにせよ、実力があるののかないのかよくわからないがバイタリテイは満ち溢れている若手外国人選手がチームに新風を巻き起こしている。2番に起用してから2試合で7打数6安打と大爆発している柳中平もそうだが、今の大連は変化を付けることによって良い流れを生み出している。

その他の試合結果

17勝8敗4分 新京 6 - 0 チチハル 12勝15敗2分

1	1
4	6
勝	勝
1	1
2	1
敗	敗
3	2
分	分
開	奉
城	天
8	5
-	-
1	2
平	光
壤	州
1	7
0	勝
勝	1
1	9
8	敗
敗	3
1	分
分	

エースの意地 ハルビン一矢

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

4 近堂 (4 - 2)

7 水内 (3 - 0) - 河剛紀 (1 - 1)

2 清水 (2 - 1) - 金重男 (0 - 0)

1 赤坂 (2 - 0) - 折口 (1 - 0) - 黄直哉 - 斎場 - 立石 (1 - 0)

- 小松原

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

8 篠原

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 引田

哈 2 1 0 0 0 0 1 0 4 引田 - 藤崎

- 名々見 - S堀 1 4 勝 1 4 敗 2 分

大 0 0 1 0 0 1 0 1 0 3 赤坂 (6)

- 黄直哉 (1) - 斎場 (1) - 小松原 (1) 1 6 勝 1 1 敗 3 分

連敗して借金生活となったハルビンは中4日でエース引田純平を先発に繰り出してきた。背水の陣で必勝を期す。大連はルーキー赤坂が先発。

初回、一死後鈴木壮介が左中間を破る2ベースヒットでチャンスを作る。井沢の打球はレフト前に落ちると思いきや水内のダイビングキャッチが飛び出してアウト。しかし4番田坂が内角低めに投げられたストレートを引っ張ってレフトスタンドまで持っていった。先制の2ランホームラン。2回には口バーツ四球の出塁から郭当午の2ベースヒットでホームインで1点追加の3点目。序盤で一気に差を広げる。しかし3回以降は赤坂が立ち直り、チャンスすら作れなくなる。

引田は球速こそmax145キロと普段より抑えていた分コントロールを重視したピッチングを見せた。毎回のようにランナーを出すものの要所を押さえる投球で6回を2失点と勝利投手の権利を得て降板した。なお失点は3回の林のタイムリーと6回の近堂のタイムリー2ベースである。6回はその後もツーアウト二三塁と追いつかれる寸前まで来たが赤坂の代打折口を三振に仕留めてピンチを脱出した。

8回にハルビンは大連の3番手斎場を攻めてツーアウト二三塁から田坂がレフト前にヒット。二三塁ランナーのポルトが俊足を飛ばして水内の返球より先にホームベースを駆け抜けた。これで2点差となったが直後の8回裏にセットアッパー名々見忠志がピンチを招く。一死後近堂のサード内野安打と代打河剛紀の左中間に落ちるヒットで二三塁とし、金重男の犠牲フライで4対3の1点差まで詰め寄られる。しかし9回はストッパーに定着した堀満裕が3人でぴしゃりと抑えてゲームセット。勝率を5割に戻した。



引田の、ハルビンの意地に屈した一戦となった。4番の田坂実正の力もすばらしいものがある。一方5番の篠原光良はまたも無安打に終わる。一体何を悩むのか。大連に目を向けると、赤坂は序盤立て続けに失点したがその後はよく立ち直った。敗戦投手となったが技量は示すことが出来たので勝ち星もおのずと増加していくだろう。

#### その他の試合結果

1 7 勝 9 敗 4 分	新京	3 - 8	千手ハル	1 3 勝 1 5 敗 2 分
1 6 勝 1 1 敗 3 分	奉天	2 - 2	光州	7 勝 1 9 敗 4 分
1 4 勝 1 3 敗 3 分	開城	3 - 6	平壤	1 1 勝 1 8 敗 1 分

こどもの日 若武者対決

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 3)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

4 近堂 (3 - 1)

7 水内 (3 - 0) - 折口 (1 - 0) - 高遼二

2 清水 (3 - 1)

1 松浦 (1 - 0) - 森茂 (1 - 0) - 野藤 - 比山

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

8 篠原

4 ロバーツ

5 南吉展

3 郭当午

1 立石

哈 0 1 0 0 0 0 1 0 0 2  
立石 - 鈴木

真 - 横浦 1 4 勝 1 5 敗 2 分

大 0 0 0 1 2 0 0 0 - 3  
松浦 (7)

- 野藤 (1) - S 比山 (1) 1 7 勝 1 1 敗 3 分

5月5日はこどもの日。それにふさわしく大連の先発は松浦、ハルビンは立石と若武者同士の対決となった。両者負けず劣らずの熱投を繰り広げたが勝敗を分けたのは守備走塁の意識であった。

先制点はハルビンだった。2回、先頭の田坂がライト前にうまく流してヒット。篠原はショートゴロでランナー入れ替わり。ロバーツが外角の低めを狙ったがやや高くなったストレートを振り切ってフェンス直撃のタイムリー3ベースを放った。続く南吉展の打球は右方向への強烈なライナーだったがファーストの柳中平がジャンプしてナイスキャッチ。郭当午をショートゴロに打ち取って最小失点に抑える。

4回裏、一死後に林が四球で出塁。パウロがセンター前にヒットを打つが、その際センター篠原が打球をファンブル。この隙に乗じて林は三塁まで進んだ。このプレーでパウロのヒットと篠原のエラーが記録された。近堂は狙い通りの犠牲フライをセンターに打ち上げて同点に追いついた。篠原のミスがなければと悔やまれる場面だ。

続いて5回裏には先頭の清水がライナーで三塁線を破る2ベースヒットと松浦の送りバントで逆転のチャンスを作ると、トップに戻って星渡が初球をライト前ヒットであっさり逆転に成功。続く柳の打席はヒットエンドランを仕掛けたが、狙い通り打球は一二塁間を破った。棚橋はショートゴロに打ち取ったかに思われたが、ショート井沢のセカンドへの送球が暴投となり外野を転々とするうちに星渡が一気にホームへ突入。相手のミスにも助けられて3点目を手に入れた。ここで4番林を迎えるが立石が意地を見せて林を三振、パウロをファーストゴロに抑えた。しかしもったいない失点だった。

7回表、自己最長となる回数まで到達した松浦に対してハルビンが牙をむく。先頭のロバーツがショートとレフトの間に落ちるテキ

サスヒットで出塁。続く南は四球でランナーは代走の金四南が投入される。郭の送りバントで二三塁として立石に代えて代打の切り札原田三希が登場。センターに犠牲フライを上げて1点差と迫る。続くポルトに対してはポール、ストライク、ポールと来たが、ここで松浦は二塁牽制。同点のランナーとして気のはやっていた金四南は二三塁間に挟まれて多少粘った末にタッチアウト。逆転の可能性を霧散させるミスであった。8回と9回は野藤と比山が3人で抑えて試合終了。この4連戦は大連が3勝1敗と優勢に終わった。

#### その他の試合結果

17勝10敗4分	新京	1 - 4	チチハル	14勝15敗2分
17勝11敗3分	奉天	5 - 4	光州	7勝20敗4分
14勝14敗3分	開城	1 - 4	平壤	12勝18敗1分

力の差より心の差

「ホーム」チチハル

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

1 リー

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 0)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (3 - 1)

7 パウロ (4 - 0)

4 近堂 (4 - 1)

5 森茂 (3 - 0) - 水内 (1 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 瑞穂 (2 - 0) - 立石 (0 - 0) - 平野

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 瑞穂 (7)

- 平野 (1) 1 7 勝 1 2 敗 3 分

斉 0 0 0 0 0 0 3 0 - 3 リー 1 5

勝 1 5 敗 2 分

大連は瑞穂、チチハルはリッチ・リーが先発。大連は通常サイドを守るパウロをレフトに置き、7番サードにユーティリティプレイヤーの森茂常弘をスタメンに起用してきた。これはおそらくリーとの相性に加えて、ノーリーに代わるレフト候補がなかなか決定打に欠けるという現状も考慮したもののと思われる。パウロはダイナミックなプレーに定評があるが守備は粗いので外野コンバート案は常に言われてきたが、ついに実行の日が来たようだ。

試合は投手戦。チチハルの本拠地はその立地を考慮してドーム球場となっている。そのサイズは両翼が102mセンターまで128mとメジャーリーグ級の大型球場で、ホームランがほとんど出ないNPB屈指のピッチャーズパークとして知られている。ただでさえそんなスタジアムなのに瑞穂とリーという安定感の高いエースが登板しているのだから投手戦にならないはずがない。

6回までは瑞穂のコントロール、リーの豪腕が冴えて無失点で進んだ。7回裏、チチハルが先制。きっかけはレフトに入ったパウロの拙守だった。一死後、和泉康之の打球は平凡なレフトフライだったがパウロが落球。和泉はこの間に二塁まで進んだ。続く楚明英に四球を与えて、迎えたキャッチャーの李秀一に対してストライク、ボール、ボールをした後の4球目、カウントを整えるために投じられたストレートを完全に見抜かれてジャストミートされた打球は猛スピードでレフトスタンドに消えていった。李秀一は主に守備が評価されてレギュラーとなっている選手ではあるが179cm91kgと立派な体格を有しておりソノ手の人達から人気、じゃなくてツボにはまれば打球を余裕でスタンドインできる程度のパワーは持っている。1点を争う展開となるのは見えていただけに李秀一に対する攻めは安易だったと言わざるを得ない。

8回まで3安打2四球に抑えられた大連だが、9回に一矢報いた。

先頭の柳中平の放ったライナーはサード丸木のジャンピングキャッチに阻まれたが、柵橋がショート内野安打、林がライト前ヒットで最後のチャンスを作る。続くパウロはセンターフライとなったが柵橋が三塁まで進む。2アウトで打席には近堂貴久。リーの初球はファール、続いてボール、ボール、ファール、ファールと来て5球目、三振を取るための外角低めのストレートをパワー負けせず打ち返した。打球は三遊間を破ってレフト前に転がる。柵橋はホームベースを駆け抜けて完封を免れる1点とした。続いての打者、森茂の代打水内に期待がかかったがリーのパワーに負けてキャッチャーフライに抑えられて試合終了。リーがエースの貫禄を見せつけた。

瑞穂は好投したがエース対決となると相手投手の後塵を拝す展開が多い。序盤はかなりの安定感を見せたものの終盤はややボールが甘くなる場面も出てきた。そして李秀一に全てを決めるホームランを打たれてしまった。甘さをなくしていくことがエースとしては肝要である。またパウロのレフト起用は考え直したほうが良さそうだ。少なくとも今季は守備のマイナスが大きくなる。チチハルは勝率を5割まで上げてきた。順位も4位に浮上しておりなかなか面白い存在と化している。

#### その他の試合結果

14勝15敗3分	開城	2-5	奉天	18勝11敗3分
8勝20敗4分	光州	6-1	ハルビン	14勝16敗2分
12勝19敗1分	平壤	0-3	新京	18勝10敗4分

采配に正解はない

「ホーム」チチハル

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

1 小早川

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウ口 (5 - 2)

4 近堂 (5 - 1)

7 水内 (2 - 0) - 折口 (1 - 1) - 大上 (1 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 石風呂 (2 - 0) - フェリックス (1 - 0) - 王貞成 - 金重男 (

0 - 0) - 小松原 - 比山

大 0 0 0 0 1 0 0 2 1 4 石風呂 (5)

- 王貞成 (2) - 小松原 (1) - 比山 (1) 1 7 勝 1 2 敗 4 分

斉 1 0 3 0 0 0 0 0 0 4 小早川 - ハン

セン - 長谷部 - 高麗 1 5 勝 1 5 敗 3 分



本来は張尊が先発する日だったが負傷で登録抹消されているので谷間となった。大連劉監督が先発に起用したのは石風呂幹伸。リリーフ中心に今季もそここの投球を続けている左腕だ。勝ち越しのかかるチチハルは42歳となる小早川守が先発。かわす投球の腕は見事だが9回を投げきるスタミナはないのでどちらもリリーの使い方が重要になりそうだ。また、パウロはサードに戻り、レフト起用はなかったことになった。

先発の格からも分かっていたが先制したのはチチハル。初回、二死後に吉住竜兵が内角に迫ってくるスライダーを捕らえてレフトスタンドに。続いて3回に、一死後万城原のセカンド内野安打と丸木のヒットエンドランで一三塁に。打席にはまたも吉住、そしてまたも打たれた。左中間にあわやホームランという打球を飛ばして走者一掃のタイムリー3ベース。さらに星野徹也にライト犠牲フライを上げられてこの回3失点。しかしその後はある程度立ち直り5回まで投げて降板。

大連の反撃開始は5回から。小早川の老練な技巧に後一本が出なかったがこの回は違った。まずは先頭の星渡が一二塁間を破るヒットで出塁。柳中平は送りバントで手堅くランナーを進める。棚橋は浅めのセンターフライでランナー動けずツーアウトになったが、4番林が見逃せばおそらくボールとなった低めに落ちる変化球を振りぬいてライト前に運ぶ。これで1点を返した。続くパウロはレフト前ヒット、近堂は四球で大きなチャンスが訪れたが水内はショートゴロで得点ならず。この直後の打席で小早川には代打が送られた。

リリーフ対決となった後半戦。リードを守りきりたかったチチハルだったが終盤に捕まってしまった。8回、3番手の長谷部に対して大連は水内を下げた代打に折口を送る。その折口がレフト前ヒット

ト。今季は初打席のホームラン以降なかなか当たりが出ていなかった折口だがようやく結果を残した。すかさず代走大上が送られる。清水はライトフライに打ち取られてワンナウト。次はピッチャー王の打席で代打に出された金重男がフォアボールを選びランナー二塁。トップに戻って星渡はセカンドゴロ。チチハルはダブルプレーを狙い一塁走者はアウトにしたが星渡はセーフ。続く柳中平は長谷部のストレートを見事に捕らえた。左中間真つ二つのタイムリー2ベースで大上と星渡が生還。これで1点差。

9回、チチハルはリリーフエースの高麗一弥を投入。林から三振を奪うもパウロに対して投じた2球目のストレートは高すぎた。パウロの野生がホームランという形で炸裂。大型のドーム球場であるうとツボにはまれば楽々スタンドインするパワーはやはり素晴らしい。後続の近堂と大上は力で押さえ込んだだけにパウロに対する1球が悔やまれる。9回裏、大連のマウンドには比山仁が立った。1番万城原から始まる大連としてはやっかいな展開だったが見事3人で仕留めて引き分けを勝ち取った。

引き分けで勝ち取ったとは変だが1回から8回までリードされる展開だったものを引き分けにまで持ち込んだのだから上出来だ。逆にチチハルは掴みかけた勝利を後一步のところまで落としてしまった。ベテラン小早川をもう少し引張ったほうが良かったのか。今更そんな事を言っても結果論にしかないが。勝ちきることの重要さと大変さをチチハルラインに突きつける試合であった。

#### その他の試合結果

14勝16敗3分	開城	3 - 6	奉天	19勝11敗3分
9勝20敗4分	光州	5 - 3	ハルビン	14勝17敗2分
13勝19敗1分	平壤	4 - 2	新京	18勝11敗4分

采配に正解はない(後書き)

ハルビンとチチハルを混同しちゃいかんでしょ。疲れすぎか。もう少し真面目に準備しましょう。

## 復活と新加入

「ホーム」チチハル

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

1 渡辺

「ビジター」大連

8 星渡(4 - 2)

3 柳中平(4 - 1)

6 棚橋(4 - 1)

9 林(4 - 2)

5 パウロ(4 - 1)

4 近堂(4 - 1)

7 水内(2 - 0) - 本郷(1 - 1) - 高遼二(1 - 1)

2 清水(4 - 1)

1 フローデセン(3 - 1) - フェリックス(1 - 1) - 野藤 - 比山

大 0 0 0 0 0 2 0 1 0 3 フローデセ

ン(7) - 野藤(1) - S比山(1) 1 8勝12敗4分

斉 0 0 1 0 0 0 0 1 0 2 渡辺 - 片岡

1 5勝16敗3分

大連はフローデセン、チチハルは若手投手の筆頭として台頭が待たれている渡辺清輝が先発。フローデセンはもちろん、渡辺もランナーは出すものの粘りの投球が出来ていたのでそれなりにしまった試合展開となった。と言うより大連がチャンスを潰しすぎただけなのかもしれない。

初回、先頭打者の星渡が初球をライト前に打ち返して出塁するが盗塁失敗でランナー消滅。直後に柳中平がライト前ヒットといきなりチグハグな攻めを見せる。3回にはピッチャーフローデセンがヒットで出塁、星渡四球と柳の犠打で二三塁になったものの柵橋のシヨートライナーの際フローデセンが飛び出していまい三塁に転送されてアウト。またも先制の機会を逸す。そうこうしているうちに3回裏、万城原にソロホームランを打たれてチチハルに先制点を許してしまう。ただこれは出会い頭の事故のようなホームランだったのでフローデセンも気にせず投げる事が出来た。

大連打線がようやく渡辺を捕らえたのは6回。先頭の柵橋はファーストゴロに倒れたと思いきや星野が後ろに逸らしたので一塁に生きる。続く林は打ち損じたゴロだったがかえって奏功し、内野安打となる。パウロの大き目のライトフライでランナーそれぞれ進塁。近堂のレフトフライは浅くランナー自重。そして水内の代打として今季初出場の本郷建筑が登場。昨年シヨートのレギュラーを掴みかけていたが怪我で無念の離脱を余儀なくされた男が復活を鮮烈に印象付ける逆転のタイムリー2ベースを放った。守備は不得手なのでこの攻撃が終了すると交代したが打撃センスは健在だ。

8回には一死後本郷と交代で入っていた高のレフト前ヒットと清水のライト前ヒットでチャンスを作るとフローデセンの代打に登場したフェリックスが初ヒットを放ち3点目を得た。高めに入ったストレートを腕力で強引に振りぬいたセンター前ヒットが貴重な追加

点となった。その裏、大連の2番手野藤から万城原が本日2本目となるソロホームランをライトスタンドに打ち込んだがチチハルの反撃はそれまで。9回に登板した比山に対して星野がひとつ、カーセロが四球を選んでチャンスを作ったが和泉、楚明英連続三振でゲームセット。

チチハルの渡辺はランナー出しすぎだったが追い込まれてからは球威が増していたように思えた。実力を最初から発揮できれば面白い。万城原の2発があったものの単発の攻撃だったので与えたダメージはそれほど大きくなかった。大連は本郷、フェリックスといった控えの選手が重要な仕事をした。これもチームの流れの良さを証明しているかのようだ。

また、本日大連は新外国人として元メジャーリーガーで現在はメキシコリーグに所属しているカルロス・アンジェロ外野手(28)の獲得を発表した。アンジェロ外野手はアメリカニューメキシコ州出身。パワフルな打撃と俊足を併せ持つということでノーリーの離脱以降決定打に欠けるレフトの補強としてうってつけの存在。アンジェロ外野手はすでにメデイカルチェックを済ませており、交流戦からチームに合流するという。この男が大連を優勝に導く天使となるか、注目である。

#### その他の試合結果

15勝16敗3分	開城	7 - 4	奉天	19勝12敗3分
10勝20敗4分	光州	6 - 1	ハルビン	14勝18敗2分
13勝20敗1分	平壤	5 - 9	新京	19勝11敗4分

エース安泰 吉野6連勝

「ホーム」チチハル

6 万城原

5 丸木

9 吉住

3 星野

7 カーセロ

8 和泉

4 楚明英

2 李秀一

1 ウィリアムス

「ピジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (5 - 2)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

7 水内 (3 - 0) - フェリックス (1 - 0) - 高遼二

2 清水 (3 - 1)

1 吉野 (3 - 0)

大 0 1 0 0 2 1 0 0 0 4  
 1 9 勝 1 2 敗 4 分  
 吉野 (9)

斉 0 2 0 0 0 0 0 0 0 2  
 ウィリアム  
 ス - 長谷部 - ハンセン 1 5 勝 1 7 敗 3 分

交流戦前最後の試合。明日から4日試合がなく、5月14日土曜日から交流戦スタートとなるが、大連は日程の都合で14日と15日は試合なしで5月17日からスタートとなる。つまりこれから1週間日程が空くわけで、チームをよりうまく回すように再編するには良い機会となる。今季は優勝をも狙える位置にいるのでなおのこと重要だ。アンジェロ外野手加入のほかにトレードで選手獲得の噂もあり、どのような動きを見せるか目が離せない。

さて、本日の試合は大連が絶好調の吉野、チチハルはシーズン途中に加入したメルビン・ウィリアムスが先発。ウィリアムスはmax158キロの剛速球が最大の武器だが調子の波が激しい。今日のウィリアムスに限って言えばコントロールも荒れ球程度に収まっていたので良かったが前回の新京戦では四死球連発で自滅してしまった。ただ比較的小となしい実力の持ち主が多いチチハル投手陣の中では突き抜けたパワーを持っている貴重な人材である。

先制点は大連。パウロがウィリアムスのパワフルなストレートを力でレフトスタンドまでねじ込んだ。チーム初ヒットがこの一発だった。しかしその裏、チチハルがすかさず反撃。先頭の星野は四球を選んで出塁、カーセロがヒットエンドランを決めて一三塁とされると、和泉康之にライト前に落ちるタイムリーヒットを浴びて同点とされる。一死後、李秀一に左中間に落ちるタイムリーを浴びて逆転。李秀一は二塁まで進もうとしたが間に合わず憤死。ツーアウト三塁で打席にはピッチャーウィリアムス。ウィリアムスの打球は意外と飛距離のあるセンターフライだった。ワンナウトなら犠牲フライとして十分だった。ツーアウトだったのでこれで終了となったが、ここでさらに追加点を取られていたら今日の試合結果はどうなっていたか。しかし起こった事は戻らない。

4回までパウロの1安打のみに抑えられていた大連だが5回に反



撃開始。先頭打者の清水が四球で出塁すると、2球目にまさかの盗塁。清水の体型は捕手にしてはスマートで鈍足ではないものの年間を通じて2桁盗塁をしたことは一度もなく、相手バッテリーもまったく警戒していなかった。ウィリアムスの投球モーションは大きいので楽々成功。吉野は送りバントを決めてワンナウト三塁とする。トップに戻って星渡は慎重に攻めすぎたか四球。ここで星渡も盗塁を決める。この辺であきらかにウィリアムスがいらいらしてきた。そこを柳中平は見逃さずライトのライン上に落とす二点タイムリーヒットで逆転。6回には近堂も盗塁を決めるなど足で攪乱して清水のタイムリーで4点目を追加。ウィリアムスはこの回限りでマウンドを降りた。

吉野は2回に2失点して以降は立ち直り、7安打完投で開幕から無傷の6連勝を達成した。ここまで19勝12敗4分となかなか良好な数字で来ている。交流戦は同じリーグ所属の、大連で言うところ中央リーグ所属の球団同士がホームとビジター各2試合ずつ合計4回対戦するもので、まずは日本ラウンドとして大連を含む大陸にある8球団が日本に遠征して試合をする。続いて大陸ラウンドとして日本列島にある6球団が朝鮮半島や満洲に遠征して試合を行う。チーム数に違いがあるので大陸の球団は6×4の24試合、日本の球団は8×4の32試合ということになる。夏には別リーグとの対戦も組まれておりこれは対抗戦と呼ばれている。

#### その他の試合結果

15勝17敗3分	開城	1 - 2	奉天	20勝12敗3分
10勝21敗4分	光州	1 - 4	ハルビン	15勝18敗2分
14勝20敗1分	平壤	7 - 0	新京	19勝12敗4分

交流戦開幕 新たなる胎動

「ホーム」東京

8 続木

4 藤沼

6 板本

7 ラミレズ

2 何慎介

9 永野

5 朴泰示

3 高中大

1 ゴンサルベス

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 1)

3 柳中平 (4 - 3)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

4 近堂 (5 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

2 清水 (4 - 2)

1 吉野 (3 - 0) - 李春稀 (1 - 0) - 石風呂 - 伊東

大 0 0 0 1 5 0 1 0 2 9 吉野 (7)

- 石風呂 (1) - 伊東 (1)

東 0 1 0 0 0 0 0 0 0 1 ゴンサルベ

ス - 新村 - 久野 - 落井 - 口メオ

大連にとつての交流戦が今日開幕した。対戦相手の東京はNPBでもっとも歴史と伝統があると言われる強豪で、かつては9年連続日本一に輝くなど驚異的な強さを誇った。玉子焼きと並び称されたりとか今となつてはお笑い種だがそれぐらいの人気はあつた。しかし現状生え抜きの選手はどうにも頼りなく、かつてはおまけ扱いで適当に補充して適当に切られる役目だった外様選手に頼りまくつてようやく優勝を掴んでいる。批判も高まっていたし最近は育成の東京を志しているが、まあ結果はこれから出るものなので今はあれこれ言う時期ではない。ただ金で即戦力選手を囲い込んで戦力にする技を使えるので、それを生え抜き面していいのならなかなか優秀な面子が揃つていると言えないことはない。

さて、その東京であるがこの日のスタメンは日本屈指の金満球団にしてはあまりにも貧弱。もはや二軍同然だがこれは主力に怪我人が続出しているのが原因である。開幕前のベストメンバー構想から残っているのはクリーンナップ3人ぐらいで、成績もなかなか噛み合わず負け越している。本日故障から復帰した何慎介が5番キャッチャーとして先発出場しているがまだ体調は十分とはいえずいかにも苦しい。対する大連は新加入のアンジェロが早速7番レフトでスタメン起用。先発投手はここまで絶好調の吉野大吾。数字上は2試合連続先発だが間は1週間空いているのでエネルギー全開で投球でききる。

試合は2回、東京がラミレズのホームランで先制。ゴンサルベスは3回まで安定したピッチングを見せたが4回に少し崩れ、5回には大崩れした。まず4回から見てもみよう。先頭の柳はレフトフライ、棚橋はセカンドゴロとここまでではまったく危なげなかった。しかし4番林に左中間を破られる2ベースを打たれると突然コントロールが悪化した。パウロに対して3球連続ボール球を投げた末、カウントを取りに行くストレートを狙われて三遊間を破られる同点タイム

リーを打たれた。

5回は先頭のアンジェロにフォアボールを与えると、盗塁も許してしまう。ここであからさまにイライラし始めた。清水はセンター前ヒットも浅かったのでランナー自重。ピッチャー吉野に対しては結果的に三振を奪ったもののボール先行のピッチング。そしてトuppに戻って星渡にライト前、柳にセンター前とタイムリーを連発され、とどめとして柵橋が右中間に弾丸ライナーの3ランホームランを打ち込んだ。ここでゴンサルベスは降板。イライラする癖をどうにかしないと今季限りとなる。あるいは今日で見切られたかもしれない。続いて登板したブロッケンの異名を持つ新村源太郎は安定したピッチングで6回まで無失点に抑えたが時既に遅し。5回の大量失点で吉野を楽にさせてしまった。

大連はなおも畳み掛ける。東京の3番手久野から柵橋がタイムリー。9回にはロメオからパウロの犠牲フライと近堂のタイムリーで2点を追加して9対1。若手の多い今の東京打線には威圧感はなく、ラミレズにしても毎打席ホームランを打てるわけでもなし。吉野は7回を1失点で降板。9回には今季初登板のベテラン伊東を繰り出す余裕も見せて大連が快勝した。これで今季通算成績は20勝12敗4分となった。

新加入のアンジェロは8回に落井から初ヒットを放った。盗塁も決めておりパワーとスピードを併せ持つという前評判は当たっているようだ。8回に代打で出てきた李春稀も今季初出場となる。持ち前のバッティングセンスを見せて一軍定着なるか。

## 交流戦開幕 新たな胎動（後書き）

リアルでも交流戦が開幕しますがどうなりますかね。とりあえず鼻  
屑の球団が勝ち越して横浜が4年連続6勝18敗にならなければい  
いかなとは思っています。ちな広

あと、このお話における日本列島にある球団は本拠地と大体当ては  
まるモデル球団が実在しており、戦力はそれに準じます。東京に2  
球団あるのは困るので後発の球団は京都に移転されていますが。選  
手名もあからさまにそれですが、モデルは純然たる日本人でも強引  
に朝鮮語や中国語を思わせる名前に変更しているケースもあります。  
その人が在日とかそういう話ではなく、それっぽくなりそうな名前  
を変更しているだけで他意はありません。メジャーリーグに英語読  
みの選手もスペイン語読みの選手も色々いるように、このNPBに  
も名前が日本語読みの選手だけでなく朝鮮語読み、中国語読みの選  
手が普通に混在している、みたいなイメージで。

24と27の間に

「ホーム」東京

8 今田

4 藤沼

6 板本

7 ラミレズ

2 何慎介

9 永野

5 円田

3 高中大

1 金憲刃

「ビジター」大連

8 星渡(4-1)

3 柳中平(5-0)

6 棚橋(4-0)

9 林(2-0) - 高遼二

5 パウロ(4-2)

4 近堂(3-2)

7 アンジエロ(3-1)

2 清水(3-0) - 金重男(1-0)

1 張尊(1-0) - 平野 - 李春稀(1-0) - 黄直哉 - 小松原 - 立

石(1-1) - 大上 - 比山

大 0 0 0 0 1 0 0 0 3 4 張尊(5) -

平野(1) - 黄直哉(1) - 小松原(1) - S比山(1)

東 0 1 0 2 0 0 0 0 3 金憲刃 - 久野

- 落井 - 山内

右脚の違和感から戦線離脱していた張尊が本日一軍復帰。東京は今季リリーフで結果を残して先発に昇格したサウスポーの金憲刃で迎え撃つ。金憲刃はかつて新人王候補といわれたものの取り逃がし、それ以来精彩を欠いていたが今季ようやく復活の手ごたえを感じさせるピッチングが出来るようになった。まだ27歳、これからの投手だ。

さて、試合はその金憲刃はなかなか好調で3回と4回間に4者連続三振を奪うなど力投を見せた。5回にストレートを近堂に捕らえられてのホームランを浴びたが、6回を投げて失点はその1点のみ。東京打線は張尊に一発攻勢を仕掛けた。2回、復帰2試合目のキャッチャー何慎介が復活の一撃をライトスタンドに叩き込んで先制点を挙げる。4回には藤沼大輔がライト前ヒットで出塁すると持ち前の俊足を生かして盗塁成功。藤沼の脚がそれだけで飯が食えるほど立派な武器になりうるだけにうまく育てたい。板本はレフトフライに終わったがラミレズが2試合連続となるホームラン。レフトの守備は下手だがここまで打てるなら余裕で帳消しできる。結局張は5回を3失点で降板した。ただボール自体はそこまで悪くない。優秀なバッターのパワーに屈した形だ。

さて、東京の継投策は昨日とほぼ同じ名前が連なっている。久野と落井は無失点で抑えたが、9回に繰り出された左腕の山内鉄男が乱れた。先頭のパウロに左中間を破られる2ベースを打たれると、今日2安打の近堂に対しては慎重に攻めすぎてフォアボール。アンジェロは初球を引っ掛けさせて平凡なファーストゴロに打ち取ったかに思われたがファーストの高中大一郎がトンネルでノーアウト満塁に。将来の主力と目されている若手選手だが気負ったか。清水の代打金重男は得意のスライダーで三振を奪ったが、ピッチャー小松原の代打立石が粘った末にセンター前タイムリーヒットを打ち返し

た。そして星渡は2球目に注文通りの犠牲フライを打ち上げた。タッチアップでアンジェロは悠々逆転のホームイン。試合を終わらせることに失敗した東京、大連のストッパー比山に対しては意地を見せて2アウト一二塁まで進めたものの、最後は代打として繰り出した「球界一守備範囲が広い男」の異名を持つ俵知佳のバットは比山のフォークを捕らえられず、空振り三振で試合終了。これで大連は21勝12敗4分とした。

2番柳、3番棚橋、4番林がいずれも無安打に抑えられた大連だがパウロと近堂が2安打を放ち、アンジェロも左腕の金憲刃が繰り出したゆるいカーブに対して起用にタイミングを合わせてヒットにするなど対応力を見せた。下位打線は面子は十分なだけにこれから当たりが出てくると面白い。大連に連敗した東京はとにかく怪我や不調といった誤算が多すぎる。ベストメンバーで戦えばこんなことにはならなかっただろうに。



名古屋へ ただ勝利だけを求む

「ホーム」名古屋

6 新井

4 江端

5 森

7 毛一浩

3 フランコ

9 グズマン

8 大芝

2 武繁

1 チェイン

「ビジター」大連

8 星渡(4-1)

3 柳中平(4-1)

6 棚橋(3-1)

9 林(3-0)

5 パウロ(4-1)

4 近堂(4-1)

7 アンジエロ(4-2)

2 清水(3-0) - 森茂(1-0)

1 フローデセン(2-0) - 河剛紀(1-0) - 黄直哉

大 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 1 3 フローデセ

ン(7) - 黄直哉(1)

名 0 0 0 0 3 1 0 0 0 0 0 - 4 チェイン -

浅生 - S 岩辺

東京での試合を連勝で終えた大連は名古屋に移動して試合を行う。対戦相手の名古屋は去年のリーグ王者に輝いたチームで、監督である押合博水のカラーがよく浸透している。チームの武器は質量ともに豊富な投手陣で、戦力になる投手が次々と登場するのでうらやましいという球団も多いはずだ。一方野手陣はどこか閉塞感があるというか、押合監督就任当初はセカンド新井シヨート江端は鉄壁の守りと評されるほどであったがさすがに衰えが見え始めた。キャッチャー竹繁や昨年のMVP毛一浩などベテランに頼っているのが現状だが次は誰か、となるといまいち見えてこない。外国人は独自のドミニカルトが存在するが全体的に粗っぽい選手が多い。今季加入のグズマンなどその典型で、確かにパワーはあるがそれだけ、パワーほど怖くない印象である。しかし全体的にはよく統制が取れており、簡単に勝たせてはくれない球団だ。

大連の先発はフローデセン、名古屋はチェイン。チェインはストリートに定評のある左腕で2年前には防御率1点台を記録したこともある実力派だ。先制したのは大連。2回、先頭の林は平凡なサードゴロだったが森将広がエラーで出塁。パウロはレフトフライに倒れ、近堂はシヨートゴロで二塁封殺も一塁はセーフ。そして回ってきたアンジェロがチェインの149キロを計測したストリートをパワーで弾き返してライトスタンド下段に突き刺した。大連では初めてとなるホームランで2点をスコアボードに加えた。

3回までは安定したピッチングを見せていたフローデセンだが、打者が二回り目となる4回に捕まった。5月に入って調子を上げてきた新井が三遊間を抜くヒットで出塁すると、盗塁とセカンドゴロで三塁まで進む。そして2回に失策を記録した森が挽回の二塁打を放ち1点差。続く毛一浩はフローデセンのカットボールを捕らえてレフトスタンドへ逆転の2ランホームラン。経験と実績に関してはさすがなもので、ここぞの場面で一気に勝負を決めてくる。5回に

は大ベテランのキャッチャー武繁元徳がホームランを放ち4点目を加える。フローデセンは7回を4失点で降板。

名古屋は8回にセットアップ浅生達也を繰り出し大連を三者凡退に抑えた。9回はもちろん岩辺仁志。しかし今季の岩辺は不安定で、今日もピリツとしないピッチングだった。特に右打者に対してはまったくの無力で、先頭の棚橋が早速レフト前ヒットで出塁。左打者の林はライトフライに打ち取ったが右のパウロにはセンター前ヒット、同じく右の近堂にはショートの後方に落ちるヒットで棚橋がホームイン。なおもワンナウトでバッターは左打者のアンジェロだが、アンジェロは今日2安打を放っているので勢いに賭けて代打は送らず。しかしアンジェロは岩辺のスライダーの前に空振り三振。岩辺が未だ左打者に対しては抑える力がある所を見せた。最後は清水の代打森茂をサードフライに仕留めてゲームセット。大連の追い上げは届かなかった。これで21勝13敗4分となった。

岩辺はまたも打ち込まれながら最後の1点はやらないギリギリのピッチングでセーブを稼いだ。2点差なら1点取られ、3点差なら2点取られるという綱渡りが続いているがこれが最後まで持つわけがない。全盛期の磐石ぶりと同じと見比べると力の衰えは明らかだが、今はまだ名前で抑えることも出来る。しかしこれ以上進むともう歯止めがかからなくなる。その先に待つものは、いや、あの言葉はその時になつたら口にしよう。10年以上リリーフという過酷な世界で投げ続けた鉄腕も永遠に続くわけではない。むしろここまで持ったという事実こそ彼の偉大さを証明している。浅生もいるし名古屋はきつと大丈夫。

松浦賛歌

「ホーム」名古屋

6 新井

4 江端

5 森

7 毛一浩

3 フランコ

9 グズマン

8 大芝

2 武繁

1 朝熊

「ビジター」大連

8 星渡(4-1)

3 柳中平(4-2)

6 棚橋(5-1)

9 林(2-0)

5 パウロ(4-2)

4 近堂(4-1)

7 アンジエロ(4-1)

2 清水(4-1)

1 松浦(3-0) - 森茂(1-0) - 比山

大 0 0 0 3 0 0 0 0 0 3  
松浦(8)

- S比山(1)

名 1 0 0 0 0 0 0 0 0 1  
朝熊 - 泡原

- 宮瀬 - 平田 - 中峰

名古屋の先発は来月には30歳になる朝熊健大。去年は不本意な成績に終わり、今季に賭けるものがある選手だ。大連の先発は19歳の松浦。こう見ると朝熊もいい年齢になったものだ。若い松浦には負けられまい。その意を汲み取ったか、名古屋打線がいきなり先制点の援護をプレゼントする。一死後、江端が流し打ちでレフト前ヒット。ようやく調子を取り戻してきたか。森もセンター前に落として続くと、4番毛一浩がストレートを叩いて三遊間を破るタイムリーヒット。さすがに技術が安定している。

援護をもらった朝熊だが、そのピッチングには安定感がかけていた。毎回ランナーを出していたが失点につながったのが4回。先頭の林に対して四球。続くパウロは置きにいったストレートを狙い撃ちされて右中間に落ちるヒット。さらに近堂にも四球を与えてノーアウト満塁としてしまう。アンジェロはかなりリラックスして打席に入ったという。案の定走者一掃のタイムリー2ベースを左中間に放った。朝熊は5回まで投げて降板したがコントロールの調整はまだ不十分か。

初回に連打を浴びた松浦は尻上がり調子が良くなっていった。終わってみれば今季最長の8回を投げて1失点のみに抑えた。最後は比山が3人で仕留めてゲームセット。名古屋との対決は1勝1敗の五分に終わった。大連の通算成績はこれで22勝13敗4分となった。

名古屋に限らずスミ1ではそうそう勝てないものだ。しかし松浦の投球は投げるたびに自己最高を更新しているようだ。若い選手にとってはやりにくい相手が多い名古屋打線に対しても勇気を持って立ち向かうことが出来た。特に4回、ツーアウト二塁で毛一浩と対戦した際のピッチングは見事だった。自分のストロングポイントである糸を引くようなノビのいいストレートをガンガン投げ込み、毛

をサードファールフライに抑え込んだ投球は若さという輝きに満ち溢れていた。

思い出すのは2年前、第一次ドラフト会議で彼の名前が読み上げられた時の事だ。緑ヶ原高校という広島県にある公立高校の無名投手が突如1位指名され、どんな人物なのかとはるばる瀬戸内まで尋ねてみると、そこに現れたのは中学生かと思間違えるようなあどけない少年だった。しかし今の松浦はすっかりたくましくなっている。細長い手足と子供っぽい顔はあの頃のままだが、その内面は大陸で大きい鍛えられたようだ。1年目はあえて一軍に上げないという方針の下で体力をつけたのが功を奏している。まあ今のところは順調すぎて逆に危うい。これから壁にぶつかるだろうが、それも力強く打ち破り、さらに大きく前進出来るようになるだろう。松浦心とはそう思わせる男だ。

闇に揺れる黒い炎

「ホーム」大阪

9 ムートン

4 梅本

6 島谷

5 辛貴一

3 ブラジル

7 金成博

2 堂島

8 辻川駿

1 能美

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 0)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 0)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 瑞穂 (2 - 0) - 李春稀 (1 - 1) - 伊東 - 本郷 (1 - 0)

大連 0 0 0 2 0 0 0 2 0 4 瑞穂 (7)

- 伊東 (1)

大阪 0 0 0 1 3 0 0 2 - 6 能美 - 榎谷

- 久保木 - S 辻川久

名古屋遠征の次は大阪。野球どころとしても名高い関西の代表的球団ということでもかなり熱狂的なファンが多く、本拠地は毎試合ほぼ満員という大盛況っぷりである。ファンのパワーがチームのパワーとなつてはいるがなぜか肝心なところで勝負弱い。チームの戦力で言うとこれも東京と同じく誤算が多い。積極的な補強で強豪にふさわしい陣容を組んできたがその中心の4番レフトとして長年君臨してきた「鉄人」金成博はすでにガタがきておりほとんど使い物になつていない。早く引退したほうがいい。金の同胞の後輩である朴貴一が現在の4番として奮闘しているが迫力のある選手ではない。投手陣は先発よりリリーフ重視という独特な起用法で知られていたがそろそろ再編の時期を迎えつつある。総合的に見て優勝して当然とすら言えるほどの駒は揃つてはいるのだが、まあこれから調子を上げてくるのだろう。金を除いて。

さて、試合は大連が瑞穂、大阪が能美という先発で試合開始。序盤はほとんど動きがなかったが4回に大連が先制。一死後、棚橋がレフト前2ベースでチャンスを作ると林がレフトの頭を越す3ベースを放つて棚橋が悠々ホームイン。続くパウロもレフトに犠牲フライをきつちり上げて2点目とした。5回裏に大阪は堂島のソロホームランで反撃。さらに6回、一死後売出し中の若手梅本博史がスライダーを左中間に落として2ベースとすると、島谷のライト前ヒットで一気にホームイン。これで同点とした大阪は続く辛のホームランで一気に4対2と逆転に成功した。

ここで勢いに乗った大阪がそのまま勝利、といかないのが今季の大阪を象徴しているようだ。7回に登板したルーキー榎谷は良かったが、8回を任された久保木がピリツとしない。かつては年間90試合登板を果たした鉄腕だが当時からの信頼度は今ひとつだった。今日も先頭打者となった瑞穂の代打李春稀にストレートをレフト後方に運ばれる2ベースを打たれてピンチを作ってしまう。星渡四球で



一二塁として柳中平にはストレートをレフト前に運ばれ1失点。棚橋と林は抑えたがパウロに対して投じたスライダーをうまく打たれてレフト前同点タイムリーを浴びる。それにしても大連は徹底的に打球を左方向に集めている。いや、大連に限らず大阪相手ではこのチームもしてくることだ。金はもはや限界などという段階を超越している。今の無残な姿を晒すことで一体何が生まれるというのか。偉大な選手だった、タフな選手だった。もうそれで十分だ。一刻も早く決断してほしい。

大阪とてやられっぱなしではない、という事で同点となった大連が送った2番手伊東を攻め立てる。先頭の金成博はライトフライに打ち取ったが堂島が2ベース、辻川駿人がレフト前ヒットでワンナウト一三塁と絶好のチャンスを作ると、久保木に代打黄進次が送られた。黄は三振に終わったもののファンのボルテージは最高潮に達した。この間に辻川駿が盗塁を決めてツーアウト二三塁。トップに戻ってムートンがストレートを弾き返して2点タイムリーヒット。これで勝負あり。最後は辻川久児が3人でびしゃりと抑えて大阪勝利。最後の最後はまだまだ強さを保っている。大連の通算成績はこれで22勝14敗4分となった。6回2失点と試合を作った能美ではなく、能美から引き継いで1回をきっちり抑えた榎谷でもなく、1回を2失点と炎上した久保木が勝利投手となるのが野球である。

打線爆発 もう控えとは言わせない

「ホーム」大阪

9 ムートン

4 梅本

6 島谷

5 辛貴一

3 ブラジル

7 金成博

2 堂島

8 辻川駿

1 スタンリー

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

7 アンジェロ (4 - 2)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

6 本郷 (5 - 1)

4 近堂 (5 - 3)

3 李春稀 (5 - 1)

2 金重男 (5 - 3)

1 赤坂 (4 - 1)

大連 3 2 0 0 0 0 0 1 1 0 2 8 赤坂 (9)

大阪 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1 1 スタンリー

- 福浜 - 古林広

大連はスタメンを大幅に変更してきた。具体的にはアンジェロを

2番に昇格、林を3番パウロを4番に据える、キャッチャーに大連では初のスタメン起用となる金重男、ファーストに昨日今季初ヒットを放った李春稀、ショートには負傷以来初めて一軍で守備につく本郷が出場。先発はルーキー赤坂であるが、今日の赤坂はすこぶる調子が良く、不動のレギュラー陣を休ませてもまったく問題がなかった。

大連は初回から大阪先発スタンリーに襲いかかる。このスタンリーという投手、極端に夜型の人間でナイターでは好成績を残すもののデイゲームでは打たれまくるという特徴がある。本日はデイゲーム。つまり大阪はまったくの二線級投手を先発に送り出したも同然だ。早速星渡がライト前ヒットで出塁するとアンジェロに対しては一目でそれとわかるボール球を連発して四球。さらにダブルスチールを成功させて揺さぶった後、林が球威のないストレートをライトスタンドに叩き込んでノーアウトながらあっさり先制。2回にはピッチャー赤坂にプロ初ヒットを献上する体たらく。一死後アンジェロに走者一掃のレフト線を破る2ベースを食らうなどフラフラなまま2回限りで降板。

序盤から大量援護をもらった赤坂はのびのびとしたピッチングを披露。大阪打線をまったく寄せ付けなかった。ストレートの切れ味もさることながら、今日素晴らしかったのはスライダーであった。縦に落ちるスライダーはウイニングショットとして12の三振を奪う原動力となった。8回、島谷にソロホームランを浴びたがそれだけ。ピンチらしいピンチもないまま初完投で3勝目を挙げた。

大阪の2番手福浜信夫はコントロールがなかなか安定しており5回を無失点と見事なロングリリーフを見せた。8回から登板した3番手の古林広はアンジェロにレフトヘソロホームランを浴びる不安定な内容。9回には先頭のパウロにレフト前ヒットを浴び、本郷は

三振に打ち取ったが近堂に猛打賞となるレフト線への2ベースヒットを打たれて1失点。続く李春稀に対してもライト前にタイムリーを打たれた。これで大連は先発全員安打。金重男も猛打賞となり、合計15安打で8得点と見事な大勝利。大連の通算成績はこれで23勝14敗4分となった。

交流戦はこれで1/4が終了した。次節は火曜日からは始まるが大連は休養で26日の木曜日からは試合が始まる。次の対戦相手は京都なので関西に残って練習をする。しかし今日の試合結果は劉監督にとっても予想外だったのではないか。控えメインだった選手が打ちまくって猛アピール。スタメンから外れた棚橋、清水、柳中平といった主力選手にとってもいい刺激となっただろう。次の試合のオーダーがどうなるか注目だ。

霧雨の古都 つばぜり合いの投手戦

「ホーム」京都

8 青井

4 棚田

3 畠田

9 バレンタイン

7 グイエル

5 皆本

6 辛貴裕

2 相沢

1 立山

「ビジター」大連

8 星渡(4-0)

7 アンジェロ(4-0)

6 棚橋(3-0)

9 林(4-1)

5 パウロ(4-1)

4 近堂(3-0)

3 柳中平(2-0)

2 清水(3-2)

1 吉野(1-0) - 立石(1-0) - 小松原 - 比山

大 0 0 0 0 0 1 0 0 1 吉野(7) -

小松原(1) - 比山(1)

京 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 立山 - 林昌雄

月曜日と2日の休養日を経て京都との2連戦。このチーム、今で

こそ京都に本拠地を構えているが元々は国鉄を名乗り東京を本拠地にしていた。ファミリー主義でも有名で、それが馴れ合いの土壌を生みなかなか優勝できずにいたが20世紀の終わり、90年代はなかなかの強さを見せた。当初は東京が本拠地だったということである。京に対しては強い敵愾心を持っており、応援歌を歌う際にわざわざ「くたばれ東京」などを入れるほどである。しかし東京にいた頃はファンが少ない、故郷を持たない球団だったので移転したのは正解だった。本来はピジターの広島や大阪にホーム神宮球場をジャックされる光景が日常では情けない。それはともかく今季の京都は好調である。何より先発がいい。今まで獲得してきた好素材がいよいよ形になってきたか。それに打線はバレンティン加入が大きい。早くも13本塁打と驚異的なパワーを爆発させており、本格化した畠田とともに打線に厚みを加えた。このままいくと面白い順位で終わることが出来るかもしれない。

さて、大連の打線はいつものメンバーに戻ったが打順を多少工夫し、好調のアンジェロを2番に置く新たな布陣を敷いた。そして先発は絶好調の吉野大吾。対する京都の先発は近年抜群の安定感を見せている立山昌大。まさにエース対決で予想通り両投手は好投。1点を争う好ゲームが展開された。

4回までは両者ともノーヒットだった。初ヒットは5回、京都のベテラン皆本慎二。名ショットだったが近年は衰えからサイドに回されていた。しかし打撃技術は健在で2000本安打も視野に入れている。しかし続かず。大連の初ヒットは直後の6回表、先頭打者の清水が初球のストレートを打ち抜きレフト前に落とす。清水によると「当てずっぽうだった」との事だが絶妙なポテンヒットだった。吉野はきっちり犠打を決め、得点圏にランナーを進める。星渡はファーストゴロに倒れたがランナーは三塁へ進塁。そして2番に置かれたアンジェロだったがここは立山の勝ち。三振で先制点なら

ず。

そうしているうちに京都が先制点を挙げてしまう。6回、二死までは簡単に取ったが売り出し中のスラッガー畠田にレフトスタンドへホームランを打たれた。畠田は今年突然出てきたわけではなくここ数年ブレイクの欠片を積み重ねていた選手であり、要は実力である。続くバレンタインにも右中間に鋭い打球を飛ばされたがセンター星渡がよく追いついてナイスキャッチ。これ以上の炎上は防いだ。

7回表、ようやく大連打線が立山に牙をむいた。一死後、林がライト前ヒットで出塁。そしてパウロがレフトフェンス直撃の2ベースを放ってランナー二三塁。近堂はサードゴロでランナー自重して2アウト、柳中平は臭い球を器用にカットして四球を選び取った。2アウト満塁のチャンスで打席には清水。劉監督はここで代打、例えば昨日3安打の金重男を起用という選択肢もあつたが今日チーム初安打を打った清水に賭けた。そして清水はそれに応えた。球威に負けたような打球がフラフラと右方向へ飛ぶ。セカンド棚田がジャンプするが届かず、ライト前に落ちた。林はホームイン。パウロもホームを狙ったがライトバレンタインの強肩とキャッチャー相沢のブロックに阻まれて本塁憤死。逆転ならず。

以降は両チーム無安打でゲームセット。吉野は7回を、立山は8回を1失点に抑え、リリーフも見事な働きを見せた。大連も京都も今季は特に投手陣が好調で、今日のスコアはそれを反映した結果となった。大連の通算成績はこれで23勝14敗5分となった。

霧雨の古都 つばぜり合いの投手戦（後書き）

移転に関しては東京だと地名が被るからってのが半分、本気で移転しろやっつてのが半分です。なぜ京都かというと私が住んでいるからです。実際は去年の横浜身売り騒動で名前が上がった静岡あたりでしょう。で、今の京都は分厚い黒雲に空が覆われており、いつ雨が降り出してもおかしくない状態です。明日は雨かな。しかしこのお話は基本的に雨天中止はありません。帰省中止とか旅行中止はあるかも。



## 張尊安泰の復活勝利

「ホーム」京都

8 青井

4 棚田

3 畠田

9 バレンタイン

7 グイエル

5 皆本

6 辛貴裕

2 相沢

1 村永

「ビジター」大連

8 星渡(4 - 2)

7 アンジェロ(3 - 1)

6 棚橋(5 - 2)

9 林(5 - 2)

5 パウロ(4 - 3) - 大上

4 近堂(5 - 1)

3 柳中平(4 - 1)

2 清水(4 - 0)

1 張尊(3 - 0) - 本郷(1 - 0) - 王貞成 - 平野

大 0 0 2 1 3 0 0 0 0 0 6 張尊(7)

- 王貞成(1 2 / 3) - S平野(1 / 3)

京 0 0 0 0 1 0 0 0 0 2 3 村永 - 朴光

介 - 九戸 - 八本

大連の先発張尊が復活勝利。得意の緩急とコントロールで打たせて取るピッチングが冴え渡り京都打線を7回1失点に抑えた。大連の通算成績はこれで24勝14敗5分となった。

1回、京都が張を攻め立てた。ここで打ち崩せていたらこうはならなかっただろう。まず先頭打者の青井がセカンドゴロだったが近堂がファンブルで一塁に生きた。続く棚田はライトフライに打ち取ったが3番好調の畠田がレフト前に落として一二塁。さらにバレンタインには四球を与えてワンナウト満塁とピンチを招く。しかし張は冷静だった。5番グイエルは高めのボール球を振らせて三振。6番皆本は平凡なサードゴロに打ち取って得点を与えなかった。これ以降京都打線は張の老練な技巧にズルズルとはまっていった。

大連の先制点は3回だった。京都先発の村永はコントロールが悪く早くも2四球を与えていた。この回、先頭の張は抑えたものの星渡にあっさり四球を与えてしまう。直後に盗塁成功。これはエンドラン失敗だったようで劉監督はかすかに渋い表情を見せたが結果的には進塁に成功した。アンジェロのファーストゴロで星渡は三塁に進み、迎えた棚橋が高めのストレートを捕らえてレフト前タイムリ―で先制。さらに林が右中間にフェンス直撃、あわやホームランの2ベースを打って2点目。大連優位に立った。

4回には柳中平のソロホームランで追加点。5回には星渡がサード内野安打とアンジェロ死球でチャンスを作ると棚橋、林、パウロのクリーンナップがタイムリー3連発で村永をノックアウト。そして試合も決めた。張は5回裏、青井にソロホームランを打たれたのが唯一の失点だったが今季2勝目を掴んだ。

8回からは王貞成が登板。この回は3人で抑えたものの9回に京都が反撃開始。先頭のバレンタインがレフトスタンドに弾丸のスピ

ードで突っ込んでいくホームランでのろしを上げると、一死後に皆本がレフト前、代打晋武一が死球でチャンスを作る。相沢は三振で後一人となったが代打ホワイトがライト前タイムリーで6対3まで来た。迎えるバッターは今日ホームランを放っている青井ということ。ここで左キラー平野錦を投入した。平野のクセ球に対して首位打者3回の青井はよく粘りあわやライト線に落ちるヒットかという打球がギリギリファールという場面などを経てショートゴロに打ち取った。ショート棚橋がセカンド近堂にトスして二塁封殺。この時点ゲームセットとなった。

3点差2アウト一三塁の場面で登板してきつちりアウト1つを取った平野にはセーブが記録された。もし平野が青井に打たれた場合は右打者の棚田び対して黄直哉を投入する腹だったらしい。高い安定感を誇る平野は大連の好調を支える貴重なピースとなっている。

負けに等しい引き分けとは

「ホーム」広島

6 楚英仁

4 東江

9 井尾

5 トレンシー

3 黒原

7 岩持

8 丸井

2 石浜

1 ハリントン

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 2)

4 近堂 (3 - 0)

3 柳中平 (4 - 1)

2 清水 (1 - 0) - 金重男 (2 - 1)

1 フローデセン (2 - 1) - 水内 (1 - 0) - 小松原 - 野藤 - 立石

(0 - 0) - 比山

大 0 0 0 0 0 1 1 2 0 4      フローデセン

(6) - 小松原 (1) - 野藤 (1) - 比山 (1)

広 3 0 0 0 0 0 0 0 1 4      ハリントン -

上尾 - シュルト - 中川和

関西を後にして広島へ向かい、その地で連戦。月曜日の休養日を経て横浜に移動しての2連戦で交流戦は一回りする。今日から対戦する広島は市民球団としての歴史もあることから広島人の熱狂的なサポートに恵まれている。80年代には機動力投手力打撃力に秀でた強力なチームとして君臨していた。しかし近年は低迷している。原因は資金力不足だ。毎年黒字はいいのだが選手獲得もままならない。また、育つても他球団に移籍する選手が後を絶たず、低迷に拍車をかけている。それが結果的に若手選手の出番を増やしており、フレッシュな布陣による戦いはなかなか清新な魅力があるが優勝となるとやはり駒不足。特に大砲不足は深刻だ。代わりに機動力や守備力は高い。また、外国人の特に投手獲得には定評があり、今季も今日先発のハリントンと、剛速球を武器にして抑えに定着したサーフェイトは成功と言えそうだ。

広島が得意としている集中攻撃が初回到炸裂した。今日の大連先発フローデセンはややストレートの走りが悪く、先頭の楚英仁にセンターへ抜けようかという当たりを打たれる。棚橋がよく追いついたものの内野安打となり出塁。東江が送り、3番に座る井尾がレフト前ヒットでランナー一三塁。この井尾の潜伏期間は10年を越す。なかなか出番に恵まれなかったが外野手の怪我人続出の今になって存在感を増してきた。4番新外国人トレンシーがフローデセンの高めに浮いたストレートを完璧に捕らえてフェンス直撃の2ベースで2点先制。さらに黒原も左中間へタイムリーヒットを放っていきなり3点をスコアボードに刻んだ。

大連はハリントンのピッチングになかなか対応できず凡打を重ねてしまう。スライダー、チェンジアップなどの変化球を投げ分けて打たせて取る技術に長けている。また例えば3回、一死後に清水を四球で歩かせた後にフローデセンがストレートを痛打し一三塁のチ

ヤンスを作った。ここでもハリントンはまったく落ち着いており、星渡にはチェンジアップを振らせて、アンジエロにはアウトコースへのスライダーを投じての連続三振で切り抜けたようにパワーもかなりのものだ。

その後は安定したハリントンと立ち直ったフローデセンの投げ合いとなった。6回に大連は棚橋のソロホームランで1点を返した。7回には先頭のパウロが左中間フェンス直撃の2ベースと犠打でチヤンスを作った。柳はファーストゴロでランナー自重。ここで清水に代打金重男が告げられた。大阪戦での好調が記憶に新しい金は今日もついていた。ストレートに詰まった打球はフラフラと左方向へ上がり、ショートとレフトの隙間を埋めるようにグラウンドに落ちた。続いて登場した代打水内はライトフライに倒れてこの回はここまで。

7回裏、ハリントンの打席で代打が出たのでここで降板。しかし広島のリリーフ陣は先発と比べると不安定。その不安要素がやはり出てしまった。まず登板してきた上尾はここ数試合それなりの投球を見せてきたがセットアッパーとしては不足しており、いきなり先頭の星渡にライト前ヒットを打たれる。続くアンジエロにはストレートのフォアボール。この体たらくに野々村監督慄然、早くも上尾を下げてシュツトを繰り出した。しかしこのシュルトも今季はまったく安定感がない。棚橋の打球もヒヤリとさせたが丸井がよく追いついてセンターフライ。しかし林には打たれた。ライト線に落ちる絶妙な打撃を見せて同点に追いつくと、続くパウロもセンターへ強烈なライナー性の打球を飛ばした。アンジエロがホームに突入し、クロスプレーとなったが生還。4対3と大連が逆転に成功した。なおも追撃の手を緩めずに試合を決めたい大連だが近堂はセカンドゴロダブルプレーに終わった。まったくの打ち損じでもったいなかった。これが試合の最終盤に響くのは野球においてよくある話である。

7回は小松原、8回は野藤がきっちり抑えたところで逆転。もちろぬ9回は比山登板である。比山は4番トレンシー、5番黒原とやつかいな打者を打ち取り勝利が明確に見えてきた。しかし6番岩持がライト前ヒット。ここで風向きが急変する。7番丸井もストレートを積極的に振りぬいてセンター前。さらに石浜は四球を選びツイアウト満塁となった。ここで代打に登場したのは前山智信。天才と呼ばれ続けた男も今年40歳を迎える。しかし彼の球歴を思えばここまで現役を続けられただけで驚異的とさえ言える。度重なる怪我に苦しめられたが打撃へのこだわりと執念でここまで立ってきた。選手生命はもはや晩年。だからこそ今のうちに見ておきたい選手の一人である。

対するピッチャーの比山は元々ハートが弱いなどと言われてきた投手。前山のオーラに圧倒されたか、比山が3球目に投じたフォークボールがあるうことが暴投に。岩持の代走金昇吾がホームに突入して同点に追いつく。なおもサヨナラのチャンスだったがなんとかセカンドゴロに打ち取ってゲームセット。点を取っては取り返され、取られては取り返し。どちらも譲らぬ試合の結末は痛み分けに終わった。大連の通算成績はこれで24勝14敗6分となった。

1点の攻防 風雲渦巻く

「ホーム」広島

6 楚英仁

4 東江

9 井尾

5 トレンシー

3 黒原

7 岩持

8 丸井

2 石浜

1 深井

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (2 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

4 近堂 (4 - 0)

3 柳中平 (4 - 1)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 松浦 (2 - 0) - 李春稀 (1 - 0) - 伊東 - 野藤 - 黄直哉 - 折口

(1 - 0)

大 0 0 0 1 0 0 0 1 0 2 松浦 (6) -

伊東 (1) - 野藤 (1 / 3) - 黄直哉 (2 / 3)

広 0 0 0 1 1 0 0 1 - 3 深井 - 青井 -

シュルト - Sサーフェイト



大連は2年目の松浦、広島は新人の深井という若手投手同士の対決となった。また、広島出身の松浦にとっては凱旋登板でもある。両投手は期待通りの投げあいを見せて日曜日、新広島市民球場に詰め掛けた3万の野球ファンを沸かせた。

初回、やや硬くなっていた松浦がツーアウト三塁のピンチを招いたが4番トレンシーから三振を奪って終わらせた。深井は適度な荒れ球が効果的で大連打線に的を絞らせなかったが4回、パウロに投じたスライダーを力でレフトスタンドまで持っていかれて失点。しかし直後の4回裏、一死後に井尾がサード内野安打で出塁するとトレンシーが左中間へ二塁打を放って同点に追いつく。さらに5回、キャッチャー石浜がホームラン。このキャッチャー、打撃に定評のある選手ではないが意外な場面で存在感を発揮する。

深井は7回をパウロのホームランによる1失点に抑え、勝利投手の権利を持って降板。しかし救援陣がリードを守りきれない。8回、広島は左サイドスローの青井を繰り出したがいきなり左打者の星渡にヒットを打たれる。続くアンジェロからは三振を奪ったが柵橋にセンター前ヒット、林には四球を与えて満塁にしてしまう。ここでピッチャーをシュルトに交代した。しかし相変わらずシュルトは球威に欠けており、パウロにはあわやレフトオーバーの犠牲フライを打たれる。これで同点となったが続く近堂をショートゴロに抑えて逆転は許さなかった。

8回裏、大連は3番手に野藤を起用。今季は状態の良い野藤だが今日はいまひとつ。先頭打者として代打で登場したベテラン王忠徳に四球を選ばれる。もっとも王忠徳は今季の出塁率が5割を超えるという凄まじさなので仕方ないともいえる。トップに戻って楚英仁はセカンドの頭上を越えるポテンヒット。東江の送りバントでワン

ナウト一三塁としたところで大連はピッチャーを右サイドスローの黄直哉に交代。迎えるのは右打者の井尾。井尾は黄の独特の軌道を描くストレートを何とかファールでかわし、外角へのスライダーを待っていたかのように捕らえた。勝ち越しのレフト前ヒット。これが決勝点となる、まさに勝利を呼び込む執念の一打だった。続くトレンシーは黄が力を見せてダブルプレーに打ち取った。

9回はロケットのようなストレートを投げる新外国人サーフェイトが登板。とにかく力で押しまくるピッチングで柳中平を三振、清水の代打金重男をセカンドフライ、そしてピッチャーの代打折口を空振り三振に仕留めてゲームセット。激しい嵐のようなピッチングで試合を締めくくった。大連の通算成績はこれで24勝15敗6分となった。

1点の攻防 風雲渦巻く(後書き)

梅雨のみならず台風まで来るとは。実際の広島では試合やれたもん  
じゃないだろうな。

横浜を圧倒 変わりゆく戦力

「ホーム」横浜

6 市川

8 朴哲稀

3 ハイパー

5 室田

7 スレツド

9 金龍神

4 渡部

2 武慎剛

1 山森

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

3 柳中平 (5 - 3)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (5 - 3)

5 パウロ (4 - 1) - 森茂 (1 - 0)

7 アンジエロ (4 - 2)

4 本郷 (4 - 1)

2 清水 (4 - 1)

1 瑞穂 (3 - 0) - 古池 (1 - 0) - 石風呂

大 0 1 4 0 2 0 0 1 1 9

- 石風呂 (2) 瑞穂 (7)

横 0 0 0 2 0 0 0 0 0 2 山森 - 小原

新 - 江島 - 下原 - 沢田 - マン

交流戦もあと2試合で折り返し。前半戦最後の対戦相手は横浜だ。この横浜であるが、現状はかなり厳しい。3年連続90敗突破でもちろん最下位独走。原因は多すぎるのだが、とりあえず短絡的な監督交代はやめたほうがいい。横浜から移籍した選手が横浜の悪口を言いまくっているのも浅ましい光景だが、他の球団でここまで言いまくる選手はそう輩出されるものではなく球団の教育が何かに問題があるのではと疑ってしまう。去年は身売り騒動が持ち上がるなど野球以外の部分でもゴタゴタを演じてしまった。球場はヤクザに握られているし移転したほうがいい。今季の成績もやはりまいち。それはそうだ、いきなり強くなるなんて漫画みたいな展開はそうそうあるものではない。時間をかけて一貫した強化策を講じていけばどうにかなるかもしれない。広島と違って金はないわけではないのだから、使い道さえ誤らなければ。

さて、本日の先発は大連が瑞穂、横浜は山森と今季移籍加入した投手同士となった。ともにコントロールの良さを生かしたピッチングが持ち味である。しかし両者には一つの差があった。それは球威だ。26歳と伸び盛りの瑞穂は140キロ台後半のストレートをコーナーいっぱい投げ込むが山森は130キロ台がほとんど。これではなかなかかわしきれない。初回、いきなり連打を浴びながらも何とかしのいだが、2回にアンジェロがストレートをレフトスタンドに飛ばして大連がまず得点を挙げる。

3回、先頭の柳中平がショート内野安打で出塁。普通にやれば刺せない打球ではなかったが全力疾走を怠らなかつた柳の勝利。続く棚橋がセンターオーバーの2ベースで追加点を加えると、林とパウロの連続ホームランが炸裂して山森をノックアウト。いずれも変化球をカットして球威のないストレートを叩いたものだった。

横浜は4回に札幌からFA移籍してきた朴哲稀がレフト前ヒット

で出塁すると、一死後に男室田がホームランを放って5対2とした。しかし直後の5回表に大連がまた横浜を突き放す。3イニング目となるルーキーの小原新司に対して先頭の林がいきなりレフト線への流し打ちを披露して2ベースとする。続くパウロはランナーを進ませないピッチャーゴロに打ち取ったがアンジェロに四球を与えてしまい、本日セカンドスタメンに起用された本郷のライト前タイムリーヒットと清水の犠牲フライで2点を追加。これで試合は決まった。

8回にピッチャーの代打として登場した古池吉郎が3ベースヒット。この古池、開幕当初は代打の切り札として期待されていたがまったくヒットが出ず二軍で調整していたが、今日河剛紀に代わって一軍へ再昇格した。古池の奮闘に応えるように星渡が一二塁間を破るタイムリーヒットを放った。9回には林が今日2本目のホームランをライトスタンドに叩き込んで9対2に。瑞穂は7回を室田のホームランによる失点だけに抑え、最後の2回も石風呂がきつちりと0に終わらせた。投打ともに大連の大勝で、通算成績はこれで25勝15敗6分となった。

ここ数試合いまいちだった近堂をスタメンから外して怪我から復帰後は初めて一軍で守備に就く本郷を起用したが無難な働き。また、二軍では負傷で離脱していたノーリーが実戦復帰した。レフトはアンジェロで埋まったが、元々ノーリーは内外野どこでもこなすユーティリティープレイヤー。打撃も器用でリザーブとしてこれ以上ない適任者といえる。森茂あたりはそろそろアピールしないと危ないかも知れない。

## 横浜を圧倒 変わりゆく戦力（後書き）

明日は大阪ドームへ試合を見に行くのでちょっと早く更新する予定。スポーツ観戦はのめりこみすぎないようにどっちもファンではないチーム同士の対戦を見ることが多いですがそれでも十分楽しめます。ちょっとした非日常世界の冒険です。

交流戦折り返し 燃える横浜の夜

「ホーム」横浜

6 市川

8 朴哲稀

3 ハイパー

5 室田

7 スレツド

9 金龍神

4 渡部

2 武慎剛

1 クレイトン

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (5 - 0)

4 近堂 (5 - 2)

2 清水 (5 - 1)

1 赤坂 (2 - 1) - 森茂 (0 - 0) - 伊東 - 古池 (0 - 0) - 大上

- 平野 - 比山

大 1 0 0 0 3 0 0 3 0 7 赤坂 (5) -

伊東 (2) - 平野 (1) - S比山 (1)

横 0 1 1 0 2 1 0 0 0 5 クレイトン -

江島 - 加谷 - 下原 - 沢田



前日は大連の一方的な勝利という情けない姿を晒してしまった横浜。今日は先発に新外国人のクレイトンを繰り出したがはつきり言っただけで期待できる選手ではない。大連は新人赤坂が登板。また、近堂もスタメンに復帰している。

初回、星渡がクレイトンのストレートをライトスタンドに叩き込む先頭打者ホームランで幸先よく先制点を挙げる。しかしクレイトンはその後それなりに立ち直る。その間に赤坂が横浜打線に打たれる。2回、ツーアウトまで取りながら金龍神にセンター前ヒット、渡部に死球を与えてランナーをためると、キャッチャー武慎剛にレフト前タイムリーを浴びて同点。3回、ハイパーに逆転のソロホームランを打たれたのもツーアウトになってからだった。あと一人というところで打たれるのはもったいない。

5回表、クレイトンの球威が落ちてきたところで大連が反撃を開始した。先頭打者はピッチャーの赤坂だが、レフト線へ引つ張り二塁打となった。星渡のセカンドゴロで三塁まで進むと、柳中平がシヨートの頭上を越すタイムリーヒットを打って赤坂生還。さらに柵橋四球で一二塁から林による走者一掃のツーベースで一気に逆転した。

昨日のデジャブか。いや、今日の横浜は昨日とは違っていた。一死後、クレイトンの代打で登場した稲葉直仁が3ベースヒットでチャンスを作ると、トップに戻って市川が三遊間を破るタイムリーヒットで得点。朴哲稀が送り、3番ハイパーが右中間にタイムリーヒットで同点。さらに室田がライトオーバーでフェンス直撃の二塁打を放ち、ハイパーが一気に逆転のホームを狙ったが林の返球に阻まれて憤死。惜しくも逆転ならず。赤坂は最後の打席で代打を送られて5回4失点で降板。先発はともに5回までで降板し、リリーフ勝

負が始まる。

先に動いたのは横浜。6回、大連の2番手として登板した伊東からスレッドがホームランで逆転。しかしそれからの横浜は空白だった。伊東は最初のホームラン以降は安定したピッチングを見せて2回を1失点とそこそこ整えてきた。横浜のリリーフは6回の江島、7回の加谷はともに3人で抑えたが8回にムードが変化する。

8回から登板したのは左腕の下原。先頭の清水は粘られたもののライトフライに打ち取ったが、伊東の代打古池に対しては四球。続く星渡にはスライダーを引つ張られてライト前ヒット。柳は三振に仕留めたが柵橋に逆転の3ランホームランを打たれてしまった。ここまで無安打だった柵橋に対して下原は慎重でありすぎた。2球連続でボール球とカウントを苦しくしたところで投じた甘いスライダーをジャストミートされ、打球は大連ファンの集うレフトスタンドに吸い込まれた。

8回は平野、9回は比山が横浜の打者を抑えてシーソーゲームに終止符を打った。大連の通算成績はこれで26勝15敗6分となった。前半戦12試合を終えて7勝3敗2分と好ペースで勝利を挙げている。ベテラン伊東は今季初勝利。リリーフとしてなかなかの仕事を続けており頼もしい。野球人生は怪我が多くなかなか実力をフルに発揮できなかつたが、精神的に安定しているクレバーな投手である。

交流戦折り返し 燃える横浜の夜（後書き）

昨日いったとおり普段より早い更新。これから見に行くのはオリックス対横浜。このカードに期待しているのは派手でむちゃくちゃな試合ですが統一球のせいでも投手戦ならぬ貧打戦になったら勘弁。ノリはまだ二軍なものもほんの少し残念。まあチケット買ったのは入団発表より前だったので仕方ない。

交流戦後半開始 疑惑の銃弾

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (3 - 0)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (3 - 0) - 本郷

5 パウロ (3 - 0)

7 アンジエロ (3 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (2 - 0) - 古池 (1 - 1) - 大上 - 金重男

1 吉野 (2 - 0) - ドラゲノフ (1 - 1) - 王貞成

「ビジター」名古屋

6 新井

4 江端

5 森

7 毛一浩

3 斉木

9 野森

8 弘田

2 大山

1 ネルトン

名	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	ネルトン
大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	吉野 (8)
- 王貞成 (1)													

日本列島遠征を終えて今度は日本の球団が大陸に遠征している。

大連にとっては移動また移動の日々から一転、交流戦最終試合が予定されている6月22日の横浜戦まではずっと本拠地で日本の6球団を迎え撃つという楽な日程になる。本来は6月4日から開催されていたが大連はまず休養が当てられたのは日本ラウンドと同様。しかし今日に限って言えば休養期間が長すぎたようで、特に打撃陣の勘が鈍っていた。名古屋の先発ネルトンに散發3安打完封と、手も足も出ずに敗北。大連先発吉野は援護なく今季初黒星を喫した。

名古屋の先発ネルトンは独自のドミニカルートで獲得した外国人投手。かなりアウトローな前歴を持っており、アメリカから国外追放されたのでイスラエルでプレーしたこともある。しかし素材は確かだったようだ。毎年順調に成長しており、今季は開幕投手に任命されるまでになった。特にコントロールの成長は目を見張るものがあり、得意とする弾丸のようなストレートがますます生きるようになっていく。

初回、先頭打者の星渡には粘られたが最後はストレートで押し切ってライトフライ。柳中平は二遊間を抜けようかという当たりだったが新井がよく回り込んで刺した。棚橋はレフト前方に落ちそうなライナーだったが毛一浩がキャッチ。結局一番危なかったのがこの初回だった。それ以降ネルトンはストレート主体で押しまくり、大連の打撃陣をきりきり舞いにさせた。

名古屋が先制点を奪ったのは4回。一死後、森のセンター前ヒットと毛一浩の四球でランナーをためると、5番に入っているベテラン斉木が走者一掃のタイムリー2ベースを放った。チームの若返り策として横浜から放出された斉木だが、現在得点圏打率が6割を超えるなど勝負強さは健在である。打ったのはスライダー。失投ではない、いいコースに行ったボールだったが斉木は読んでいた。結局得点はそれだけだったが今日のネルトンにとってはそれだけで十分

だった。

大連の初ヒットは6回ワンナウトで打席に立った星渡のショートへの内野安打であった。8回には一死後代打として繰り出した古池とドラグノフが連打で一二塁としたが星渡三振と柳セカンドゴロでチャンスを生かせず。9回は林が四球で出塁して代走に本郷が送られたが、パウロは初球に手を出してショートゴロ併殺打となりあっさりゲームセット。大連は三塁を踏むことができなかった。大連の通算成績はこれで26勝16敗6分となった。

名古屋完勝。大連にとってはまったく冴えない試合だった。光明は今季途中にトレードで加入したドラグノフが大連初打席でヒットを放った事ぐらいか。今日のヒットはネルトンのストレートをパワ―で押し返したものだ。技術的には甘さが残るドラグノフだがその身体能力の高さは誰もが認めるところ。打者育成に定評のある潘一鶴打撃コーチの元で開花となるか、注目される。

連敗スタート 噛み合わせぬ歯車

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 0)

3 柳中平 (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 1) - 大上

7 アンジエロ (4 - 1)

4 本郷 (2 - 0) - 森茂 (1 - 1) - ドラグノフ (1 - 0)

2 清水 (2 - 0) - 立石 (1 - 0)

1 張尊 (2 - 1) - 古池 (1 - 0) - 小松原 - 黄直哉

「ビジター」名古屋

6 新井

4 江端

5 森

7 毛一浩

3 斉木

9 野森

8 弘田

2 大山

1 吉井

名 0 0 0 0 1 0 1 0 2  
 - S 岩辺  
 吉井 - 浅生

大 1 0 0 0 0 0 0 1  
 小松原 (1) - 黄直哉 (1)  
 張尊 (7) -

初回、大連は柵橋がレフトポール際へ放ったホームランで先制。しかしその後が続かなかった。吉井はコントロールと多彩な変化球を持ち崩れにくい投手。今日はスライダーの切れがいまいちで柵橋にホームランを打たれたのもそれだったが、2回以降はシュート主体に切り替えて内野ゴロの山を築いた。終わってみると7回を初回のホームランのみに抑えたのはさすがだ。

大連先発の張尊も吉井に負けず劣らずのコントロールを持っており安定感の高い投手。淡々と名古屋打線を抑えていったが6回に落とし穴が待っていた。この回は1番新井から始まる打線だったが新井はサードゴロに抑えた。しかし続く江端に投じた内角に食い込むシュートを完全な体勢で振りぬかれた。打球はレフトスタンド前列に飛び込む同点ホームランとなった。今季ここまでホームランはゼロ。守備もかつてと比較すると見劣りしており衰えも指摘されてきたが健在をアピールした。

7回裏、大連は一死後本郷の代打森茂がレフト線にクリーンヒット。清水が送ってツーアウト二塁としたところで先発張に代えて古池を代打に送ったがセンターフライに倒れる。直後の8回表、2番手小松原は簡単にアウト2つを奪ったが弘田に対して投じた高めに入ったストレートを左中間に運ばれてしまった。逆転のホームラン。弘田良平は高校時代浪速の四天王の一人に数えられ、期待された選手だったが昨年はやや伸び悩みも見せていた。ここでチャンスをつかめるかが今後の野球人生にとって重要になってくる。そんな相手に小松原のストレートはやや安易だったように見えた。1球の怖さとはまさにこのことか。油断すると手痛い一撃を浴びるものだ。

9回、名古屋の切り札岩辺から一死後にパウロ、アンジエロが連打で最後のチャンスを作ったが代打ドラグノフはセンターフライ、立石はショートゴロに倒れて同点ならずゲームセット。大連の通算



成績はこれで26勝17敗6分となった。2連続で湿った試合を見せられたファンはたまったものではないだろう。

大連に帰還して有利に戦いを進めるはずがいきなり連敗スタートとなってしまうた。この2試合で失点は4だが、それに対して得点はわずか1に終わった。結局のところ野球は点取りゲーム。たった1点では連敗も当然だ。6月、夏に入ったのでそろそろ疲労もたまってくる季節となった。そんな時期だからこそ、ここで踏ん張れるかどうかは今季の順位を左右する。打撃陣は奮起してほしい。投手が崩れる前に。

### 3連敗 繰り返す拙攻

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

4 近堂 (3 - 2)

2 清水 (1 - 0) - 中西 (1 - 0)

1 フローデセン (1 - 0) - 石風呂 - 李春稀 (1 - 0) - 王貞成 -

平野 - 水内 (1 - 0) - 伊東

「ビジター」京都

8 青井

4 棚田

3 ホワイト

7 畠田

9 バレンタイン

5 皆本

6 朴敦土

2 相沢

1 立山

京 0 0 0 0 2 1 0 0 0 3 立山

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 フローデセン

(3 1 / 3) - 石風呂 (1 2 / 3) - 王貞成 (2) - 平野

1) - 伊東 (1)

名古屋に連敗した大連は続いて京都と対戦。しかし打線は未だにエンジンがかからず。京都のエース立山に完封されて3連敗。しかも大連先発フローデセンが右脚の違和感を訴えて早期降板。かなり深刻な状態といえる。

今日のフローデセンは燃えていた。チームに渦巻きつつある悪い空気を振り払うためにストリート主体のパワフルなピッチングを展開。京都の1番青井、2番棚田を連続三振。3番ホワイトをサードファールフライに打ち取る上々の立ち上がり。そのまま3回まで1人のランナーも出さない好投を見せた。

しかし打線に火がつかない。2回、アンジエロがこの試合初安打を放つも牽制死。3回には近堂がレフト前ヒットを打ったが清水はセカンドゴロでダブルプレーなどまるで噛み合わない。そして4回にアクシデント。この回も途中まで普通に投球をしていたのだが、一死後棚田に対して3球を投げたところで突如タイムをかけて右脚の違和感を訴え、そのまま降板。原因は不明とのこと。大連は石風呂を緊急登板させた。

石風呂はコントロールが定まりきらず、棚田を四球で歩かせたが何とかこの回は無失点で抑えた。しかし5回、先頭打者のバレンタインが三塁線を破る2ベースでチャンスを作る。皆本は四球で一二塁。朴敦土の送りバントでワンナウト二三塁とする。続くキャッチャー相沢がセンター前に落とすとバレンタインと皆本が生還して2対0となる。打線が湿りきっている大連にとってこれはもはや死刑宣告に等しい。

6回には3番手の王貞成から畠田がライトスタンドにとどめのホームランを放ち3対0に。大連は今日も得点力のなさを晒してしま

った。名古屋戦と違いヒットはそれなりに出たがつながりがまっ  
くなかった。特にクリーンナップは、棚橋と林は無安打、パウロは  
9回にようやく1安打とまったく抑えられていた。立山に与える恐  
怖はほとんどなく、楽に投げさせてしまった。止まらない貧打と連  
敗のスパイラル。大連の通算成績はこれで26勝18敗6分となっ  
た。

あまりにも良い話が少ないが、近堂の2安打と24歳の捕手中西  
定治が今季の公式戦初出場を果たしたのはトピックスと言えるか。  
中西はがっちりしたキャッチャーらしいキャッチャーで、二軍では  
打点王になったこともあるなど打撃にも定評がある。昨年一軍では  
28試合に出場して3安打を記録している。今季は金重男が加入し  
たのでここまで出場機会がなかったが、今後経験を積みば正捕手と  
なりうる選手なのでどう育つか注目したい。

### 3 連敗 繰り返す拙攻（後書き）

50試合目。これでようやく1/3となりましたが、  
いよいよ、  
ただと道は遠

話にならない試合もある

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (2 - 0)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (3 - 0)

7 アンジェロ (4 - 1)

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (3 - 0)

1 松浦 (2 - 0) - ドラゲノフ (0 - 0) - 野藤

「ビジター」京都

8 青井

4 棚田

3 ホワイト

7 畠田

9 バレンタイン

5 皆本

6 朴敦土

2 相沢

1 村永

京 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 齊元南 - 九戸

- バーレット

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 松浦 (8) -

野藤 (1)

まったく打てる気配がない大連。どうすればいい。監督は考える。コーチも選手も考える。そうして出した結論は「ピッチャーががんばってくれば負けることはない」というものだった、のかは知らないが、昨日の試合後に緊急ミーティングが開かれたのと今日の先発松浦とリリーフ陣は見事なピッチングを見せて京都打線を0に抑えたのは事実である。投手陣の優秀さはわかったからさつさと打ってくれ打撃陣。

冗談は抜きにして、松浦は投げるたびによくなっている。スポンジが水を吸収するように実戦で経験を蓄えている。今日はストレーターの切れが良かったのでスライダー、フォークといった変化球もいつも以上に効果的だった。コントロールや全体的な安定感も身につきつつある。

一方相変わらずなのが大連の打線である。またも9連続でスコアボードに0を並べてしまった。京都先発の斉元南は今季から先発としてよく見るようになった名前で、なかなか度胸のある投手である。145キロのストレートにカーブ、スライダー、シフトなどの変化球をうまく織り交ぜて的を絞らせないピッチングを見せた。ただ投手戦というより貧打戦といった様相だったのが正直なところである。ゆえにあまり特筆する場面もなく淡々とアウトが積み重なっていき、規定の9回までたどり着いたので引き分けで終了した感じだ。大連の通算成績はこれで26勝18敗7分となった。

3回と4回に先頭打者を出したものの併殺打で勢いをへし折るような展開が続くじれったい展開。とにかくタイムリーが出ない。一度出れば変わってくるものだが、この停滞した空気を振り払うのはいつになるのか。次は東京と対戦するが、大連敗といった修復不能な痛手を負う前にけりをつけないといけない。

淡々と積み重なる黒星

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 李春稀 (3 - 0) - 柳中平 (1 - 1)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 瑞穂 (2 - 0) - 古池 (1 - 0) - 黄直哉

「ビジター」東京

6 板本

4 藤沼

3 暁道大

7 ラミレス

2 何慎介

9 永野

8 続木

5 古木

1 沢沼

東 0 0 0 0 1 0 1 0 2 沢沼 - 久野

- ロメオ

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 瑞穂 (8)

- 黄直哉 (1)



そろそろ一部過激派ファンの暴動が心配になってくるほど沈黙を続ける大連打線だが、ファンは本当に切れてもいいかも知れない。今日は先発に李春稀を投入したが効果なく、またしてもスコアボードに0を9連発。不振脱出の手がかりは未だにつかめない。

東京の先発はルーキーの沢沼。ストレートは150キロを超え、変化球も多彩で三振を多く奪っている。新人王最有力候補だが勝ち星がなかなか伴わないのがじれったい。10勝できる力がないわけではないだけに、今後の数字がどうなっていくか期待したい。また、東京打線は前回対戦した時と比較するとかなり力強くなっている。2000本安打を達成した暁道大が怪我から復帰した事に加えて、キャリアの浅い藤沼らが試合数をこなすことでより一軍に順応してきたのも好材料。序盤はもたついたが、ようやく巻き返しの足がかりができたといったところだ。

さて、試合は序盤から東京ペース。ただ瑞穂はコントロールよく変化球を投げ分ける粘りのピッチングを展開して、ヒットはうたれるものの失点はやらずにある程度までは進んだ。しかし援護は皆無。得点どころかヒットすら出ずに5回まで来てしまった。そして6回、ついに我慢の限界となってしまう。先頭の藤沼はショートゴロに打ち取ったが、3番暁道大に高めに浮いたストレートを叩かれてホームラン。37歳の実力者が復活の号砲を打ち鳴らす手助けをしまった。

その裏、二死後に星渡がレフト前に落としてようやくノーノーを防止したがこれも単発の攻撃。8回にはまたも暁道大にタイムリーヒットを打たれて2失点目。もはや勝負ありだ。結局大連は3安打しか打てずまたも完封負け。大連の通算成績はこれで26勝19敗7分となった。

大連に入ってからここまで未勝利。観客のフラストレーションは頂点に達している。投手の見殺しはこれ以上見たくない、さつさと打てという怒号がグラウンドにこだまするのを止めることは出来ない。ただひとつ、勝利を見せることを除いては。それにしても面子はそれなりに揃っているのにならぬ。いつまでこんなだらしない打撃をしているのか。

赤坂完封 ようやく止まったゼロトレイン

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1) - 高遼二

5 パウロ (4 - 2) - 大上

7 アンジェロ (4 - 0)

4 近堂 (4 - 2)

2 金重男 (3 - 1)

1 赤坂 (2 - 0)

「ビジター」東京

6 板本

4 藤沼

3 暁道大

7 ラミレス

2 何慎介

9 永野

8 続木

5 古木

1 西野

東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	西野 - 久野
- 落井	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大	1	0	0	0	2	0	0	0	0	-	3	赤坂 (9)

ようやく点を取れた。そして勝てた。とにかくこれに尽きる。打

線はようやく復調の気配を見せ始め、金重男とバッテリーを組んだ赤坂は見事なピッチングで東京を完封。大連シリーズは半分を過ぎたが、これからが本番だ。

東京の先発西野の出来はあまりよくなかった。初回、星渡が四球で出塁するとすかさず盗塁を決めて二塁へ進み、柳中平のファーストゴロで三塁まで到達と早速先制点のチャンス。棚橋はピッチャーゴロでツーアウトとなるも、林が西野のストレートを勝負強くライト前に落として大連がまず1点を得た。これが6月8日の名古屋戦以来の得点となった。

その後もヒットが多く今までとは違う雰囲気が出ていたが、5回一死後、星渡がサード方向へゴロを放ったが古木がファンブル。俊足の星渡なので内野安打を防ごうと焦ったようだ。記録はヒットだが実質エラーと言えるもつたいないプレーだった。さらに柳が四球を選び一二塁とすると、続く棚橋が左中間を破る走者一掃の2ベースを放ち3対0とする。これで勝負はついた。

大連先発のルーキー赤坂はストレートとスライダーの切れが良く、コーナーに力強く投げ分けることで東京打線から10三振を奪って完封という素晴らしい出来だった。このピッチングを引き出したのが金重男のリードである。要所要所で内角にストレートを要求するなど、強気のリードで赤坂を盛り立てた。赤坂は球威は言うまでもなくコントロールもなかなか悪くない投手である。今までは気性の穏やかさがそうした武器の威力を鈍らせていた所がないでもなかったが、今日は弱気な部分は見られなかった。どうやら赤坂は正捕手の清水よりも金のほうが合うらしい。ピンチは4回、暁道大にセンター前ヒット、ラミレスを四球で歩かせて迎えた何慎介の打球が勢いよくレフトライン際に飛んでいった時だがこれはファール。何は外角へのスライダーで三振を奪い、6番永野はファーストフライに

打ち取って事なきを得た。

赤坂の球威は最終回まで衰えなし。9回は3番の暁道大から始まる危険な回だったが、暁をレフトフライ、ラミレズを三振、何をサードゴロに仕留めて勝利を手にした。大連の通算成績はこれで27勝19敗7分となった。打線もようやく仕事をした。これが一日限りには終わらず、次の広島戦でもしっかり機能するかが重要だ。

打線爆発 広島に大勝

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 3)

7 アンジェロ (4 - 1)

6 棚橋 (5 - 3)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 2)

3 ドラグノフ (4 - 2)

4 近堂 (5 - 0)

2 清水 (3 - 1)

1 吉野 (2 - 0) - 本郷 (1 - 1) - 伊東

「ビジター」広島

4 東江

6 楚英仁

8 丸井

3 黒原

9 天田

7 岩持

5 阮忠徳

2 石浜

1 ジオン

広 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1  
ジオン - 菱

本 - 弦悠希 - 上尾 - 青井

大 0 3 0 1 2 0 0 3 - 9  
吉野 (8)

- 伊東 (1)

大連と対戦するのは現在不調にあえいでいる広島。ここの状態は非常にまずい。ただでさえ薄い選手層なのに怪我人続出で一軍なのか二軍なのかわからない、例年なら9月になってようやく見られるようなスタメンを6月の時点で組まざるを得なくなっている。特に打撃が悲惨で、先日50イニング連続無得点という不名誉なリーグ新記録を打ち立ててしまった。対する大連の先発はエース吉野。今の広島打線にこの劣勢を覆す力など残っているはずもなかった。

広島の大連は2年目の外国人ジョーン。球速はそれほどでもないが、変則的なフォームから繰り出される不規則に動くストレートと多彩な変化球で目先を変えつつ抑えるタイプの投手。しかし今日の出来は今ひとつ。初回からアンジェロに四球、棚橋にレフト前ヒットを浴びるなど危なっかしいピッチング。コントロールが不安定で嫌な予感が漂ったが、それは2回に早くも現実のものとなってしまふ。2回、先頭は大連移籍後初のスタメン起用となったドラグノフ。そのドラグノフに対する3球目、スライダーがすっぽ抜けた暴投がドラグノフの頭部に直撃。即刻退場を命じられた。

緊急登板となったのは菱本。しかしまだ肩が出来ていないようでコントロールがいつも以上に不安定だった。近堂をレフトフライに打ち取ったが、清水に四球を与えてピッチャー吉野には送りバントを決められてツーアウト二三塁。そして星渡、アンジェロに連続タイムリーを浴びて大連が3点を先制。この時点で今の広島にとつて厳しい点差となったが、これはまだ始まりでしかなかった。

3回は0で終了したが菱本3回目となる4回に次の動き。8番清水から始まった事もあり二死までは簡単に奪ったが星渡が外角の高めに浮いたストレートを振りぬいてレフトスタンドに飛び込むホームラン。直後の5回表、広島は40歳の大ベテラン阮忠徳がタイムリーヒットを打ち1点を返したがすぐに反撃を食らう。

2番手として登板した弦悠希はストレートで押す強気のピッチングが身上のルーキー右腕だが、コントロールに課題が残る。一死後、林の右中間への2ベースとパウロへの四球でピンチを招くと、ドラッグノフにレフト線へ落ちるタイムリーヒットを打たれる。続く近堂は大きなライトフライで二塁走者のパウロがタツチアップで三塁へ。そして清水がセンター返してタイムリーを放ち大連6点目。今日の弦は変化球のコントロールが甘く、ストレートもあまり走っていないかった。

とどめは8回。先頭打者として出てきた吉野の代打本郷がレフト前ヒットで出塁すると、星渡はライト前に落として一三塁。アンジエロは三振だったが柵橋がセカンド東江の頭上を越えるタイムリーヒットを放って7点目。林はセンターフライで星渡が三進。そしてパウロの痛烈なレフト前ライナーで星渡生還。さらにドラッグノフが一塁線へのタイムリーを決めて9点目とした。9回、広島は攻撃は大連の2番手伊東が3人で抑えてあっさり試合終了。先週の貧打とは何だったのかというほどの圧勝で広島を下した。大連の通算成績はこれで28勝19敗7分となった。

星渡と柵橋が猛打賞、初スタメンのドラッグノフはいきなり顔面に死球を受けながらも2安打2打点と見事な数字。投手も吉野は相変わらず力強いストレートとスライダー、さらに小さく変化するシュートが効果的で安定感抜群だった。まったく問題のない試合展開で快勝。観客のフラストレーションもかなり解消されただろう。一方広島はどうすべきか。怪我人が多すぎて真の実力をまったく発揮できずにいる。もっとも怪我人の多さも含めてチームの実力だと言われるとその通りだが。とにかく野球選手は動いてなんぼなので怪我には注意しないといけない。



静かに燃える炎 張尊101球完封

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 0)

3 柳中平 (3 - 2)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 4)

7 アンジェロ (4 - 1)

4 ノーリー (4 - 0)

2 清水 (3 - 1)

1 張尊 (3 - 1)

「ビジター」広島

4 東江

6 楚英仁

8 丸井

3 黒原

9 朴竜平

7 岩持

5 阮忠徳

2 石浜

1 ジオン

大	0	0	0	0	2	0	0	0	0	-	2	張尊 (9)
広	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	稲村 - 上尾

大連は昨日から一軍に合流していたノーリーが7番セカンドで先発出場。本日はノーヒットに終わったものの、チームの精神的支柱

でもあるノーリーの復帰は良い影響を及ぼしそうだ。試合は昨日と打って変わって投手戦となったが、36歳の張尊がうまみのあるピッチングを見せた。逆に広島は淡白な攻めが気にかかる。打てないのは仕方ない部分があるにしてもなんとしても出塁しよう、相手に少しでもダメージを与えようという姿勢が薄いように見えるのはいただけない。順位が下がるのも問題だがこんな試合ばかりしていると観客動員も低下しかねない。

そうは言うものの、今日の張は今季一番の出来だった。精密なコントロールはいつものことだが、さらに要所要所で挟み込まれたナックルボールの効果が抜群だった。大きな変化で打者を翻弄し、ストレートのスピードも増して見えたことだろう。広島打線の早打ちにも助けられてすいすいとイニングを進めていった。

大連は広島の前発、高卒2年目の稲村がなかなか良いピッチングを見せたのでチャンスは作るも得点には至らずという展開を続けた。しかし5回、先頭打者として打席に立ったピッチャーの張がレフト前ヒットで出塁。張は本来打撃が苦手だが、今日の張は相当乗っている。打撃にも好影響を与えているという事か。星渡はセンターフライも柳中平が三遊間を破るヒットで一二塁に。棚橋はセカンドゴロで柳封殺もダブルプレーは免れる。4番林は四球でツーアウト満塁としてパウロを迎える。

今日のパウロはここまで2安打。いずれもバットの芯で捕らえており、稲村とは合っていた。そしてこの第3打席も稲村が投じた149キロのストレートを強烈なライナー性の打球で左中間に打ち返し、張と棚橋がホームベースを踏んだ。これで大連が2点を先制。

結局張は9回101球を投げきって完封勝利。9回は志願の登板だったというが、集中力を切らすことなく3人で攻撃を終わらせた。

最後のバッターとなった岩持を三振に取った瞬間、普段はクールなこの男もさすがに感情が昂っていたのだろう大きくガッツポーズをして雄たけびを上げた。大連の通算成績はこれで29勝19敗7分となった。

ダイナマイト着火 大連沈没

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 0)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 0)

4 近堂 (4 - 3)

2 清水 (4 - 1)

1 フローデセン (1 - 0) - 李春稀 (1 - 0) - 石風呂 - 水内 (1

- 0) - 王貞成 - 平野 - 趙雅憲 - 立石 (1 - 0)

「ビジター」大阪

9 ムートン

4 平尾

6 島谷

5 辛貴一

3 ブラジル

7 林伊輔

8 辻川駿

2 藤木

1 能美

大阪 1 1 0 0 2 0 0 3 0 7 能美 - 久

保木 - 古林広

大連 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1 フローデ

セン (5) - 石風呂 (2) - 王貞成 (1 / 3) - 平野 (2 / 3) -

ここ数試合は調子が良くなっている大阪との対戦。好調の要因はようやくチームがまとまってきたことに尽きる。今季は低調なパフォーマンスを見せていた堂島が負傷離脱して、衰え切った金成博という聖域をスタメンから外す事ができるようになったのが良かったとも言われるがこれはうがちすぎだろう。

さて、大連の先発はフローデセンだったが好調の大阪打線はフローデセンを見事に攻略する。まず初回、調子を上げてきたムートンが早速2ベースヒットでチャンスを作ると、平尾のセカンドゴロでランナー三進。そして島谷がストリートをセンター前に打ち返して先制点を挙げた。

その後も大阪打線は好調。2回には林伊輔がホームラン。そして5回には辻川のサード内野安打と藤木の四球、そしてピッチャー能美の犠打でワンナウト二三塁としてムートンが走者一掃のタイムリ―ヒットで2点。フローデセンを5回4失点でノックアウトした。

大阪の先発能美はここ数年なかなか安定したピッチングを披露しておりエースと呼べる存在である。今日も左腕から切れ味の早い速球とスライダーを投げ込み、大連打線を力強く抑え込んだ。7回一死後、近堂にホームランを浴びた以外は失点なし。ピンチもほとんどなかった。

直後の8回に大阪の駄目押し。2番手の石風呂には抑えられたが3番手の王貞成に牙をむいた。先頭のムートンが四球で出塁すると、平尾がライト前にポテンヒットで一二塁に。島谷はセンターフライに打ち取ったものの辛貴一に四球を与えて満塁にしたところで王は降板となった。今日の王はコントロールが良くなかった。本来はこ

ここまで乱れる投手ではないのだが。続いて登板したのは平野。しかしストリートが甘いコースに入った失投をブラジルに狙われた。弾丸のようにボールはライトに飛んでいきフェンス直撃。満塁の走者を全員返してしまった。これで7対1と全てが決まってしまった。大連の通算成績はこれで29勝20敗7分となった。

大阪になすすべなく大敗した大連。今日の収穫は久々に一軍で登板した趙雅憲か。先発では球威不足もあり不安定だったが、今日は堅実にアウトを積み重ねていく生来のピッチングが見られた。ノーリ一も一軍に戻ったし、役者は揃ってきた。そろそろ交流戦も終わるが、これからが大事になるのでこの期間に得たものを生かしてうまく戦ってほしい。

混戦 老いも若きも入り混じり

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 2)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (3 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

4 近堂 (3 - 1)

2 清水 (4 - 1)

1 松浦 (3 - 0) - 小松原 - 中西 (1 - 0) - 比山

「ビジター」大阪

9 ムートン

4 平尾

6 島谷

5 辛貴一

3 ブラジル

7 林伊輔

8 辻川駿

2 藤木

1 白柳

大阪 0 0 0 0 2 0 0 0 0 2 白柳 - 久保

木 - 古林広 - 榎谷

大連 0 0 0 2 0 0 2 0 0 - 4 松浦 (7)

- 小松原 (1) - S比山 (1)

昨日の大敗から一夜明けた大連は静まり返っていた。しかし止ま  
ってはられない。昨日は過去で変えられないが今日これからの試  
合はどんな未来だってありうるのだから。要は今日勝てばいい。大  
連の先発は19歳の松浦。対する大阪の先発は43歳の白柳強志と  
親子ほどの年齢差がある投手の投げあいとなった。

白柳は元々タフネスが売りの中継ぎで毎試合のように投げまくっ  
ていたが、3球団目となる大阪ではのらりくらりとかわしながら抑  
える投球術に開眼して先発投手として長く貢献している。初回、先  
頭打者の星渡に早速ヒットを打たれたがこの程度は想定範囲内。重  
要なのは点を取られないことだ。そう言わんばかりに続く柳中平を  
センターフライ、棚橋をサードゴロで二塁封殺、林をライトフライ  
に打ち取ってこの回を終えた。大連にとっては捕らえられそうで捕  
らえきれず歯がゆい展開となった。

それを打ち破ったのは4回である。先頭打者の林は白柳のスライ  
ダーを引っ掛けて平凡なライトフライとなったがムートンがまさか  
の落球。続くパウロがカウント2-1から投じられたスライダーを  
捕らえた。空を切り裂くライナーはレフトスタンドに突入し、先制  
の2ランホームランとした。

技巧派のベテラン白柳に対して松浦のピッチングスタイルは本格  
派と言われるそれ。150キロを超える切れのいいストレートが軸  
で、スライダーなどの変化球も多少は使うが基本的には力で押すタ  
イプ。実質1年目ながらここまで安定しているのはストレートの質  
が素晴らしいからだ。糸を引くような、という形容詞がここまで似  
合うストレートはそう見られない。その素材を昨年はあえて一軍に  
上げず、二軍で磨きをかけることに専念した球団の育成方針も安定  
していた。



松浦は今日も積極的に押し去っていったが、先制点が入った事で気が緩んでしまったか5回に乱れる。一死後、林伊輔にライト線へ鋭いライナーを飛ばされて2ベースに。辻川に対しては慎重に攻めすぎて四球。そして藤木にレフト前タイムリーヒットを打たれて1点取られる。ハードラックなポテンヒットだった。白柳は三振でツーアウトとしたが、トップに戻ってムートンがセンター返して辻川が生還して同点。さらに藤木もホームへ突入してきたが星渡の返球でアウト。これはタイミングにもギリギリだった上、ランナーの走力とセンターの肩力を考慮するとギャンブル性が高すぎる判断だった。もちろん星渡のストライク返球も見事だった。

白柳は5回で降板。6回から登板の久保木に対してはパウロと近堂が安打を放ったものの得点ならず。そして7回、3番手の古林広に対して先頭の星渡はサード内野安打で出塁。柳はレフト前方への鋭いライナーだったが林が好捕。古林がこのナイスプレーで本来のピッチングを取り戻す、などということではなく棚橋にレフト前ヒットで一三塁。そして林がライト前に軽く落とすタイムリーとパウロの犠牲フライで2点を加える。後は小松原、比山で悠悠逃げきって勝利。大連の通算成績はこれで30勝20敗7分となった。後は横浜戦2試合だけだ。

楽に得られる勝利はない

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 1)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (3 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (4 - 2)

1 瑞穂 (3 - 0) - 平野 - 野藤 - 古池 (1 - 1) - 比山

「ビジター」横浜

6 市川

8 朴哲稀

3 ハイパー

5 室田

7 スレッド

9 金龍神

4 渡部

2 武慎剛

1 山森

横 0 0 0 0 0 3 1 0 4 山森 - 下原

- 江島 - 小原新 - 沢田 - 加谷

大 0 1 4 0 0 0 1 - 6 瑞穂 (6)

2 / 3) - 平野 (1 / 3) - 野藤 (1) - S比山 (1)

交流戦もいよいよ最終盤。横浜との2連戦を終えると25日、26日は朝鮮半島東北部の清津に遠征して2試合が行われ、第一次ドラフト会議を経て7月1日から通常のリーグ戦が再開される。各チームは開幕当初からの戦力が怪我、不調などで消える一方、新戦力の台頭や補強で加わった選手もおり色々に変化している。もちろん大連も同じで、当初の戦力予想とはまた違った展開が見られそうだ。

さて、試合のほうは大連が序盤で決着をつけた。初回こそ無得点に終わったものの、2回に近堂の先制ソロホームランがレフトスタンドに突き刺さりまず1点。そして3回はビッグゲイニングとなった。先頭の星渡が左中間を破る2ベースでチャンスを作ると、柳中平が初球打ちでライト前に運んで星渡はそのままホームイン。棚橋はサードゴロで二塁封殺も、4番林のライト前ヒットとパウロの四球で満塁にする。アンジェロはレフトへの犠牲フライを打ち上げて棚橋が生還。そして近堂、清水の連続タイムリーが飛び出してこの回は4点を取った。

大連先発の瑞穂はコントロールよく変化球を投げ分けてさくさくと試合を進めた。しかし横浜にも意地がある。それを炸裂させたのは7回であった。5番スレッドが四球を選ぶと、金龍神が右中間を破る2ベースを放ちまず1点を返す。続く渡部と武慎剛に対しては瑞穂が勝ったが、9番小原新への代打として登場したあの男が奇跡を呼んだ。

金紀洋。この男は現代において珍しいほど欲望に忠実に生きてきた男である。その結果各地でトラブルを起こして球団を転々とした拳句、今季は所属チームすらなかなか決まらず浪人となっていたが5月の終わりに横浜が獲得した。全盛期はまさに出身の大阪的な、豪快さが魅力の大砲だったが加齢もありパワーは衰えていると言わざるを得ない。しかし、これまでに培ってきた技術と意地が力を与

えている。2球で簡単に追い込まれたが、3球目はファール。そして4球目のやや高めに入ったストリートを振りぬいた打球はレフトスタンドに吸い込まれた。追撃の2ランホームラン。ベテランの一撃に他の選手も奮起した。市川、朴哲稀が連打で瑞穂をノックアウト。しかしハイパーは左キラー平野の前に三振となりこの回はここまで。

続いては8回、大連の3番手野藤に対して先頭の男室田がレフト線を破る2ベース。スレッドはショートゴロに打ち取ったかに見えるが柵橋がエラーで一三塁に。このチャンスに対して金龍神がきつちりとセンターへ犠牲フライを上げる。ヒット1本でうまく得点を取って1点差とした。しかし大連は8回、キャッチャー清水のホームランが飛び出して6対4と突き放す。当初の楽勝ムードから1点を争う好ゲームとなった。9回、大連は守護神比山を繰り出してこの戦いにけりをつけた。大連の通算成績はこれで31勝20敗7分となった。

交流戦終了 そして元のリーグへ

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (5 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (3 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 金重男 (4 - 2) - 大上 - 清水

1 赤坂 (3 - 0) - ドラグノフ (1 - 0) - 比山

「ビジター」横浜

6 市川

8 朴哲稀

3 ハイパー

5 室田

7 スレッド

9 金龍神

4 渡部

2 武慎剛

1 クレイトン

横 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1  
クレイトン

- 小原新 - 下原 - 江島

大 1 0 0 0 0 2 0 0 0 - 3  
赤坂 (8)

- S 比山 (1)

交流戦ラストゲームは夏の到来を実感させる暑さの中で行われた。大連はこのところ定着した赤坂・金重男のバッテリーで最終戦も勝利を狙う。横浜はクレイトンが先発。

初回到棚橋のホームランで大連が先制。その後は両投手が安定したピッチングを見せて1対0のまま試合は中盤まで進んだ。6回表、横浜のハイパーがストレートを叩き返してのホームランで同点に追いついたがその裏に大連が突き放す。まず先頭の林が四球で出塁。パウロは三振に倒れたがアンジエロがクレイトンの内角に入ったストレートを引っ張ってレフトスタンド上段に突き刺さる2ランホームランで3対1とした。

赤坂・金のバッテリーは今日も磐石。力強いストレートを軸にスライダーなどの変化球も上手く交えて、横浜の打者を上下左右に翻弄した。8回をハイパーのホームランによる1失点のみに抑えて5勝目を上げた。最後はストッパー比山が締めた。大連の通算成績はこれで32勝20敗7分となった。

これで交流戦は終わり。24試合を13勝8敗3分となかなかの好成績で終了した。勝因は投手陣、特に先発投手の安定だろう。赤坂、松浦といった若手選手の成長は即チーム力向上に貢献するだけに重要である。打撃陣は新加入のアンジエロは戦力になりそうではない事だ。

他チームの成績だが、交流戦開始前に首位だった奉天は15勝7敗2分と見事な成績で首位固めに成功した。一方苦戦したのが新京で、10勝13敗1分と負け越してしまった。4番の劉照凱と先発投手として活躍が期待されていた金城が負傷したのが本場に痛かった。開城も11勝13敗と負け越し。高弘美、肥後などベテランが主軸を担うチームだけにこれから暑くなってくるとスタミナ切れも

心配になつてくる。チチハルは13勝10敗1分と勝ち越して貯金生活を満喫している。新外国人のメルビン・ウィリアムスが本領を發揮して5勝を上げたのが大きい。若い選手が多いだけに勢いに乗れば乗るほど怖さが増す。ハルビンは11勝11敗2分けとまったくの五分。交流戦前は下位に沈んでいた平壤は12勝9敗3分と勝ち越したが光州は7勝16敗1分と苦戦した。まとめるところなる。

奉	20勝12敗3分	35勝19敗5分	1位
新	19勝12敗4分	29勝25敗5分	3位
大	19勝12敗4分	32勝20敗7分	2位
開	15勝17敗3分	26勝30敗3分	7位
齊	15勝17敗3分	28勝27敗4分	4位
哈	15勝18敗2分	26勝29敗4分	5位
平	14勝20敗1分	26勝29敗4分	6位
光	10勝21敗4分	17勝37敗5分	8位

安定して勝利を積み重ねている奉天。引き分けが多いものの順調な大連。やや離れて新京が続く。五割前後につけているチチハル。負け越しているがハルビン、平壤、開城はほとんど差がない。そして頑張り光州。

清津シリーズ第1戦 与えられた勝利

「ホーム」開城

8 西平

6 竹端

5 肥後

7 高弘美

9 グレス

4 笠原

3 吉田

2 浜野

1 岡武

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

7 高遼二 (3 - 0) - 水内 (2 - 1)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (2 - 1) - ノーリー (1 - 0)

5 ドラグノフ (4 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

3 李春稀 (3 - 0)

2 中西 (4 - 0)

1 松浦 (2 - 0) - 本郷 (1 - 0) - 趙雅憲 - 古池 (1 - 0) - 小

松原 - 比山

大 1 0 3 1 0 0 0 1 0 6 松浦 (5)

- 趙雅憲 (2) - 小松原 (1) - S比山 (1) 3 3 勝 2 0 敗 7 分

開 0 1 1 0 1 0 0 0 1 4 李東風 - 東

- 森 - 中島 2 6 勝 3 1 敗 3 分



リーグ再開。しかし普通のホーム・ビジターでの対戦ではなくカ  
ンファレンス所属の8球団が揃って特定の地方に遠征して試合を行  
うシリーズがまず開催される。今回遠征に向かったのは朝鮮半島北  
部の重要な港湾工業都市である清津。この地で2試合を戦った後に  
第一次ドラフト会議が行われ、7月1日から通常のリーグ戦に戻る。  
このシリーズの期間に主力選手の休養を兼ねて新戦力の実験を行う  
チームも多い。大連の先発は松浦。そしてキャッチャーは今季初ス  
タメンとなる若い中西を起用してきた。ドラグノフ、李春稀など  
もチャンスが与えられた。

一方開城は交流戦期間中にハイローと曹永真が負傷で離脱して  
おり、順位も7位まで落ちてしまった。しかし上位との差はまだ大き  
くない。これからの戦いによつては十分挽回できるチャンスはある。  
正捕手の浜野路典を中心に投手陣は安定しているので打撃陣に当た  
りが出てくれれば。途中加入のルイス・グレス(33)はかなり荒  
っぽい打者だがパワーはある。先発投手は李東風。

序盤は大連が優勢に試合を進めた。初回、星渡のサード内野安打  
と林の四球で一二塁としてドラグノフが先制のタイムリーをレフト  
前に放つ。3回には星渡が四球で出塁すると、盗塁と高遼二のセカ  
ンドゴロで三塁まで進塁。ただでさえ難があつた李東風のコントロ  
ールはさらに乱れて柵橋にはほぼど真ん中のストレートをレフト前  
に弾き返されて2点目。さらに林、ドラグノフに連続四球を出して  
満塁としてしまう。そして迎えた近堂に対してもあからさまなボー  
ルを連発して押し出しの四球。李東風の一人相撲で大連が劣せずし  
て追加点を加える。続く李春稀のライトへの犠牲フライでさらに1  
点追加。次の4回、星渡にホームランを打たれた所で降板。力入り  
すぎでかえって力を発揮できなかつた。

しかし松浦も李東風ほどではないがピリツとしない。2回には笠原に今季3本目のホームランを謙譲し、3回も簡単にツーアウトまで奪ったが西平に粘られて四球を与え、竹端と肥後に連打されて1失点するなどこれまでと少し違った。疲れが出てきたのか、あるいは中西がまだまだなのか。中西のリードは前の打席で打たれたコースを再度突くような強気さがあるが、今日の松浦の調子からするときつい部分もあつたかも知れない。5回にはキャッチャー浜野にもレフトスタンドに叩き込まれて5回3失点で降板。しかし勝ち星は手にした。

開城2番手の東拓也は今季で3年目の若手投手だが、これは良かった。変化球はほとんどなし、ストリートで押しまくるという豪快なピッチングスタイルだが、今日は絶好調で4回1/3から6回までを打者9人1四球5奪三振に抑えた。投球術はないが楽しみな素材だ。

その後の試合は7回に高の代打水内が左中間への2ベースでチャンスを作ると、棚橋はレフトフライも林がライト前に落として水内生還の6対3とする。9回には比山が登場したが新外国人のグレスにストリートを叩かれてホームランを浴びる。しかし反撃もそこまで。6対4で大連が勝利した。

今日は李東風によってプレゼントされた勝利に近かった。とにかく制球が定まっておらず楽にランナーをためることが出来たからだ。松浦のピッチングもあまり良くなかったのであまり嬉しくないだろう。また、7回にタイムリーを放った林に代走ノーリーが送られてそのままライトの守備についたがどうやら劉監督はノーリーをこのままりザーブとして起用する意向のようだ。

その他の試合結果

2 7	勝 2 9	敗 4 分	ハ ル ビ ン	5 - 4	平 壤	2 6	勝 3 0	敗 4 分
2 9	勝 2 7	敗 4 分	チ チ ハ ル	8 - 1	光 州	1 7	勝 3 8	敗 5 分
3 5	勝 2 0	敗 5 分	奉 天	2 - 3	新 京	3 0	勝 2 5	敗 5 分

清津シリーズ第2戦 視界良好の大勝利

「ホーム」光州

6 真野

5 久保岡

7 佐藤

9 小金井

8 マイヤー

3 金吾英

4 白知秋

2 山村

1 陳良文

「ビジター」大連

4 大上(3 - 1)

3 柳中平(5 - 1)

8 星渡(5 - 2)

9 林(5 - 3)

6 棚橋(5 - 1)

5 ドラグノフ(4 - 1) - 本郷

7 水内(2 - 0) - 山元(1 - 0)

2 清水(3 - 1)

1 張尊(2 - 0) - 李春稀(1 - 1) - 石風呂 - 立石(1 - 0) -

王貞成

大 1 0 3 1 0 3 0 0 1 9 張尊(5)

- 石風呂(2) - 王貞成(2) 3 4 勝 2 0 敗 7 分

光 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1 陳良文 - 李

吉男 - 坪倉 - 宮内 - ラスター 1 7 勝 3 9 敗 5 分

開幕カード以来となる光州との対戦。しかしここまでの両チームの勢いがそのまま出たような大差の試合となった。大連のスタメンはかなり実験に走っている。1番打者に代走メインだった大上が起用されて星渡は3番柵橋は5番に回る。サードは昨日に引き続きドラグノフ、レフトには水内が入った。先発は張尊。

一方の光州は野手陣で順調なのが小金井と真野、それに山村ぐらいで多くの主力が故障や不振で苦しんでいる。今も朴芳一が負傷、大深が打率1割台の不振でそれぞれ二軍落ちしておりかなり厳しい。投手陣も奥森の孤軍奮闘ぶりが光るがこれまた質量ともに乏しい。途中入団のヨン・バルン(30)は健闘しているがもはや焼け石に水か。今日の先発は陳良文だったが球威不足で脅威とはなりえなかった。

初回、二死から星渡がファーストへの内野安打で出塁すると林がライトオーバーの二塁打を放っていきなり先制点を挙げる。3回は四球で出塁した大上が盗塁を仕掛けると送球がそれたので一気に三塁へ。そして柳中平のライト前ヒットで悠悠々2点目のホームを踏んだ。さらに一死後林が陳のストレートをライトスタンドに叩き込んで4点目。さらに柵橋がレフト前にヒットを打ったところで陳は降板となった。

光州の2番手は李吉男。3回はきっちり抑えたが続かずに4回、先頭打者の清水にセンターオーバーの3ベースヒットを打たれる。続くピッチャー張尊はピッチャーゴロに抑えたが、トップに戻って大上にレフト前ヒットを打たれてまたも失点。ほとんど打席数を与えられない大上の今季初ヒットは貴重な追加点となった。

6回には3番手の坪倉徹道がマウンドに立った。坪倉は先発とし

て期待されていたがもう一步のピッチングが続いたので今は中継ぎとして頑張っている。今日もなかなかいいストリートを力強く放っておりこれは面白いかもと思わせたが水内のピッチャーライナーが胴体に直撃して悶絶。シヨート真野が処理して何とかアウトにしたものの坪倉はそのまま退場となってしまうた。

緊急事態で登場したのが宮内洋輔。しかしいつになく球のキレが悪く単なるコントロールの悪い投手だった。清水を四球で歩かせる、張の代打李春稀にレフト前ヒットを打たれ一二塁。大上にも四球を与えて満塁から柳のセカンドゴロゲッツー崩れの間には清水生還。そして星渡が内角高めのストレートをレフト線に落としてランナー二者生還で8対1と全ては決まった。宮内はその後立ち直ったがもはや後の祭り。

大連の先発張尊は安定したコントロールを披露して5回を無失点で余裕の降板。6回からは石風呂が、8回からは王貞成が登板した。8回に小金井のホームランが飛び出したがそれだけ。9回には5番手のラスターから林がホームランを放ち9対1としてそのまま試合終了。まったくの圧勝だった。

清津シリーズはこれで終了。全勝で得失点差でも優位に立った大連が清津シリーズ優勝となり、特製のトロフィーと高麗人参1年分が贈られた。また、MVPに選出された林葉輔外野手は賞金100万円を手にした。

その他の試合結果

3 5 勝 2 1 敗 5 分	奉天	1 - 4	ハルビン	2 8 勝 2 9 敗 4 分
2 9 勝 2 8 敗 4 分	齐齐哈尔	5 - 7	開城	2 7 勝 3 1 敗 3 分
3 1 勝 2 5 敗 5 分	新京	3 - 0	平壤	2 6 勝 3 1 敗 4 分

リーグ戦再開 欠けたピース

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 0)

7 アンジエロ (4 - 2)

5 ドラグノフ (2 - 0) - 古池 (1 - 0) - 金重男 (1 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 吉野 (2 - 0) - 伊東 - 水内 (1 - 1) - 趙雅憲

「ビジター」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

4 花田

1 久慈

新 0 0 2 0 0 1 1 0 0 4  
 勝 2 5 敗 5 分  
 久慈 3 2

大 0 0 0 0 0 0 0 0 1  
 吉野 (7)

- 伊東 (1) - 趙雅憲 (1) 3 4 勝 2 1 敗 7 分

7月1日、リーグ戦が本格的に再開される日がやってきた。大連最初の相手は現在3位の新京。大連は吉野、新京は久慈と両チームのエース対決となるこの一戦、どちらにとっても負けられない。シーズンがある程度進んで疲労も出てくる時期だけにベストメンバーといかないのは致し方ない。パウロはいつ復帰するか未定だがどれだけ持ちこたえられるか。逆に劉照凱が怪我から復帰してきた新京は戦力もモチベーションもアップしている。

初回、新京の先頭打者矢野元は四球で出塁。今日の吉野はコントロールに苦しんだが肩が軽すぎるのが原因か。この回は無失点で抑えたものの常にランナーを背負う苦しいピッチングだった。一方久慈はさすがの安定感。エースとしての経験の高さを見せた。

均衡が崩れたのは3回。もちろん新京の先制によってであった。先頭打者の、呉高波に代わってスタメンに名を連ねている花田道治がスライダーにうまくタイミングを合わせてレフト前に落とす。ピッチャーの久慈はきっちり送り、続く矢野元のライトフライで抜け目なく三塁まで進んだ。そして武沼駿。苦戦した交流戦期間中、新京打撃陣の中で唯一と言っているほど好調だった男が今日も最高の仕事をした。ストライク、ボール、ボールとした後の4球目、内角へのストリートがやや高く浮いたところを完璧に捕らえた。打球はライトスタンド最前列に飛び込む2ランホームランとなり、大連がスコアボードに2を刻んだ。

6回には玄新光がレフト線を破る2ベースヒットでチャンスを作ると、バジーノがしぶとくライト前に落として七沢がホームインで3点目。7回には一死後矢野元の四球と武沼のライト前ヒットで一三塁として、英の犠牲フライで4点目を上げた。

久慈は完封を狙って9回のマウンドに立った。ここまでは3安打



と1四球があるだけという極めて安定したピッチングを披露している。先頭の柳中平に対しての2球目となるストレートの149キロを計測するなど疲れを感じさせない磐石の攻めでサードゴロに。しかし続く棚橋が意地を見せる。外角に逃げていくスライダーをカットしてストレートを狙い打ち。見事にレフトオーバーの2ベースを放った。ここで迎えるのは4番林。しかしここでは久慈が勝利ライトライナーでツーアウト。今日安打を放っているアンジェロに託す。

このアンジェロは清津シリーズには同行せず二軍で調整をしていた。交流戦でのヒットはほとんどがストレートをパワーで叩いたもの。日本的な変化球攻めには戸惑いを見せていた。そこで二軍では変化球に対応するための練習を積み重ねたらしい。久慈はストレートの力もある投手だが変化球も一流。アンジェロに対しては交流戦のデータを基に変化球中心で攻めていた。しかしアンジェロは交流戦から今日までの約1週間で変化球の対応をある程度マスターしていた。

という事でこの打席、久慈が投じた縦に大きく落ちるカーブをしっかりと捕らえて左中間を破るタイムリー2ベースとした。第2打席にチーム初ヒットを放ったのも決して偶然ではなかったのである。しかし続く金重男は三振に倒れてゲームセット。2位と3位の直接対決第1ラウンドは3位新京の勝利に終わった。

#### その他の試合結果

27勝32敗3分	開城	6 - 9	ハルビン	29勝29敗4分
35勝22敗5分	奉天	5 - 7	チチハル	30勝28敗4分
26勝32敗4分	平壤	2 - 4	光州	18勝39敗5分

星の輝きが大連を照らす

「ホーム」大連

8 星渡(4 - 2)

3 柳中平(5 - 2)

6 棚橋(5 - 2)

9 林(4 - 1)

7 アンジエロ(4 - 0)

5 ドラグノフ(3 - 2) - 大上

4 近堂(4 - 3)

2 金重男(4 - 0)

1 赤坂(3 - 0) - 小松原 - 野藤 - 立石(1 - 1) - 水内 - 比山

「ビジター」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

4 花田

1 際田

新 0 0 0 0 1 2 0 0 3 際田 - 水岡 -

宗源良 - 朴圭大 - 鈴木芳 3 2 勝 2 6 敗 5 分

大 0 0 0 1 1 0 0 3 - 5 赤坂(6 1

/ 3) - 小松原(2 / 3) - 野藤(1) - S 比山(1) 3 5 勝

2 1 敗 7 分

前日のエース対決では苦杯を喫した大連。今日はルーキー赤坂が先発。バッテリーを組むのはもちろん金重男。金は打撃も好調でここにも期待。新京は安部監督の慎重な起用もあってここまで安定したピッチングを続けている際田が先発。往年の剛速球は未だに蘇らずもコントロールよく速球を投げ込んで抑える新境地を開拓しつつある。しかし今日はコントロールが荒れ模様で不要なピンチを多く招いてしまった。

初回、星渡に対してストレートの四球を与えるも盗塁を刺してアウトにした。直後に柳中平がライトオーバーの2ベースを放ったがこの回は得点なし。3回には柳、棚橋のヒットと林の四球でワンナウト満塁のピンチを招くもアンジェロをショートライナーのダブルプレーに仕留めて窮地を脱した。ここまでは運良く失点のない際田だが、誰もこのまま抑えられるとは思っておらず、その予感の間もなく的中した。

4回、先頭のドラゲノフが四球で出塁すると、パスボールの間に二塁まで到達。そして近堂のレフト前ヒットで躊躇なくホームに突入。レフト玄新光の送球がそれでセーフとなり、大連が先制した。新京のレフトが守備にも定評がある七沢なら大連も強行突入はしなかったかも知れない。打撃はいい物を持っている玄だが、守備を重視する新京ではなかなか出番がつかめないのも仕方ない。

続いて5回、先頭打者の棚橋がショート後方にしぶとく落として出塁すると、林がストレートを叩いて右中間を破るタイムリー2ベースで2点目。とにかく今日の際田は先頭打者を出して、それがピンチや失点に結びつくというパターンが多かった。結局この回限りで降板となった。2番手の水岡純直は頑張って2回を6人で終わらせた。

大連先発の赤坂はプロとしての呼吸を会得したようで、見ていてほとんど不安がなかった。途中までは。大連が2点目を取った直後の6回からその安定が揺らぎ始める。先頭打者の武沼には初球のカーブを狙われて左中間を破られる3ベースでいきなりピンチに。英は三振に打ち取ったが劉照凱にストレートをセンター返しされて1点。

そして7回、先頭打者のボンズがボールを良く見て粘った末にレフト前に落とした。続く花田の代打中沢春二はライト前ヒットで一三塁。水岡の代打に起用された宗仁徳はショートゴロで二塁封殺もダブルプレーはならず。その間にボンズがホームインで同点。さらに矢野元がセンターオーバーの二塁打を放ち、新京が2対3と逆転する。続くバッターは今日2安打の武沼。ここで大連は赤坂を下ろして小松原を投入する。小松原は持ち前の切れ味鋭いストレートで武沼をセカンドゴロ、英を三振に打ち取り信頼に込めて見せた。

8回表、新京は3番手に宗源良を登板させた。先頭のアンジェロはうまく捕らえたもののセンター武沼が快速を飛ばしてキャッチ。続くドラグノフも強烈なライナー性の打球だが今度はフェアグラウンドに落ちた。ここで代走の切り札大上が繰り出される。そして新京もピッチャーを朴圭大に交代。執拗な牽制をかくぐり大上は盗塁を決める。そして近堂が本日3本目となるヒットを左中間に飛ばす。大上は俊足を飛ばす。ホームイン。これで3対3の同点だ。なおも大連は攻め立ててツーアウト一三塁とする。ここで打席に立つのは星渡。

この打席における星渡の集中力は素晴らしかった。初球は外角低めへのストレートに微動だにせず。2球目は内角へのカーブがコースを外れてボール。ここで水内が盗塁を決める。それから3球続け

てファールで粘った末、外角低めへのスライダーをきれいに捕らえてセンター前に。近堂と水内が悠々ホームインで5対3とする。そして9回は比山が締めて大連勝利。なかなかに熱い試合だった。どちらが勝ってもおかしくなかったが、最後は星の輝きが大連に勝利をもたらした。

その他の試合結果

2 8 勝 3 2 敗 3 分	開城	2 - 1	ハルビン	2 9 勝 3 0 敗 4 分
3 6 勝 2 2 敗 5 分	奉天	1 - 0	チチハル	3 0 勝 2 9 敗 4 分
2 7 勝 3 2 敗 4 分	平壤	4 - 2	光州	1 8 勝 4 0 敗 5 分

負け越し 届かぬ反撃

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

7 アンジエロ (4 - 2)

5 ドラグノフ (3 - 0) - 立石 (1 - 0) - 太刀川

4 近堂 (4 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 フローデセン (1 - 1) - 古池 (1 - 1) - 趙雅憲 - 平野 - ノー

リー (0 - 0) - 野藤 - 小松原 - 水内 (1 - 0)

「ビジター」新京

3 矢野元

8 武沼

2 英

9 劉照凱

7 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

4 中沢

1 ジェンキンス

新 0 0 3 0 0 0 1 0 0 4 ジェンキン

ス - 阿野 - 鈴木芳 - S 畑 3 3 勝 2 6 敗 5 分

大 0 0 0 0 1 1 1 1 0 0 3 フローデセ

ン (5) - 趙雅憲 (1 2 / 3) - 平野 (1 / 3) - 野藤 (1) -

小松原（1） 35勝22敗7分

2位攻防戦の第3ラウンドは大連がフローデセン、新京はジェンキンスの外国人対決となった。このジェンキンスという投手の評判を首脳陣やチームメイトから聞くと一様に「真面目」「紳士的」といった言葉が飛び出す。そしてピッチングも速球はそこまででもないが抜群のコントロールで打者をじっくり料理するというまったく紳士的なものである。どこか無頼の侠客を思わせるフローデセンとはまた一味違うタイプの投手だ。

さて、試合は序盤から新京ペース。3回、一死後から矢野元、武沼の連続安打と英の四球で満塁とし、劉照凱が走者一掃のタイムリ―3ベースを放って一気に差をつけた。直後の3回裏に大連は反撃。一死後、フローデセンがレフト前ヒットとバットで魅せた。さらに星渡がセンター前、柳中平がライト前に落として新京と同じくワナウト満塁のチャンスを作る。しかし柵橋がジェンキンスのカットボールを引っ掛けて最悪のダブルプレー。決定的チャンスを逃してしまう。

フローデセンは5回裏に代打が出て降板。またもピリツとしないマウンドだった。そしてフローデセンの代打で登場の古池が今季1号ホームランをレフトスタンドに放った。さらに6回には林の四球とアンジェロの本日2安打目となる左中間への2ベースで二三塁として、ドラグノフのゆるいファーストゴロの間に林がホームインで1点差まで追いつく。

7回表、2イニング目となる趙雅憲が新京に捕まる。先頭打者の8番中沢春二は2球で追い込んだが粘られて結局四球を与えてしまう。ジェンキンスの代打石田はライトフライに打ち取ったが、矢野元にレフトオーバーのタイムリー2ベースを打たれて4対2と突き

放される。武沼はセカンドゴロで2アウトランナー三塁としたところでピッチャーを平野に交代。平野は英をサードフライに仕留めた。

その裏、2番手投手阿野恒助から清水が2ベースで出塁。ノーリーのバントで三塁まで進み、星渡のライト犠牲フライで4対3まで来たが反撃もここまで。鈴木芳博、畑陽一のリリーフ陣に抑えられて試合終了。結局この対戦は1勝2敗と負け越してしまった。また、9回に守備固めとして3年目の太刀川勇太が一軍初出場を果たした。179cm76kgとそこまで大きな選手ではないが二軍ではシャープな打球を飛ばすそうだ。パウロが欠場している今はチャンスなのでまずは守備要員から実績と経験を貯めていきたい。

#### その他の試合結果

29勝32敗3分	開城	2 - 1	ハルビン	29勝31敗4分
37勝22敗5分	奉天	3 - 0	チチハル	30勝30敗4分
27勝33敗4分	平壤	3 - 9	光州	19勝40敗5分



## シーソーゲームの主役は脇役

「ホーム」光州

6 真野

5 久保岡

7 朴芳一

9 小金井

8 マイヤー

3 佐藤

4 白知秋

2 山村

1 スミス

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (5 - 1)

7 アンジェロ (3 - 1)

5 ドラグノフ (4 - 1)

4 本郷 (2 - 0) - 山元 (1 - 1) - ノーリー

2 金重男 (3 - 1)

1 瑞穂 (1 - 0) - 平野 - 立石 (1 - 1) - 伊東 - 近堂 (1 - 0)

- 野藤 - 比山

大 0 0 2 0 0 0 1 2 0 5 瑞穂 (5 2

/ 3) - 平野 (1 / 3) - 伊東 (1) - 野藤 (1) - S 比山 3

6 勝 2 2 敗 7 分

光 1 0 1 0 0 2 0 0 0 4 スミス - 河原

林 - 大越 - 戸田垣 19勝41敗5分

最下位に沈む光州との3連戦。光州は現在最下位に沈んでいるが、佐藤皆雄の台頭や故障離脱していた朴芳一の復帰など巻き返しに向けての好材料が整ってきた。先発は大連が瑞穂、光州がスミス。

試合はシーソーゲームとなった。先制したのは光州で、初回、復帰の朴芳一がレフト前ヒットで出塁すると小金井がセンターオーバーの2ベースを放って1点。ここで小金井は三塁を狙ったが星渡の好返球に阻まれる。タイムिंग的にも少し無謀であったか。

大連は3回に逆襲。先頭打者として本日スタメンマスクを被っている金重男が三塁線を破る2ベースヒットで出塁。瑞穂がきつちり送り、星渡のたたきつけたような打球が三遊間を抜けて同点に。さらに柳中平もライト前で続き、柵橋のセカンドゴロの間に星渡生還して2対1と逆転した。しかしその裏に久保岡の5号ホームランがレフトスタンドに突き刺さり同点。序盤から一進一退の攻防が続く。

次に試合が動いたのは6回裏。二死後にマイヤーが四球で出塁すると、佐藤がライト前ヒットで一三塁とする。そして白知秋のサード内野安打の際にマイヤーが生還して3点目を挙げる。かなり高いバウンドで処理するのが難しい打球ではあったが白の俊足は見事だった。さらに朴のライト前タイムリーヒットで4点目と突き放す。そして迎える打者は4番小金井。ここで突き放されると大連の勝利は絶望。そこで瑞穂を降板させ、左キラーの平野を投入した。平野は得意の不規則な変化をするストレートで追い込んだが小金井も粘る。そしてカウント2-2で迎えた8球目、外角低めへのストレートをコンパクトに振りぬかれた。やられた、レフト線に抜けるタイムリーヒット。そう覚悟した瞬間、サードのドラグノフが大ジャンプして強烈なライナーをグラブに収めた。これでスリーアウト。1

97cmの長身が最悪の結果を防いだ。そしてこのプレーで試合の風向きもまた変わってきた。

7回表、一死後に平野の代打立石がサード内野安打で出塁。さらに星渡のライト前ヒットと柳の四球で満塁とした。バッターは棚橋、ピッチャーはスミスに代えて河原林尚人。河原林は積極的な投球ですぐ追い込んだが4球目のスライダーを棚橋が捕らえてピッチャー強襲のタイムリー内野安打となった。1点差に追い上げ、なおも満塁で林の打席を迎えたがセカンドゴロダブルプレーで逆転ならず。

そして8回、一死後にドラグノフが左中間を破る2ベース。守備でファインプレーを見せた勢いが攻撃にも乗り移っている。そして本郷の代打で山元則年が登場この山元は27歳の外野手。高卒で入団したもののなかなか芽が出ず、独立リーグでの武者修行も経験した。今季も二軍でのプレーが多かったが清津シリーズの際一軍に昇格した。この男が光州のピッチャー大越のストレートに力負けせず振りぬいた打球は三遊間を破りレフト前まで転がっていった。ランナードラグノフは本塁まで駆け抜けて4対4の同点。

なおも大連の攻勢は続く。金は四球でランナー二塁とする。ピッチャー伊東の代打に登場は近堂。近堂はセンターフライに倒れたが二塁走者の山元はタッチアップで三塁に進んだ。バッターはトップに戻って星渡。初球はストレートが低めに決まってストライク。それからボール、ファール、ファール、ボールと続いた後の6球目。球種はフォークだったが、これがまさかのワイルドピッチとなる。山元が本塁に生還して5対4と逆転した。次に投じたストレートに星渡は手が出ず三振となった。

大連は7回の伊東、8回の野藤、そして9回の比山とリリーフがきつちりと光州打線を抑え込んで勝利を手にした。また、ドラグノ

フ、山元といった脇役の選手が大いに見せ場を作った、いわばチームの勝利と呼べる試合だった。光州はストッパーの戸田垣まで投入したが及ばず。

その他の試合結果

3 3 勝 2 7 敗 5 分	新京	4 - 9	ハルビン	3 0 勝 3 1 敗 4 分
3 8 勝 2 2 敗 5 分	奉天	8 - 6	平壤	2 7 勝 3 4 敗 4 分
3 1 勝 3 0 敗 4 分	チチハル	2 - 1	開城	2 9 勝 3 3 敗 3 分

先発完投自責点0敗戦投手

「ホーム」光州

6 真野

5 久保岡

7 朴芳一

9 小金井

8 マイヤー

3 佐藤

4 白知秋

2 山村

1 片平

「ピジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (5 - 2)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 2)

5 ドラグノフ (3 - 0) - 太刀川 (1 - 0)

4 近堂 (3 - 1)

2 金重男 (4 - 1)

1 松浦 (3 - 0)

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
 3 6 勝 2 3 敗 7 分  
 松浦 (8)

光 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0  
 - 大越 - S 戸田垣 2 0 勝 4 1 敗 5 分  
 片平 - 宮内 1

投手の勝ち星は本人の実力とは少し違う事を証明するかのような試合。自身が十分なピッチングを見せても援護がなければ勝ち星を手にする事は出来ない。それどころか敗戦投手となってしまうこともある。しかしそれもまた投手稼業をしているものの定め。まあ松浦も前の試合は打線の援護で勝たせてもらったのだし、こんな日もあると割り切るしかない。昨日の試合前練習中に右腕の違和感を覚えていた小松原が今日二軍落ちするなど先発への比重がより強まっている現状、しっかり仕事をこなして天命を待つしかない。

序盤から松浦の速球が冴え渡っていた。3回までにノーヒットで5つの三振を奪うなど上々の立ち上がり。一方光州の先発片平は多彩な変化球と緩急で得点を許さない老獪なピッチングを披露。ヒットは打たれてもきっちり抑えて淡々とイニングを消化していった。

試合が動いたのは4回。光州の先頭打者真野がストレートをレフト前に流してチーム初ヒットで出塁。久保岡の打席で真野が盗塁を試みると、キャッチャー金重男からの送球がそれで外野に転々とする間に真野は三塁へ。一気に先制されるピンチが誕生した。松浦は奮起して久保岡は三振に切ったが、続く朴芳一は巧みなバット捌きを見せてなかなか三振とはいかない。際どいボールをうまくカットして迎えた9球目、サードへのゴロとなったがこれをドラグノフが後逸してしまった。レフトのアンジェロがボールを掴んだ頃には、すでに真野がホームに突入を終えていた。確かにドラグノフも金も守備より打撃の選手だがこうお粗末なプレーを続けられると頭が痛くなる。ミスの連鎖で大連は1点を光州にプレゼントしてしまった。

片平は6回までで降板。そこから光州の継投策として7回に宮内、8回に大越、9回には戸田垣を繰り出して逃げ切った。0対1で試合終了。しかもその1点はエラーで得たもの。大連とすればまったくもつたない負け方であったが、光州の先発片平の粘り強いピッ

チングや堅守、そしてリリーフ陣の奮闘があったからこそ1点差の際どいゲームをものに出来たのだ。優勢だったチームが勝つゲームではなくより多く得点を奪い、得点を奪われなかったチームが勝利を手にするのが野球である。8回被安打4に抑えながらも敗戦投手となった松浦は気の毒だが、結局はそういうことだ。

#### その他の試合結果

3 4 勝 2 7 敗 5 分	新京	3 - 1	ハルビン	3 0 勝 3 2 敗 4 分
3 8 勝 2 3 敗 5 分	奉天	2 - 3	平壤	2 8 勝 3 4 敗 4 分
3 1 勝 3 1 敗 4 分	チチハル	6 - 7	開城	3 0 勝 3 3 敗 3 分

七夕の空にVを願掛け

「ホーム」光州

6 真野

5 久保岡

7 朴芳一

9 小金井

8 マイヤー

3 佐藤

4 白知秋

2 山村

1 陳良文

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 1) - 古池 (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 3)

9 林 (4 - 0) - 高遼二

7 アンジエロ (5 - 2)

5 ドラグノフ (3 - 1) - 太刀川 (2 - 1)

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (5 - 3)

1 張尊 (3 - 0) - 山元 (1 - 0) - 伊東 - 中西 (1 - 0) - 趙雅憲

大 2 1 2 0 0 2 0 0 0 7 張尊 (6)

- 伊東 (2) - 趙雅憲 (1) 3 7 勝 2 3 敗 7 分

光 0 0 0 0 0 0 1 2 2 0 3 陳良文 - 李

敏登 - ラスター - 李吉男 - 宮内 2 0 勝 4 2 敗 5 分



昨日は0点に抑えられた大連打線が鬱憤を晴らすかのように爆発して大勝。これを1点でも昨日に送ることが出来たら、などと考えるても栓なきこと。とにかく終始優勢に試合を進めた大連が順当に勝利を収めた。

初回から光州先発の陳良文に攻勢をかける。星渡、柳中平の連打で早速チャンスを作ると棚橋もレフト前に落としてあっさりと先制。林はサードファールフライに倒れたがアンジェロがレフト前に持つていって2点目。2回には清水のソロホームランが飛び出した。陳はコントロールはいいが球威がなく、これではただのバッティングピッチャーだ。3回にアンジェロ、ドラグノフに連打を浴びたところでたまらず降板させたが時すでに遅し。2番手の李敏登も近堂、清水に連続タイムリーヒットを浴びて3回終了時点で5対0と大勢は決した。

6回には四球で出塁した星渡を一塁に置いて棚橋が左中間にホームランを叩き込んで7点目とした。大連先発の張尊敬は6回限りでマウンドを降りた。7回には太刀川がラスターからプロ初ヒットをレフト前に放った。光州は7回に山村のホームランで1点。8回にはエラーが絡んで出塁したランナーを小金井、マイヤーが返して7対3としたがすでに勝負はついていた。9回は趙雅憲が無失点で抑えて試合終了。

今日は接戦ではあまり見かけない名前をいくらか見かけた。初ヒットの太刀川は噂にたがわぬ鋭い打球であった。守備も無難にこなしていた。守備といえば古池の一塁守備も普段はあまり見られない光景である。こちらも無難にこなしていたがさすがにファーストを無難にこなせないときつい。投手に目を向けると目に付いたのは趙である。シーズン序盤の先発挑戦は失敗に終わったものの、一軍復帰以来失点がなく防御率以上に安定している。明日からはホームの

大連に戻って開城と対戦する。ほぼ折り返し地点のオールスターまでもうすぐだ。

光州は今の順位もむべなるかなという内容だった。先発の陳は光の速さでノックアウト、勝っても負けても起用される宮内、敗戦処理がせいぜいの助っ人外国人投手、頼りになるのは小金井らベテランばかりなのもお寒い。チーム内外では早くも監督解任などという無責任な噂が立つなどゴタゴタしている。これからの戦いぶりどうにか光州ここにありという意地を見せてほしい。

#### その他の試合結果

3 5 勝 2 7 敗 5 分	新京	2 - 0	ハルビン	3 0 勝 3 3 敗 4 分
3 8 勝 2 4 敗 5 分	奉天	3 - 5	平壤	2 9 勝 3 4 敗 4 分
3 2 勝 3 1 敗 4 分	チチハル	5 - 2	開城	3 0 勝 3 4 敗 3 分

## 七夕の空にVを願掛け（後書き）

まあ思いっきり雨降ってますけど七夕です。今日はまた大阪ドームに野球の試合見に行くのでさっさと投稿。ついでに私も願掛けしよう。「カープがAクラスに入れますように」って。

## シンプルな野球の姿

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (4 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

5 ドラグノフ (3 - 0)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (3 - 0)

1 吉野 (2 - 0) - 古池 (1 - 0) - 野藤

「ビジター」開城

8 西平

6 竹端

5 肥後

7 高弘美

9 グレス

4 笠原

3 吉田

2 浜野

1 朴仲哲

開	0	0	0	0	0	0	2	0	2	朴仲哲 - 夕
チトナ - S	黒垣	3	1	勝	3	4	敗	3	分	
大	0	0	0	0	1	0	0	0	1	吉野 (8)
- 野藤 (1)		3	7	勝	2	4	敗	7	分	

オールスター前では最後の3連戦。来週に熱河シリーズの2試合が行われた後の16日からオールスター戦が開催される。大連は吉野、開城は朴仲哲のEース対決。ともにオールスター出場メンバーに選出されている。両Eースは期待に応えるような熱い投手戦を繰り広げた。

序盤、中盤と動きなし。どちらの投手も速球、コントロールが冴えておりピンチすらほぼ皆無という見事なピッチングを披露した。その均衡が破られたのは6回裏。先頭の星渡がサードへの内野安打で出塁と盗塁でチャンスを作る。柳中平は浅いライトフライ、棚橋はショートゴロに倒れたが4番林が勝負強さを見せた。3球ファールで粘った後の6球目、カットボールの軌道にうまくバットを合わせてレフト前に。星渡の俊足がホームを踏んで待望の先取点を大連が入れた。

しかし開城の反撃はここから始まった。7回表、一死後に笠原がレフト前ヒットで出塁。続く吉田大輔は初球打ちが功を奏してライト前ヒットとなり一三塁に。しかし浜野を計算通りのセカンドゴロダブルプレーに打ち取って得点は許さず。続く8回、開城はここまですで好投を続けてきた朴に代えて行元知広を打席に送った。行元はシグマール監督の期待に応えて左中間への2ベースヒットを打った。続く西平は四球で一三塁とするが竹端を三振に仕留めてワンナウト。そして迎えるバッターは肥後吉誠。交流戦では失速した肥後だがここ数試合はまた持ち直してきた。その肥後は4球目にフライを打ち上げた。力ない打球だったが飛んだ方向がちょうどショートとレフトの間でボールはグラウンドに落ちた。ワンナウト満塁。

ここで迎えるのは4番の高弘美。今季は未だに2割5分前後をうろろしているがここぞの場面での勝負強さは健在だった。吉野のストレートに逆らわない、うまいバッティングでサードの横を抜く

逆転タイムリーヒットを放って試合を決めた。8回は夕チトナ、9回は黒垣と開城の勝ちパターンの前に大連はノーヒットに抑え込まれて試合はそのまま終了。エースが投げ、4番が打つという分かりやすい試合だった。

その他の試合結果

3 5 勝 2 8 敗 5 分	新京	2 - 3	奉天	3 9 勝 2 4 敗 5 分
3 0 勝 3 4 敗 4 分	平壤	8 - 1	ハルビン	3 0 勝 3 4 敗 4 分
2 1 勝 4 2 敗 5 分	光州	5 - 4	チチハル	3 2 勝 3 2 敗 4 分

## シンプルな野球の姿（後書き）

昨日の雨が去ったら太陽も空も雲もすべてが夏になった、そんな気がします。

逆転サヨナラ 総力戦の勝利

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (3 - 0) - 太刀川 (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 1) - 大上

7 アンジエロ (4 - 2)

5 ドラグノフ (3 - 0) - ノーリー (0 - 0)

4 近堂 (3 - 1) - 古池 (1 - 0)

2 金重男 (3 - 1) - 清水

1 赤坂 (1 - 0) - 山元 (1 - 0) - 野藤 - 平野 - 比山 - 立石 (1

- 1)

「ビジター」開城

8 西平

6 竹端

4 笠原

7 高弘美

5 肥後

9 グレス

3 吉田

2 浜野

1 田中

開 0 0 0 2 0 0 0 0 0 0 2 田中 - タチト

ナ - 黒垣 3 1 勝 3 5 敗 3 分

大 0 1 0 0 0 0 0 0 0 2 3 赤坂 (7) -

野藤 (1) - 平野 (1 / 3) - 比山 (2 / 3) 3 8 勝 2 4 敗 7 分



昨日に続いて投手戦が繰り広げられた。今季は使用するボールがそれまでより飛ばなくなつたのでこのような試合が多くなる。しかし最後にものを言うのは打線が何点取れるかである。打者にとつては受難のシーズンが続くが本当の実力があるなら問題ないはずだ。

先制したのは大連。2回にアンジェロが田中の初球ストレートを強振するとそのままレフトスタンドへ。今日の試合チーム初のヒットがこれ。まさに出会い頭の一発といった風情の先制点だった。しかしこれは事故のようなもの。今日の田中は持ち前の安定したコントロールと多彩な変化球が冴えていた。四死球は0で、5回に連打と送りバントでワナウト二三塁となつたピンチも星渡を内角へのストレートで見逃し三振、柳中平をスライダーを打ち上げさせてのセンターフライに抑えた。

好投の田中に応えたい打線が奮起したのは4回。先頭の3番笠原がセカンドとライトの間に落ちるヒットで出塁。4番高弘美は三振も肥後がレフトオーバーのタイムリー2ベースで同点に。さらに二死後、売出し中の吉田大輔がライト線を破る逆転のタイムリー2ベースを放つた。全体的に赤坂のストレートを狙って力強く振りぬく攻めを見せたが、これは赤坂 - 金重男のバッテリーの特徴を知つた上での戦略である。

その後の試合は淡々と進んでいった。赤坂、田中の両先発はともに7回で降板。リリーフ勝負となるが、ともに9回にドラマが待っていた。先攻の開城はこの回の先頭打者グレス、次は吉田と左打者が続く。大連は左打者が得意な平野を投入するが代わり端の初球をグレスに引つ張られて2ベースを許してしまう。さらに吉田の送りバントでグレスの代走美尾公平は三塁に。さらに浜野の代打で金順基が登場した。大連は平野に代えてストッパー比山仁を投入。

比山は落ち着いていた。去年までならプレッシャーに負けて自滅していたであろう場面も役割を固定され、実績を積み重ねることで自信が生まれた事で実力を発揮できるようになった。金をランナーが進めないようなサイドゴロに打ち取ってツーアウト。続く代打行元に対しても終始優勢なカウントで攻めていって、最後はフォーボールで三振。本当に頼りになる投手になった。

その裏、開城もストッパーの黒垣を投入してきた。黒垣はけれどものないストレート一本槍の豪腕で、はまった時は強力だが調子が悪いととてつもなく心臓に悪いピッチングとなる。今日は後者だった。先頭の林はボール球が続いた後のストレートをライト前に弾き返して出塁。大連はもちろん代走に大上を投入した。続くアンジェロに対してもいきなりボールが続く不安定さで、この間に盗塁したがレフトフライに倒れる。ここからは大連の代打攻勢。まず登場したドラグノフの代打ノーリーは老獪に際どいストレートをカットしていき四球。続く古池は三振でツーアウトとなったが金にまたも四球で満塁に。金に代走として足の速い捕手としても知られる清水が送られ、代打には立石。

立石はコントロールの乱れた黒垣のストレートをよく見極めてカウント3-1とした。ここで黒垣が投じた外郭高めのストレートを狙い済ましたようにレフト前へ。大上が、そしてノーリーがホームへ還ってきた。1対2から3対2に、ベテラン立石の逆転サヨナラタイムリーで大連が劇的な勝利を飾った。ベンチにいた野手のほとんどを使う猛烈な代打攻勢が突った、まさにチームで掴んだ1勝である。

その他の試合結果

36勝28敗5分 新京 5-4 奉天 39勝25敗5分

2	3
1	1
勝	勝
4	3
3	4
敗	敗
5	4
分	分
光	平
州	壤
1	9
-	-
7	3
チ	ハ
チ	ル
ハ	ビ
ル	ン
3	3
3	0
勝	勝
3	3
2	5
敗	敗
4	4
分	分



ここ数試合低調なマウンドが続いており正念場のマウンドとなったフローデセンが快刀乱麻のピッチングを見せつけた。フローデセンの勝利は5月8日以来、実に2ヶ月ぶりの歓喜だが、苦しい時期を乗り越えた男の巻き返しはこれから始まる。一方、開城の先発は2年目の前宮。コントロールや変化球など、投手として必要な一連の技術は身につけているなかなかの好投手である。もう一皮、いや二皮三皮むけたらタイトル争いにも絡めるようになるだろう。これが前宮幸弥だという武器が出来ると良い。

さて、試合は2回まで両チーム無安打で進んだ。この試合の初安打は大連で、打ったのは投手のフローデセンだった。この安打から大連はリズムを掴んでいく。続く星渡もライト前に転がして一三塁とすると、柳中平のセカンドゴロ併殺崩れの間、フローデセンがホームに生還して先制。さらに棚橋がストレートをレフトスタンドに叩き込んでこの回3点。5回には棚橋、林、アンジェロのクリーンナップが3連打で4点目とし、8回には林のソロホームランでさらに追加点を加えた。

しかし今日の主役は何といってもフローデセンのピッチングである。球速は150キロに達し、多彩な変化球も冴え渡っていた。初回は西平、竹端を連続三振に、笠原をショートゴロに打ち取って上々の立ち上がり。2回は高レフトフライ、肥後ファーストゴロ、グレス三振。3回は吉田ライトフライ、浜野セカンドゴロ、前宮セカンドフライ。4回は西平サードゴロ、竹端セカンドゴロ、笠原センターフライ。5回は高三振、肥後レフトフライ、グレスショートライナー。6回は吉田三振、浜野ショートゴロ、前宮の代打李連次ライナーとここまでヒットどころか一人のランナーも出していない。危なかったのは5回、グレスの痛烈なライナーを棚橋がジャンピングキャッチした場面ぐらい。まさか、もしかすると。そんな予感が球場内に充満し始めた。

7回は、西平をサードゴロ、竹端をセーフティーバント失敗のピッチャーゴロに打ち取ったが笠原がフローデセンのストレートをセンターに打ち返して完全試合ならず。しかし続く高を三振に打ち取った。8回は肥後ピッチャーゴロ、グレス三振、吉田三振。そして9回は浜野の代打金順基レフトフライ、車の代打行元三振、そして西平をセンターフライに仕留めて1安打完封を達成した。

フローデセンは今日の好投について「勝てなかった時は考えすぎてリズムを悪くしていた。今日はテンポよいピッチングを心がけたのが良かった」と話している。フローデセンの悲願を阻んだ笠原は巧みなパッシングと堅実な守備で知られる大陸屈指の二塁手で、今年のオールスター戦に開城の選手としては朴仲哲投手と2人で出場する。コントロールよく力強いストレートや切れ味鋭い変化球を織り交せるフローデセンに開城のバッターは的を絞りきれなかったが、笠原は変化球をカットしまくって、狙っていたストレートをうまく打ち返した。しかし今日のフローデセンの出来は良すぎたので開城にとっては気の毒だったとしか言いようがない。

#### その他の試合結果

3 6 勝 2 9 敗 5 分	新京	3 - 6	奉天	4 0 勝 2 5 敗 5 分
3 1 勝 3 5 敗 4 分	平壤	2 - 4	ハルビン	3 1 勝 3 5 敗 4 分
2 2 勝 4 3 敗 5 分	光州	2 - 1	チチハル	3 3 勝 3 3 敗 4 分

熱河シリーズ第1戦 悠久の風に吹かれて

「ホーム」大連

- 8 星渡 (1 - 0) - 高遼二 (4 - 1)
- 9 林 (1 - 1) - 山元 (2 - 0)
- 6 棚橋 (4 - 1) - ドラゲノフ (1 - 0)
- 5 パウロ (4 - 1) - 太刀川 (1 - 0)
- 7 アンジエロ (3 - 1)
- 3 柳中平 (4 - 1)
- 4 近堂 (3 - 0)
- 2 清水 (4 - 2)
- 1 松浦 - 石風呂 (1 - 0) - 本郷 (1 - 1) - 趙雅憲 - 中西 (1 - 0) - 伊東 - 古池 (1 - 0) - 北

「ビジター」平壤

- 7 小谷
- 4 成田
- 8 志田
- 3 趙民陽
- 5 鈴木
- 6 奈良橋
- 9 幕内
- 2 小松
- 1 前田

平	2	0	0	1	0	0	2	0	0	5	前田 - 西向
- 菅 - S井垣	3	2	勝	3	5	敗	4	分			
大	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4	松浦 (1) -
石風呂 (3)	-	趙雅憲 (3)	-	伊東 (1)	-	北 (1)	3	9	勝	2	

5敗7分

今週末に開催されるオールスター戦。その前に今日から2試合、熱河省を舞台に通称熱河シリーズが開催される。試合会場には大連が1位指名した竹松龍徳投手も観戦に訪れた。また、体調の癒えたパウロも戦列に復帰した。これでより磐石な布陣で戦いに臨めるようになった。今日は負けたがこれから重要になってくる。

大連は2番に本来は不動の4番である林を置くという変則的なスタメン。これはオールスターに出場する星渡と林を熱河の皆さんにお披露目するためである。下手に試合に出して怪我させるのはまずいので1打席で退散。林はヒットを打ったので代走を送られた。大連からオールスター戦に出場するのは吉野投手、星渡、林両外野手、それに開催地枠の松浦投手を加えた4名である。開催地枠とはオールスター戦開催地を本拠地とするチームから1人選出されるという制度で、大抵はあえて監督推薦で選ぶほどではないが面白い活躍を見せている若手選手の名前が挙げられる。もう1つの開催地である千葉からは、ルーキーながら快速で魅せている伊知嶺外野手が選出されている。

さて、試合は松浦が平壤の2番打者で20歳の成田翔吾にセンター前ヒットを打たれると、続く志田憲一にホームランを打たれていきなり2点ビハインドの展開となった。初回を終えると星渡から高遼一、林から山元、松浦から石風呂に交代した。本番はここから始まる。

3回裏、先頭打者の清水がレフト前ヒットで出塁。ピッチャー石風呂は三振に倒れるも高がライト前ヒット、山元が四球でワンナウト満塁とチャンスを作る。ここで柵橋が前田のスライダーをきれいにセンター返しので2点タイムリーヒットを放ち同点とする。しかし



その直後、今季平壤の5番サードに定着した鈴木勇気が3ベースを放ち、奈良橋のセカンドゴロの間にホームに生還して3対2とした。

大連は5回に代打本郷がヒットを放つも後ろが続かず。6回にもアンジェロ、柳中平の連打があつたが近堂三振、清水レフトフライで得点が入らなかつた。大連がもたもたしているうちに平壤が追撃。7回に先頭の幕内が死球で出塁。続く小松玉明の打席で、小松はバントをしたがピッチャー趙雅憲がファーストに悪送球でセーフに。代打佐々木武介のライト前タイムリーヒットで1点。二死後、志田のレフト前タイムリーヒットで2点目も入ってしまった。

8回裏にようやく大連の反撃。先頭打者のパウロが復活を印象付ける2ベースで出塁。アンジェロのライトフライでパウロの代走太刀川は三塁へ進むと、柳のセカンド強襲安打の際にホームイン。近堂四球で一二塁として、清水がゴロで三遊間を抜くと柳がホームに突入。クロスプレーを制して得点。続いて代打に古池が起用されたが平壤の金源直監督が3番手に繰り出した菅緑郎の前に三振。高もセカンドフライに打ち取られた。9回はリリーフエース井垣の前に三者凡退で試合終了。

#### その他の試合結果

3 6 勝 3 0 敗 5 分	新京	2 - 9	光州	2 3 勝 4 3 敗 5 分
3 2 勝 3 5 敗 4 分	ハルビン	4 - 3	奉天	4 0 勝 2 6 敗 5 分
3 1 勝 3 7 敗 3 分	開城	3 - 6	チチハル	3 4 勝 3 3 敗 4 分

熱河シリーズ第2戦 馬鹿試合

「ホーム」奉天

5 横山

6 田辺

9 西崎

8 長谷川

7 市松

3 蔡均森

4 佐藤

2 坂田

1 長沢

「ビジター」大連

8 水内(4-1) - 星渡(1-1)

4 近堂(4-3)

6 棚橋(3-0)

5 パウロ(4-2)

7 アンジエロ(4-1)

3 ドラグノフ(4-1) - 林(1-1)

9 ノーリー(5-2)

2 清水(3-1) - 金重男(1-0)

1 瑞穂 - 北(1-0) - 中西(1-0) - 趙雅憲(0-0) - 黄直

哉 - 古池(1-0) - 平野

大 2 0 0 0 0 2 0 0 0 0 6 瑞穂(2)

- 北(2) - 趙雅憲(2) - 黄直哉(1) - 平野(1) 3 9 勝 2

6 敗 7 分

奉 5 2 0 0 0 3 0 1 - 1 1 長沢 - 片

熱河シリーズ第2戦は奉天との対戦。しかし首位攻防戦にふさわしいような締まった展開にはならず、とんでもない打撃戦となってしまった。まだオールスター休みにはなっていない。対抗戦で恥を晒さないように気を引き締めてかかってほしい。

大連の本日のスタメンは中盤に片仮名の名前が4つ続く奇妙な面子となっている。一軍の外国人枠は投手と野手合計4人までなので一見違反に見えるが、ドラグノフは生まれも育ちもハルビンの純然たる満洲人である。もちろん外国人枠など適用されるはずがない。ただロシア系の満洲人はサッカーやウィンタースポーツに走る傾向が強いのでドラグノフのような選手が少ないだけである。将来的には外国人枠撤廃をという考えもあるが未だに実現しそうにない。外国人枠の存在しないメジャーリーグとの差はこういうところにもある。

初回、大連の先制攻撃。2番打者に入った近堂がレフト前ヒットで出塁する。棚橋のサードゴロでランナー入れ替わり。そして4番パウロが長沢のゆるいカーブにタイミングを合わせるとレフトスタンドまで飛んでいった。怪力は健在とアピールするホームランで2点を先制した。しかし大連先発の瑞穂がピリツとしない。

1回裏、先頭の横山に対していきなりサード内野安打を打たれる。すぐ二死まで奪い、4番長谷川に対しても平凡なレフトフライに打ち取ったはずだった。しかしレフトアンジェロがまさかの落球。これでおかしくなった瑞穂は市松にセンターオーバーのタイムリー2ベースを打たれて同点。さらに蔡均森のライト前タイムリーで逆転。佐藤のライト前ヒットと坂田の四球で満塁とすると、ピッチャーの長沢にまでレフト前にタイムリーヒットを打たれる。この回打者一

巡で5失点。しかし自責点は0という。長谷川をレフトフライに抑えていれば。2回には3年目と新鋭田辺裕矢のライト線を破る3ベースと西崎のホームランでさらに2失点するなど今日の瑞穂は酷い出来で、序盤で試合は決まってしまった。

大連は3回から2番手として北甲大を投入。北は31歳と中堅どころの投手で、ロングもこなせるリリーフとしてそれなりに重宝する。これという特徴はないがコンビネーションで抑える印象で、今日も3回を無失点に抑えてきっちり仕事を果たした。奉天の若武者長沢広之も初回以降は抑えるようになったので、割と平穩に過ぎていった。

次に試合が動いたのは6回の事であった。先頭のパウロが四球を選ぶと、アンジェロのサード内野安打とドラグノフのライト前タイムリーヒット、さらにノーリーの一二塁間を破るタイムリーヒットで長沢をノックアウト。しかしその裏にまたも悪夢が待っていた。横山をサードゴロに打ち取ったかに見えたが横山の快速が勝り内野安打。田辺のライト前ヒットと西崎の四球でノーアウト満塁のピンチを招く。続く長谷川はファーストゴロと思いきやファーストドラグノフがトンネル。ボールがライト方向へ点々とする間に横山と田辺がホームイン。またも長谷川の打席で不要なミスで失点を重ねてしまった。蔡のタイムリーヒットも出てこの回3失点。8回には西崎の今日2本目となるホームランで11点目。

9回、大連は代打として登場した星渡がレフト前に落として出塁。近堂が今日3本目のヒットで続く。棚橋が送って二三塁にすると、パウロを敬遠でワンナウト満塁となる。続くアンジェロは三振に倒れるもドラグノフの代打に登場の林がライト前に2点タイムリーヒットを放ち千両役者っぷりを見せ付ける。しかし反撃はここまでで6対11という酷い点差で試合終了。とにかくエラーがもつたいな

かった。やはり守備をしつかりしないとだらしのない野球になつてしまふ。ドラグノフはサードでは無難にこなしていたがファーストはあまり向いていないのかも知れない。

熱河シリーズはこれで終了。大連は2連敗に終わった一方、2勝したのは光州とチチハル。また、得失点差も+8、総得点11で差がつかず。そこで対戦相手補正を加えて優勝チームは光州と決定した。これは短期シリーズの時だけ適応される補正で、平たく言うと並んだ場合普段の順位が低いチームが勝つというものである。トロフィーと優勝賞品の馬肉1年分が贈られた。光州はシーズン最下位を独走しているが、久々に明るいニュースとなった。MVPには2本塁打を放った久保岡武徳内野手が選ばれた。

#### その他の試合結果

3 2 勝 3 7 敗 3 分	開城	4 - 3	新京	3 6 勝 3 1 敗 5 分
3 2 勝 3 6 敗 4 分	ハルビン	1 - 2	光州	2 4 勝 4 3 敗 5 分
3 5 勝 3 3 敗 4 分	チチハル	5 - 0	平壤	3 2 勝 3 6 敗 4 分

青島シリーズ第1戦 異国でのチャレンジ

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

8 篠原

4 ロバーツ

5 呂秀林

3 原田

2 秋方梧

1 立石

「ビジター」大連

4 大上(4 - 1)

9 ノーリー(3 - 1) - 金重男(1 - 0) - 高遼二

6 棚橋(4 - 1)

5 パウロ(4 - 1)

7 アンジェロ(4 - 1)

3 ドラグノフ(3 - 2)

8 岩下(3 - 0) - 山元(1 - 0)

2 清水(4 - 2)

1 張尊(2 - 0) - 水内(1 - 0) - 石風呂 - 平野 - 北 - 立石(1

- 0) - 黄直哉

大 0 0 1 0 0 1 0 0 0 2 張尊(5)

- 石風呂(1) - 平野(1) - 北(1) - S黄直哉(1) 4 0 勝

2 6 敗 7 分

哈 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 李正明 - 笠

オールスター戦も無事に終了して、今週末からは対抗戦が始まる。その前に青島シリーズが今日と明日の2日間開催される。青島とは言うまでもなく中国、山東半島に位置する都市の名前である。大日本リーグは日本列島、台湾、半島、満洲以外にも遠征するのだ。ただオールスター戦に出場した選手は基本的には出場させない。例えば連続試合出場の記録を伸ばしたいなどの試合に出たい理由があるのなら話は別だが、移動と試合を繰り返すのは負担が大きいのでほとんどのチームは選手が出たいと言っても止める。大連も吉野、松浦、林、星渡の4選手は遠征に参加せず東京に宿泊して対抗戦の開始を待っている。

さて、そうした事情もあって主力数名がいないスタメンはやはり淋しいものがある。しかし柵橋、パウロ、アンジェロのクリーンナップはフルメンバー同然で、それなりに迫力はある。また、ノーリリーが久々のスタメン出場を果たしていたり、今季初出場となる21歳の岩下菜央人が7番センターで早速スタメン起用されるなど、実験的要素も兼ね備えている。ハルビンも普段は田坂が磐石なのでほとんど出番のない2番手捕手の名前が見られるなど、変化がついている。

試合は投手戦となった。ここ数試合好調を維持している大連の先発張尊は今日も安定したコントロールと多彩な変化球が冴えて凡打の山を築いた。打線は毎回のようランナーを出しながら後1本がなかなか出なかったが、3回一死後に大上がサード内野安打で出塁。ノーリリーは粘って四球を選び一二塁とする。ここで柵橋がレフト前に転がすと二塁ランナー大上が一気にホームイン。6回にはアンジェロのソロホームランが飛び出して2対0とした。

張は5回無失点で余裕の降板。リリーフ陣もそれぞれしつかりと仕事をしてハルビン打線を0封。危なげなく勝利を手にした。林、星渡という主力がいなくても案外やれるものだ。迫力不足は否めなにいにしても。一方ハルビンは全体的に淡泊だった。ボルトや篠原に顕著だが、積極的を通り越した無謀な初球打ちはベテラン張を楽にさせたただけだ。やはり田坂がいないと駄目なのか、そう言われても仕方ない敗戦であった。

また、本日大連の折口元文外野手とチチハルの池田武治投手との交換トレードが成立したと両球団から発表された。パワーのある選手がほしいチチハルと先発がほしい大連の思惑が一致した形で、青島入りした後に両球団の首脳陣が話し合っって急遽成立した。折口外野手は勝負強い打撃が持ち味の30歳で、大連では主に代打として活躍していた。今季もホームランを1本打っている。池田投手は25歳で、思い切りのいいピッチングが魅力の左腕。先発もリリーフもこなすが大連としては先発として期待しているようだ。トレードや新外国人の獲得期限は7月末までなので動いてくる球団は他にも出てくるだろう。

#### その他の試合結果

24勝44敗5分	光州	1 - 9	開城	33勝37敗3分
32勝37敗4分	平壤	3 - 4	奉天	42勝26敗5分
36勝33敗4分	チチハル	5 - 2	新京	36勝32敗5分



青島シリーズ第2戦 平壤の秘密兵器

「ホーム」平壤

4 成田

8 佐々木

7 後藤

3 カストロ

9 幕内

5 鈴木

6 奈良橋

2 仲里

1 海坂

「ビジター」大連

4 大上(4-0)

9 高遼二(3-1) - ノーリー(1-1)

6 棚橋(2-0)

5 パウロ(3-2)

7 アンジエロ(4-1)

3 一村(4-1)

8 水内(2-0) - 古池(1-1) - 山元(1-0)

2 清水(3-1) - 金重男(1-0)

1 瑞穂(1-0) - 岩下(1-0) - 趙雅憲 - 本郷(1-0) - 伊

東 - 野藤 - 平野 - 立石(1-0)

大 0 0 0 0 0 0 1 0 1 瑞穂(4)

- 趙雅憲(2) - 伊東(1) - 野藤(2/3) - 平野(1/3)

4 0 勝2 7 敗7 分

平 0 0 0 0 2 0 0 0 0 1 - 3 海坂 - 大河

内・サーデュー - S井垣 33勝37敗4分

青島シリーズ第2戦は平壤と対戦。オールスターには趙民陽1人しか選出されなかったが本来実力のある選手は多いチーム。今日は外野に佐々木武介と後藤久次郎の通称幕末コンビが入り、ピッチャーには何と高卒ルーキーの海坂美月がプロ初登板というダイナミックなオーダーで挑んできた。しかしこの海坂が見事な好投を見せるのだからわからない。華がないと言われがちな平壤の起爆剤となるか、海坂の今後に注目である。

大連のスタメンで変わっているのはファーストに一軍初出場となる20歳の一村富郎の名前があるという点だ。先発は瑞穂で、丁寧にコーナーを突く大崩れしないピッチングは青島の地でもぶれはしなかった。しかし勝ち運がないというか、肝心なところで失点してしまうのがじれったい。防御率ほど勝てないのはそういったところに甘さがあるからだろう。

序盤は静かな展開。海坂は初登板とは思えないほど落ち着いており、コントロールもすっかりとmax147キロのストレートをコーナーに投げ分けていた。この試合初ヒットはキャッチャーの清水が放ったレフト前だったが、これも詰まった打球が誰もいない場所に落ちたといったもので、かなり安定していた。その後の4回裏に平壤打線がルーキーを援護。この回のトップバッター佐々木のライト前ヒットと後藤のヒットエンドランで一三塁として、カストロがセカンドゴロダブルプレーとなる間に佐々木がホームを踏んだ。さらに5番の幕内がホームランを打って0対2と先行した。

海坂は6回を被安打4の無失点と見事なピッチングで勝利投手の権利を得てマウンドを降りる。大連は8回に平壤の3番手サーデューを攻めた。先頭の代打ノーリーが内野安打で出塁。棚橋が送ると

パウロがレフト前ヒットで一三塁に。そしてアンジェロがセンター前に弾き返すタイムリーヒットで1点を返す。しかし一村がセカンドゴロダブルプレーで攻撃終了。しかもその裏に野藤が代打として登場した李偉誌にホームランを打たれて万事休す。なおも攻めたてられたが平野がカストロを抑えてこれ以上の失点は許さず。しかし9回はストッパー井垣吉見に3人で抑えられた。

青島シリーズはこれで終了。優勝は2勝を挙げた奉天に決定した。トロフィーと優勝賞品として青島特産のビール1年分が贈られた。シリーズMVPにはともに1点差という緊迫した試合展開の中で2セーブを挙げたケリー・ファン投手が選出された。土曜日からは対抗戦が始まる。大連はまず埼玉と対戦する。

#### その他の試合結果

3 3 勝 3 8 敗 3 分	開城	4 - 6	光州	2 5 勝 4 4 敗 5 分
3 6 勝 3 3 敗 5 分	新京	3 - 7	ハルビン	3 3 勝 3 7 敗 4 分
3 6 勝 3 4 敗 4 分	チチハル	1 - 2	奉天	4 3 勝 2 6 敗 5 分

青島シリーズ第2戦 平壤の秘密兵器（後書き）

一部日程でちょっとやらかしたが気にしない。

対抗戦開幕 折り返しは新たなるスタート

「ホーム」埼玉

4 王本易

8 黒山

6 永島

5 万剛福

3 平野

D フェルナンド

7 赤村

2 金良仁

9 李友亮

1 菱

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (2 - 0) - 高遼二 (1 - 0)

5 パウロ (4 - 0) - ドラグノフ (1 - 0)

7 アンジェロ (4 - 3)

D 立石 (3 - 1)

2 金重男 (4 - 1)

4 本郷 (3 - 2)

1 赤坂 - 野藤 - 比山

大 0 0 0 3 0 0 1 0 0 4 赤坂 (7)

埼 - 野藤 (1) - S 比山 (1) 0 0 0 0 1 0 0 2 菱 - 岡上篤

今日から約1ヶ月間対抗戦が開催される。対抗戦とは、前年の順位がAクラスだったかBクラスだったかで2つのグループに分かれて別のリーグに所属する球団同士が対戦するというものである。8球団のカンファレンスからは4球団、6球団のカンファレンスからは3球団の合計7球団がリーグから選出されて、別リーグから選出された7球団と戦う。前年中央リーグ大陸カンファレンスにおいて8球団中4位だった大連はAクラスのグループに入る。他には奉天、新京、ハルビン、そして列島カンファレンスからは名古屋、大阪、東京がAクラスグループに加わる。グループ入りの基準は前年の成績なので今季は低迷している球団がAクラスグループに入ることもある。

今回対戦する埼玉はその典型である。個々のパワーはあるが成績に結びつかない乱暴な野球をしているうちに今季は最下位まで落ちてしまった。もう黄金時代も20年前になるのか。あの頃は隙がなさすぎて「面白くない野球」とやっかみを言われるほどだったが、ここ数年はムラがありすぎる。ただ変質したのは野球そのものだけではない。埼玉黄金時代は必要な選手をあらゆる手段を講じて獲得する豪腕によって支えられていた面もあった。選手獲得に必須だった裏金使用が公になったこと（と言っても埼玉だけが使っていたわけではなく他球団も使用していたのは言うまでもない）かつてのように有力な選手を思うがままに獲得できなくなったのが落日の要因とも言えるかもしれない。まあ、そうは言っても有力な選手を抽選で引き当てる運は残っているし、今後は暗黒まっしぐらとは言えない。ただ大味な野球をしている球団は大抵その後低迷するもので、気をつけないと低迷は今年だけに終わらないという展開が待っているだろう。

今日の埼玉のスタメンもどことなく弱々しく、なるほど最下位も  
うなずけるといふものである。大連は右ふくらはぎの違和感で二軍  
落ちした近堂に代わって本郷がセカンドに入っている。また、海洋  
リーグが採用しているDHには代打の切り札立石が起用された。守  
備はほとんどできない立石だが打撃技術はまだまだ健在なだけに対  
抗戦では期待がかかる。そして先発はルーキー赤坂。前半戦で5勝  
3敗となかなかの成績を残している若武者を開幕に持ってきたが赤  
坂は落ち着いたピッチングで劉監督の起用に応えた。

赤坂の実力に関してはもはや普段通りに投げさえすれば結果はつ  
いてくるといった段階に入っている。今日も金とのコンビが冴えて  
ストレートをコーナーにビシビシと決めて埼玉打線をうまく封じた。  
打線の援護は4回。一死後にアンジェロが左中間を破る2ベースで  
チャンスを作ると立石がライト前に先制のタイムリーヒットを放つ。  
さすがの打撃技術だ。さらに金重男がレフト前、本郷が四球で満塁  
とすると、星渡のセカンドゴロ併殺崩れの間にも1点追加。ツーアウ  
ト一二塁から柳中平がライト前に落としてこの回3点を入れた。

埼玉は6回にホームラン王独走中の万剛福が今日もパワーを発揮。  
とにかく当たつたらホームランかという勢いで量産しているが案外  
勝負所では弱く、ある意味最下位の象徴と言える。続く7回にツー  
アウトから李友亮、王本易の連打でランナーを貯めて、黒山のタイ  
ムリーで1点差まで迫った。しかし王が牽制で刺されて同点のチャ  
ンスを潰す。直後の8回表に本郷の今季初ホームランが飛び出して  
4対2と差が開き、野藤、比山が埼玉の反撃を抑えて対抗戦の初陣  
を勝利で飾った。

大連の通算成績は41勝27敗7分となった。また、今日で15  
0試合中の75試合とちょうど半分である。単純に倍にすると82  
勝54敗14分になる。これならプレーオフ進出は当確で優勝も見

えてくるだろうが、まだ半分しか終わっていないとも言える。先の話はもっと後になってからしないと。



## 対抗戦開幕 折り返しは新たなスタート（後書き）

半分までは続きましたがこれからが本当に大変になるでしょう。毎回タイトルつけるのが一番大変かも。適當すぎるし。

打って初回に全てを決める

「ホーム」埼玉

4 王本易

8 黒山

6 永島

5 万剛福

3 平野

D フェルナンド

7 赤村

2 金良仁

9 李友亮

1 平尾

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

3 柳中平 (5 - 2)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (2 - 1) - 水内 (0 - 0)

5 パウロ (5 - 1)

7 アンジェロ (4 - 2)

D 立石 (3 - 1) - ドラゲノフ (1 - 0)

2 清水 (3 - 0) - 中西 (2 - 1)

4 本郷 (5 - 1)

1 フローデセン - 石風呂 - 黄直哉

大	5	0	0	0	0	0	2	0	0	7	フローデセ
ン	(6)	-	石風呂	(2)	-	黄直哉	(1)				
埼	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	平尾 - 朴文

埼玉との対決第2戦。埼玉の先発は平尾将方。そして大連はフロデーセン。しかし試合は初回で決着がついた。これも勢いの差なのか。ホームのほがが圧倒された埼玉のファンとしてはたまったものではないだろう。

前述の通り、試合は大連の猛攻から始まった。トップバッターの星渡が初球打ちでライト前ヒットを放ち出塁し、盗塁も決める。柳中平のレフト前ヒットで一三塁としたところで棚橋がレフト前にタイムリーヒット。いきなりの先制攻撃に平尾の集中が切れたのか、4番林に対して外角の甘い角度に投げたストレートを完璧に打ち返された。ライナー性の勢いある打球が一直線でライトスタンドに突入して、早くも試合の流れを決める3ランホームランとした。パウロはサードゴロでようやくアウトを取ったが、アンジェロにスライダーを狙われまたもホームラン。初回終了時点で5対0と大きく差がついた。もちろん試合もその通りに進んだ。

大量の援護をもらったフロデーセンは余裕の投球。ストレートはそこそこに、変化球を多用して埼玉打線を打たせて取るピッチングで魅せた。2回にフェルナンドがカットボールを捕らえてホームランとしたがまさに焼け石に水。全体的に大振りだった埼玉打線の淡白な攻めにも助けられて、初回以外はかなりサクサクとイニングが進んでいった。結局フロデーセンは6回で降板。その後を継いだ石風呂が2回を無失点に抑えるなど極めて楽な展開だった。

大連の追加点は7回。埼玉3番手の堀野がこの回の先頭である棚橋にいきなりデッドボール。続く林にも四球を与えて自らピンチを招く。パウロはレフトライナーでアウトを取ったがアンジェロと立石に連続タイムリーヒットを打たれて7対1とする。もはや決まっ

ていた試合に更なる追撃を加えた。終わってみれば13安打7得点の圧勝。幸先よく連勝スタートとなった。中西が今季11打席目にしてようやく初ヒットを放つというトピックスも。これで大連の通算成績は42勝27敗7分となった。

いきなり好スタートを切ったが、相手は今季調子が出ず最下位に沈んだ相手なので参考程度にしかならない。むしろ本番はここからである。来週はまず現在首位の福岡と対戦する。大連もこの日程を見越してエース吉野とベテラン張尊をぶつけるローテーションとしたが、福岡の先発ローテーションははつきり言って強い。この福岡に対してどれだけの戦いができるかは今後の首位争い、そしてその先のプレーオフや大日本シリーズを占う上でも重要となってくるだろう。

トップを掴め 古池大爆発

「ホーム」福岡

6 唐崎

4 木多

8 于聖竹

3 小久野

7 真中

9 多沼

5 朴浩宣

D オルテイス

2 朴秀範

1 瀬津

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 0)

3 柳中平 (3 - 0) - ドラゲノフ (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

D 古池 (3 - 3)

2 清水 (4 - 1)

4 本郷 (3 - 0) - ノーリー (1 - 0)

1 吉野 - 伊東 - 野藤

大 0 1 0 0 0 4 0 0 0 5 吉野 (7)

福 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 瀬津 - 王翔

- 伊東 (1) - 野藤 (1)

## 大・金健仁

今日からは福岡と2連戦する。福岡は、かつては20年連続Bクラスという日本記録を打ち立てた時期もあったが、現在は豊富な資金で有力な選手を獲得できる球団のひとつで上位の常連となっている。今季も補強の成果でなかなかの戦いを見せている。外部からの補強だけでなく地元九州の選手を多く獲得して戦力にするといった育成もしている。しかしこの球団の弱みはシーズンではなく短期決戦。何とプレーオフ採用から今季に至るまで一度も勝ち上がったことがないのだ。はつきり言って強い球団なのにこの体たらくは信じられない。秋になると普通の力が発揮できなくなるのか。もはやオカルトの世界である。去年は埼玉を土壇場で逆転してシーズン首位決定という劇的な勝ち上がりを見せたのにプレーオフでは千葉の前に涙を飲んだ。今季こそジंकウス打破をと意気込むが本当にいつになったら打破できるのか。

今日の先発は大連がエース吉野、福岡は瀬津。彼は社会人野球でかなり長い間エースとしての活躍を見せていたがなかなかプロ入りの機会に恵まれなかった。しかし福岡が下位で指名すると1年目から抜群の能力を発揮して新人王にも選出された。最初の2年はリリーフだったが今季から先発に転向。ここまでは勝ち星にも恵まれており極めて順調と言える。

今日は大連の7番指名打者に入った古池が絶好調だった。2回、四球で出塁のパウロを一塁に置いての第1打席でいきなり福岡ドームの左中間を破るタイムリー2ベースで先制点をもたらす。4回にもレフト前ヒット。そして圧巻は6回。棚橋四球、林三振、パウロレフト前ヒット、アンジェロ四球でワンナウト満塁で打席に回った古池はストレートを振りぬいて走者一掃のセンターオーバー3ベースで一気に試合を決めた。さらに清水もライト前にタイムリーヒット

トを放つて5対0として、後は吉野がその点差を守りきるだけだった。

吉野は相変わらず力強いピッチングで強力な福岡打線を7回無失点に抑えた。于聖竹が故障から復帰して早速3番に入ったが今日は無安打。しかし彼の復活は福岡の勝利に大きな助けとなるであろう。プレーオフ突破には彼のような悪人の活躍が必要になってくるのかも知れない。三冠王に輝いたことのある真中信央は実力はあるが真面目すぎて前監督のためという意識が強く、それがプレーオフにおけるブレーキの要因となっていた。于の性格から考えるとそういったプレッシャーを感じないタイプに見えるので、重要な局面でも普段通りの野球ができるだろう。

大連の話に戻すと、古池は8回の第4打席は敬遠気味の四球となった。3打数3安打4打点という大当たりでチームに勝利をもたらした。古池の活躍に加えて今日は四球が比較的多かった事もあり、大連は6安打で5点を奪い快勝。これで大連の通算成績は43勝27敗7分となった。

継投策裏目 連勝ストップ

「ホーム」福岡

6 唐崎

4 木多

8 于聖竹

3 小久野

7 真中

9 多沼

5 朴浩宣

D オルティス

2 奇勝巳

1 和谷

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

3 柳中平 (3 - 0) - ドラゲノフ (0 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0)

D 古池 (2 - 1) - 大上 - 本郷 (1 - 0)

2 清水 (2 - 0) - 金重男 (2 - 1)

4 ノーリー (2 - 1) - 立石 (1 - 0)

1 張尊 - 黄直哉 - 平野 - 野藤 - 趙雅憲

大 0 1 0 0 0 0 2 0 0 3 張尊 (5)

福 0 1 0 2 0 2 1 0 - 6 和谷 - 金健  
 - 黄直哉 (2 / 3) - 平野 (1 / 3) - 野藤 (1) - 趙雅憲 (1)



## 仁・允新福・Sファルゲンバーグ

第2戦に福岡が繰り出してきたのはダブルエースの一角を担う左腕の和谷。球速以上にキレイのいいボールを投げることで知られている昨年のMVP投手相手に大連はなかなかの攻めを見せたが及ばなかった。

大連の先発投手はここ3試合無失点ピッチングを続けている張尊。そして昨日猛烈な打棒を発揮した古池が引き続き7番指名打者で先発出場。また、セカンドにはノーリーが久々の先発出場を果たしている。試合はまず大連が2回にパウロのソロホームランで先制。しかしその裏に福岡が反撃。5番に入った真中がセンター前ヒットで出塁すると多沼もレフト前に転がして続く。そして福岡生え抜きの若手大砲として期待されている朴浩宣がレフト前にタイムリーヒットを打って同点とした。下位打線であって下位打線でないような強力な名前が続くのは福岡の強みである。

試合はそれ以降福岡のペース。そして逆転となったのは4回。真中が四球で出たところで多沼がレフトスタンドに叩き込むライナー性の力強いホームランで1対3と試合をひっくり返した。多彩な変化球を使う張がストリートで来るのを見事に見切った。張は5回3失点で降板。6回は多沼、朴浩宣、オルティスと右打者が続くので、2番手として右投手に強い黄直哉を投入。しかし黄が右打者に捕まってしまう。

先頭の高沼に対して四球。朴はレフトフライに打ち取ったがオルティスに左中間フェンス直撃のタイムリー3ベースを打たれる。さらにキャッチャーの奇勝巳をセカンドゴロに打ち取る間にオルティスが生還してこの回2失点。トップに戻り唐崎は左打者なので平野と交代。唐崎にライト前ヒットを打たれたものの木多をセカンドフ

ライに打ち取って福岡の攻撃を終わらせた。しかしこの2失点はあまりに大きかった。

7回、大連が遅まきながら反撃。福岡2番手の金健仁に対して、まずこの回のトップバッター古池がレフト前ヒットで出塁。さらに清水の代打金重男が三遊間をしぶとく抜くヒットで続く。ノーリーの送りバントでワンアウト二三塁。トップに戻って星渡がセンター前に痛烈なゴロを放ってサードランナーの代走大上が生還。続く柳中平の代打ドラゲノフによるライトへの犠牲フライでもう1点追加した。しかし柵橋は三振で攻撃終了。直後に于聖竹の復活を自ら祝うように強烈な2ベースでチャンスを作る。小久野のセカンドゴロで三進し、真中の犠牲フライで6点目のホームを踏んだ。試合はそのままゲームセット。これで大連の通算成績は43勝28敗7分となった。

5回3失点で張を下げた早めの交代が結果的に裏目に出たか。福岡はリリーフ陣もかなり強力な駒が揃っているのでリードされたまま終盤を迎えると今日のように抑えられてしまう。やはり強いチームにはそれなりの理由があるというものだ。その福岡と1勝1敗の五分で戦えた事で自信と課題を手にしたと言えるだろう。明日は台湾に渡り、台北と連戦する。



福岡から台湾に移動してすぐに台北戦。そして2試合が終わるとすぐ千葉に移動して2連戦。東アジアが舞台の大日本リーグはアメリカのように移動が多く、選手を疲弊させる。今日は林が休養でノーリーが2番ライトとして先発。内外野守れるユーティリティプレイヤーはこのようなタフな日程が続く対抗戦でより効果を発揮する。そして昨日打点を挙げたドラグノフもスタメンに。先発はオールスター明け初登板となる松浦。

対する台北は日本列島のみで行われていた野球リーグを現在の姿に仕立て上げた原因となった球団のひとつである。台北と、今回は対戦しないが台南の加盟を認めた事が原因でリーグは2つに分裂。その後朝鮮半島や満洲にも球団を作る動きが加速した。極端なことを言うと大連球団は今日対戦する台北（と対戦しない台南）なしでは存在しえなかったというわけだ。まあ、遅かれ早かれいわゆる外地の球団は誕生していたという話もあるが。都市対抗では極めて優秀な成績を残していた球団が多く存在し、有力な大企業も多かった。ので結びつけばプロとなっていたのは日を見るより明らかという説である。しかしその場合日本列島のリーグとは別に、満洲や朝鮮半島にも野球リーグが発足という形になっていたかも知れない。やはり現在の形になったのは台湾のお陰だろう。

さて、台北は現在3位で、戦力もなかなか整っている。19歳の4番洲崎滋や業師の斉藤雅人を中心とした打撃陣はバランスが取れている。投手陣も先発からリリーフまで一通り人材が揃っており弱点たしい弱点はない。しかし優勝するには一回りの成長が必要と言ったところか。今日の先発は程良民。23歳の若手投手だが今季急成長してローテーションの一角に定着している。左腕からのカーブが武器。

試合は2回、一死後に5番の尹浩二が三遊間を破るヒットで出塁。続く陸文保はレフトフライとしたがアンジェロが落球で一二塁に。石崎は三振もマイルズにライト前タイムリーを打たれて先制を許す。もちろん松浦の自責点はつかず。打線は程の適度な荒れ球とカーブにタイミングをずらされ、なかなか攻略できない。しかし試合中盤にようやく反撃体勢が整った。

5回、先頭打者の本郷がライト前に流して出塁。さらに星渡四球でノーアウト一二塁として、ノーリーの送りバントで二三塁に。棚橋はショートゴロでランナーそのまま、パウロがレフトフェンス直撃の痛烈な2ベースを放ち2対1と逆転に成功。林の名前がなくてもある程度は戦えるようになったのは大連のチーム力向上を如実に示している。

このままいけば勝利だったがそう簡単にいかないのが野球の世界。6回裏に落とし穴が待っていた。一死後に3番のマクギャリーが右中間を破る痛烈なライナー性の打球を飛ばす。マクギャリーは二塁ベースを蹴って一気にサードへ進み、いきなり同点のチャンスとなった。そして迎えるのは4番渕崎。渕崎と松浦は同年代。地方の無名投手だった松浦とは反対に、小学生の頃からその才能を知られていた渕崎。昨年のプロ1年目は68試合に出場して7本塁打を打つなどなかなかの活躍を見せた。何より打球の飛び方が違う。

マクギャリー、尹など中距離打者の多いチームに待望の長距離砲出現という事で、呉鉄広監督は実戦で鍛える方針を取った。渕崎は今のところ打率・268本塁打7打点27の数字を残しており、ファン投票でオールスターにも選出された。開幕当初よりも明らかに良くなっており、今後のさらなる成長が期待されている大物候補だ。その渕崎が松浦の真ん中低めに入ったストレートをジャストミート

で振りぬき見事なホームランを放った。これで2対3と大連を逆転。そしてそのまま決勝点となった。9回表、ツアアウトから立石が四球を選んだが代走の大上が盗塁失敗でゲームセット。これで大連の通算成績は43勝29敗7分となった。

8回の被逆転劇 台湾遠征連敗

「ホーム」台北

9 斉藤

D 王啓人

8 マクギャリー

6 渕崎

4 尹浩二

3 陸文保

5 石崎

7 マイルズ

2 加藤

1 メディック

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (5 - 0)

D ドラグノフ (3 - 1) - 古池 (1 - 0)

2 金重男 (4 - 1)

4 本郷 (3 - 1) - 高遼二 (1 - 0)

1 瑞穂 - 野藤

大	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	-	2	1	瑞穂 (7)	-
台	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	-	2	1	野藤 (1)	メディック -

台北との2試合目に大連の劉監督が繰り出したのは瑞穂。ここま  
で3勝6敗と勝ち星には恵まれていないもののローテーションに定  
着しており重要な戦力となっている。迎え撃つ台北は3年目となる  
外国人投手ロジャー・メディック(29)が先発。不規則に変化す  
るストレートとチェンジアップ、カットボールなど多彩な変化球で  
打たせて取るピッチングが身上のタフな投手である。

試合は投手戦となった。メディックは多少のヒットは承知の上で、  
タイムリーヒットをより少なくする投球術を心得ている。よって一  
見大連がメディックを攻めているように見えても実は彼の術中には  
まっていたのだ。例えば2回、先頭のパウロが初球のチェンジアッ  
プをレフト前に落として出塁した。続くアンジェロはサードゴロに  
抑えたがドラグノフは四球で一二塁。さらに金重男にも四球を与え  
て満塁とするが本郷をピッチャーゴロに仕留めてダブルプレーで攻  
撃を終了させた。とにかくゴロを打たせる技術がある投手である。

瑞穂はコントロールが大きな武器となっている。本人の性格もそ  
の通りなのだろうと思わせる慎重で丁寧なピッチングでこちらもス  
コアボードに0を並べた。試合が動いたのはバッター個人のパワー  
によるものであった。5回表、ツアウトまでは簡単に与えたがこ  
こで登場したのが大連の4番林。多彩な変化球を持つメディックだ  
が読み合いにかけてはプロで20年以上生き抜いてきたベテランに  
一日の長がある。最初から狙い球はスライダーだったようで、カッ  
トボールなど狙い以外の球はうまくカットして9球目にスライダー  
を投げてきた所をうまくすくい上げてライトスタンドまで運んだ。  
さすがの技量である。

メディックは6回で降板。しかし台北はリリーフも安定していた。



7回に登板した平岡靖成は昨日登板した平岡順太郎とは同姓だが年齢は25歳と37歳と大きく離れており、血縁関係もない。追加点を取れない大連。その報いは8回に訪れた。疲れの見えてきた瑞穂に代えて野藤を投入した大連だが、結果的にこれが裏目に出た。

先頭打者の斉藤は1・2からうまく粘って四球。王啓人が送り、3番マクギャリーのセカンドゴロの間に斉藤は三塁に進んだ。そして瀧崎。彼に対しても野藤は慎重すぎた。ボール先行のピッチングから甘く入ったストレートを狙われてセンターに抜ける同点タイムリーヒットとなってしまう。さらに尹浩二にライト前ヒットを打たれて一三塁。こうなると止まらない。陸文保のゆるいゴロはタイムリー内野安打となり逆転を許してしまう。

8回は黒谷原一、そして9回はオールスターにも選出された落合高麿がそれぞれ大連打線を3人で抑えてゲームセット。台湾遠征は連敗に終わった。これで大連の通算成績は43勝30敗7分となった。次は千葉へ向かい連戦を行う。そしてそれが終われば本拠地大連に戻る。

負傷炎上 傷ついた敗戦

「ホーム」千葉

8 岡谷

9 伊知嶺

4 李忠資

3 カステール

5 岩江

7 朴逸尚

D 福村

2 黒崎

6 堀内

1 晋日静

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 1) - ドラゲノフ (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (3 - 1)

D 古池 (4 - 0)

7 宮畑 (3 - 1)

2 金重男 (4 - 1)

4 ノーリー (1 - 0) - 本郷 (2 - 0) - 立石 (0 - 0) - 大上

1 赤坂) - 趙雅憲 - 北 - 石風呂

大 0 1 0 0 0 0 2 1 0 4 赤坂 (4)

千 2 0 0 1 2 0 2 0 - 7 晋日静 - 趙

大連は台北から千葉に移動して即座に連戦。幸い千葉には空港があるので移動が多少楽なのだがやはりハードなものはハードである。先発は赤坂なのでバッテリーを組むのは金重男。アンジエロが休養で今季初先発の宮畑圭助がレフトに入る。宮畑は開幕一軍を果たしたものの1試合だけで二軍へ送られた。しかし対抗戦が始まった際に再び一軍への切符を手にした。このチャンスは逃せない。

さて、対戦する千葉はある意味福岡と対極を成すチームである。プレーオフが得意なのだ。リーグ戦を首位で終えたのもう40年近く前の話だがプレーオフ導入のお陰でここ6年で2回日本一に輝いている。チームとして戦い続ける力量はなくても短期決戦で勝てれば問題ない、というか特に福岡が肝心な場面で負けすぎるのはいけない。千葉は大日本シリーズにおいて勝利という義務を果たしているのだから、後ろ指を刺されるようなことは何もしていないはずだ。チーム人気はぼちぼち。かつては不人気の象徴で18連敗を喫した事もあったが、むしろここで負けすぎたことで応援に力を入れ始めた人々もいるようだ。サッカー的な応援と融合した独自のスタイルを築き上げたのは良いが、悪い意味でも影響を受けたようで横柄な振る舞いが目立ってきたのでそういった一部の人物は排除された。残念だが当然。フロントにも暗雲が漂っていると言われるがまあそれは別の話。

今日の千葉の先発投手はベテランの晋日静。試合は千葉打線が赤坂を攻め落として一方的な展開となった。まず初回到岡谷、伊知嶺の快速コンビの出塁を許すと一死後に途中加入のカステーロにレフト前にタイムリーを浴びる。さらに5番岩江も続いてこの回2失点と幸先悪いスタートとなった。

大連は2回に宮畑の今季第1号ホームランが飛び出して1点を返すがその後は沈黙が続いた。そして動いたのは4回裏。一死後からライト前ヒットの福村を一塁に置いて黒崎はショートゴロを放つ。併殺コースという事でセカンドのノーリーが二塁ベースに入り、ショート棚橋のボールを受けたがスライディングに巻き込まれて負傷退場してしまった。プロ野球のプレーとしては不可抗力である。セカンドには本郷が入った。続くバッターの堀内は四球。そして岡谷のタイムリーで3点目を与えてしまった。5回には好調なカステロの2ランホームランが飛び出し赤坂を5失点でKOする。

大連は千葉の先発晋が降板してからようやく反撃開始。7回に先頭の宮畑が四球を選んで出塁。そして金重男が一気にランナーを返す左中間を割る2ベースを放つ。さらに二死後、柳中平の一塁線を破るタイムリーヒットでこの回2得点。逆転という勢いだっただが直後の千葉の攻撃で霧散した。3番手の北が朴逸尚に2ランホームランを許して差が2点から4点に。8回にパウロがソロホームランを放ったがもう遅かった。これで4連敗。しかも先発赤坂が撃沈してノーリー負傷退場という最悪に近い負け方で大連の通算成績は43勝31敗7分となった。

つながった打線 連敗ストップ

「ホーム」千葉

8 岡谷

9 伊知嶺

4 李忠資

3 カステール

5 岩江

7 朴逸尚

D 福村

2 黒崎

6 堀内

1 マーシー

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

3 柳中平 (5 - 3)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1) - 水内

5 パウロ (5 - 0)

7 アンジエロ (4 - 1)

D ドラグノフ (4 - 2)

2 金重男 (5 - 2)

4 本郷 (4 - 1)

1 フローデセン - 北

大	0	3	0	1	0	1	1	0	0	0	6	フローデセ
ン	(8)	-	北	(1)								
千	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	マーシー -

連敗に加えて昨日退場したノーリーは全治6週間の重傷と診断されて沈んだ空気が漂い始める大連周辺。そろそろ勝利で暗雲を吹き飛ばさなければ。今日の先発はフローデセン。そして千葉は2年目のマーシー。しかし試合は初回到李忠資の先制ソロホームランが飛び出すというまずい展開。またも敗北か、そんなムードを変えたのは打撃陣の奮闘であった。

口火を切ったのは下位打線だった。2回一死後にドラグノフがストリートを捕らえてレフト線を破る2ベース。金重男はレフト前ヒット。本郷は四球で満塁のチャンスを作る。そして迎えた星渡は押し出し四球を選んで同点に。マーシーは球威に定評があるがコントロールには難がある。続く柳中平がセンター前に2点タイムリーヒットを放ち一気に逆転した。4回には一死後に内野安打で出塁した本郷を星渡がライト前ヒットで三塁まで進める。柳はサードファールフライに倒れたが柵橋がレフト前に落として1点追加。着々とリードを広げる。

打線の援護をもらったフローデセンは2回以降立ち直って本来の安定したピッチングを展開。4回には岩江のバットを粉碎するなど、今日は球威もなかなか冴えていた。フローデセンは8回まで投げて失点は初回到に喫した1点のみ。9回は北を登板させたが、彼もまた心得たピッチングを見せて千葉打線を3人で抑えた。

大連打撃陣は6回に林のタイムリーヒット。7回には金重男の今季初となるホームランが飛び出してさらに加点。結局6対1と快勝した。これで大連の通算成績は4勝3敗7分となった。

ようやく勝利を手にした大連。日本遠征は4勝4敗とまったくの

五分五分で終えた。全編ビジターで移動を続けながらの戦いと考えると十分に健闘したほうと言えるだろう。次はホーム大連に戻って海洋リーグ大陸カンファレンスの面々を迎え撃つ。対戦相手は火曜日と水曜日は昨年2位の安東、木曜日と金曜日は昨年1位の京城、そして土曜日と日曜日は昨年3位の元山である。いずれも強力なチームが揃っているが大連も確実に強くなっている。今日はドラゲノフ、金重男、北など普段は脇役の選手がよく躍動したが、これこそ選手層が厚くなっている証拠である。夏の総本山となる8月が始まるが、これからはより熱いゲームに期待できそうだ。

## 勝負の8月 エース激突

「ホーム」大連

8 星渡(4-0)

3 柳中平(3-0) - 立石(1-0)

6 棚橋(3-1)

9 林(3-1)

5 パウロ(4-0)

7 アンジエロ(4-1)

4 曾剛仁(2-0) - ドラグノフ(1-0) - 本郷

2 清水(2-0) - 金重男(1-0)

1 吉野(2-0) - 古池(1-1) - 野藤

「ビジター」安東

8 江篤順

7 高友朋

4 江田上

3 マンドルフ

9 菅原

5 ウエッジ

6 和徳

2 年本

1 蜂谷

安	0	0	0	0	0	0	0	0	2	蜂谷
大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	吉野(8)
- 野藤(1)										

本拠地である大連に戻って仕切りなおしとなる対抗戦。最初に対



戦するのは安東だ。安東は朝鮮半島と満洲国の境目となる鴨緑河のほとりにある都市で、満洲にありながら朝鮮半島色が強いのが特徴となっている。そこまで大きな都市ではないので資金力はあまりないが、育成を重視したぶれない姿勢と少数だが的確な選手獲得で定期的に上位戦線に進出するやり手の球団である。青い瞳のアーサー・ゲーリング監督のもとで選手はファミリア的結束を誇り、江篤順、菅原といったベテランから年本、和徳といった若手までが一致団結して堅実な野球をするスタイルは他球団にとって嫌らしい存在であると言える。飛びぬけた選手がないので優勝はなかなか出来ないがシーズンをかき回す。

今日からは大連の所属する中央リーグのルールに則るので指名打者制は適用されない。大連はノーリーの代わりに一軍に昇格した曽剛仁が早速スタメンに名を連ねた。曾は元々台北のドラフト2位で期待されていたが相次ぐ怪我などで実力を発揮しきれず、大連にトレード移籍して今季で2年目となる。持ち前の俊足巧打をアピールしたい。先発は10勝目を狙うエース吉野。安東も今季の開幕投手を務めた蜂谷を繰り出し徹底抗戦の構え。試合は、大方の予想通り投手戦となった。

蜂谷も吉野も力強いストレートをベースにスライダー、カーブ、落ちる球などをバランスよく有してどんなピッチングスタイルにも対応できる正統派のエースピッチャーである。年齢も蜂谷が28歳、吉野が29歳と近い。2人の投げ合いでスコアボードに0を並べる作業がしばらく続いたが、それは7回表に終焉の時を迎えた。一死後、菅原がレフト前に落ちるラッキーなヒットで出塁。続くウエツジはサードゴロに打ち取ったと思いきやパウロが後逸して一二塁に19歳の和徳定喜のライトへのフライで菅原は三塁まで進む。そして8番キャッチャーながら打撃力にも定評のある年本敬悟がセンターオーバードランナーを一掃するタイムリー2ベースを放ち、よう

やくスコアボードの表示を動かした。そしてこれがこの試合唯一の得点シーンとなった。

蜂谷は大連打線を4安打に抑えて完封勝利。大連は終盤の代打攻勢も実らずに対抗戦の本拠地初戦は敗北。吉野の10勝目はならなかった。これで大連の通算成績は44勝32敗7分となった。初出場となった曾剛仁は無難なプレーぶりだった。しかしやはり代役という印象は拭えず、近堂の復帰を待つしかないのが実情であると言わざるを得ない。

打って圧勝 真夏の花火

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 3)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 3)

9 林 (3 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

5 ドラグノフ (3 - 2)

4 本郷 (3 - 0)

2 金重男 (4 - 1)

1 張尊 (2 - 0) - 曾剛仁 (1 - 0) - 趙雅憲 - 宮畑 (1 - 0) -

伊東 - 平野

「ビジター」安東

8 江篤順

7 高友朋

4 江田上

3 マンドルフ

9 菅原

5 ウエッジ

6 和徳

2 年本

1 マティングリー

安 0 1 1 0 1 0 0 0 1 4 マティング

リー - 李周汰 - 皆原 - 峰田

大 2 0 4 1 0 0 2 0 0 9 張尊 (5)

- 趙雅憲 (2) - 伊東 (1 1 / 3) - 平野 (2 / 3)

昨日は蜂谷に体よく抑えられてしまった大連だが今日は昨日の鬱憤を晴らすかのような力強い猛攻を見せて勝利。ホームスタジアムを埋める観客に喜びをプレゼントできた。これで大連の通算成績は45勝32敗7分となった。

大連の先発はベテランの張尊。ここ2試合いいところなかったパウロを今日はベンチに下げてドラグノフが先発。そしてマスクを被るのは金重男である。安東はマテイングリーが先発投手。実力派の右腕で安東の先発三本柱を蜂谷、胡和直とともに形成しているが今日は得意の不規則に動くボールがあまり通用せずに大量失点となつてしまった。

初回から大連の打撃パレードは全開。星渡がライト前、柳中平がセンター前にヒットで出塁。棚橋はレフトフライに倒れたものの林がライト線を破る2点タイムリーを放つていきなり先制点を挙げた。直後の2回表にウエッジのホームランが飛び出して安東も追いつがる。ウエッジは打率こそ低いが一発があるので侮れない打者である。さらに3回には江篤順の2ベースヒットと江田上のレフト前タイムリーヒットで同点とするが、ここから大連打線が本格的に爆発する。

3回裏、先頭の柳がまたもセンター前ヒットで出塁。基本に忠実で堅実なプレーは彼の持ち味である。棚橋もレフト前に転がして続く。林は四球を選んでノーアウト満塁の大チャンス。ここでアンジエロが三遊間を破るヒットを放つて一気に2点。続くドラグノフもライト前にタイムリー、さらに本郷の犠牲フライでもう1点追加して6対2と突き放した。4回には星渡のソロホームランがライトスタンドに突き刺さりマテイングリーをノックアウトした。

駄目押しとして、7回には金重男の2点タイムリーヒットも加わ

った。9点という手厚い援護に囲まれた先発の張は5回を3失点で早々と降板も今季7勝目を手にした。張の後を継いだ2番手の趙が2回を無失点で抑えたのも試合の安定に一役買った。9回に安東が3番手の伊東を攻めて高友朋のタイムリーヒットが飛び出したが江田上とマンドルフを左キラーの平野がそれぞれショートフライと三振に抑えて1点のみに抑えた。

星渡と棚橋が猛打賞を記録するなど、14安打9得点を奪った打線の奮闘で安東を倒して次の対戦相手は強敵の京城。2戦目で先発予定の瑞穂や今日マスクをかぶった金重男が元々所属していたチームでもある。トレードで加入した西坂と高添も一軍でレギュラーと言える地位を確保しているという。そういった因縁も含めて面白い勝負となりそうだ。

打って庄勝 真夏の花火（後書き）

安東は安田女子大前。そういえば帰省を考えないといけないのそろそろ手抜き、いや簡易更新に切り替えていく予定。

十代の蹉跌 松浦玉碎

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 本郷 (3 - 0) - 大上 (1 - 0)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (3 - 2)

3 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

5 ドラグノフ (4 - 2)

2 金重男 (4 - 0)

1 松浦 - 宮畑 (0 - 0) - 趙雅憲 - 曾剛仁 (1 - 0) - 石風呂 - 古池 (1 - 0) - 北 - 黄直哉 - 立石 (1 - 1)

「ビジター」京城

4 辻

8 朴慎一

7 高添

5 羅久聖

3 バンカー

6 羅慧聖

9 砂子

2 山根

1 市原

京 2 5 0 0 0 1 0 1 0 9 市原 - 孫貞

亮 - 菊藤

大 0 0 0 0 2 0 0 0 2 松浦 (2)

- 趙雅憲 (3) - 石風呂 (1) - 北 (2) - 黄直哉 (1)

大連が次に迎える相手は大陸でも屈指の強豪チームとして知られる京城。京城は竜山鉄道局をルーツとする球団でその歴史は長い。プロ化してからも朝鮮半島一の大都市にふさわしい洗練された野球を身上とする実力派として存在し続けている。現在チームの色を最も体現していると言われるのが4番に座る羅久聖内野手である。弟の慧聖とともに三遊間を形成している28歳だが、これまでタイトルを獲得したことはない。大体3割20本100打点付近を毎年確実に残している。彼や辻、朴慎一、山根などたゆまぬ努力とフォアザチームの精神で飛びぬけた成績は残さないものの毎年確実な数字を挙げる選手が多い。投手陣は高橋豊、勝間田秀和、孔僚の先発三本柱がまさに磐石。リリーフも有力な選手が多く、隙のない好チームである。

京城の先発は活躍と怪我を繰り返す大型右腕の市原荒二。大連の先発投手は若き松浦心。しかし今日は松浦にとって試練のマウンドとなった。おそらく今までで一番苦しい戦いを強いられただろう。何しろ投げるボールが全て捕らえられるのだから。この傷を癒すには自分自身のピッチングによってしかない。マウンドで学ぶべきことはまだまだ多い。打たれるのもひとつの勉強で、将来の糧となるはずだ。

まず初回、京城のトップバッター辻がショート頭の頭を越すヒットで出塁。朴モライト前にヒットを打っていきなり一三塁とする。移籍1年目でポジションを確保した高添からは三振を奪ったものの4番羅久聖がストレートを弾き返すセンター前ヒットを飛ばしてまず先制。さらにリック・バンカーがレフト前に引っ張り2点目とした。早くもビハインドを負った大連だが、2回はさらなる地獄が待っていた。



まず先頭の山根が四球を選んで出塁。市原は三振も辻がセンター前ヒット、朴が内野安打で満塁とする。そして高添が松浦のストレートを強烈に引つ張って三塁線を破る2点タイムリー2ベースヒット。続く羅久聖はスライダーを捕らえて右中間を破るタイムリー2ベース。バンカーのサードフライを挟んで、羅慧聖がカーブを捕らえてのライト前タイムリーヒットを放つてこの回一気に5失点。松浦はこの回限りで降板となった。ストレーターの球威も変化球のきれもそこまで悪くなかった。もはやここに一切の言い訳はできない。完敗。実力の不足である。

2番手は趙雅憲が登板。緊急登板でややコントロールが定まらなるところもあつたがさすがの経験を発揮して3回を無失点で締めた。3番手の石風呂はバンカーに場外ホームランを打たれた。羅久聖よりホームランを打つパワーは勝っているアメリカ人の面目躍如である。今日の石風呂は安定していたが不意の一発で全てがひっくり返ってしまうのがホームランというものである。3番手の北は7回を3人で抑えたが8回には朴にタイムリーを浴びて2回1失点。4番手の黄直哉はあっさり3人え抑えたがすでに試合は終了の構えだった。

大連の打撃陣は6回に林とアンジェロがヒットで一三塁としたところでドラグノフが左中間に2ベースを放ち2点を返したが、それ以降は京城の中継ぎに抑えられて結局2対9で大敗。これで大連の通算成績は45勝33敗7分となった。

ただでは終わらせない勝負 古巣への思い

「ホーム」大連

- 8 星渡 (5 - 2)
- 3 柳中平 (3 - 0) - 古池 (1 - 1) - 大上 - 4
- 6 棚橋 (4 - 1)
- 9 林 (3 - 2)
- 5 パウロ (4 - 1) - 3
- 7 アンジエロ (4 - 2)
- 4 本郷 (3 - 0) - 立石 (1 - 0) - 5 曾剛仁
- 2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)
- 1 瑞穂 (2 - 1) - 宮畑 (1 - 0) - 伊東 - 比山 - ドラグノフ (1 - 0)

「ビジター」京城

- 4 辻
- 8 朴慎一
- 7 高添
- 5 羅久聖
- 3 バンカー
- 6 羅慧聖
- 9 砂子
- 2 山根
- 1 孔僚

京	0	0	0	3	0	0	0	0	3	孔僚 - 土門 -
西坂 - 安部										
大	0	0	0	1	0	0	0	2	0	瑞穂 (7) -
伊東 (1) - 比山 (1)									3	

昨夜の惨劇から一日が過ぎた。大連今日の先発は瑞穂。かつて京城に所属していたがチームの中心となりきれなかった男である。しかし大連に移籍した今年はこちらまで安定したピッチングで新境地を開いている。古巣相手に実力を発揮できるか。京城は三本柱の一人孔僚が先発。孔僚は抜群のコントロールとスライダー、チェンジアップ、シンカーなど多彩な変化球を持つ、いわば瑞穂の強化版といった投手である。瑞穂にとってはなおのこと負けられない相手である。

序盤は探り合うかのようにお互い無得点。最初に観客を沸かせたのは4回表。先頭打者の朴慎一が左中間への2ベースヒットで出塁。高添のサードゴロで三塁まで進む。そして4番の羅久聖はレフトのやや深い位置にフライを打ち上げた。もちろんタツチアップを仕掛けるが、大連のレフトアンジェロがバズーカのような好返球を見せて朴を刺殺。持ち前の身体能力を発揮して京城の得点を許さず。

アンジェロの好プレーの直後に呼応したように、先頭打者となる棚橋が先制のソロホームランをレフトスタンドに叩き込んだ。その後林にもヒットが出たがパウロはカットボールを引っかけダブルプレーに打ち取られてしまった。この辺りは孔の投球術が上手であったが1点を取ったのは事実である。しかしこのまま逃げ切れるだけの力は今の大連にはなかった。

京城の反撃は5回。一死後に辻が四球を選んで出塁。朴の打席でヒットエンドランを決めて二三塁に。そして高添が外角低めのスライダーを完璧に捕らえた逆転の3ランホームランをレフトスタンド上段に放った。高添は洗練された京城においてはそういった部分の少ない、あえて言うところ「空気を読めない」男である。しかしそれゆえにゲームの流れを変える仕事を果たすことも出来る。もちろんミ

スも多い。しかし道原監督はそれを込みでチームの起爆剤、新たな化学変化を起こすために高添を重宝しているようだ。

孔は6回で降板して継投策に出る。7回は土門也斗の前に下位打線を3人で抑えられた。8回は昨年まで大連でストツパーを務めていた西坂有司。その西坂に大連打線が襲いかかった。まず先頭の星渡がショート内野安打で出塁。これは本来センター前に抜ける打球を羅慧聖がよく追いついたが星渡の俊足が勝ったというスリリングなバトルだった。続いて柳の代打古池がライト前ヒット。西坂の速球に振り負けていない。代走に大上を起用。棚橋はレフトフライに打ち取られるも、4番林が追い込まれながらも決め球となるフォークをうまくセンター前に落とす技術を見せて1点を返す。

パウロは初球のストレートを強く振りきった。打球はあわや左中間を破るライナーだったが林慎一がダイビングキャッチ。この間に大上は三塁に到達。そして迎えるのは4回にファインプレーを魅せたアンジェロ。このアンジェロがパウロと同じくストレートを振りぬいた。レフト前に落ちて大上がホームイン。ついに同点となった。逆転を狙って送り出した代打は立石。ここで京城は西坂を諦めて抑えのエース安部隼人を投入してきた。この勝負は安部の勝ち。立石はセカンドゴロに倒れる。

大連は大上がセカンド、パウロがサードからファースト、立石に代えて登場した曾剛仁がサードにという守備位置変更を行い、9回に登板したのは比山。かなり力が入った投球で京城打線を3人で抑えた。京城は安部を続投。金重男、ドラグノフの代打陣を連続三振に切り、星渡をライトフライに打ち取ってゲームセット。白熱の戦いは3対3の引き分けに終わった。

ピンチになっても崩れずに自分のピッチングが出来るようになって

たのは瑞穂が大連で成長した点だ。それを元同僚たちの前で見せる事が出来た。その後同点に追いついた粘りを西坂に見せられたのも良かった。かつてとは違う、1年でもこれだけ変わることが出来る  
と証明する勝ち取った引き分けだ。これで大連の通算成績は45勝  
33敗8分となった。

熱く燃える 高校球児のように

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 1)

3 柳中平 (3 - 3)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (3 - 0)

7 アンジエロ (4 - 1)

4 本郷 (3 - 1)

2 金重男 (4 - 1)

1 赤坂 (3 - 1) - 平野 - 野藤 - 古池 (1 - 0) - 比山

「ビジター」元山

6 若葉

5 杣山

3 平

4 ベイツナー

9 キングマン

7 孫武文

8 李現拓

2 周裕正

1 井出

元 0 0 0 0 0 0 1 0 井出 - 田村

尊 - 田村栄

大 0 0 0 0 1 0 2 0 赤坂 (7

1 / 3) - 平野 (0 / 3) - 野藤 (2 / 3) - S比山 (1)

関西では全国高校野球大会が開幕して本格的に野球の夏が始まった。大連での連戦は元山戦でひとまず終了。次は逆に海洋リーグ大陸カンファレンス上位チームの本拠地に遠征しての戦いが繰り広げられる。さて、今日から対戦する元山は一言で言うところの攻撃的なチームである。特にシャープな打球を飛ばす平想吾郎、昨年のホームラン王に輝いたロディ・ベイツナー、人気者で打点王を獲得したことのあるレイモンド・キングマンという強力なクリーンナップはチームの看板となっている。しかし投手力はやや劣る事や、ここぞという場面で勝ちきれない弱さゆえになかなか大きな成績を上げられない。熱狂的な事で知られるファンはそういった弱味に対して痛烈なヤジを飛ばすが決してスタジアムから離れる事はしない。朱悠公監督以下全ての選手をファンは愛し、チーム一同はファンを愛している。かなり熱いチームだがそれは本拠地に行けばおのずと知れることである。来週に期待。

さて、大連の先発はルーキー赤坂。そして元山は井出努。井出は37歳のベテランだが、ここ数年は明らかにピッチングの内容が下降している。今季も開幕直後に炎上して二軍調整が長かった。今日は井出にとって正念場のマウンドとなる。

両投手の出来は試合の序盤から対照的だった。赤坂は今日もストリートはよく伸びていた。一方の井出はすいぶんくたびれたピッチング。一見貧弱な投球だがのらりくらりとかわす技巧という域にも達していない、それこそプロなら誰にでも打てそうなボールばかりだった。しかしなぜか大連はなかなか打ち崩せなかった。気負いすぎなのかも知れない。初回到星渡と柳中平の連打で一三塁としながらも柵橋はピッチャーゴロで星渡が三本間に挟まれてタッチアウトとなるなど運もなかった。2回には赤坂の送りバント失敗が出るなどどうにも荒っぽかった。

しかしそれも4回まで。5回によやくフラフラな井出から先制点を奪った。この回先頭の柳が左中間への2ベースで一気にチャンスを作る。棚橋四球で一二塁から林が内角に入ったスライダーを叩き、ライト前に落とすタイムリーヒット。そして7回に追加点。星渡サードゴロ、柳センター前ヒット、棚橋レフト前ヒット、林敬遠でワンナウト満塁のチャンス。ここで元山は井出から田村尊にチェンジ。パウロは三振に倒れたが、アンジェロがストリートに詰まったもののショートとレフトの間に落ちるラッキーなヒットで2点を加えて3対0とする。

8回表、元山の反撃。一死後に若葉がサード内野安打で出塁。元山は送りバントだったが赤坂はセカンドに送球もセーフのフィルダースチョイスで一二塁としてしまう。左打者の平に対して平野を投入したがいきなりデッドボールで即退場。3番手として野藤を登板させることになった。ベイツナーはレフトへの犠牲フライで1点を返されたものの、キングマンを三振に打ち取ってこの回を終わらせる。9回は比山が3人で締めてゲームセット。これで大連の通算成績は46勝33敗8分となった。

終盤はゴタゴタしたが、とにかく元山の強力打線を1点のみに抑えられたのは良かった。赤坂はそろそろ疲れと暑さで肉体的にハードな時期だろうが今日のピッチングはそうだった不安をほとんど感じさせないものだった。このままいけるか。



夏の夜空に散った打ち上げ花火

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 0) - ドラゲノフ (1 - 1) - 大上

3 柳中平 (4 - 0) - 曾剛仁 (0 - 0)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (5 - 1)

5 パウロ (3 - 1)

7 宮畑 (4 - 2)

4 本郷 (4 - 2)

2 清水 (4 - 3)

1 フローデセン (2 - 1) - 立石 (0 - 0) - 伊東 - 黄直哉 - 金重

男 (1 - 0) - 野藤

「ビジター」元山

6 若葉

5 杣山

3 平

4 ベイツナー

9 キングマン

7 市田

8 李現拓

2 周裕正

1 葵

元 2 1 0 0 1 0 2 0 1 7 葵 - 酒井 -

王謙当 - 田村尊 - S コルビオーネ

大 0 0 0 0 3 0 1 0 0 1 5 フローデセン

(6) - 伊東 (1) - 黄直哉 (1) - 野藤 (1)

高校野球の季節だからというわけでもなく、元山の先発はルーキーの葵雄一である。元山の投手陣は高卒ルーキーに頼らないといけないほどの層しかないという苦肉の策だが、ここまで4試合で2勝1敗と奮闘している。まだまだ線が細いが質のいいストレートを持っているし、スライダーはプロでも十分に通用するレベルにある。エースとなりうる素材だけに、怪我に気をつけて精進していったほしい。大連の先発はフローデセン。また、昨日2点タイムリーを放ったアンジェロはスタメンを外れて宮畑が入っている。キャッチャーは清水。

試合は派手な展開となった。先制したのは元山で、初回到内野安打で出塁した杣山を一塁に置いてベイツナーがホームランをレフトスタンドに叩き込んだ。今季は怪我で出遅れたベイツナーだがそのパワーは驚異的である。さらに2回には周裕正のタイムリーも出て3点リードする。

元山先発の葵は大連打線を3回まではうまく抑えたが2順目になるとやはりプロの打者は適応してくる。4回、先頭の棚橋がチーム2本目となるレフト前ヒットで出塁。続く林はストレートを捕らえて右中間フェンス直撃のタイムリー3ベースで1点を返した。これで大連のギアが入ったようで、パウロはキャッチャーフライに倒れたものの宮畑がセンター返しのタイムリーヒット、本郷もセーフティーバントで続く。清水はセカンドゴロでツーアウト一三塁。そしてピッチャーながら打撃にも定評のあるフローデセンがパワーでレフト前に落とす同点タイムリーヒットで3対3に追いつく。葵は次の攻撃で代打を出され、結局4回3失点で降板となった。直後に元山は若葉の3ベースでチャンスを作り杣山の内野ゴロの間にホームイン。

元山の2番手は酒井。5回は3人で抑えたが回をまたいで6回は球威がやや落ちており、パウロと宮畑に連打を浴びる。本郷は送りバントを決めて二三塁として、清水が三遊間を破るゴロでパウロが生還。そして何と宮畑もホームを狙ったがかなり浅い位置で市田は捕球しており、無謀だった。案の定ホームで憤死してしまう。昨日は打撃重視で孫武文だったが、それなら成功していたかも知れない。しかし今日は守備重視で市田だったのでアウトとなった。結局この回は1点のみで逆転ならず、これが勝負を分けた。

大連がフローデセンの次に繰り出したのは僅差の試合での登板が増えた伊東。しかし今日の伊東はややコントロールが甘く、元山打線の餌食となってしまう。ベイツナーはレフトフライだったがこれは相手の打ち損じ。続くキングマンにスライダーをフェンスまで運ばれて、ワンナウト二塁となる。ここで守備で好返球を見せた市田が打撃でもしぶとく流し打ちを見せてタイムリーヒット。ツーアウト一二塁として代打の孫武文がレフト前にタイムリーヒットで市田生還。これで4対6となる。

元山3番手の王謙当は安定したピッチングを見せて大連打線をシャットアウト。後は田村尊、コルビオーネとつないで元山が勝利を収めた。大連は8回に清水のタイムリーが出たが、9回に李現拓今季2号目のホームランを打たれて万事休す。これで大連の通算成績は46勝34敗8分となった。

元山に打ち負けた形の大連。星渡、柳中平の一二番が揃って無安打では下位打線の奮闘があっても厳しかったか。また、6回に見せた宮畑の走塁ミスは猛省を促したい。投手は先発ももうひとつだったが、リリーフが踏ん張りきれなかったのが痛かった。しかしここで朗報。故障で離脱していた小松原が来週から一軍に復帰する。今季は質のいいストレートを武器に貴重なセットアッパーとして活躍

していた小松原の復帰はチームに勢いをもたらしてくれるだろう。  
野藤などやや疲れの見えるリリース陣にとっても負担軽減となりそ  
うだ。

吉野10勝 エース対決を制す

「ホーム」安東

8 江篤順

7 高友朋

4 江田上

3 マンドルフ

D 李公勝

9 菅原

5 ウエツジ

6 和徳

2 年本

1 蜂谷

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

D 古池 (4 - 1)

2 清水 (3 - 0)

4 本郷 (3 - 0)

1 吉野 - 小松原 - 比山

大 0 0 1 0 0 3 0 0 0 4 吉野 (7)

安 - 小松原 (1) - S比山 (1) 0 0 0 0 1 0 0 1 蜂谷 - 峰田

対抗戦も折り返し地点を過ぎた。今度はビジター戦。しかし大連にとつては満洲、朝鮮半島への遠征なので日本遠征よりは楽だろう。さて、最初の相手は安東。先発は大連吉野、安東蜂谷の両エースで、これは先週と同じである。先週は蜂谷が勝利したが、エースと呼ばれる吉野大吾のプライドにかけても同じ相手に2度の敗北は許されない。今日はいつも以上に気迫がこもっていた。

1回2回と両者バッターを3人で抑えるという立ち上がり。この試合の初安打は3回表、先頭打者の古池が初球のストレートを強振してレフトスタンドまで持っていった。普段は総合的な能力に優れた柳中平に押され気味で代打が主な仕事となっている古池だが、当たれば一発もあるというパワーは柳以上のものがある。その一振りが貴重な先制ホームランを生み出した。

吉野はこれで精神的にも優位に立った。持ち前のストレートを軸にした力強いピッチングが冴えてアウトの山を量産した。大連の追加点は6回。先頭の星渡がサード強襲ヒットで出塁。柳はヒットエンドランでランナー一三塁とチャンスを広げる。棚橋はレフトフライで星渡はタッチアップ体勢に、と思いきや安東のレフト高友朋がまさかの落球。まったく普通の、エラーをするような打球ではなかったが俊足星渡のタッチアップを防ごうと意識しすぎたか。大連としては労せず1点を加えてさらにノーアウト一二塁となった。林はダブルプレーでツーアウト三塁となったが、パウロがスライダーを振りぬいてレフトスタンドに2ランホームランを叩き込んで4対0とリードを広げる。

安東が意地を見せたのは7回。江田上、マンドルフが連打と李公勝への四球でチャンスを作ると、菅原の犠牲フライで1点を返した。

しかし続くウエッジは吉野の小さく変化するカットボールに手を出してセカンドゴロダブルプレー。反撃のムードはこれで霧散した。8回に大連は2番手として怪我から復帰した小松原を登板させる。球速はやや抑え目だったがコントロールは安定しており3人で抑えた。9回は比山が無失点で抑え勝利。これで大連の通算成績は47勝34敗8分となった。エース対決に勝利した吉野は勝ち星を2桁の10勝とした。

勝利を引き寄せた逆転満塁ホームラン

「ホーム」安東

8 江篤順

7 高友朋

4 江田上

3 マンドルフ

D 李公勝

9 菅原

5 ウエツジ

6 和徳

2 年本

1 マテイングリー

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 0)

7 アンジエロ (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 3)

3 古池 (3 - 0) - ドラグノフ (1 - 0)

D 立石 (3 - 2) - 大上

2 清水 (3 - 1)

4 本郷 (4 - 1)

1 張尊 - 趙雅憲 - 野藤 - 伊東 - 比山

大 0 0 0 0 2 4 1 0 0 0 7 張尊 (3) -

趙雅憲 (3) - 野藤 (1) - 伊東 (1) - S 比山 (1)

安 2 0 0 1 0 0 0 0 1 0 0 4 マテイングリー



昨日に引き続いて安東との対戦。先発も張尊とマテイングリーなのは先週とまったく同じ。違うのは試合会場が大連から安東に移ったこと、そしてそれと同じくして指名打者制も採用されるようになったことである。野手は、ファーストに柳中平ではなく古池を起用して指名打者にはベテランの立石の名前が。そして柳の定位置である2番打者にはアンジェロの名前が。アンジェロ2番は交流戦の頃に数試合あったが久々の起用はどう出るか。

前の試合では大連が安東を圧倒したが今回はマテイングリーも大連を研究したのだろう。なかなかうまく抑えていた。試合序盤に優勢だったのは安東であった。初回、江篤順がいきなり左中間への2ベースと江田上の四球でワンナウト一二塁のチャンスを作ると、4番マンドルフがカーブを捕らえてフェンス直撃の2点タイムリーで先制点を奪う。さらに3回には江田上のホームランも飛び出して早々と3点のビハインド。ここで大連の劉監督は張を下げて2番手に趙雅憲を投入する。思い切った采配だったが、趙は期待にこたえて3回を無失点に抑えた。ここから流れは大連に傾いてくる。

大連打線が火を噴いたのは5回。火付け役は指名打者に入った立石だった。この回の先頭打者だった立石はマテイングリーのチェンジアップが高めに浮いたのを見逃さず左中間を破る2ベースを打つ。続く清水は右打ちでランナーを三塁に進める。そして本郷のライト前ヒットでホームイン。下位打線といえども打撃でもきっちり仕事ができる面々である。トップに戻って星渡は四球を選んだ。そして2番のアンジェロがレフト前に落とすタイムリーヒットで1点差に追いつく。しかし三塁を欲張った星渡が挟まれてアウトになるなどしてこの回はここまで。

6回、安東はそろそろ捕まりそうだったマテイングリーを下げた2番手に藤山をマウンドに送り込む。しかしこれが誤算だった。先頭の林は初球打ちがセンターに抜けるヒット。パウロは2-0からストライクを取りに行くストレートを狙われてレフト前ヒット。古池は三振も立石四球で満塁となる。ここで打席に立つのはキャッチャーの清水。ストライク、ボール、ボールでカウント2-1からの4球目、外角へのストレートが真ん中に入った失投を振りぬいた打球はビジターの大連ファンが集うレフトスタンドに一直線。伏兵清水が逆転満塁ホームランという大仕事をやってのけ、2対3が一気に6対3と試合が完全にひっくり返った。

以降は大連のペース。7回にはレフト前ヒットで出た棚橋をパウロが返して7点目とする。8回には年本のホームランが飛び出したものの反撃はここまで。9回には抑えの切り札比山の前に打線は沈黙。7対4で大連の連勝となった。これで大連の通算成績は48勝34敗8分となった。勝利投手となった趙は今季初勝利。再昇格以降はロングリリーフもこなせる使い勝手のいい中継ぎとしてよくやっている。

殊勲打の清水は開口一番「あーびっくりした。まるでプロ野球選手みたいな打球だったでしょ」とおどけ「打ったのはストレート。僕はそういう（本塁打の多い）バッターではないので、犠牲フライを狙うくらいの軽い気持ちでバッターボックスに立ったのがかえって良かった」と声を弾ませた。一方打たれた藤山は沈痛な面持ちで「ストレートが甘く入ってしまった。あの場面で絶対やってはいけないこと。ただ申し訳ない」としぼり出すのが精一杯だった。まさしく試合を決める一振りだっただけに対照的な両者であった。

元山爆発 炎上松浦二軍落ちへ

「ホーム」元山

6 若葉

5 杣山

3 平

4 ベイツナー

9 キングマン

D 孫武文

7 市田

8 李現拓

2 周裕正

1 クルーズ

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 1)

3 柳中平 (3 - 0)

6 棚橋 (2 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 1)

D 立石 (3 - 1)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (2 - 1)

4 本郷 (3 - 0) - 宮畑 (1 - 1) - 曾剛仁 - 古池 (1 - 0)

1 松浦 - 平野 - 黄直哉 - 石風呂

大 3 0 0 0 0 0 0 1 4 松浦 (5)

元 1 1 1 0 2 1 2 0 - 8 クルーズ -

- 平野 (1) - 黄直哉 (1) - 石風呂 (1)

田村栄・田村尊・王新君

今日からの対戦相手は元山。はまれれば打線爆発、駄目なら駄目という元山野球を後押しするのは本拠地の熱い、場合によっては熱すぎるほどの熱烈な観客である。冴えないプレーをした選手には味方でも強烈なヤジが飛ぶ土地柄である。観客が求めているのは打撃なので守備型の監督はやたらと叩かれるほどである。

今日の大連の先発は松浦。ここ数試合もうひとつなピッチングが続いており正念場のマウンドとなる。元山は今季途中に加入した新外国人のマーティン・クルーズ（27）が先発。コントロールに難があるがストリートがはまるとかなりのパワーを発揮する黒人投手である。

試合は序盤、大連がクルーズの制球難につけこんで先制。というかクルーズの制球難があまりにも酷すぎた。初回にいきなり3人連続四球。ストライクは1球で、バットを振る機会は一度もなかった。そして4番林に対しても2球ボール球が続いた後、高めに来たストリートをチーム初のスイング。これがライト前に落ちる2点タイムリーとなった。続くパウロはレフトフライに打ち取ったがアンジェロに四球で満塁。そして立石に対しても押し出し四球で3点目とした。なおもワンナウト満塁だがようやくエンジンがかかったか清水、本郷を連続三振に切った。

それ以降は人が変わったかのような快刀乱麻のピッチング。相変わらずコントロールは酷いがストリートに力があるのでヒットをほとんど打てない。球数を消費しすぎたので6回で降板したが、かなりのインパクトを残した。

一方の松浦であるが、初回から援護をもらったのにどうにもピリ

ツとしない。1回には岫山に被弾。2回には周裕正にタイムリーを浴びる。3回にはキングマンにタイムリーを浴びてリードを全て吐き出してしまふ。0点に抑えた4回もランナー2人を出さずなど安定とは程遠い出来。そして5回、一死後にレフト前ヒットで出塁したキングマンを一塁に置いて孫武文がスライダーを捕らえての2ランホームランでついに逆転される。もはやこれまで。松浦は5回を5失点で降板。

6回からは平野がマウンドに立ったが元山打線の勢いは止まらず1失点。7回の黄直哉は2失点。観客も選手も押せ押せムードの元山はもはや手がつけられないところまで来ている。大連は9回にパウロ、アンジェロと連打でチャンスを作り、一死後に金重男もレフト前タイムリーヒットで1点を返したがそれが精一杯。結局試合は4対8で敗北した。これで大連の通算成績は48勝35敗8分となった。大量の四球でチャンスももらいながらほとんど点に結び付けられなかった。そういう攻めをしているチームが負けてしまふのは仕方ない。

またも背信投球の松浦。一時期は無敗のまま5勝まで伸ばしたものの、それから勝ち星は伸びず今や5勝4敗。防御率からも明らかのように内容も悪化している。試合後劉監督は松浦の二軍再調整を示唆したが妥当である。単純に対策されただけでなく疲労もあるのだろう。今季は幸い優勝争いにも絡んでいる。奉天など同じカンファレンスの球団と直接対戦する9月にはしっかり戦力として戻ってきてほしい。

完封ならずも 瑞穂安定の勝利

「ホーム」元山

6 若葉

5 杣山

3 平

4 ベイツナー

9 キングマン

D 孫武文

7 市田

8 李現拓

2 周裕正

1 小林

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 3)

3 柳中平 (3 - 0) - ドラゲノフ (1 - 1)

6 棚橋 (5 - 2)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 0)

7 アンジェロ (4 - 2)

D 宮畑 (2 - 0) - 立石 (1 - 0)

2 金重男 (4 - 0)

4 本郷 (2 - 0) - 古池 (1 - 1) - 曾剛仁 (1 - 0)

1 瑞穂 - 比山

大 0 0 0 0 1 0 1 0 0 2 瑞穂 (8)

元 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 小林 - 立見  
- S 比山 (1)

本日の公示で大連は松浦心と伊東聡司の両投手が一軍登録を抹消され、二軍から原克馬と斎場次己の両投手が一軍に昇格した。ともにリリーフをメインとする投手。松浦の代わりにローテーションに入るのは王貞成かトレードで加入した池田だろう。まあそれは来週にも明らかになる。今日の大連の先発は瑞穂。勝ち星に恵まれず今のところ3勝6敗だがその技術は確か。今日は昨日の猛攻で勢いに乗る元山打線の打ち気をそらすようなうまいピッチングを展開した。元山の先発は小林潔。各地をさすらい元山で5球団目となるジャーニーマンで、ローテの5番手6番手が似合う地味だが計算のできる右腕である。ちなみに9年前から6年前には大連に在籍していた。

試合は終始大連が押し気味だった。初回にいきなり星渡の2ベースと柳中平のセカンドゴロで三塁までランナーを進めたが柵橋三振林ライトフライで得点ならず。それからもヒットは出るが得点ならずというじれったい展開が続いた。四球を大量にもらいながらも肝心な一撃が出ずに敗北した昨日を思わせる展開。しかし違ったのは大連の先発が瑞穂であったという事だ。今日の瑞穂は絶妙なコントロールで内角へ外角へ厳しいボールをビシバシと投げ込む一方、一見打ち頃だが小さく変化して内野ゴロを打たせるカットボールを効果的にちりばめて元山打線を封じて援護を待った。

待望の援護は5回。先頭の星渡がセカンドへの内野安打で出塁と盗塁で二塁まで進む。柳中平のライトフライの間に三塁に。柵橋はスライダーをうまく流し打ちしたが平のジャンプに阻まれてファーストライナー。これは抜けてもおかしくない当たりだった。ツーアウト三塁となつて林。初回に同じ状況から凡退しただけに今度こそは逃さないという気迫が元山の観客を上回ったかのように、フラフラと上がった打球がベイツナーとキングマンの間に落ちた。林の夕

イムリーで大連が先制点を挙げる。

7回には先頭打者の本郷が自打球を当てて退場というトラブルに見舞われるも、代打で登場した古池がレフトスタンドに舞い上がる。今季第3号ホームランを放った。9回ツーアウトから星渡がライト前ヒット、代打ドラグノフがレフト前ヒットでチャンスを作ったが今日2安打の棚橋はショートゴロで二塁封殺。援護は2点だったがそれで問題なかった。

瑞穂は援護を得てからもそれまでとまったく変わらない安定したピッチングを続けた。8回まで投げて98球と完封も狙えるところまで来た。しかし9回は先頭打者の平にライト前ヒットを打たれたところですがすぐに降板。当初からヒットを打たれたら交代という話だったのだらう。そして登場したのは比山。ベイツナーを三振、キングマンをセカンドゴロダブルプレーに打ち取って試合を終わらせた。これで大連の通算成績は49勝35敗8分となった。



勝ち慣れた京城 またも大連の若手投手を打つ

「ホーム」京城

4 辻

8 朴慎一

7 高添

5 羅久聖

3 バンカー

D コリス

6 羅慧聖

9 砂子

2 山根

1 勝間田

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 2)

D 宮畑 (3 - 1) - 古池 (1 - 0)

2 金重男 (4 - 1)

4 大上 (3 - 1) - 立石 (1 - 0)

1 赤坂 - 斎場 - 原

大 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 2  
- 斎場 (2) - 原 (1) 赤坂 (5)

京	0	3	0	1	1	0	0	1	-	6	勝間田 - 菊
藤 - 松尾											

昨日自打球で退場した本郷だが、検査の結果右足小指の付け根を骨折していたと明らかになり一軍登録を抹消された。近堂に続いてセカンドを守る選手が離脱してしまった。その近堂は先日二軍戦に出場したばかりだが、復帰までの日程を前倒しする必要があるかもしれない。さて、今日からは京城と2連戦となる。セカンドには主に代走として今まで一軍に帯同していた大上がついた。大上はまだ23歳。このチャンスを抑えればスタメンにまで浮上できる可能性も十分にある若さだし、奮闘してほしい。

京城の先発は三本柱の一人勝間田秀和。勝間田は元々速球派として知られていたが、32歳となった今はコントロールも身につけて高い安定感のある投手として君臨している。大連はその勝間田から序盤に攻勢を仕掛ける。初回、星渡が初球打ちを仕掛け、ライト前ヒットで出塁。柳中平はライトフライに倒れたが柵橋もレフト前に転がす。そして林四球でワンナウト満塁のチャンスを作る。しかしパウロがセカンドゴロダブルプレーで先制点とはいかなかった。強敵への強襲は結果的に失敗に終わった。

しかし続く2回、一死後に宮畑が四球を選んで出塁すると金重男がストレートを振り切ったのホームラン。金は今季2本目のホームランという思わぬ形で大連先制。しかしその裏に京城が力を見せた。先頭の羅久聖のセンター前ヒットとバンカーのライト前ヒットでチャンスを作り、指名打者のコリスがフェンス直撃の2点タイムリー2ベースで早速同点に追いつく。コリスはアメリカでの実績にも関わらず日本的な野球へ順応して活躍を続けている。さらに砂子のタイムリーも出て逆転された。

勝間田は中盤以降はスライダーを中心とした配球に切り替えてうまく大連打線を封じた。逆に京城は新人の赤坂を攻めてさらに得点を差を広げる。4回には羅慧聖の、5回には高添のタイムリーが出て赤坂は5回5失点で降板となった。さらに大連3番手の原からコリスが駄目押しとなるホームランを放ち勝負を決める。これで大連の通算成績は49勝36敗8分となった。

大連は柳以外の選手がヒットを放ってはいはいるものの複数安打を記録しているのはアンジェロのみ。チャンスメイクにはなったが、ランナーが出ると勝間田の投球術の前に沈黙が続いた。逆に京城はランナーが出た場面でもまくタイムリーが出た。勝利に大事なものは点を取ることなので、京城はそういった点において大連の先を行っている。大連は先日一軍に再昇格した斎場と原がともに登板。斎場は2回を無失点、スライダーの切れもなかなか良く戦力になりそうだ。一方原はコリスにホームランを浴びた。やはり球威に問題があるのか。春先も炎上が続き、苦しいマウンドが続いている。

熱いシーソーゲーム そして逆転へ

「ホーム」京城

4 辻

8 朴慎一

7 高添

5 羅久聖

3 バンカー

D コリス

6 羅慧聖

9 砂子

2 山根

1 デイアス

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

3 柳中平 (4 - 1)

6 棚橋 (5 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (5 - 0)

7 アンジエロ (4 - 2)

D 古池 (3 - 1) - 立石 (0 - 0)

2 清水 (4 - 2)

4 大上 (3 - 0) - 宮畑 (1 - 0) - 森茂

1 フローデセン - 小松原 - 比山

大 0 1 1 0 0 0 0 0 2 4 フローデセン

(7) - 小松原 (1) - S比山 (1)

京	1	0	0	0	1	1	0	0	3	ディアス・土
門・西坂・安部										

京城の先発は25歳と若いロアン・ディアス。これでも入団して4年目の、育成枠から這い上がってきた選手である。長いリーチを巻きつけるようにして投げ下ろすフォームが特徴で、かなりクセのあるボールを投げる。大連の先発はフローデセンで外国人対決となる。

試合は序盤から一進一退の攻防が続いた。先制したのは京城。1回裏、先頭の辻がライト前ヒットで出塁。朴慎一はサードゴロでランナー入れ替わり。高添は三振も羅久聖がライトオーバーのタイムリーを放った。しかし大連もすぐさま反撃に転じる。一死後、アンジェロがレフト線を破る2ベースでチャンスを作ると、DHに入った古池がストレートをセンター前に弾き返して同点に追いつく。さらに3回には星渡のホームランが飛び出して2対1と逆転に成功する。

この状態でしばらくゲームが進んだが、このまま終わらないのが京城である。6回に羅久聖の今季9本目となるホームランで同点に追いつくと、7回には羅慧聖、砂子の連続ヒットでワンナウト三塁から山根がスクイズを決めて勝ち越しに成功する。京城はディアスを下げて7回は土門也斗、8回は西坂有司、そして9回には安部隼人を繰り出してきた。この磐石とも言える面子に対して大連は常に攻め続けた。それが9回の展開を呼んだと言えるだろう。

土門に対しては先頭の星渡が12球粘った末に四球を選んだ。しかし柳、棚橋、林と倒れて得点には結びつかず。8回の元チームメイト西坂に対してもアンジェロ、清水がヒットを打つなどいいところまで攻めた。守備でも8回に高添が打ったあわやセンター前の強

烈なゴロを柵橋がうまく裁いてアウトにするなどいいところを見せてた。そして9回、京城の抑えの切り札安部に対して大連打撃陣が襲い掛かった。先頭の星渡は粘ったもののセカンドゴロ。続く柳が華麗なる流し打ちを見せてレフト線上に落ちる2ベースを打ち視界が開けた。直前に好守備を見せた柵橋が打撃でも今日2安打目となるセーフティーバントを見せて一三塁。そして4番林を迎える。

安部の武器はストレートと140キロを越えるフォーク、そしてタイミングを狂わせるカーブもやっかいな変化球である。まず初球、2球とストレートで押してカウント1-1となった。3球目はフォークだったが見て2-1に。4球目は低めのボールをスイングして2-2、5球目はフォークを見て3-2となった。続く6球目はフォークだったがやや高く入ってしまった。この失投を林が見逃すはずもなく、バットから飛び出した速い打球はセカンド辻の頭上を越えて同点タイムリーヒットとなった。

続くパウロはセンターへの大飛球。朴はよく追いついたが二塁ランナーは三塁まで進んだ。そしてアンジェロは敬遠でツーアウト満塁に。ここで今日1安打の古池に代打でベテランの立石が登場。安部は慎重なピッチングを見せたが立石が微妙な球をうまくカットしてフルカウントに。そして運命の11球目、ストレートが外角に外れた。押し出し四球で4対3とついに逆転した。9回裏はもちろん比山が登板。一死後コリスにヒットを打たれたがそれだけ。最後は砂子を三振に抑え、4戦目にして京城から今季初勝利を手にした。これで大連の通算成績は50勝36敗8分となった。

最後の最後で大連が力を見せた。接戦を制した、しかもストップパー安部からの逆転劇だったというのは大連にとってもかなり自信につながる試合となっただろう。対抗戦も後は海洋リーグ列島カンファレンスをホームに迎えての8試合となった。怪我人が多く出たり

夏バテした選手が出たり色々あったが、これからが東洋一のチームとなるには一番重要な期間である。しかし今日のようにチーム一丸となって勝利のために戦えたなら、必ず結果はついてくる。それだけの力を大連の選手たちはすでに持っている。

まさか エース対決が炎上対決に

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 2)

3 柳中平 (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 4)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 3)

7 アンジエロ (3 - 0) - 高遼二 (1 - 1)

4 近堂 (2 - 1) - 森茂 (2 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 吉野 (1 - 0) - 宮畑 (1 - 1) - 黄直哉 - 岩下 (1 - 0) - 平

野 - 野藤 - ドラグノフ (1 - 0) - 小松原 - 比山

「ビジター」台北

9 斉藤

7 王啓人

8 マクギャリー

6 淵崎

4 尹浩二

3 陸文保

5 石崎

2 加藤

1 長砂

台 1 1 0 3 0 0 0 1 0 6 長砂 - 何信

鉄 - 平岡順 - 水橋 - 林孔明

大 3 0 0 4 0 1 1 0 - 9 吉野 (4) -

黄直哉 (1) - 平野 (1) - 野藤 (1) - 小松原 (1) - S比山



(1)

対抗戦も第4コーナーに突入。本拠地大連に戻って残りの8試合を終わらせる。夏の終わりに勝利のハーモニーを奏でたい大連の先発はエース吉野。対する台北もまたエースである長砂喜明を立てて対抗。投手戦になると予想された。しかしふたを開けてみると一転、両先発とも5回もたずにマウンドを降りるという壮絶な打撃戦が展開された。

試合は初回から動く。台北の先頭打者である斉藤雅人がレフトスタンドにホームランを放つというその後の展開を予感させるような幕開け。大連も負けじと初回到反撃。一死後、柳中平がライト前ヒットで出塁。棚橋もショートの前を抜くヒットで続く。そして4番林がセンター前に同点タイムリーを放つ。大連の攻勢はなおも続き、パウロ四球で満塁とした後、アンジェロが犠牲フライで1点、今日から当初の予定を2週間早めて復帰した近堂が自らの復活を告げるレフト前タイムリーで3対1と一気に逆転に成功した。

いつもの吉野ならこれで十分セーフティーリードだが、今日に限ってはまったく足りなかった。2回に石崎、加藤という下位打線の選手に連打を浴びて1失点。そして最悪は4回。先頭の王啓人、マクギヤリーに連打を浴び、淵崎はファーストファールフライに打ち取ったものの尹浩二にスライダーを完璧に合わせられ、バックスクリーンに飛び込む逆転3ランホームランを浴びてしまった。結局吉野はその裏に代打を送られて降板。4回5失点と今季最低の内容だった。

しかしその代打が大連の得点につながった。この回先頭の清水が二塁打で出塁すると、吉野の代打宮畑がレフト前にタイムリーヒットを放つ。トップに戻って星渡がライト前ヒットで一三塁、柳がセ

ンター前にタイムリーで同点。さらに棚橋もレフト線へタイムリーを放ち逆転。長砂はここで降板となる。2番手の何信鉄は林をショートフライに打ち取るもパウロにレフト前タイムリーを打たれる。これでこの回4点目。アンジェロ三振も近堂は四球。ここで病み上がりの近堂に対して代走森茂が告げられる。まだ無理のできる体調ではないようだ。そしてこの回2度目の打席に立った清水だがライトフライに倒れて更なる得点はならず。しかしこの4回の激しい攻防で勝敗は大きく大連有利に傾いた。

大連の2番手として黄直哉が1回、3番手として平野が1回を投げた。この2人がともに3人で終わらせた。そして6回裏には大連の攻撃第三波が打ち寄せる。この回トップの棚橋が猛打賞となる左中間への2ベースで出塁。林のセカンドゴロの間に三塁に到達。そしてパウロがストレートをパワーで弾き返す得意の打撃でタイムリィ。パウロも猛打翔。7回には星渡のソロホームランで9対5とリードを広げた。

8回に登板した大連の5番手小松原が代打マイルズにホームランを浴びたものの9回はストッパー比山を投入して逃げ切った。これで試合終了。エース炎上という信じられない試合展開から実に4時間の打撃戦が繰り広げられた。棚橋はこの試合5打数4安打と大暴れ。それにしても疲れる試合だった。これで大連の通算成績は51勝36敗8分となった。

まさか エース対決が炎上対決に（後書き）

古本まつりは今日まででしたがええ本買ったわ。しかし今日は異常に眠い。頭がフラフラ。

しっかりと拾おう くれる勝ち星

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 2)

3 柳中平 (5 - 1)

6 棚橋 (3 - 0)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (3 - 1)

4 近堂 (2 - 0) - 森茂 (1 - 0)

2 清水 (2 - 1) - 金重男 (1 - 0)

1 張尊 (2 - 0) - 岩下 (1 - 1) - 石風呂 - 古池 (0 - 0) - 大

上 - 北 - 斎場

「ビジター」台北

9 斉藤

7 王啓人

8 マクギャリー

6 渕崎

4 尹浩二

3 陸文保

5 石崎

2 加藤

1 尾田沢

台 0 0 0 0 1 0 0 0 1 尾田沢 - 方

臨全 - 岡田 - 嘉森

大 0 2 1 1 0 1 0 0 0 張尊 (6)

- 石風呂 (2) - 北 (1 / 3) - S 斎場 (2 / 3)

激しい点の取り合いとなった昨日の対戦から一転、今日は比較的楽な展開となった。大連の先発は36歳の張尊、台北の先発は20歳の尾田沢剛という対戦だったが、コントロールに苦しむ尾田沢が自滅したので序盤で勝負がついた。張はいつも通り投げただけで勝利を手にした。

初回から尾田沢は大連に四球をプレゼントしてくれたがワンナウト満塁からパウロがショートゴロダブルプレーに倒れて得点はなし。2回も同じような展開になったがさすがに今度はしつかりと捕らえた。アンジェロがサード内野安打で出塁し、近堂が四球で続いた。ここで清水がレフト前にタイムリーで先制。張は三振も星渡がライト前にタイムリーを放ってこの回2点。

3回には林のライトオーバーの三塁打からパウロのショート内野安打の間に1点追加。そして4回には柳中平が今季4本目となるホームランをライトスタンド最前列に打ち込んで4対0と順調にリードを広げていった。この時点で大連が得た四球は5あり、後は適当なタイミングでヒットが出ればそれがタイムリーになるという楽な展開だった。尾田沢はストレートに見るべきものがあるのは確かだがコントロールはどうかしないといけない。今日のように一人相撲のピッチングになつては野手からの援護もそうは期待できまい。

相手投手のアシスト込みの援護をもらった張は相変わらずマイペースの投球から自分の流れを作り出すうまさを見せた。球速のアーベレイジは130キロ台でも技術があれば抑えることは出来るものだ。台北は打線の転換期にあり率直に言つとやや弱いところがあるのは事実だが、張は6回を石崎のホームランによる1失点のみに抑えて8勝目を挙げた。

大連は6回に張の代打岩下による左中間を破る2ベースでチャンスを作ると、星渡のライト前ヒットで岩下が生還して5点目とする。台北は9回に反撃を開始し、大連の3番手北から尹浩二、陸文保が出塁し、石崎がライト前タイムリーを放ったが遅すぎた。ワンナウト一三塁から北に代わってマウンドに登った斎場は加藤の代打マイルズをセカンドゴロダブルプレーに抑えて試合終了。斎場は1球でセーブというおまけつきでプロ初セーブを記録した。これで大連の通算成績は52勝36敗8分となった。

しっかり拾おう くれる勝ち星(後書き)

これから約1週間分ほど簡易更新に。詳細は明日。

移籍の池田好投も打線沈黙 簡易更新ノススメ

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
 1

「ホーム」大連 2

8 星渡 (4 - 0)

3 柳中平 (4 - 0) - 古池 (1 - 0)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (4 - 0)

5 パウロ (4 - 3)

7 アンジェロ (4 - 1)

4 近堂 (3 - 0) - 森茂 (0 - 0)

2 金重男 (3 - 1)

1 池田 (2 - 1) - ドラゲノフ (1 - 0) - 小松原 - 野藤 - 立石 (1 - 1)

池田 (6) - 小松原 (1) - 野藤 (1) - 比山 (1)

大連 1 - 2 埼玉

大連の通算成績 5 2勝3 7敗8分 3

二軍落ちした松浦に代わり今季途中移籍の池田武治がチーム初登板初先発。

池田は6回2失点と好投したが援護なく敗戦投手に。

打撃陣は埼玉先発ベテランの西内の前に7回を6安打に抑えられる。



8 回に埼玉の中継ぎから代打立石のタイムリーで1点を返すが反撃はそれまで。

9 回は3人で抑えられて試合終了。上位打線のブレーキが痛かった。  
4

#### 簡易更新の特徴

- 1 冒頭で投稿規程の文字数制限を稼ぐ。正直いらぬ気もするが万一を考えての措置
- 2 大連の情報はそれまでとほぼ変わらないが、考えるのに時間がかかる相手の情報はカット
- 3 試合結果と通算成績を真ん中中央付近にまとめて配置
- 4 投手の場合は誰が失点したか、野手は誰が得点を取ったかを中心に試合のポイントを箇条書きで記述

移籍の池田好投も打線沈黙 簡易更新ノススメ（後書き）

今回の文章を書き上げる所要時間は15分ぐらい。いつもの1/3以下のスピードになりました。

文字数を調べると冒頭と簡易更新の特徴を除けば300なんぼでこれまた1/3以下に。

また、更新時間はこれまでほぼ一定だったものが期間中は「空いた時間を見つけて」という形になるためバラバラになる可能性があります。ですがご了承ください。

あわやノーノー 埼玉に不覚

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。

「ホーム」大連

- 8 星渡 (4 - 0)
- 6 大上 (3 - 0)
- 7 アンジェロ (4 - 1)
- 9 林 (4 - 1)
- 5 パウロ (3 - 0)
- 3 柳中平 (2 - 0)
- 4 近堂 (2 - 0) - ドラグノフ (1 - 1) - 森茂
- 2 清水 (3 - 0)
- 1 瑞穂 (2 - 0) - 小松原 - 立石 (1 - 0) - 黄直哉
- 瑞穂 (7) - 小松原 (1) - 黄直哉 (1)

大連 0 - 3 埼玉

大連の通算成績 5 2勝3 8敗8分

上位打線のでこ入れに2番ショートに大上を起用し、3番にアンジェロを据える。

しかし今日は埼玉先発の2年目菊田雄兵の出来が良すぎた。

6回まではノーノーペース。7回ワンナウトから林がライト前に落として辛うじて屈辱から逃れる。

しかし3安打のみで菊田にプロ初完封を献上してしまつ。

瑞穂はホームラン攻勢を浴びて7回3失点で7敗目。

## 噛み合わない打線 冴えない負け方

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。

### 「ホーム」大連

- 8 星渡 (3 - 0)
- 3 柳中平 (3 - 1)
- 6 棚橋 (4 - 1)
- 9 林 (4 - 1)
- 5 パウロ (4 - 2)
- 7 アンジェロ (4 - 0)
- 4 森茂 (2 - 0) - ドラゴフ (1 - 0)
- 2 金重男 (4 - 1)
- 1 赤坂 (2 - 0) - 立石 (0 - 0) - 平野 - 野藤  
赤坂 (7) - 平野 (1) - 野藤 (1)

大連 2 - 3 福岡

大連の通算成績 5 2勝3 9敗8分

対戦相手福岡の先発ボールトンに対して大連は先制攻撃を仕掛ける。連打を重ねて林とパウロの連続タイムリーで2点を先制するがそれ以降は沈黙。

快調に飛ばしていた大連先発の赤坂だったが5回にタイムリーと2ランホームランで逆転を許す。

その後は福岡の強力リリーフ陣に阻まれてそのまま敗北。

これで大連は3連敗。打撃が噛み合ず投手見殺しという展開が続いている。

## 今季100試合目を飾る完封勝利

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。

### 「ホーム」大連

- 8 星渡 (3 - 3)
- 3 柳中平 (3 - 1)
- 6 棚橋 (3 - 1)
- 9 林 (4 - 1)
- 5 パウロ (4 - 0)
- 7 アンジエロ (4 - 2)
- 4 近堂 (2 - 0) - ドラグノフ (1 - 1) - 森茂
- 2 金重男 (3 - 1)
- 1 フローデセン (2 - 1)
- フローデセン (9)

大連 4 - 0 福岡

大連の通算成績 53勝39敗8分

大連先発フローデセンがすばらしいピッチングを見せて連敗を脱出。

3回に棚橋が2ランホームランを放ち先制。5回には星渡のタイムリーで3点目。

7回に代打ドラグノフのヒットをきっかけにチャンスを作り柳中平のタイムリーで4点目。

フローデセンは9回を4安打完封で勝利。今季100試合目を勝利で飾った。

ここ3試合無安打だった星渡が猛打賞と復調したのも良かった。



## これぞエース 吉野スミ1勝利

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。

### 「ホーム」大連

- 8 星渡 (4 - 0)
- 3 柳中平 (4 - 1)
- 6 棚橋 (3 - 0)
- 9 林 (2 - 0)
- 5 パウロ (3 - 1)
- 7 アンジェロ (3 - 1)
- 4 近堂 (2 - 0)
- 2 清水 (3 - 1)
- 1 吉野 (3 - 0)
- 吉野 (9)

大連 1 - 0 千葉

大連の通算成績 5 4勝3 9敗8分

対抗戦最後の戦いとなる千葉との2連戦。この後は済州島シリーズを経て元のリーグ戦に戻る。

大連は初回到柳中平が千葉先発の成海からソロホームランを放ち先制。

それ以降は0点に抑えられたが援護はそれだけで十分だった。

大連先発エース吉野は5回までノーノーペース。2安打で千葉打線  
を完封。

大連も一発は出たものの4安打だったので打撃は不安。

## 対抗戦終了 最後は快勝で

簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。  
簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。 簡易更新。

### 「ホーム」大連

- 8 星渡 (5 - 3)
- 3 柳中平 (4 - 0) - ドラグノフ
- 6 棚橋 (4 - 3)
- 9 林 (2 - 2)
- 5 パウロ (4 - 1)
- 7 アンジェロ (4 - 0) - 高遼二
- 4 大上 (4 - 1)
- 2 清水 (3 - 1)
- 1 張尊 (2 - 0) - 近堂 (1 - 1) - 石風呂 - 古池 (1 - 1) - 北  
張尊 (6) - 石風呂 (2) - 北 (1)

大連 7 - 3 千葉

大連の通算成績 55勝39敗8分

対抗戦もついに28戦目。これで1ヶ月続いたリーグ間の戦いは終わる。

大連は初回到に林が2ランホームランで先制。3回にパウロの2点タイムリーでリードを広げる。

さらに6回に代打近堂と星渡が連続タイムリー。8回には古池の水

チームランで7点目。

大連先発張尊は6回2失点。2番手石風呂は2回1失点。3番手北は1回を無失点にそれぞれ抑える。

最後は快勝で対抗戦を終えた。対抗戦の成績は15勝12敗1分と勝ち越しに成功した。

### 8月26日追記

他球団の対抗戦の成績について。まずは上位リーグに参加したチームについての解説だが、それまで首位だった奉天は対抗戦でも15勝11敗2分と相変わらず良好な数字を残した。新京は13勝15敗。やや流れの悪かったハルビンは10勝16敗2分と負け越し、Aクラスも遠ざかってしまった。昨年下位のリーグに参加した4チームで特筆すべきトピックスとしては、チチハルが18勝10敗と一気に躍進した。一方平壤は11勝14敗3分と負け越し。開城は14勝13敗1分、光州は12勝14敗2分と5割前後の数字。これをまとめると以下のようなになる。

奉	43勝26敗5分	58勝37敗7分	1位
大	40勝27敗7分	55勝39敗8分	2位
新	36勝33敗5分	49勝48敗5分	4位
齊	36勝34敗4分	54勝44敗4分	3位
哈	33勝37敗4分	43勝53敗6分	7位
平	33勝37敗4分	44勝51敗7分	6位
開	33勝38敗3分	47勝51敗4分	5位
光	25勝44敗5分	37勝58敗7分	8位

連覇を狙う奉天とそれを阻止せんとする大連の2トップに加えて  
対抗戦で大躍進を果たしたチチハルがプレーオフ争いをリード。4  
位の新京は虎視眈々と上位進出を窺う。負け越している開城と平壤  
はまず5割の壁を突破するところから。対抗戦で大きく後退したハ  
ルビンはこのからの戦いで意地を見せたい。光州は対抗戦途中で辺  
監督が休養に入った。成績不振の言い換えではなく本当に肉体的に  
休養が必要らしい。現在は島田正二投手コーチ(47)が代理監督  
を務めている。ようやくチーム浮上のきっかけがつかめそうだった  
戦いを見せていただけに無念の休養となるが、しっかり治療に専念  
してほしい。

対抗戦終了 最後は快勝でメ（後書き）

本当に長かった。そして簡易更新も今日でストップ。今週末に行われる済州島シリーズからは通常の更新に戻ります。

済州島シリーズ第1戦 直接対決再開

「ホーム」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

5 花田

6 中沢

1 浅岡

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

4 森茂 (2 - 0) - 近堂 (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 1)

3 ドラグノフ (4 - 1)

7 宮畑 (4 - 1)

2 金重男 (3 - 1) - 古池 (1 - 0)

1 赤坂 (2 - 0) - 河剛紀 (1 - 1) - 平野 - 小松原 - 黄直哉

大 0 0 0 1 0 0 2 0 0 3 赤坂 (6) -  
 平野 (1) - 小松原 (2 / 3) - 黄直哉 (1 / 3) 5 5 勝 4 0

敗 8 分

新 1 0 0 0 0 0 1 2 - 4 浅岡 - 今井 -

朴圭大 - S畑 5 0 勝 4 8 敗 5 分

今日から2日間済州島シリーズが開催される。済州島は朝鮮半島の最南端に位置する温暖な気候の火山島である。半島とは異なる文化でも知られている。さて、大連と今日対戦する新京は対抗戦で負け越した。その原因は矢野元、バジーノ、応周剛ら主力選手に怪我人が相次ぎ、彼らの穴を控え選手がなかなか埋めるに至らなかったのが大きかった。しかし本来地力があるチームだけにこれからの巻き返しは大いに期待できる。今日先発の浅岡慎二は先発陣の怪我人を埋める役割からローテーションに定着した。24歳で日によって安定感に差があるがバランスが取れた右腕である。大連の先発はルーキーの赤坂。

試合は初回到新京が武沼が内野安打で出塁したものを英が返して先制する。大連は4回にパウロのソロホームランで同点に追いつく。今日の赤坂は本来の姿であるストレートを軸にした力強いピッチングが出来ていた。一方浅岡は持ち前のバランスのよさを生かして変化球を多投して目先を変えるピッチングがうまくはまっていた。両先発はともに6回を1失点で降板してリリーフ対決となるが、試合が大きく動いたはそこからだった。

新京2番手の今井貴秀に対して先頭のドラグノフ、続く宮畑が連打。対抗戦で好調だったことからスタメンに起用された2人がここでも結果を残した。金重男はショートフライに倒れたが、代打として徐々に一軍に戻ってきた河剛紀が左中間を真つ二つに割り2点タイムリーとなる2ベースを放ち3対1と逆転に成功した。河は二軍落ちしてからバツティングフォームを一から作り直した。その結果いわゆるノーステップ打法を取り入れたフォームになって帰って来た。まだぎこちない所はあるがものになれば面白くなりそうだ。

しかしその裏、大連が2番手として繰り出した平野が一死後玄新



光に3ベースを打たれ、続く花田のセカンドゴロの間に生還を許してしまい3対2となる。8回は3番手として小松原を登板させたがこれまた乱調で、ツアウト三塁から英に逆転の2ランホームランをレフトスタンド中段に叩き込まれてしまった。最後は新京のリリーフエース畑陽一の前に三者凡退でゲームセット。早速大連は星を落とした。終盤で一気に逆転されるというもつたいたい敗戦であった。

#### その他の試合結果

3 8 勝 5 8 敗 7 分	光州	5 - 4	奉天	5 8 勝 3 8 敗 7 分
4 4 勝 5 3 敗 6 分	ハルビン	8 - 2	齐齐哈尔	5 4 勝 4 5 敗 4 分
4 5 勝 5 1 敗 7 分	平壤	5 - 1	開城	4 7 勝 5 2 敗 4 分



チチハルとの対戦は交流戦開始直前の4連戦以来となる。当時はまだ下位の雰囲気があったチチハルであるが、対抗戦では下位とはいえリーグに優勝するなど一気に躍進。上位戦線に名乗りを上げるまでになった。カーセロが負傷で一軍から抹消されてもトレードで加入した折口がすぐに穴を埋めるなどチームの循環がうまくいつている。今日はその折口が古巣相手に5番レフトで先発出場。また、22歳のフランススコ・ダンカンが7番セカンドで出場している。元々は育成目的で獲得した若手だがカーセロ離脱後一軍で代打などの仕事をしてきた。今日が初先発。大連は折口とのトレードで加入した池田が先発でチチハルを迎え撃つ。

まず初回到星渡がライト前ヒット、大上が四球で出塁するといきなりダブルスチールを仕掛けた。これが決まりノーアウト二三塁として一死後林が犠牲フライを打ち上げて先制。このシーンに限らず今日の試合は一二番コンビとなった星渡と大上が大いに持ち味を見せた。それぞれ3度の出塁に加えて、盗塁もダブルスチールを含めて5つ決めた。チチハルの捕手矢原晃一は本来強い肩を持っているのだが21歳と経験が浅く、完全に翻弄されていた。

3回には大上が、5回には星渡が盗塁を決めて揺さぶる。6回にはパウロも盗塁を決めてチャンスを作った。この盗塁がドラグノフの四球と河剛紀のタイムリーを呼び込んだ。7回には一死後に星渡がショート内野安打で出塁すると盗塁も決める。そして大上のライト前ヒットで一気にホームを狙ったがタッチアウト。しかし俊足を生かしたシンプルな攻撃は他球団にとって脅威となるだろう。

投手は池田が見事なピッチングを見せた。池田は古巣相手にいつも以上に燃えていた。今まで育ててもらった球団に対する恩返しの仕事は成長した力強い姿を見せる以外にないからだ。ストレートとフォークに加えて今日は大きなカーブもタイミングを打者の狂わせ

るのに効果的だった。トレード相手である折口との対戦は3打数を無安打に抑えた。結局池田は7回を無失点で大連での初勝利を手にした。終盤を任された平野と比山もチチハル打線を0に抑えての完勝だった。今季チチハルとはこれで5勝1敗2分とかなり分がいい。順位がひとつ下の相手と考えるとなかなか都合がいいと言えるだろう。

済州島シリーズはこれで終了。唯一2勝したハルビンがシリーズ優勝となり、特製のトロフィーと済州島特産のかんきつ類1年分が贈られた。そして2番ライトに定着してシリーズ2試合で9打数6安打と活躍した鈴木壮介外野手がMVPに輝いた。対抗戦では悔しい結果に終わったハルビンだが実力は十分と示すシリーズとなった。さて、これからの約50試合で全てが決まる。優勝もプレーオフも、すべてはこれからの戦いにかかっている。夏の暑さは一段落したが、球界周辺の熱気は上昇する一方だ。

#### その他の試合結果

5 9 勝 3 8 敗 7 分	奉天	8 - 5	平壤	4 5 勝 5 2 敗 7 分
4 7 勝 5 3 敗 4 分	開城	1 - 3	ハルビン	4 5 勝 5 3 敗 6 分
3 8 勝 5 8 敗 8 分	光州	4 - 4	新京	5 0 勝 4 8 敗 6 分

済州島シリーズ第2戦 快速コンビ誕生(後書き)

今日は名古屋に行くので早く投稿。

リーグ戦後半へ エースを叩く

「ホーム」開城

6 竹端

4 笠原

8 劉豪毅

5 肥後

3 ハイロー

7 グレス

9 曹真永

2 浜野

1 朴仲哲

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 1)

3 古池 (3 - 0) - 柳中平 (1 - 0)

2 清水 (4 - 0)

1 吉野 (3 - 1) - 小松原 - 近堂 (1 - 1) - 平野

大 0 0 0 1 4 0 1 0 0 0 6 吉野 (7)

- 小松原 (1) - 平野 (1) 5 7 勝 4 0 敗 8 分

開 1 0 0 0 0 0 1 0 0 0 2 朴仲哲 - 東

- 正田 - 車智文 4 7 勝 5 4 敗 4 分

今日から本格的にリーグ戦が再開される。大連がまず対戦する相手は開城。対抗戦では4番高弘美、トップバッター西平忠之、ストッパー黒垣尊雄と主力選手が相次いで故障したが、劉豪毅ら新戦力の台頭もあり5割以上の数字で乗り切った。先発はエースの朴仲哲。大連も吉野を先発に立ててがっぷり四つの体勢で試合を迎える。

試合は初回一死後に笠原のホームランが出て開城先制となったがこれは単発の攻撃。それ以降は吉野の安定したピッチングの前に6回までヒットすら出なかった。その間に大連打線が朴仲哲を攻略にかかる。今日の朴は普段はカウントを整えるために多用されるカーブの切れ味が良かった。一方決め球となるはずのスライダーはあまり良くなかった。

まずは4回、先頭の大上がレフト前ヒットで出塁と盗塁でノーアウト二塁のチャンスを作る。棚橋はレフトフライ、林はサードゴロで凡退したがパウロがセンター前にしぶとく落として同点に追いつく。5回には一死後ピッチャーの吉野がレフト前ヒットで出塁し、トップに戻って星渡の右中間を破る3ベースで吉野がホームに生還して逆転。続く大上は三振も棚橋が三遊間を破るヒットを放ち3対1と差を広げる。さらに林がカウント2-0からストライクを取りにきたストレートを強振して弾丸のようなライナーがライトスタンドに突入。2ランホームランとして一気に勝負を決めた。

7回には一死後星渡が四球で出塁から盗塁を決めると、大上のライト前ヒットで星渡がホームインして6対1とする。その裏、開城は曹真永の3ベースと浜野の代打李連次のライト前ヒットで1点を返したが反撃もここまで。大連は8回に小松原、9回に平野を投入して開城打線を6人で抑えた。試合はそのまま大連が勝利。秋の戦いに向けて幸先の良い発進となった。また、光州と戦っている奉天は本日引き分けたのでゲーム差は0.5縮まった。

劉監督が「カップ（大上の愛称）がよく打ち、よく走ること  
打線の）つながりが出てきた」と褒め称えたように、今日も2番セ  
カンドに入った大上は2安打を放って好調を維持。大上はこれまで  
スピード以外は今ひとつという評価で代走要員としての起用が主だ  
ったが打撃も伸びてきたとなるとスタメンとして使いたくなるとい  
うものだ。まだ23歳、上位打線を組む星渡や棚橋とは同年代なの  
だから成長の余地は大いに残されている。また、9回表に代打とし  
て登場した近堂もヒットを放ち意地を見せた。この2人がセカンド  
の定位置争いをする事でチームもより活性化される事が期待され  
る。

#### その他の試合結果

3 8 勝 5 9 敗 8 分	光州	4 - 7	新京	5 1 勝 4 8 敗 6 分
5 4 勝 4 6 敗 5 分	チチハル	5 - 5	奉天	5 9 勝 3 8 敗 8 分
4 5 勝 5 4 敗 6 分	ハルビン	6 - 8	平壤	4 6 勝 5 2 敗 7 分



先発0封 決着つかず

「ホーム」開城

6 竹端

4 笠原

8 劉豪毅

5 肥後

3 ハイロ

7 グレス

9 曹真永

2 浜野

1 佐々木

「ビジター」大連

8 星渡 (3 - 1)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (3 - 0)

5 パウロ (4 - 0)

7 アンジェロ (4 - 1)

3 ドラグノフ (4 - 1)

2 金重男 (3 - 0) - 古池 (1 - 0) - 清水

1 張尊 (2 - 0) - 野藤 - 黄直哉 - 立石 (0 - 0) - 小松原 - 比山

大 0 0 0 0 0 0 2 2 張尊 (6) -

野藤 (1 / 3) - 黄直哉 (2 / 3) - 小松原 (1) - 比山 (1)

5 7 勝 4 0 敗 9 分

開 0 0 0 0 0 0 2 0 0 2 佐々木 - 川原

- タチトナ 4 7 勝 5 4 敗 5 分

今日の先発投手は大連が36歳の張尊、開城が35歳の佐々木良平。年齢は似通っているが投球スタイルは張がコントロールと技巧が最大の武器なのに対して、佐々木は安定して140キロ台後半のストレートを軸にスライダー、フォークなどを投げるかなり正統派のピッチングをする。両者の投げあいには結果を先に言うとは決着がつかなかった。プロ入りして長い時間を過ごして確立したスタイルは簡単に崩れはしないし優劣を競うこともできない。

6回まではともに得点なし。佐々木は大連の打者を力で抑えて6回までに3安打2四球で三塁を踏ませないというピッチング。初回一死後に大上がセーフティーバントを決めたが牽制で刺すなどベテランらしい正確な技術も兼ね備えている。一方張は6回までに7安打を打たれながらも要所ではきっちり抑えて得点をやらないというピッチングを展開。的を絞らせないピッチングが持ち味だけに多少のヒットも計算のうちである。

そしてようやく試合が動いたのは7回。球数を考慮して張がマウンドを降りたところから始まる。大連の2番手として登場した野藤であったが今日は球威が不足していた。パラパラと降りしきる雨の影響もあるのだろう。先頭打者のGRESに初球を振り抜かれてあわやホームラン、ライトフェンス直撃の2ベースを食らう。曹真永のレフト前ヒットでGRESの代打美尾が三塁まで進み、浜野のスクイズで美尾はホームイン。開城がついに試合を動かす1点を挙げる。さらにピッチャーの佐々木に四球を与えたところで野藤は降板。黄直哉を送り込む。

しかし黄直哉も竹端にタイムリーを浴び、大連は終盤になって2点を追いかける展開となってしまう。マウンドには好調の佐々木。しかしここで大連は意地を見せた。きっかけは一死後に出された代

打立石の粘り強い打撃であった。微妙な球をことごとくカットして球数を稼ぎ、最終的には13球を投げさせた上で四球を勝ち取った。ここでシグマール監督が動く。ここまで好投の佐々木を下げてリリーフに川原を投入。しかしこれが結果的に裏目に出た。

トップに戻って星渡には四球。大上の送りバントでツーアウト二三塁とする。迎えた棚橋は川原の得意な変化球であるスライダーに目をつけていた。カウント1-2から決め球として投じられたスライダーがやや甘く入ったのを見逃さずに振りきった。ライナー性の打球は勢いよく右中間を抜け、立石と星渡がホームイン。同点に追いつくタイムリー2ベースとなった。続く林にも期待がかかったが、センター劉豪毅の見事なキャッチに阻まれて逆転はならず。試合はそのまま得点が入ることなく終了。2対2の引き分けとなった。

#### その他の試合結果

3 8 勝 6 0 敗 8 分	光州	1 - 9	新京	5 2 勝 4 8 敗 6 分
5 5 勝 4 6 敗 5 分	チチハル	6 - 1	奉天	5 9 勝 3 9 敗 8 分
4 6 勝 5 4 敗 6 分	ハルビン	4 - 1	平壤	4 6 勝 5 3 敗 7 分

決戦の9月 大連快勝スタート

「ホーム」開城

6 竹端

4 笠原

8 劉豪毅

5 肥後

3 ハイロ

7 グレス

9 曹真永

2 浜野

1 佐々木

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (3 - 2)

7 アンジェロ (5 - 1)

5 ドラグノフ (3 - 0) - 河剛紀 (1 - 1) - 森茂 (1 - 0)

3 柳中平 (4 - 2)

2 金重男 (3 - 1)

1 瑞穂 (3 - 0) - 趙雅憲 - 立石 (0 - 0) - 齋場

大 0 1 4 0 0 0 1 0 0 6 瑞穂 (6)

- 趙雅憲 (1) - 齋場 (2) 5 8 勝 4 0 敗 9 分

開 0 0 0 0 0 1 0 0 0 2 3 中島 - 森 -

東 - 王祐大 - 車智文 4 7 勝 5 5 敗 5 分

開城の先発は29歳の中島勝人。大学から球界に入って今は3球団目、便利屋としてあらゆる場面で投げてきた。今日は本来先発予定であった田中清史が肘の違和感を訴えて登録抹消となったため緊急先発となった。その中島を大連打線は序盤に攻略し、試合を優位に進めた。

2回二死後に今日7番ファーストに入った柳中平がライトオーバーの3ベースヒットでチャンスを作ると、金重男がレフトの前に落ちるポテンヒットを打ち幸運な形で大連が先制する。大連の先発瑞穂は丁寧な低めをつくピッチングができていた。スライダー、カーブといった変化球も効果的に決まって開城打線はなかなか手が出せなかった。その間に大連の打者が試合を決めた。

3回には星渡四球、大上はヒットエンドラン成功のレフト前ヒットでノーアウト一三塁と追加点のチャンス。柵橋は浅いレフトフライでランナー自重。そして4番林のライト線を抜く2点タイムリーヒットで3対0に。さらに今日欠場のパウロに代わって5番に入ったアンジェロがとどめとなる2ランホームランをレフトスタンド上段に打ち込んだ。首位を狙わんとする大連の勢いを開城では止めることなどとても出来なかった。

開城が反撃したのは6回。一死後に笠原が高いバウンドのサード内野安打で出塁すると、売り出し中の劉豪毅がライト前に転がして一三塁に。そして迎えた4番肥後はセンターフライもタッチアップとなり笠原がホームイン。5対1とする。しかしその後は続かず瑞穂は6回1失点で降板で悠々と5勝目を挙げる。

さて、開城の森や東といったリリーフ陣の奮闘で中盤は大連の攻撃を上手く抑えていたが8回に駄目押しが入る。この回の先頭打者であるドラグノフの代打河剛紀がセンター前に落として出塁すると、

柳がライト前、金重男が四球で満塁とする。ここで開城は3番手の王祐大から車智文に交代させるが、この車は代打立石に押し出し四球を与えてしまう。これで6対1として、なおもノーアウト満塁。しかしようやく車が力を発揮して星渡はピッチャーゴロで併殺、大上はライトフライで結局この回は1点止まり。

開城は9回にハイローの2ランホームランが飛び出したがもはや大勢に影響はなかった。8回と9回は斎場が投げて6対3で大連が勝利。ここまでは順調にきている。明日からはビジターで新京と対戦する。新京は対抗戦から引き分けを挟んで6連勝している。プレーオフ圏内となる3位を目指すモチベーションはかなりのもので、目標のためには負けられない同士の激しい戦いとなりそうだ。

#### その他の試合結果

3 8 勝 6 1 敗 8 分	光州	0 - 3	新京	5 3 勝 4 8 敗 6 分
5 5 勝 4 7 敗 5 分	チチハル	2 - 4	奉天	6 0 勝 3 9 敗 8 分
4 7 勝 5 4 敗 6 分	ハルビン	2 - 0	平壤	4 6 勝 5 4 敗 7 分

秋の嵐 一瞬の逆転

「ホーム」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 金城

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

3 柳中平 (3 - 1) - 立石 (1 - 0)

2 金重男 (3 - 0) - ドラグノフ (1 - 0)

1 フローデセン (2 - 1) - 宮畑 (1 - 0) - 黄直哉 - 野藤 - 古池

(1 - 0)

大 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 3 フローデセ

ン (6) - 黄直哉 (1) - 野藤 (1) 5 8 勝 4 1 敗 9 分

新 0 0 1 0 4 0 0 0 0 0 - 5 金城 - 阿野

- 鈴木芳 - S 畑 5 4 勝 4 8 敗 6 分

目下6連勝中と好調の新京との対戦。大連は8月27日に済州島シリーズの1戦目で対戦して、その時は3対4で敗れている。そのときのメンバーと比べて、新京はバジーノとボonzの鉄壁三遊間が復帰しており戦力は格段にアップしている。一方大連は星渡大上の新一番コンビが誕生するなど新たな動きもあつたが基本的には変わっていない。先発は大連がフローデセン、新京が金城。

先制点を挙げたのは新京。3回にボonzがライトスタンドに今季第7号となるホームランを打ち込んだ。大連は5回に反撃。先頭の柳中平の打球はファーストへの強いゴロだったがこれを玄新光が弾き、記録はヒット。続く金重男はセカンドゴロでランナー入れ替わり。そして打撃に定評のあるピッチャーフローデセンが三遊間を破るヒットでワンアウト一二塁とチャンスを広げる。トップに戻り星渡がライト前ヒットで満塁とし、大上のピッチャー強襲の内野安打で金重男が生還して同点。さらに棚橋のセンター前に落ちる2点タイムリーヒットで3対1と逆転に成功する。

しかしその直後の5回裏に落とし穴が待っていた。先頭のバジーノが復帰後初ヒットとなるライト前ヒットで出塁すると、ボonzはレフト前に転がして一二塁。そして金城が送りバントを決めてワンアウト二三塁とチャンス拡大。トップに戻って武沼はサードゴロで本塁封殺。呉高波は粘った末に四球でツーアウト満塁とする。ここで3番英が打席に立つ。英に対してフローデセンはまずチェンジアップを投げるが低く外れてボール。続く内角へのストレートは決まってストライク。そして3球目、外角へのチェンジアップを英が完全に捕らえた。打球は新京のファンが集まるライトスタンドに一直線、大連にとっては絶望への片道切符を手にしたボールが叫びの中に消えていった。逆転満塁ホームラン。3対1が一瞬にして3対5と変わってしまった。



それ以降は双方にチャンスらしいチャンスもなく、結局試合もそのまま終了となった。大連は9回に立石、ドラグノフ、古池の代打攻勢を繰り出したが届かず、あまりに痛い逆転負けを喫してしまった。これで新京は連勝を7に伸ばした。また、今日は奉天が勝利したため大連は首位から1ゲーム離された。とにかく5回の攻防が惜しまれる。フローデセンのピッチングも5回を除けば悪くなかったが5回だけ明らかにコントロールが乱れていた。それはまるで嵐のようなひとときで、それ以外が平穏だっただけにより一層際立っていた。

#### その他の試合結果

4 8 勝 5 4 敗 6 分	ハルビン	9 - 1	光州	3 8 勝 6 2 敗 8 分
4 6 勝 5 5 敗 7 分	平壤	2 - 6	奉天	6 1 勝 3 9 敗 8 分
4 7 勝 5 6 敗 5 分	開城	3 - 7	チチハル	5 6 勝 4 7 敗 5 分

打てども入らず みすみす連敗

「ホーム」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 浅岡

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 1) - 立石 (1 - 0)

6 棚橋 (2 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (4 - 0) - 3

7 アンジェロ (3 - 2)

3 柳中平 (2 - 1) - 河剛紀 (1 - 0) - 5 森茂

2 金重男 (4 - 1)

1 赤坂 (2 - 0) - ドラゴフ (1 - 1) - 黄直哉 - 小松原 - 古池

(1 - 0)

大 0 0 0 0 0 1 0 0 1 赤坂 (6)

- 黄直哉 (1) - 小松原 (1) 5 8 勝 4 2 敗 9 分

新 0 0 0 0 0 3 0 0 0 3 浅岡 - 朴圭

大 - 水岡 - 鈴木芳 - S 畑 5 5 勝 4 8 敗 6 分

3連戦の2試合目、大連の先発は赤坂、新京の先発は浅岡と済州島シリーズの時と同じである。あれからちょうど1週間がたった。大連としては昨日の敗北を吹き飛ばすためにも勝利が必要だったが、そうはうまくいかなかった。

試合の序盤は互いに0行進。しかしどちらが優勢かと言うと大連であった。大連は毎回のようヒットが出てランナーはたまるのだが後1本が出ずに得点機を逸するという回が多かった。一方新京は今日も良く冴える赤坂・金重男のバッテリーの前に5回までヒット2本に抑えられていた。得点の匂いがするのは大連で新京の浅岡はどこまで持ちこたえられるか、少なくとも途中まではそう見えた。

しかし先制したのは新京だった。それもエラー絡みでの失点だったのだから大連としてはまったく痛恨の出来事であった。事の次第はこうである。まずは先頭の浅岡は三振、武沼はライトフライであつさりツーアウトを取る。そして呉高波も赤坂が投じたストレートの球威に押されて当てただけの何でもないセカンドゴロだった。しかしセカンド大上が弾いてしまう。全然難しい打球ではなかったが俊足を警戒するあまり焦ってしまったのか。昨日逆転満塁ホームランを放った英はライト前ヒットで一三塁とする。そして4番の劉照凱がストレートを弾き返して左中間を破る走者一掃の3ベース。さらに七沢もレフト前に転がしてこの回一挙に3点を奪った。もちろん赤坂の自責点は0だった。しかし失ったものは大きかった。

この失点に多少は奮起したのか7回表に大連はようやく1点を取る。まずは先頭の、赤坂の代打ドラグノフがレフトオーバーの2ベースヒットで出塁。星渡のバントで三塁に進む。セーフティー気味だったが星渡はアウトになった。続いてエラーで失点の原因となった大上だが、ここで登板した朴圭大のスライダーにタイミングが合

わず三振。またも無得点かという空気も出てきたが、棚橋の積極的な初球打ちが功を奏した。打球はゆっくりと三遊間を転がっていきレフトに到達した時にはすでにドラグノフはホームインしていた。続いて林だが、ここで新京は朴を下ろして左腕の水岡を投入する。このワンポイントリリーフは林をライトフライに打ち取った。

8回は鈴木芳博、9回は畑陽一で試合を終わらせる新京の必勝パターンは今日も磐石だった。試合はそのまま1対3で終了。大連は新京に連敗を喫してしまった。9安打を放ち、四球も多く選んだものの連動性に欠けて得点は1止まりだった大連と5安打に終わったもののここぞという場面で集中的に固めて効率的に3点を取った新京。大連は若い選手が多く、それが活力となっているが新京のようなうまい野球をするチームに対してはどうにも弱い部分を持っている。

#### その他の試合結果

4 9 勝 5 4 敗 6 分	ハルビン	3 - 0	光州	3 8 勝 6 3 敗 8 分
4 7 勝 5 5 敗 7 分	平壤	7 - 3	奉天	6 1 勝 4 0 敗 8 分
4 8 勝 5 6 敗 5 分	開城	6 - 0	チチハル	5 6 勝 4 8 敗 5 分

一打サヨナラ 薄氷の勝利

「ホーム」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 カウリ

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジェロ (3 - 0) - 宮畑 (1 - 0)

3 ドラグノフ (4 - 2)

2 清水 (3 - 1)

1 池田 (2 - 0) - 野藤 - 平野 - 近堂 (1 - 0) - 比山

大 2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 4 池田 (6)

1 / 3) - 野藤 (2 / 3) - 平野 (1) - S 比山 (1) 5 9 勝 4

2 敗 9 分

新 0 0 0 0 0 0 1 1 1 1 0 3 カウリ - 宗

源良 - 阿野 - 今井 - 朴圭大 5 5 勝 4 9 敗 6 分

ここらで悪い流れを断ち切りたい大連の先発は先週チーム初勝利を挙げた池田。ここまで8連勝中でさらに伸ばしたい新京はカウリが先発。しかし今日のカウリの調子は極めて悪かった。風が強い日だったので感覚が狂ったのか、軸となるストレートの切れ味もコントロールも不安定で大連にとって楽な相手となっていた。

初回、大連のトップバッター星渡はストレートの四球で出塁。大上に対しても3球連続でボールと乱れており、次の球はストライクだったがまたも歩かせる。棚橋はレフトフライも林がスライダーに合わせてセカンドの頭上を越す先制のタイムリーヒット。さらにパウロが甘く入ったストレートをレフト前に転がして2点目を入れる。新京が攻撃を開始する前に大きなリードを手に入れた。

続いて2回も大連がよく攻めた。先頭のドラグノフがライト前ヒット、清水が四球、池田が送りバントを決めてワンナウト二三塁。そして星渡が一塁線を抜く痛烈なライナーを放ってドラグノフと清水が生還。これで4対0となった。新京の安部監督はもはやこれまでとカウリを下げ、21歳の宗源良を繰り出した。この起用が当たった。まずは大上をサードファールフライに仕留めてワンナウト。続く棚橋の打席で一塁にいる星渡を牽制で刺した。そして棚橋をショートゴロに打ち取ってこの回を終わらせる。その後も堂々としたピッチングを見せて7回まで無失点に抑えた。宗源良の奮闘がなければ序盤だけで試合は決していただろう。

大連先発の池田は風を気にすることもなく力強いピッチングを見せた。特に効果的だったのがショートで、新京打線を平凡な内野ゴロに打ち取っていた。こうして試合が落ち着いてきた6回裏から新京の逆襲が始まった。

先頭の武沼が初球のストレートをライトスタンドギリギリに打ち込んでまず1点を返す。この回はその後英がヒット、劉照凱が四球でピンチを作ったが七沢をセカンドゴロダブルプレーに打ち取って事なきを得た。続いて7回、玄新光にいきなりデッドボールを与えてしまう。バジーノは三振もボンスがライト前ヒット、代打石田が四球で満塁としてしまい池田は降板。2番手として野藤がマウンドに立つ。野藤は武沼をサードゴロを本塁封殺とした。しかし続く呉高波にライト前ヒットを打たれてしまう。これで4対2となったが、ライト林が武沼のオーバーランを見逃さず二塁に返球。棚橋が武沼にタッチしてアウト。この回は1失点だけで何とか乗り切った。

8回は平野が登板したが一死後劉照凱に3ベースを打たれ、七沢のセカンドゴロの間にホームインを許してついに1点差までこぎつけられてしまう。そして9回、マウンドにはもちろん比山。しかし比山にも新京の猛烈な追撃が襲い掛かった。先頭のバジーノからは最終的に三振を奪ったが粘られて12球を投げさせられた。続くボンスには四球を与えてしまう。代打で登場したベテランの袁海鵬をライトフライに打ち取ってツーアウト。ここで武沼にライト前ヒットと呉高波に四球を与えて満塁としてしまう。

1点差、打たれればサヨナラ待ったなしという場面で迎えたのは一昨日の逆転満塁ホームランも記憶に新しい英時之。比山の初球は外角へのストレートでストライク。英は微動だにせず。2球目は抜いたようなスライダーが低く外れる。3球目は内角へのストレートをファール。これで追い込んだ。4球目に投じた決め球のフォークは見られてボール。5球目のストレートは英にミートされた。サヨナラかと思われたが寸前で一塁線を切った。ファール。そしてこの日最後となる運命の6球目、比山が投じたボールになるフォークの前に英のバットは空を切った。新京の連勝は8で止まった。

たやすい試合と思いきや反撃が途中で止まり、後半はジワジワと追いかけられるという怖い展開。そして9回は逆転負け寸前の所から何とか勝ち星を拾った。ここで新京に3連敗するとその後もズルズル後退するしかなかっただろうがどうにか踏みとどまった。来週はまずビジターでハルビンと対戦、そしてようやくホームに戻り平壤と対戦する。

#### その他の試合結果

4 9 勝 5 5 敗 6 分	ハルビン	2 - 5	光州	3 9 勝 6 3 敗 8 分
4 7 勝 5 6 敗 7 分	平壤	0 - 4	奉天	6 2 勝 4 0 敗 8 分
4 8 勝 5 7 敗 5 分	開城	2 - 5	チチハル	5 7 勝 4 8 敗 5 分



## エースの中のエース吉野

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 助川

7 田中

5 南吉展

4 竹原

1 引田

「ビジター」大連

8 星渡(4-1)

4 大上(4-2)

6 棚橋(4-1)

9 林(4-1)

5 パウロ(4-1)

7 アンジエロ(2-0) - 宮畑(1-0)

3 柳中平(2-0) - 古池(2-1)

2 清水(4-1)

1 吉野(1-0) - 近堂(0-0) - 趙雅憲 - 河剛紀(1-0) - 北

大 0 1 2 0 3 0 0 0 0 0 6 吉野(6)

- 趙雅憲(2) - 北(1) 6 0 勝 4 2 敗 9 分

哈 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 引田 - 鄭明

真 - 笠持 4 9 勝 5 6 敗 6 分

今週はまずハルビンと3連戦を行う。先発は大連が吉野、ハルビンが引田というエース対決。試合は先発からして1点を争う投手戦になると予想されていた。しかしハルビンの勝ち頭である引田が崩れて早々と勝負がついてしまった。

1回はともに安定したピッチングで三者凡退。しかし2回、大連の5番パウロ・ミネイロが引田のストレートを強引に引っ張ってレフトスタンドに叩き込む今季17本目のホームラン。貴重だと思われる先制点は想像以上にあっけなく入った。これで引田のコンピュータに狂いが生じたのか、続くアンジェロには四球。柳中平がスライダーを打ち損じてのショートゴロダブルプレーに倒れたためこの回は1点のみに終わった。しかしこの回以降の引田は明確に内容が悪化していった。

3回は先頭の清水が左中間へ2ベースを打つ。これは内角へのストレイトが不要に高くなったものを振りぬいたものだった。続くピッチャー吉野が送って三塁へ。トップに戻って星渡は四球を選ぶ。ここでここ数試合でスタメンに定着した大上がサードへ高いバウンドのゴロを打つ。これが内野安打となって大連が2点目。さらに柵橋の打席で二塁に投げた牽制球が暴投となり星渡が三塁に進み、柵橋のレフト前ヒットで悠々とホームインした。安定感が売りの引田らしからぬミスだった。

4回は何もなかったが5回にまたも、そして決定的な得点に加わる。一死後、星渡がレフト前ヒットで出塁。続く大上がセーフテイー気味のバントをする。捕球した引田は一塁に投げたがこれをファーストの助川が弾いてしまいセーフ。助川にエラーが付いたが引田の送球も左に寄っておりこっちにエラーが付いていてもおかしくなかった。柵橋は引田得意のスライダーに空振り三振を喫したが、4番林が高く浮いたフォーカボールを完璧に捕らえてライトスタンド

にぶち込んだ。打った瞬間それと分かる3ランホームランで6対0に。エース吉野には十分すぎる援護射撃だ。

引田とは対照的に吉野はどっしりと構えて安定したピッチングを最後まで続けることが出来た。結局のところはそこが勝因である。エースなのだからいかに自分の実力をフルに発揮できるか。吉野はできたが引田はできずに自滅の道を歩んだ。今日の試合に限ってはそういう事である。吉野は6回までで余裕の降板。7回からは趙雅憲や北といった投手を登板させ、すでに戦意を喪失したかのように弱い抵抗しか示さなかったハルビン打撃陣を抑えて勝利。吉野は13勝目を挙げてチームトップを独走。今後の展開によってはタイトルも見えてくるという良好な数字である。

#### その他の試合結果

6 2 勝 4 0 敗 9 分	奉天	3 - 3	新京	5 5 勝 4 9 敗 7 分
4 8 勝 5 6 敗 7 分	平壤	8 - 1	開城	4 8 勝 5 8 敗 5 分
5 8 勝 4 8 敗 5 分	チチハル	6 - 3	光州	3 9 勝 6 4 敗 8 分

秋風に舞う白球 張尊二発に散る

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 助川

7 田中

5 南吉展

4 竹原

1 ノリツジ

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (5 - 0)

7 アンジエロ (4 - 2)

3 柳中平 (4 - 2)

2 金重男 (1 - 0) - 清水 (2 - 1)

1 張尊 (2 - 0) - 黄直哉 - 河剛紀 (1 - 0) - 趙雅憲 - 近堂 (1 - 1) - 小松原

大 0 0 0 0 3 0 0 0 1 0 4 張尊 (4)

- 黄直哉 (1) - 趙雅憲 (2) - 小松原 (1) 6 0 勝 4 3 敗 9 分

哈 0 0 4 0 0 2 0 0 1 0 0 7 ノリツジ -

藤崎 - 横浦 - S堀 5 0 勝 5 6 敗 6 分

昨日は本拠地でエース引田が自滅し、打撃陣も力を見せずにズルと完封リレーを許したハルビン。スタジアムにはファンからの熱いブーイングが鳴り響いた。試合後、杉山監督は緊急ミーティングを開いてチームに喝を入れたという。早速その成果が出たようだ。

大連の先発張尊は多彩な変化球と抜群のコントロールで打者の目先を変えて打たせて取るタイプのピッチャーだが、球威は確かに一般的な一軍レベルより下回っている部分がある。また、今日の張は調子が悪かったようでもいつもに増してその弱点が顕著になっていた。そしてそれを誤魔化すような配球もほとんどなかった。これはバッテリーを組んだ金重男のリードの甘さにも一因があるが、36歳と経験豊富な張ならばもう少し考えることもできたはずだ。

まず初回、2回は無難な立ち上がりを見せた張だが3回に急変。先頭の8番竹原立良にレフト前ヒットを打たれる。さらにピッチャーであるノリツジにもライト前ヒットを許して一三塁。トップに戻ってボルトはサードフライも、済州島シリーズMVPに輝いた2番鈴木壮介がスライダーをレフトスタンドに叩き込んだ。先制の3ランホームランで一気にハルビンのペースに。さらに井沢、田坂も連打でまたもチャンスを作ると、助川のライトへの犠牲フライで井沢が4点目のホームを踏む。

大連の反撃は5回。ヒットや四球は出てもなかなか失点を許さなかったノリツジだが、この回先頭の星渡が左中間を破る3ベースでチャンスを作る。大上は四球で出塁するとすかさず盗塁を決めてノアウト二三塁。そして柵橋のセンター前ヒットで星渡と大上がホームイン。23歳トリオの活躍でチームに活力を注入すると、二死後にアンジェロが柵橋をホームへと迎え入れるレフトオーバーのタイムリー2ベースを打つ。これで1点差となった。

しかしその裏に突き放される。一死後、好調の鈴木壮介がレフト前ヒットを放つ。そして3番の井沢千代尋が張のストレートを振りぬいた。お得意の鋭いライナー性の打球がハルビンファンの待つライトスタンドに叩き込まれた。2ランホームランで3点差に広がってしまう。ここで張は降板。2番手の黄直哉がマウンドに。今日のハルビン打線はかなり積極的に振ってきた。それに対するバッテリーの警戒が甘く、手痛い攻撃を浴び続けた。6回表の攻撃で金重男に代打が送られたのもそういう要素ゆえのことである。

その後はハルビンが7回に田坂のタイムリーで、大連が8回に柳中平、清水の連打から代打近堂のタイムリーヒットでそれぞれ1点をスコアボードに加えた。最後はハルビンのリリーフエース堀満裕がクリーンナップを3人で抑えてゲームセット。4対7で大連が敗れた。

#### その他の試合結果

6 2 勝 4 0 敗 1 0 分	奉天	1 - 1	新京	5 5 勝 4 9 敗 8 分
4 8 勝 5 7 敗 7 分	平壤	2 - 4	開城	4 9 勝 5 8 敗 5 分
5 9 勝 4 8 敗 5 分	チチハル	7 - 4	光州	3 9 勝 6 5 敗 8 分

流れ流れてドローゲーム 不確実性の極み

「ホーム」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 助川

7 田中

5 南吉展

4 竹原

1 李正明

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (4 - 1)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (5 - 1)

7 アンジエロ (4 - 0) - 宮畑 (1 - 1)

3 柳中平 (3 - 3)

2 清水 (2 - 0) - 金重男 (1 - 1) - 南 (1 - 0)

1 瑞穂 - 斎場 (2 - 0) - 河剛紀 (1 - 0) - 石風呂 - 平野 - 古池

(1 - 1) - 野藤

大 0 0 0 2 1 0 0 2 0 5 瑞穂 (1 2

/ 3) - 斎場 (3 1 / 3) - 石風呂 (1) - 平野 (1) - 野藤 (

1) 60勝43敗10分

哈 0 1 0 0 0 3 1 0 0 5 李正明 - 鈴木

今日の先発は大連が瑞穂、ハルビンが李正明。なぜか勝ち星には恵まれないものの好投が続いていて常に計算できるピッチングをする瑞穂に対して李正明は調子にムラがあり、投げてみないとわからないところがある。よって戦前は大連有利と予想されていたが、思わぬハプニングが起こるなどしてどう展開するかまったく読めない試合となった。

それは2回裏に起こった。大連先発の瑞穂はいつも通り優れたコントロールを駆使したピッチングを見せてこの回先頭の4番田坂をライトフライに打ち取った。そして5番の助川を迎えての1球目、小さく曲がるシュートを強引に打ち返した打球が瑞穂の右肩付近に直撃。これはすぐさま一塁に送球してアウトにしたが、これ以降瑞穂は肩をしきりに気にするようになる。球威は落ちていないようなので続投させたがコントロールはおかしくなっており続く田中には瑞穂らしからぬ明らかなボール球を4球続けてむざむざ歩かせてしまふ。南吉展にはストレートを捕らえられてレフト線を破られる2ベース。竹原にもレフト前に打たれて失点。李正明に四球としたところようやく劉監督が動いてピッチャー交代。斎場がマウンドに向かう。

斎場は安定したピッチングを見せた。その間に大連打線が李正明を攻略にかかる。4回、先頭の林が初球のストレートを叩いてライトスタンドに同点ホームランを叩き込む。さらに二死後、柳中平にも一発が飛び出して逆転に成功する。さらに5回にはツーアウトながら四球で出た星渡を一塁に置いた場面で棚橋が三塁線を破るタイムリーを放ち3点目とする。この5回までで斎場は降板。

大連の3番手は石風呂だったがこれが誤算。先頭の田坂にいきな



り右中間に2ベースを打たれると、続く助川には四球を与えてしまう。そして打席に立つのは6番レフト田中海。シーズン当初は鈴木壮介とポジションを争ったが敗れて控えに定着しかけていたが、レギュラーだった篠原が不調で二軍落ちしたことでまたチャンスが巡ってきた。その田中がカウント2-1から投げられた石風呂のバウンドボールを完全に捕らえた。打球はフェンスのすぐ上を飛んでいきレフトスタンドへ突入。逆転の3ランホームランで一気に形勢逆転した。

ハルビンの李正明は6回限りで降板。ハルビンはリリーフ攻勢をかける。7回の鈴木真之に対してはランナー2人を出すものの無得点。その裏には4番手の平野が田坂にタイムリーを浴びて点差が2に開いてしまう。しかしこのままでは終われない。8回にハルビンはセットアッパー名々見忠志を投入したが、この実力者が大連猛反撃のターゲットとなる。

先頭のアンジェロは得意のシンカーで三振を奪ったが、柳中平がストレートを逆らわずにレフト前に流す。柳は今日3安打目。ここで清水に代えて代打金重男を起用。金は期待通りのライト前ヒットでチャンスを拡大する。そして代打古池吉郎がスライダーを捕らえてレフト前に。これで柳がホームイン。なおもチャンスでトップに戻って星渡はショートゴロで古池は二塁封殺もダブルプレーはならずツーアウト一三塁。続く大上はあっさり追い込まれたが、決め球のシンカーが暴投となって金重男がホームイン。まさかの形で同点となった。大上は次に投じたスライダーであっさり三振に倒れた。全然対応できていなかった大上に不要な失点を与えてしまった名々見、まさに痛恨の一球であった。

8回裏、マウンドには野藤。一死後に助川の代打蘇陽長に対してカウント1-2から勝負球としたフォークボールを蘇が辛うじて当

てたファウルチップが金の股間を直撃。男性特有の悶絶の末にグラウンドから退場してしまった。あまりに痛ましい事件の後に登場したのは高卒2年目で公式戦初出場の南翔介。南は野藤の尽力もあり無難なリードで急場をしのいだ。

そして9回。逆転を目指す大連はハルビンのストッパー堀を攻め立てる。二死後、パウロと代打宮畑の連打に柳敬遠で打席には南がベンチには立石や近堂も残っていたが代わりの捕手がいないので代打は事実上不可能。南は堀のストレートにまったくタイミングが合わず三球三振に倒れて得点ならず。二軍成績を見るに打撃が下手というわけでもないはずだが公式戦初打席には酷な場面だったか。9回は比山がハルビンの下位打線を抑えて試合終了。5対5の引き分けとなった。

#### その他の試合結果

6 2 勝 4 1 敗 1 0 分	奉天	1 - 6	新京	5 6 勝 4 9 敗 8 分
4 9 勝 5 7 敗 7 分	平壤	5 - 0	開城	4 9 勝 5 9 敗 5 分
5 9 勝 4 8 敗 6 分	チチハル	3 - 3	光州	3 9 勝 6 5 敗 9 分

久々のホームも 何となく敗戦

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (5 - 1)

9 林 (4 - 1)

5 パウロ (3 - 0) - 7

7 宮畑 (3 - 1) - ドラゲノフ (1 - 1) - 5

3 柳中平 (4 - 1)

2 清水 (4 - 0)

1 フローデセン (2 - 0) - 河剛紀 (1 - 1) - 黄直哉 - 小松原 -

立石 (1 - 1)

「ビジター」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

9 幕内

6 成田

5 陳志剛

2 小松

1 中山

平	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	中山 - サイ	
デー	イ	-	大河内	-	S 近藤	5	0	勝	5	7	敗	7	分
大	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	フローデセ	
ン	(	7	)	-	黄直哉	(	1	)	-	小松原	(	1	)
						6	0	勝	4	4	敗	1	0
													分

ホームでの試合は8月24日の対抗戦最終試合以来となる大連。ようやく戻ってきて最初の対戦相手は平壤である。平壤は特に野手レギュラー陣に離脱した選手が多くなかなか波に乗れないでいるが、シヨートの成田翔吾ら将来を担う選手が出てきつつある。特に内野手は高齢化が進んでいただけに成田や今は離脱しているが鈴木勇気といった選手の台頭は望まれていたところである。さて、今日の大連の先発はフローデセン、平壤は中山である。なお、昨日の試合で負傷した瑞穂投手は登録を抹消されて伊東聡司投手が一軍に昇格した。また近堂内野手も再調整のため二軍に向かった。

さて、試合は序盤はともに得点なし。試合が動いたのは5回に、しかもエラーをきっかけにしたものであった。平壤は一死後にキャッチャーの小松がサードにゴロを打ったがこれをパウロが弾いてエラー。中山が送ってツーアウト二塁からトップの小谷がライトオーバーのタイムリー2ベースを放つ。打たれたのはチェンジアップで、小谷の確かな技術が勝ったものだった。

続く6回には一死後から四球で出塁した趙民陽をファーストに置いて5番幕内を迎えたが、この幕内が外角のやや高めに入ったストリートを引つ張ってレフトスタンドに2ランホームランを打ち込む。幕内は強肩で守備の評価が高い選手だが、パンチ力があり勝負強い打撃をするので主力に怪我人が相次いでいる現在には5番打者を任せられている。本来は下位打線に厚みを加えるような起用方法が正しいのだろうが、こういった仕事もきっちりできる職人肌の男である。

7回も続投の中山だが明らかに疲れしてきた。今までは中山の小さく曲がる多彩な変化球にうまく打たされてきた大連打線だが、ようやく攻略を始めた。まずは先頭の、フローデセンの代打河剛紀が球威の落ちた中山のストリートを叩きライトフェンス直撃の二塁打で

出塁。星渡はセーフティーバントを決めて一三塁に。ここで平壤はピッチャー交代で球威のあるサーディーをマウンドに送り込む。大上は前進守備のライト幕内がさらに前進する浅いフライに打ち取られたのでランナーは自重。そして棚橋が三遊間を破りレフトに転がるタイムリーヒットを放つ。しかし続く林はセカンドゴロダブルプレーに倒れてこの回は1点止まり。

8回には一死後に代打ドラグノフが平壤3番手の大河内から移籍後初のホームランをライトポール際に放つ。しかし反撃はここまで。9回は井垣の怪我で抑えとなっている近藤から代打立石がレフト前ヒットで出塁、星渡が四球で続いたが大上が球威に押されてのピッチャーゴロダブルプレーで一気に反撃の流れをしておれさせる。最後は棚橋が三振に倒れてゲームセット。奉天は勝利したのでゲーム差が広がってしまった。

#### その他の試合結果

3 9 勝 6 6 敗 9 分	光州	4 - 7	奉天	6 3 勝 4 1 敗 1 0 分
5 1 勝 5 6 敗 7 分	ハルビン	9 - 5	チチハル	5 9 勝 4 9 敗 6 分
4 9 勝 5 9 敗 6 分	開城	0 - 0	新京	5 6 勝 4 9 敗 9 分



今日の大連の先発はルーキー赤坂、平壤は本田元見。この本田という投手、30歳にして4チーム目という移籍の多い選手である。先発もリリースもこなすタフで器用な選手なのでどこでも重宝するが肝心の實力はそこそこといったところなので移籍が多くなる。手駒が厳しくなったチームに乞われる形で移籍を繰り返す典型的なジャーニーマンである。もはや大学ナンバー1右腕と言われていた過去はほとんど忘れ去られている。順調とは言えないながらもなかなか面白い野球人生と言える。

さて、試合は1回裏にトップバッターの星渡がライトスタンドにホームランを打ち込むという派手な先制シーンから始まる。3回にはツーアウトから四球を選んで出塁した大上がかさず盗塁を決めてチャンスを作ると、棚橋がレフト線ぎりぎりに落ちるヒットを打ってホームインで2対0とする。本田はコントロールがいいもの、ここぞの場面での決め球に欠ける部分があり、これが移籍を繰り返させる遠因となっている。

さて、そんな話とは今のところ無縁で怖いもの知らずのルーキー赤坂は「プロ入りしてからは間違いないと始めての感覚だったし、高校や大学でもこれほどの時はなかったかも」と語ったほどの絶対調ぶりだった。それは初回から明白で、最初のバッターである小谷2番のベテラン鳥内を連続三振。3番の志田は完全に球威で圧倒してのキャッチャーフライ。特に良かったのがストリートとスライダーで、うまく投げ分ける事で平壤のバッターたちから面白いように三振を重ねていった。

5回のツーアウトから迎えた成田が、ストリートを当てただけのポテボテのゴロを俊足で内野安打にしたことでようやく初めてのランナーが出た。それほどに磐石だった。結局赤坂は9回を2安打1四球13奪三振という圧倒的な成績で平壤を完封。ルーキーでは単

独トツプとなる8勝目を記録した。もう2桁勝利は目前。目標としていた新人王獲得が現実的になってきた。

大連打撃陣の追撃は7回、3番手として登場した西向に対して行われた。この回先頭の柳中平がストレートを捕らえてライト線への3ベースヒットを放つと、金重男が柳と同じくストレートをセンター前に打ち返して3点目とする。二死後、大上が意外な長打力を見せた。初球の小さく曲がるスライダーを振りぬくと、大上の非力を見越して前進していたレフトの頭上を越えるタイムリー2ベースとなった。もつとも今日の赤坂のピッチングを見ると1回のホームランだけで援護は十分だったと言えるが。

昨日は冴えない試合でスタジアムはため息にあふれたが、今日は赤坂の好投や実力を見せた打撃陣など大連ファンにとって大いに溜飲を下げる展開であった。このような試合を多くできれば、特に奉天に対して出来たならばその先に待つものは栄光となるだろう。

#### その他の試合結果

3 9 勝 6 7 敗 9 分	光州	0 - 3	奉天	6 4 勝 4 1 敗 1 0 分
5 1 勝 5 7 敗 7 分	ハルビン	3 - 4	チチハル	6 0 勝 4 9 敗 6 分
4 9 勝 6 0 敗 6 分	開城	5 - 7	新京	5 7 勝 4 9 敗 9 分



助っ人連続ホームラン 平壤を打ち崩す

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 2)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1) - 森茂 (1 - 0)

9 林 (3 - 2)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジェロ (4 - 3) - 宮畑

3 柳中平 (3 - 0) - 古池 (1 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 池田 (2 - 1) - フェリックス (1 - 1) - 伊東 - 河剛紀 (1 -

0) - 石風呂 - 趙雅憲

「ビジター」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

9 幕内

6 成田

5 陳志剛

2 小松

1 張公明

平 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 張公明 - 森

- 辛俊洋 - 前田 5 0 勝 5 9 敗 7 分

大 0 2 3 0 0 0 2 0 0 0 - 7 池田 (6)

- 伊東 (1) - 石風呂 (1) - 趙雅憲 (1) 6 2 勝 4 4 敗 1 0 分

昨日は主に投手のお陰で快勝となった大連だが、今日は打撃陣が魅せてくれた。平壤先発の張公明を序盤でノックアウトし、それ以降も力強く加点していった。山場となる来週の決戦に向けて視界良好だ。

初回、星渡のライト前ヒットと大上の四球でノーアウト一二塁のチャンスを作ったものの柵橋がセカンドゴロダブルプレー、林はセンターフライで得点ならず。しかし2回、先頭のパウロが張公明の初球ストレートを捕らえてレフトスタンド中段に叩き込む先制のホームラン、さらにアンジェロもカウント1-2からのスライダーをライトスタンドに打つという連続ホームランでこの回は2点を加える。

3回は一死後から大上がレフト線を抜く2ベースヒットを打つと、前の打席でチャンスを潰した柵橋が汚名挽回のタイムリーヒットをライト前に放つ。幕内の返球が良くてクロスプレーとなったが大上がうまく小松のブロックをかくぐっており判定はセーフ。シーズン中盤までは代走要員として活躍していた大上の走塁技術が発揮された。さらに林がセンター前ヒットで一二塁とする。パウロはレフトフライもアンジェロが右中間を破る2ベースで2点タイムリーヒットとする。この時点で5対0と勝負はほぼ決まった。

池田は相変わらず気迫のこもったピッチングを見せて3勝目。意外とランナーは出すものの失点は4回、ツアアウトながらも志田を二塁に置いて5番幕内がレフト前にしぶとく落としたテキサスヒットの間にホームインしたもののみ。6回まで投げて、その裏に代打を出されて出番終了となった。

池田の代打で登場したのは先日一軍に戻ってきたフェリックス・

アマラウ。フォームを見るだけでも明らかに以前と比べて洗練されている。平壤の森のカーブをうまく捕らえてセンター前に転がるヒットを放った。それがきっかけとなり星渡の2ベースと大上の四球でワンナウト満塁。棚橋は浅いライトフライでランナー自重。そして4番林が左中間に落ちるヒットでフェリックスと星渡が生還して7対1とした。後は伊東、石風呂、趙雅憲のリリーフ陣がぼちぼち抑えて勝利。まったく危なげない試合だった。しかしこれは来週から始まる決戦へのプレリユードに過ぎない。

来週は1位の奉天と3位のチチハルと対戦。さらに再来週は月曜日は休養日ではないというタフな日程の中、最下位で一切取りこぼしが許されない光州と4連戦をして、またチチハルと対戦という詰まった日程となる。相手は厄介な球団ばかり。まさに正念場中の正念場。ここでの戦いが順位を直接的に決めると言ってもまったく言い過ぎではない。

#### その他の試合結果

40勝67敗9分	光州	5 - 2	奉天	64勝42敗10分
52勝57敗7分	ハルビン	6 - 2	チチハル	60勝50敗6分
50勝60敗6分	開城	1 - 0	新京	57勝50敗9分



ついに奉天と直接対決を行う日が来た。対戦はオールスター前の熱河シリーズの第2戦以来となる。あの時は11点を取られての大敗を喫ってしまった。しかし今は対抗戦などを経てかつてより強くなった。大連の先発はもちろんこの男、エース吉野大吾。迎え撃つ奉天はこちらもエースの星村愁輔と万全の構え。ともに負けられないという気迫に満ちた戦いを繰り広げた。

まず1回表、試合開始直後に大連がアクションを起こす。二死後に棚橋がレフト前ヒットで出塁、林もライト前に転がして一三塁とする。しかし今日パウロに代わって5番に入ったアンジェロは三振に倒れて先制点ならず。

続いて得点機を作ったのは奉天だった。3回一死後、ローマンの故障で8番ショートに入っている3年目の田辺裕矢がチーム初ヒットとなるセンター前ヒットで出塁する。星村が送って二塁に到達し、トップに戻って横山は四球を選んで一二塁としたが、佐藤はショートゴロで二塁封殺となりこちらも得点ならず。

その後もお互いチャンスまでは作っても失点は許さずという展開が続いた。さすがエース、ここぞの場面での集中力は凄まじいものがある。このまま0対0で終了するか、そんな空気も漂ってきた試合終盤にドラマが待っていた。

8回、大連の先頭打者清水が星村の初球ストレートを引っ張りレフト線を破る2ベースとした。下位打線なので多少気が緩んだところを見逃さなかった。そしてここまで好投の吉野に代打としてここまで打率・350の立石を送り込む。奉天バッテリーは立石に対してかなり厳しいコースを突いてきた末に四球となったが、これは奉天も覚悟の上であった。そしてトップに戻って星渡はライトフライ。ライト市松の肩は普通なので清水は三塁に進めた。

ワンナウト一三塁でバッター大上。1球目はほとんど真中央のストリートでストライク。2球目はスライダーが外角に外れてのボール。そして3球目、大上の構えが変わり清水が走る。スクイズ。しかし星村はこれを読んでいた。大きく外したボールに大上は食いついたもののバットは空を切った。清水はタッチアウト。直後に大上は星村のスライダーの前に三振。最大のチャンスは煙と消えた。

激戦の幕切れは一瞬であった。9回裏、もう勝利のなくなった大連は同点で終わらせるべく比山を投入。しかしその比山がこの回の先頭打者である3番長谷川智明に投じた第1球、外角へのストリートを完璧に捕らえられた。打球は満員の奉天ファンが待つライトスタンドへ。スタジアムは熱狂に支配された。順位を争う直接のライバルとギリギリの展開で競り合った末、劇的なラストシーンで勝利を手にしたのだから無理もない。これでゲーム差は3に広がり、少なくとも今回の対戦で並ぶ可能性はなくなった。

#### その他の試合結果

40勝68敗9分	光州	2 - 4	平壤	51勝59敗7分
52勝58敗7分	ハルビン	1 - 3	開城	51勝60敗6分
61勝50敗6分	チチハル	7 - 6	新京	57勝51敗9分

松浦帰還 止まった時計は再び動きだした

「ホーム」奉天

5 横山

4 佐藤

8 長谷川

7 間口

2 漢

9 市松

3 蔡均森

6 田辺

1 長沢

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 0)

4 大上 (4 - 1)

6 棚橋 (3 - 3)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (3 - 0)

3 ドラグノフ (3 - 1)

7 アンジエロ (4 - 0)

2 清水 (4 - 0)

1 松浦 (3 - 1) - 平野 - 比山

大 0 0 1 0 0 0 0 1 0 0 2 松浦 (7)

- 平野 (1) - S 比山 (1) 6 3 勝 4 5 敗 1 0 分

奉 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 長沢 - 松本

- 朴賢侍 6 5 勝 4 3 敗 1 0 分

首位決戦の2戦目。大連はローテーション通りだとベテランの張尊が先発だったがずらしてきた。そして今日の先発は一軍に復帰してきたばかりの松浦心。対抗戦で炎上が続き二軍で調整してきたがついに舞い戻った。なお、二軍での成績は3試合で自責点が1というほぼ完璧な内容。そして今日のピッチングでそれが偶然ではなく真の実力に基づくものだと言明された。ハードな日程が続くタイミングで頼もしい男が帰ってきた。

二軍調整前と比べて明らかにストレートの切れ味が戻っていた。やはり松浦の華奢な体にはまだ1年間フルに戦える体力はなかったのだが、二軍調整がいい夏休みとなったようだ。また、それまではほとんど投げていなかったチェンジアップを効果的に使用して奉天打線を翻弄していた。この球種は二軍投手コーチである盧光重の指導によるものらしい。元々去年覚えた球種だが今年序盤は勢いでどうにかなっていたのであまり投げなかったがそれだけでは壁にぶち当たったので解禁した。そのお陰で緩急も使えるようになり、はつきり進化したと言える。

打撃面で活躍したのは3番の棚橋。今季は3番ショートに固定されておき本人もなかなかの活躍を見せているが、優勝するにはもう一皮剥けてほしいといったところだった。しかし今日は良く打った。先制点の場面である3回表、二死後に大上がセンターを破らんとするゴロを放ち、ショート田辺はよく追いついたものの内野安打となり出塁。そして棚橋は長沢のストレートの前に追い込まれるもそれからうまくカットしてチャンスをつかがう。そして6球目、目先を変えるべく投じられたスライダーを痛打。打球は左中間を真つ二つに割ってフェンスに到達、大上が俊足を飛ばして長駆本塁まで突入した。

6回の第3打席にもレフト前にヒットを放った棚橋。そして2点



目も柵橋の働きによるものであった。8回、奉天の2番手松本伊吹はこの回先頭の大上をサードライナーに打ち取って柵橋と対戦。松本は絶大な変化量を誇るスライダーで知られるがこれはあくまで見せ球、内角を突くシュートでゴロを打たせるのが本来のスタイルである。そのシュートをうまく打ち返した。レフトフェンス直撃の2ベースでチャンスを作ると、4番林が上手くセカンド佐藤の頭上を越えてライト前に落ちるライナー性のヒットを飛ばして柵橋がホームイン。2対0とした。

復活の松浦は7回で降板。8回には幼稚園の頃から同級生だったという平野が、そして9回には昨日屈辱のサヨナラホームランを打たれた比山が雪辱の三者凡退劇を見せて試合終了。対戦成績を1勝1敗とした。

勝敗の別はあれど、ここまでの2試合はロースコアの展開となっている。ここで大事になるのはしっかりと打点を稼いでくれる打者の存在だ。大連は今日、柵橋と林がタイムリーヒットを放ちその点では見事に自分の仕事を果たした。明日はどのような結果になるかは分からないが、明日の結果は今後の展開に与える影響が大きいだけに良い結果をもぎ取ってきてほしい。

#### その他の試合結果

4 1 勝 6 8 敗 9 分	光州	5 - 1	平壤	5 1 勝 6 0 敗 7 分
5 2 勝 5 8 敗 8 分	ハルビン	2 - 2	開城	5 1 勝 6 0 敗 7 分
6 1 勝 5 1 敗 6 分	チチハル	1 - 3	新京	5 8 勝 5 1 敗 9 分

激戦の行方は勝敗お預け

「ホーム」奉天

5 横山

4 佐藤

8 長谷川

7 間口

2 漢

9 市松

3 蔡均森

6 田辺

1 サンタナ

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (2 - 0) - 立石 (1 - 1) - 森茂

6 棚橋 (5 - 3)

9 林 (5 - 2)

5 パウロ (4 - 2)

3 ドラグノフ (2 - 0) - 古池 (1 - 0)

7 アンジエロ (3 - 1)

2 清水 (3 - 1) - 金重男 (1 - 0)

1 張尊 (3 - 0) - 伊東 - 野藤 - 小松原 - 宮畑 (1 - 0) - 比山

大 0 0 0 2 1 0 0 0 1 4 張尊 (5 1

/ 3) - 伊東 (2 / 3) - 野藤 (1) - 小松原 (1) - 比山 (1)

6 3 勝 4 5 敗 1 1 分

奉 0 1 0 0 0 3 0 0 0 4 サンタナ - 片

倉 - 乙部 - 丸茂 - ファン 6 5 勝 4 3 敗 1 1 分

奉天決戦第3戦。ここまで1勝1敗となっているので今日の結果によって1ゲーム差になるか3ゲーム差になるか、勝利と敗北の差は天国と地獄よりも大きくなる。そんな重要な試合における大連の先発はベテランの張尊、奉天は長年手塩にかけて育成してきた秘蔵っ子サンタナである。

先制したのは奉天であつた。2回、4番間口と5番漢が連打で一塁とする。6番市松がセカンドゴロでダブルプレーとなつてしまつたが間口は三塁に到達する。そして7番の蔡均森はスライダーを当てただけの打球だつたがセカンドとライトの間にうまく落ちた。これで1点を加える。今季のファーストを期待されていたベンソンは先日怪我を名目に帰国しており、今季限りでの退団は決定的である。打率は1割台、期待されたホームランも3本に終わるなどその実力はまったく発揮できなかった。しかし蔡の堅実なプレーはその穴を埋める以上のものがある。

大連の逆襲は4回であつた。この回先頭の4番林がライト線に落ちるポテンヒットで出塁すると、パウロがレフト前にヒットを打ち一塁とする。そしてドラグノフはセカンドゴロを名手佐藤がまさかのファンブルで満塁に。ここでアンジェロがサンタナのストレートを振りぬいて左中間げ強烈な打球を飛ばす。抜ければ走者一掃だつたがセンター長谷川がダイビングキャッチ。大連はタッチアップで1点を加えて同点に追いついた。続く清水がスライダーをうまく振りぬき三遊間を抜けるタイムリーヒットで2対1と逆転に成功する。

続く5回も大連の攻勢が続く。先頭の星渡がセンター前ヒット、大上が四球でチャンスを作ると、棚橋のレフト前ヒットで星渡が生還して3対1とさらに差を広げる。なおも一三塁の場面で奉天はサ

ンタナを降板させる。そしてベテラン片倉千比呂を投入。片倉は林をピッチャーライナー、パウロを三振、ドラグノフをライトフライに打ち取って大連の攻撃をシャットアウト。そしてここから奉天が反撃する流れとなる。

6回裏、先頭の横山が四球で出塁。佐藤はサードゴロでアウトになるもランナーは二塁へ。そして迎えた3番長谷川はスライダーを叩いてレフトフェンス直撃のタイムリー2ベースヒット。間口四球一二塁とすると、漢が右中間にタイムリーヒットを放ち同点に追いつく。ワナウトー三塁の局面でピッチャーを伊東に交代。市松はファーストゴロ。ファーストドラグノフは素早くホームへ送球したものの間口のスタートがよく判定はセーフ。3対4と、奉天が試合をひっくり返した。なおもワナウトー二塁だったがここは伊東が踏ん張り、蔡均森をファーストフライ、田辺を三振としてこれ以上の失点は防ぐ。

7回と8回は両チームのリリーフ陣が奮闘した結果、スコアボードには0が4つ並んだ。そして9回、奉天は抑えの切り札ケリー・ファンをマウンドに送った。大連は先頭のピッチャー小松原に代打宮畑を繰り出すが三振。トップに戻って星渡も球威に押されてセカンドフライ。もはや万事休すか、という場面で大上の代打として立石が登場する。このベテランの粘りがドラマを生んだ。立石は2球で追い込まれたがそれ以降ストレートをカット、ボール球を見極めてフルカウントまでこぎつける。そして11球目、低めに来たストレートを見送る。判定はボール。見事な選球眼で一塁に生きた。

立石に代走森茂が送られて次の打者は棚橋。カウント2-1からの3球目、ストレートを打ちあぐねたようなフライだったがショート、レフト、センターの間に落ちる幸運なヒットとなる。そして4番林である。初球のストレートは若干外に外れてボール。そして2

球目、内角に攻めてきたストレートを捕らえる。痛烈なライナーはジャンプしたセカンド佐藤のグラブを掠めてライト前へ。森茂が生還して、ツアアウトツーストライクから4対4の同点となった。9回裏は比山がランナー2人を出したものの肝心な部分はきっちり抑えた。ラストバッター佐藤のバットがフォークの前に空を切った瞬間、引き分けが決まった。

結局1勝1敗1分けとまったくの五分五分に終わった。大連にとっては差を詰めることが出来ず、奉天にとっても大連を突き放すことに失敗した。次の直接対決は10月10日からの4連戦。そしてそれが終わると残りの試合数は5しか残っていないという、まさに最終決戦が控えている。それまでに奉天は差を広げられるか、大連は奉天についていけるかが重要になる。優勝の行方は最後の最後まで決まりそうもない。

#### その他の試合結果

4 2 勝 6 8 敗 9 分	光州	6 - 3	平壤	5 1 勝 6 1 敗 7 分
5 2 勝 5 9 敗 8 分	ハルビン	4 - 7	開城	5 2 勝 6 0 敗 7 分
6 2 勝 5 1 敗 6 分	チチハル	1 1 - 5	新京	5 8 勝 5 2 敗 9 分



63勝46敗11分

奉天との決戦を勝負預かりで終えた大連。来るべき10月決戦に向けて奉天にこれ以上差をつけられないことが重要になってくる。今日から対戦のチチハルは現在3位と厄介な相手だが、ここで退くようなら優勝を手にする資格はないだろう。

チチハルの先発は今季途中に加入したウィリアムス。ピッチングにムラのある投手だが今日は好調。力強いストリートに加えてカツトボールの威力が抜群でバット3本が犠牲になった。逆に大連先発のフローデセンは調子が今ひとつ。変化球でなかなか三振が取れずにピッチングの組み立てが難しかったが、調子が悪くても一定の数字を残すことが出来るのはフローデセンの特性である。

試合は回の表にチチハルの攻撃をフローデセンが何とかしのぎ、回の裏はウィリアムスがあっさり大連打線を抑える、ともに得点は入らずという展開で中盤まで進んだ。先制点はこれまでの流れを反映してチチハル。一死後、万城原がサードの頭上を越えるヒットで出塁すると盗塁も決める。和泉は四球で一二塁とする。3番吉住はライトフライに打ち取ってツーアウトまではこぎつけたものの4番星野徹也にスライダーを左中間のフェンスまで運ばれてしまう。ついに均衡が破れて2点を先制されてしまう。フローデセンは結局5回までで降板するが、今日のピッチングで5回2失点はむしろよくやったほうだと言いたくなるような出来だった。

6回からは黄直哉、伊東、野藤、平野とリリーフ陣を大量に投入した。点を取られたと言ってもまだたったの2点差なので中継ぎ陣に負担がかかるのは必然。劉監督と天沼投手コーチは出来る限り酷使にはならないように気を配っているが、目の前に優勝がちらついてくるとそうは言ってもいられなくなる。特に今日は登板しなかつ

たものの元々1年間怪我をせずにシーズンを送ったことのない小松原や、チーム最多登板の比山などは気をつけないと、ここその場面で戦線離脱となると本人はもちろんチームにとっても痛い。

ウィリアムスは8回までに打たれたヒットは4本で完封待ったなしという勢いだったが、9回一死後に柵橋がストレートを強振したライナー性の打球をレフトスタンドに叩き込んで1点を返す。しかし反撃はここまで、完全にウィリアムスのパワーに屈した試合となった。上ばかり見るのもいいが手間取っているとチチハルに抜かれかねない、その程度の差しかない。今日は幸いにも奉天が敗れたのでゲーム差は広がらなかった。しかし敵は奉天だけではない。そうアピールするようなチチハルの戦いぶりだった。

#### その他の試合結果

6 5 勝 4 4 敗 1 1 分	奉天	3 - 5	ハルビン	5 3 勝 5 9 敗 8 分
5 9 勝 5 2 敗 9 分	新京	6 - 1	平壤	5 1 勝 6 2 敗 7 分
5 3 勝 6 0 敗 7 分	開城	5 - 0	光州	4 2 勝 6 9 敗 9 分



赤坂今日も勝った つながる打線

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

4 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (3 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 0)

7 アンジェロ (4 - 1)

3 古池 (3 - 0)

2 金重男 (3 - 0)

1 赤坂 (3 - 0) - 小松原 - 比山

「ビジター」チチハル

6 万城原

8 和泉

9 吉住

3 星野

7 折口

5 王源君

4 楚明英

2 李秀一

1 薮花

斉 0 0 0 0 0 0 1 0 0 1  
 - 片岡 6 3 勝 5 2 敗 6 分  
 薮花 - 国松

大 0 0 0 0 3 0 0 0 0 3  
 - 小松原 (1) - S 比山 (1) 6 4 勝 4 6 敗 1 1 分  
 赤坂 (7)

昨日は残念な負け方をしてしまった大連。今日の先発投手は赤坂。前回の登板では素晴らしいピッチングを見せて、もはやルーキーだからどうというレベルを超越した感がある。この好調は今日も続いており、新人王当確かと思わせる力強いピッチングを披露した。対するチチハルの薮花もなかなかのピッチングを見せたが役者が違った。野手では、大連のスタメンから柳中平が外れたが、右手小指の骨折が原因だと判明した。おそらく当分は試合に出られそうになくマイナスは避けられないが古池やドラグノフらでどうにか盛り立てていってほしい。

試合は序盤から大連が押せ押せムード。1回に星渡がサード内野安打、大上はショートゴロでランナー入れ替わり、棚橋レフト前ヒット、林四球でワンナウト満塁となった。パウロは痛烈なセンター返しのライナーを打ったが薮花が見事にキャッチ、飛び出していた大上を刺してダブルプレーとしてピンチを切り抜けた。大連が攻勢をかけるも何とか踏ん張るといふ展開は、しかしいつまでも続くものではなかった。

5回、先頭の赤坂は三振も続く星渡が四球を選んで出塁。盗塁を仕掛けたがここでキャッチャー李秀一が悪送球でランナーは三塁へ。大上は薮花のスライダーに逆らわないバッティングで三遊間を抜ける先制のタイムリーヒットを放った。ここでようやく均衡が崩れる。棚橋はレフトフライでツーアウトとなったが、4番林が2-1からカウントを整えるために投げたスライダーを捕らえてライトスタンドへ2ランホームランを放った。これでこの回3点。一気に主導権を握った。

赤坂はもはや何も心配することはない、そう感じさせる力強いピッチングを見せて今季9勝目。目標となる2桁勝利はもはや眼前に迫っている。7回にはついさっきまで大連に所属していた折口に夕

イムリーヒットを打たれたが失点はそれだけ。7回を1失点にまとめ、8回は小松原、9回は比山で磐石の投手リレーで逃げ切った。

今日は星渡、大上、棚橋といった上位打線につながりがあった。これがうまくいかないと昨日のように点を取れずにピッチャーを見殺しという結果になってしまふ。これから1週間以上連戦が続きピッチャーの疲労はさらに高まる。そういう時には打撃でピッチャーを助けるぐらいの試合があってもいい。

その他の試合結果

6 6 勝 4 4 敗 1 1 分	奉天	9 - 1	ハルビン	5 3 勝 6 0 敗 8 分
5 9 勝 5 2 敗 1 0 分	新京	3 - 3	平壤	5 1 勝 6 2 敗 8 分
5 4 勝 6 0 敗 7 分	開城	8 - 5	光州	4 2 勝 7 0 敗 9 分

大逆転 燃える闘志の結実

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 2)

4 大上 (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 1) - 森茂

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1)

3 ドラグノフ (2 - 0) - 古池 (1 - 1)

2 金重男 (3 - 2)

1 池田 - 黄直哉 - 宮畑 (1 - 0) - 趙雅憲 - フェリックス (0 - 0)

- 石風呂 (1 - 0) - 野藤 - 立石 (1 - 0) - 比山

「ビジター」チチハル

6 万城原

8 和泉

9 吉住

3 星野

7 折口

5 本田

4 楚明英

2 李秀一

1 小早川

斉 3 2 0 0 0 0 0 0 0 5 小早川 - ハン

セン - 長谷部 - 高麗 6 3 勝 5 3 敗 6 分

大 0 1 0 0 2 2 0 1 1 - 6 池田 (1 2

/ 3) - 黄直哉 (1 / 3) - 趙雅憲 (3) - 石風呂 (2) - 野藤

(1) - S比山(1) 65勝46敗11分

チチハルとの3戦目、大連の先発は今季途中までそのチチハルに在籍していた池田武治。そしてチチハルはベテラン小早川守が調整を終えて帰ってきた。経験に裏打ちされた投球術でのらりくらりと相手打者をかわしてきた小早川だがもう42歳になり、そろそろ体力的に厳しくなってきた様子。今日のように5回をめどに降板するのが基本スタイルとなっている。

試合は序盤、チチハル打線が池田を攻略して済州島シリーズのかりを返す。初回、万城原、和泉と連打で一三塁として、3番吉住がタイムリーヒットをライト前に放ちあっさりと先制。4番星野は三振、5番折口はセンターフライの間にタッチアップ成功でツーアウトとなり2点目。続く本田に四球はもったいなかった。これで一二塁として楚明英のライト前ヒットによる3点目を誘発してしまった。

さらに2回、一死後から万城原四球、和泉ヒットで一三塁とする。続く吉住はショートゴロに打ち取ったかに見えたが柵橋が弾いてしまい満塁に。そして星野に四球を与えてしまい、押し出でてチチハル4点目。今日の池田はコントロールがおかしかった。折口はサードゴロ本塁封殺でツーアウトとするも、本田に対してまたも押し出し四球を与えてしまう。これで劉監督は池田を諦めて黄直哉を投入。黄は李秀一を三振に打ち取ってワンポイントリリーの役目を果たした。

ここまでで0対5と早くも試合が決まったかに見えた。しかし大連ナインにあきらめという文字はなかった。直後の2回裏から反撃を始める。まず、この回先頭の林がライトフェンス直撃の2ベースで出塁する。パウロ三振、アンジェロレフトフライでツーアウトになるも、ドラグノフ四球で一三塁。そして金重男は小早川のスライ

ダーを強引に叩いてレフト前まで持つていくタイムリーヒットを放った。

3回から登板した大連の3番手趙雅憲が3回を無失点に抑えるナイスリリーフを見せる。これがチチハルの勢いを止めて、流れを大連に引き寄せてくれた。5回裏、趙の代打フェリックスはショートゴロも万城原の送球ミスのお陰で生きる。トップに戻って星渡がセンター前ヒット、大上が送りバントでワンナウト二三塁。棚橋は浅いレフトフライでランナー自重。そして林が一塁線を抜ける強烈な打球を放つ。星野の横っ飛びも届かず、フェリックスと星渡が還つて3対5と追い上げる。

6回にはセンター前ヒットで出塁したアンジェロを一塁に置いて、キャッチャーの金重男がチチハルの2番手ハンセンが投じたカットボールを振りぬいてレフトスタンドに同点の第3号ホームランを放った。こうなると俄然大連ペース。7回は一死後に棚橋がレフトオーバーの2ベースでチャンスを作ると、林三振後パウロのライト前ヒットで一気にホームを狙うがこれは吉住の好返球に阻まれて得点ならず。棚橋はこのプレーで退場となったが、後1点をという執念は次回に結実する。

8回、一死後に登場した代打古池がチチハル4番手高麗の力強いストレートをパワーで弾き返してセンターオーバーの2ベースヒット。今日2安打の金重男は四球で一二塁。ここで代打の切り札立石が登場。しかし高麗の球威が勝りセンターフライに倒れる。しかしまだ終わらない。トップに戻って星渡がフルカウントからのストリートを叩きつけるとサード本田の頭上を越えてレフトへ。古池がホームに突入してついに6対5と逆転に成功した。最後は比山が4人で締めて、大連は激戦の末に貴重な勝利を手にした。チチハルは2回以降攻め切れなかった。

その他の試合結果

6 6 勝 4 5 敗 1 1 分	奉天	0 - 3	ハルビン	5 4 勝 6 0 敗 8 分
6 0 勝 5 2 敗 1 0 分	新京	4 - 0	平壤	5 1 勝 6 3 敗 8 分
5 4 勝 6 1 敗 7 分	開城	2 - 9	光州	4 3 勝 7 0 敗 9 分

現状の差 ビジョンの差

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 2)

4 大上 (3 - 1) - 森茂 (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (3 - 1) - 水内

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 2)

3 ドラグノフ (4 - 0) - 1 平野

2 清水 (3 - 1)

1 吉野 (2 - 1) - 王貞成 - 古池 (1 - 1) - 3

「ビジター」光州

8 吉田

6 真野

7 朴芳一

9 小金井

3 佐藤

5 久保岡

4 白知秋

2 山村

1 裴尊仁

光	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	裴尊仁 - ラ				
スター	-	李敏登	-	山下	-	河原林	4	3	勝	7	1	敗	9	分	
大	1	0	3	0	1	1	0	1	-	7	吉野 (6)				
-	王貞成 (2)	-	平野 (1)				6	6	勝	4	6	敗	1	1	分



首位を狙う大連と最下位独走の光州。先発は大連がエース吉野、光州は谷間の先発である裴尊仁。もはやこの時点で見えていたようなものだが、案の定の結果となった。1敗どころか1分も惜しい大連としては連戦の疲れなど見せている暇はない。

試合は初回、一死後に大上が流し打ちでライト前へ落とすヒットで出塁。棚橋四球で一二塁として林が左中間にタイムリーヒットを打って1点を先制する。その直後、2回表に光州の4番小金井が吉野のストレートを捕らえてライトスタンドに同点ホームランを打ち込んだ。小金井は実に26打席ぶりのヒットとなった。今季は打率が.271と例年に比べて低迷しているが、カンファレンス2位の24本塁打を放っているパワーはさすがで、やはり4番として頼れる存在だ。しかし光州はそれ以降が続かない。その間に大連が猛攻をかける。

3回、先頭の星渡が三遊間を破るヒットで出塁と盗塁で二塁に進む。大上のセカンドゴロで三塁まで進むと、棚橋のレフト前ヒットで悠悠生還する。林はセンターフライに倒れてツーアウトとなったが、パウロがカーブを捕らえてレフトスタンドにパワフルなライナーを叩き込んだ。これでこの回3点目。4対1と突き放した。

5回、一死後に棚橋がショート内野安打で出塁。林四球、パウロセカンドゴロで二塁封殺となりツーアウト一三塁。そしてアンジェロがレフト前ヒットで5点目を加える。6回、先頭の清水が四球で出塁すると吉野の送りバントで二塁に進む。トップに戻って星渡がセーフティーバントを決めて一三塁。そして大上のセンターフライで清水が6点目のホームを踏んだ。また、吉野はこの回で降板。これから吉野は先発の機会が多くなるローテーションを組まれるのでこのような試合で無駄に投げることはない。

7回からは今日斎場と入れ替わりで一軍に戻ってきた王貞成が登板。8回に朴芳一からタイムリーヒットを打たれて2回1失点となった。その裏、大連は一死後に清水がライト前ヒットで出塁すると、王の代打古池が右中間を破るタイムリー2ベースを放ちとどめの7点目を入れる。9回には平野が登板。3人で抑えて試合終了。光州をまったく問題にしない勝利だった。光州は今日打点を上げたのが小金井、朴というベテランだった。彼らの頑張りはあっぱれだが、若手中堅選手が出てこないのは問題だ。島田正二代理監督は吉田春樹、佐藤皆雄など若手を起用しているが彼らが今後どこまで伸びてくるか。現状はベテラン頼みから当分脱却できそうにない。

#### その他の試合結果

6 7 勝 4 5 敗 1 1 分	奉天	3 - 1	開城	5 4 勝 6 2 敗 7 分
5 5 勝 6 0 敗 8 分	ハルビン	2 - 1	新京	6 0 勝 5 3 敗 1 0 分
5 1 勝 6 4 敗 8 分	平壤	1 - 8	千手ハル	6 4 勝 5 3 敗 6 分

秋雲たなびく空に勝利の風 首位に並ぶ

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (3 - 0) - 古池 (1 - 0) - 3

3 ドラグノフ (3 - 0) - 5

6 フェリックス (3 - 1) - 森茂 (1 - 1)

2 清水 (4 - 1)

1 松浦 (3 - 1) - 譚秋雲

「ビジター」光州

8 吉田

6 真野

7 朴芳一

9 小金井

3 佐藤

5 久保岡

4 白知秋

2 山村

1 奥森

光 0 0 0 0 0 0 0 0  
 勝 7 2 敗 9 分  
 奥森 4 3

大 0 0 3 0 1 0 0 1 0 0  
 - 譚秋雲 (1) 6 7 勝 4 6 敗 1 1 分  
 松浦 (8) 5

大連の先発は松浦、光州の先発は奥森という若い2人の対決。勝敗を分けたのはチーム状況であった。好投してもバツクがそれに応えてくれないと結局は点を取られて敗れてしまうものだ。最下位を独走する光州のモチベーションは低く、特に打線のつながりの悪さが勝利をより遠いものにしてている。

さて、大連の打線を見てみると、棚橋が休養でその代わりにプロ初スタメンとなるフェリックスが入っている。技術的な面ではまだまだ未熟だが肩などの身体能力は驚異的で、うまく成長すれば凄まじい内野手となりうる素質を秘めている。アンジェロ、パウロ、ドラグノフ、フェリックスとカタカナの多いスコアボードである。これで先発がフローデセンならさらに凄かったが、それは未来に期待するとしよう。

試合は初回ともに三者凡退という幕開け。松浦は切れ味抜群のストレートが冴え、奥森もコントロール良くコーナー一杯を突く自分のピッチングができていた。これは投手戦かと思われたが2回に失策をきっかけにそのムードが変化する。

2回裏の一死後、パウロが奥森のカーブにタイミングを狂わせられながらも強引に叩いた打球をサード久保岡がファンブル。エラーが記録される。続くドラグノフに対しては四球で一二塁。フェリックスはレフトファールフライでツーアウトとなったが清水のレフト前ヒットで満塁となる。ここでピッチャー松浦がカウント1-1から投じられたストレートを痛打し、センター吉田の頭を越す走者一掃のタイムリー2ベース。吉田もまさか打つとは思っていなかったようだ。松浦は今季ここまで2安打。自分でも打撃は苦手と認める男が投手戦の流れを崩す決定的な一打を放った。

これでさらに松浦は乗った。清水の要点を抑えたリードも冴えて

光州打線を寄せ付けずスコアボードに0の山を築いた。8回を被安打4四死球1奪三振7で7勝目を上げる。9回には今季初登板となる21歳の譚秋雲を送り出した。譚は2人のランナーを出したものの無失点に抑えた。ラストバッターとなった久保岡はサードゴロ。この回からサードに回ったドラグノフが代打からファーストの守備に就いた古池に送球してアウトを奪い勝利を決めた。

なお、打線は5回一死後に星渡、大上の連打から林のライト前夜イムリーヒットで1点、7回にアンジェロのソロホームランで1点を加えたので合計のスコアは5対0だった。奉天は開城に敗れたためついに同率首位となった。67勝46敗11分から残り26試合、どのように展開するのか。狙うはもちろん優勝のみ。

#### その他の試合結果

67勝46敗11分	奉天	2 - 7	開城	55勝62敗7分
55勝60敗9分	ハルビン	2 - 2	新京	60勝53敗11分
51勝65敗8分	平壤	3 - 6	チチハル	65勝53敗6分

取りこぼしも 単独首位浮上

「ホーム」大連

8 星渡(4-1)

4 大上(4-1) - 古池(1-1)

6 棚橋(4-2) - 森茂(1-0)

9 林(3-1)

5 パウロ(4-1)

7 アンジエロ(4-2)

3 ドラグノフ(4-1)

2 清水(3-1)

1 張尊(1-0) - 宮畑(1-0) - 野藤 - 平野 - 黄直哉 - 立石(

0-0) - 小松原

「ビジター」光州

8 吉田

6 真野

7 朴芳一

9 小金井

3 佐藤

5 久保岡

4 白知秋

2 山村

1 スミス

光 0 0 2 0 0 0 1 0 3 スミス - 宮内

- 河原林 - 戸田垣 4 3 勝 7 2 敗 1 0 分

大 0 0 0 0 1 2 0 0 0 3 張尊(6) -

野藤(1) - 平野(1/3) - 黄直哉(2/3) - 小松原(1)

67勝46敗12分

今日は棚橋が先発に復帰。日曜日に気迫と引き替えに負った傷は未だに癒えてはいないがこのような重要な時期に泣き言を言っただけではない。それにまだポジションを掴んで1年も活躍していない。このチャンスを手放してはならないと出場を直訴したと言う。その棚橋が初回、ライト前ヒットで出塁した大上を一塁に置いた打席でレフト線に引っ張って一三塁のチャンスを作った。結局得点にはならなかったもののガッツを見せた。

しかし先制点は光州。3回、二死後から吉田がライト前ヒット、真野が四球でランナーをためると、3番朴芳一がセンター前にタイムリーヒットで1点。さらに小金井がライト線に落ちるヒットでもう1点の合計2点をこの回に加えた。やはり頼れるのはベテランであるが、お膳立てをしたのは光州の若手である。少しずつではあるが確かに成長しているのだ。なぜか翌年にはリセットされていたりするが。

5回には大連が反撃を開始する。先頭の清水がレフト前ヒットで出塁し、張の送りバントで二塁へ。トップに戻って星渡がスミスの小さく変化するストレットを振り抜きセンター前へ弾き返す。キャッチャーには俊足の清水が一気にホームインで1点。6回にはレフト前ヒットで出塁のパウロを一塁に置いて、アンジェロがカットボールを捕らえてレフトスタンドに逆転のホームランを放ちスミスをノックアウト。この回に代打を出されて張は降板。後はリリーフ陣で逃げ切りと行きたかったがそうはいかなかった。

7回の野藤はうまく抑えたが8回に登板の平野が誤算。先頭の朴芳一はライトフライに打ち取るも4番小金井が左打者から見ると逃げていくようなスライダーを捕らえてライトオーバールの3ベースヒ

ツトでチャンスを作る。そして佐藤皆雄には初球のストレートを叩かれてレフト前タイムリーヒットを浴びてしまう。ここで平野は降板。代わってマウンドに立った黄直哉が久保岡を三振、代打勝田をセカンドゴロに抑えてこれ以上の被害は抑えたものの、左殺しが左に打たれては世話がない。9回はともに投手が踏ん張って結局3対3で終了した。

引き分け。本来は一切取りこぼしてはならない相手だったが、負けなかつただけでも儲けものだったのかも知れない。奉天が負けたので単独首位に立ったからだ。しかしまだ途中。しかも10月の奉天との直接対決がまだ残っている。しかもこれからは対戦相手も首位が相手ということで目の色を変えて襲ってくるだろう。ここからが本当に苦しい時期のスタートとなるのだ。

#### その他の試合結果

6 7 勝 4 7 敗 1 1 分	奉天	1 - 5	開城	5 6 勝 6 2 敗 7 分
5 5 勝 6 1 敗 9 分	ハルビン	3 - 6	新京	6 1 勝 5 3 敗 1 1 分
5 2 勝 6 5 敗 8 分	平壤	5 - 0	チチハル	6 5 勝 5 4 敗 6 分



取りこぼしも 単独首位浮上(後書き)

今週からアニマックスでセーラーモーンS始まったからのんきにも  
それを見ながら投稿。お、はるか出てきた。みちるも。

逆転 負けられない戦いの渦へ

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

4 大上 (2 - 0)

6 棚橋 (4 - 1) - 森茂

9 林 (4 - 2) - 5 ドラゲノフ

5 パウロ (4 - 0) - 1 小松原 - 比山

7 アンジエロ (3 - 1)

3 古池 (4 - 1)

2 金重男 (3 - 1) - 清水 (1 - 0)

1 フローデセン (2 - 0) - 王貞成 - 宮畑 (1 - 1) - 9

「ビジター」光州

8 吉田

6 真野

7 朴芳一

9 小金井

3 佐藤

5 久保岡

4 白知秋

2 山村

1 坪倉

光	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	坪倉 - ラス
ター	- 大越	- 宮内	4	3	勝	7	3	敗	1	0	分	
大	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	5	フローデセン
(5)	- 王貞成	(2)	- 小松原	(1)	- S	比山	(1)	- 6	8	勝	4	
6	敗	1	2	分								

光州との4連戦はようやく今日で終わり。次はチチハルと対戦だが、これでチチハルとは最後の戦いとなる。もうそんな季節に入ったのだ。そして首位を死守するためにもこの光州との戦いは絶対に落とせない。先発は大連がフローデセン、光州は坪倉。坪倉は開幕一軍のローテーションに抜擢されたが力が足りず一度二軍に落ちた。そこで調整することによって安定感が増した印象がある。今日もなかなか良いピッチングだった。

先制は光州。初回、先頭打者の吉田が積極的にスイングしていき3球目のカットボールを振りぬくとライトスタンド最前列に飛び込むホームランとなった。大連は慌てず2回に反撃。二死後にアンジエロがサードの頭上を越してレフト線に落ちるライナーを放って二塁まで進む。そして今日はスタメンの古池がレフト前に落ちるヒットでアンジエロが生還し、同点に追いついた。柳中平がレギュラーシーズン絶望の負傷をしてしまったがドラグノフと古池はともに良い選手で今のところはそこまで大きな穴とはなっていない。

さらに3回、これまた二死後に大上が四球を選んで出塁。1球で盗塁を決めて、2球目で柵橋がライト前への流し打ちが決まり逆転のホームを踏んだ。大上を2番に置くことでこのような電光石火の一撃がよく決まるようになった。

しかし今日は光州も粘る。5回、先頭の白知秋がセカンドへの内野安打で出塁。山村は四球、坪倉は送りバントでワンナウト二三塁のチャンスを作ると。先制点の吉田は浅いセンターフライでタッチアップとは行かなかったが、真野がライト線に引っ張る2ベースヒットを決めて2対3と逆転する。朴、小金井といったベテランに頼らずとも得点を入れられる姿を見せた。フローデセンはこの5回限りで降板。しかしその後登場したりリリーフ陣が奮闘したので光州

はここまでだった。

そして大連の逆転劇が幕を開ける。7回、先頭の金重男がレフト前ヒットで出塁して代走清水が送られる。ピッチャー王貞成の代打宮畑がセンター前に打ち返して一二塁としたところで光州は坪倉を諦めてラスターを出す。しかしラスターのコントロールが悪く連続四球で押し出しの1点が入ったところですぐ降板を命じられる。続く大越は棚橋をファーストゴロに打ち取って本塁と一塁のダブルプレーを成立させるも、林にライト前ヒットを浴びて2失点。結局2対3から5対3と逆転。

8回から大連は代打宮畑をライトへ、ライト林はドラグノフと交代してドラグノフはサードへ、サードパウロはピッチャー小松原と交代して小松原がマウンドに立つ、さらにショート棚橋に代えて森茂という守備位置変更を行った。そして9回は比山がきつちりと締めて勝利。光州との4連戦は3勝1分に終わった。しかも今や首位大事なのはこれをどうキープしていくかなのでこれからの戦いは要注目。

#### その他の試合結果

6 8 勝 4 7 敗 1 1 分	奉天	9 - 4	開城	5 6 勝 6 3 敗 7 分
5 5 勝 6 2 敗 9 分	ハルビン	5 - 6	新京	6 2 勝 5 3 敗 1 1 分
5 2 勝 6 6 敗 8 分	平壤	2 - 3	チチハル	6 6 勝 5 4 敗 6 分

秋分の戦い 力を見せたチチハル

「ホーム」チチハル

6 万城原

8 和泉

9 吉住

3 星野

7 折口

5 丸木

4 楚明英

2 李秀一

1 リー

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 2)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (4 - 0)

7 アンジェロ (4 - 0)

3 古池 (3 - 1) - ドラゴノフ (1 - 0)

2 金重男 (2 - 0) - 清水 (1 - 0)

1 赤坂 (2 - 0) - 平野 - 伊東 - 立石 (1 - 0) - 野藤

大 1 0 0 0 0 0 2 0 3 赤坂 (5)

- 平野 (1) - 伊東 (1) - 野藤 (1) 6 8 勝 4 7 敗 1 2 分

斉 0 0 0 0 3 1 0 0 - 4 リー - 朴幸

久 - S 通 6 7 勝 5 4 敗 6 分

先週やったばかりなのにまたもチチハルと対戦。そしてこの3連戦がチチハルとの今季最終カードとなる。チチハルは現在3位でプレーオフ進出も十分射程距離に入っている成績である。そして今日の先発投手はエースのリッチ・リー。球威、コントロール、タフさなど投手として必要な要素をすべて兼ね備えた投手でチームを支えている。また、今日からサードに丸木が復帰し、より万全なチーム状態となった。大連は赤坂が先発。

試合はまず大連が見せ場を作る。初回、先頭打者の星渡が第1球のストリートを振りぬいてライトフェンス直撃の3ベースヒットでチャンスを作る。リー得意の威力あるボールに押されて大上はセカンドフライ、柵橋はピッチャーゴロに倒れたが、4番林が一二塁間をうまく抜くヒットで先制点を挙げた。しかしその後はリーのパワーが出てなかなか追加点を奪えなかった。

リーのパワーピッチングで流れを寄せたチチハルが本格的に反撃を開始したのは5回。先頭の楚明英がライト前ヒットで出塁。李秀一はレフトフライも、ピッチャーのリーがレフト前に鋭いライナーを飛ばして一二塁とする。トップに戻って万城原がライト前ヒットで楚がホームインし同点。さらに和泉四球で満塁とする。赤坂は吉住を三振に切ったものの4番星野に三遊間をしぶとく抜かれてランナー2人がホームイン。1対3と逆転される。

6回、大連は先頭の大上が四球で出塁。柵橋は三振も林のセンター前ヒットで一三塁とした。ここでパウロがリーのカットボールを叩いて三塁線に痛烈なライナーを放つも、チチハルのサード丸木がジャンプしてキャッチ。そのままサードベースを踏み、飛び出していた大上は戻れずダブルプレーとなってしまった。逆転直後の反撃がこう潰れては勝てるものも勝てない。その裏に丸木は試合を決めるホームランを放ち復帰をアピールした。赤坂はこの回にワンナウ

トも取れずに降板した。

大連は8回にようやく反撃。一死後に星渡がショート内野安打で出塁。大上のショートゴロでランナー入れ替わり。そして3番の今日ここまでノーヒットだった棚橋が意地を見せた。初球のストレートの見逃し、2球目のカットボールはファールですぐ追い込まれたが、3球目の外角低めへのストレートを振りぬき、レフトスタンドへ希望を残す2ランホームランを放った。しかし後1点届かなかった。林はワンポイントリリーフで登板の朴幸久の前に三振。そして9回はストッパー通順平の前に三者凡退となりゲームセット。

今日は丸木復活の引き立て役となった大連。幸いにも奉天も敗れたためまだ首位はキープしているが、今日のような試合をしているとその内順位は降下していくだろう。少なくとも今日はチチハルのほうが1戦にかける集中力が上だった。首位といってもそれはいわば砂上の楼閣に過ぎず、今にも壊れてしまうような不安定な代物である。どこまで守りきれぬのか。

#### その他の試合結果

6 3 勝 5 3 敗 1 1 分	新京	4 - 2	奉天	6 8 勝 4 8 敗 1 1 分
4 3 勝 7 4 敗 1 0 分	光州	3 - 5	開城	5 7 勝 6 3 敗 7 分
5 2 勝 6 6 敗 9 分	平壤	1 - 1	ハルビン	5 5 勝 6 2 敗 1 0 分

池田また勝つ チームの救世主だ

「ホーム」チチハル

6 万城原

8 和泉

9 吉住

3 星野

7 折口

5 丸木

4 楚明英

2 李秀一

1 ウィリアムス

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 1)

4 大上 (4 - 2)

7 アンジェロ (5 - 1)

9 林 (2 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

3 古池 (4 - 1)

6 森茂 (2 - 0) - フェリックス (1 - 0)

2 清水 (4 - 1)

1 池田 (3 - 0) - 小松原 - 平野 - 黄直哉 - 河剛紀 (1 - 0) - 比山

大 0 0 2 0 2 0 0 0 0 4 池田 (6)

- 小松原 (1) - 平野 (2 / 3) - 黄直哉 (1 / 3) - S比山 (1)

6 9 勝 4 7 敗 1 2 分

斉 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 2 ウィリアム

ス - ハンセン - 長谷部 6 7 勝 5 5 敗 6 分



大連今日の先発は池田。前回の登板では今日と同じチチハル相手に炎上したがさすがに修正してきた。前回打たれた原因は自身の不調に加えて、スライダー重視のリードを読まれた事もある。今日はスライダーだけでなくシュートも効果的に使用してゴロを打たせるピッチングを見せた。

先制点は大連。3回、この回先頭の清水がチチハル先発メルビン・ウィリアムスの初球であるやや内角に入ったスライダーをいきなり痛打。打球はレフトスタンド最前列に飛び込むホームランとなった。伏兵の一撃で先行すると、一死後に星渡のサード内野安打と大上の四球で一二塁とする。続くアンジェロのレフト前ヒットで星渡が生還して2点目を奪う。この2点で大連は勝利の流れを掴んだ。

続いては5回、一死後に大上が右中間への2ベースヒットでチャンスを作る。アンジェロは三振も林が四球で一二塁。そしてパウロがウィリアムスのストレートをパワーで弾き返すセンター前ヒットで大上がホームインで3点目。さらに勝負強さに定評がある古池もレフト前に落として4点目を加えた。

池田は6回、ツアアウト二塁からトレード相手である折口元文にライト前へのタイムリーヒットを浴びて1点取られたが今日の失点はそれだけ。一軍に昇格してからの約1ヶ月で今日を含めて4勝1敗とまさに救世主的な活躍を見せている。7回以降は継投策。9回は比山がチチハルの4番星野徹也にストレートを腕力でライトスタンドまで運ばれる。さらに折口、李秀一の代打倉田慎矢にもヒットを打たれるが、最後は長谷部の代打張万をフォークで三振に仕留めて勝利。首位を守った。

今日も棚橋はベンチだった。傷はまだ癒えていないので騙し騙し

の起用になるのは仕方がない。しかしこの棚橋、今年1年で未完の大器から主力選手となったのは見事である。去年シヨートを主に守っていたのは現在負傷離脱中のノリーであるが、先日このノリーについて今季限りで戦力外と一部で報道された。真相は不明だが今季の成績や年齢を考慮すると十分にあり得る話である。こういった話が出てくるあたりにもシーズンはもう終盤なんだと感じさせる。

#### その他の試合結果

6 3 勝 5 4 敗 1 1 分	新京	1 - 3	奉天	6 9 勝 4 8 敗 1 1 分
4 3 勝 7 5 敗 1 0 分	光州	2 - 9	開城	5 8 勝 6 3 敗 7 分
5 2 勝 6 7 敗 9 分	平壤	3 - 7	ハルビン	5 6 勝 6 2 敗 1 0 分

エース不覚 禁断の敗北劇

「ホーム」チチハル

6 万城原

8 和泉

9 吉住

3 星野

7 折口

5 丸木

4 楚明英

2 李秀一

1 寺沼

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (3 - 0) - フェリックス (1 - 0)

9 林 (2 - 0)

5 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 0)

3 古池 (3 - 0) - ドラゴノフ (1 - 0)

2 清水 (3 - 1) - 金重男 (1 - 0)

1 吉野 (3 - 1) - 野藤 - 立石 (1 - 0)

大 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 1 吉野 (7)

- 野藤 (1) 6 9 勝 4 8 敗 1 2 分

斉 1 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0 寺沼 - 長谷

部 - 高麗 - S 通 6 8 勝 5 5 敗 6 分

第3戦、そしてチチハルとの今季レギュラーシーズンにおける最終戦である。大連の先発は月曜日に登板したエース吉野。劉監督はこれからは吉野中心のローテーションを組むと明言しており、今日もその一環である。一方チチハルの先発は、なんと18歳高卒ルーキーの寺沼芳之。エース吉野相手なので高監督は勝負を捨てたのかとさえ思ったが何の何の、この寺沼が素晴らしいピッチングを披露して、拳句の果てには吉野に投げ勝って見せたのだから分からない。

寺沼の最高球速は147キロだった。まだ体つきは華奢だが腕の振りが柔らかく、スーッと糸を引くような綺麗なストレートを投げる。変化球はスライダーとチェンジアップを主に使用して、他にはフォークやカーブも投げるらしい。コントロールは多少荒れる部分はあるものの試合を壊すほどではなく、適度な荒れ球となって打者にとっては打ちづらくなっている。

大連打線を6回を被安打5四死球3の失点1に抑えた。その失点シーンは4回、先頭のエを四球で歩かせ、パウロにストレートを引っ張られてレフト前ヒットで一二塁とされる。アンジェロはストレートを打ち損じさせてのファーストゴロで二塁封殺もダブルプレーはならず。古池はサードフライでツーアウトとしたものの、キャッチャー清水に外角へのスライダーを読まれてライト前に流し打ちされてエがホームイン。しかしそれ以外の場面は危なげなく抑えていた。偶然が重なった結果抑えられたという雰囲気ではなく、見ていて安心できるピッチングだった。

チチハルは初回、一死後に和泉康之が吉野のスライダーをレフトスタンドに運んだ。これは本来もつと外角に投げるはずが中央に寄ってしまったもので明らかに吉野のコントロールミスだった。さらに3回、この回先頭の李秀一が左中間を破りフェンスに直撃する爆発的なライナーを放ち早速二塁へ。寺沼は送りバントを試みたが失

敗も、トップに戻って万城原のファーストゴロで三塁まで進める。そしてまたも和泉が吉野を打つ。初球のストレートをいきなり強振して打球は一二塁間を破るタイムリーヒットとなった。この2点を守りきった。

大連としては、まさかエースが高卒ルーキー相手に試合を落とすとは思わなかっただろう。奉天は今日引き分けたため69勝48敗12分で並んだ。この場合今年の順位が適用されて奉天が首位となる。地域ごとに行われるシリーズにおいては下位が優先されるがこれはあくまで例外。年間順位が並んだ場合は前年の順位が高いほうが上となる。今年の順位が4位の大連が奉天の連覇を止めるには並んだだけでは駄目で、明確な差をつける必要がある。やはり直接対決で叩くしかないのか。

また本日、大連市内の球団事務所ですカウト会議が開かれ、シーズン終了後に開催されるドラフト会議の上位指名候補が約60人に絞られた。鹿取奉善ゼネラルマネージャーによると、今年は即戦力となりうるバッテリーの補強をメインに行う方針という。投手では糸松高・関内将希、堀井自動車・中村平ら、捕手では吉林産業大・周海健、大都大・丸本公淳らがリストアップされた。

#### その他の試合結果

63勝54敗12分	新京	4 - 4	奉天	69勝48敗12分
43勝76敗10分	光州	1 - 6	開城	59勝63敗7分
53勝67敗9分	平壤	5 - 4	ハルビン	56勝63敗10分

松浦完全復活 強敵新京に勝利

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 1)

4 大上 (4 - 1)

6 棚橋 (4 - 3)

9 林 (2 - 1)

5 パウロ (3 - 2)

7 アンジエロ (4 - 1) - 水内

3 ドラグノフ (4 - 1)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 松浦 (3 - 0) - 王貞成 - 河剛紀 (1 - 0) - 伊東

「ビジター」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 久保田

新	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	久保田 - 宗
源良 - 中村 - 水岡	6	3	勝	5	5	敗	1	2	分				
大	0	2	0	1	3	0	0	0	0	-	6	松浦 (7)	
- 王貞成 (1) - 伊東 (1)	7	0	勝	4	8	敗	1	2	分				

今週の6試合が終わったところで成績をまとめるため、ひとつの区切りとなる。大連がまず対戦するのは現在4位の新京。プレーオフ進出のためにはもう負けられないと気合が入っている。しかし負けられないのは大連も同じ。先発投手は大連が松浦、新京は久保田徹である。久保田はストレーターの威力がなかなかあるがコントロールがなかなか安定しないので一軍に定着しきれない。今日も早々とノックアウトしてしまった。

2回、林がストレーターの四球で出塁すると、パウロは内角中央のストレートをレフトスタンドへ放り込んで先制点を挙げる。パワー抜群のパウロに対して安易すぎるピッチングだった。パウロはこれで今季20本目のホームラン。タイトルには少し厳しいが、ボールが飛ばなくなつたと言われる今季においては貴重な得点源として機能している。その直後の3回表、お返しとばかりにボンズがライトスタンドに技ありのホームランで1点差とする。サードを守る外国人の一発で試合序盤は盛り上がった。そしてここで新京の見せ場は終了し、中盤は大連オンステージとなる。

4回、先頭のパウロがスライダーを捕らえて右中間を破る3ベースヒットでいきなり追加点のチャンスを作る。アンジェロはカーブを打ち損じてセカンドフライに倒れるも、本日はスタメンに入ったドラグノフがショート横を抜けるタイムリーヒットを放ち3点目。

そして5回、星渡がライト前、大上がセンター前、棚橋がレフト前にヒットを放ち満塁とする。林はライトフライで星渡が生還。今日2安打のパウロは四球でまたも満塁とする。ここで新京安部監督はようやく久保田を諦めて2番手として宗源良を繰り出す。しかしアンジェロに対する2球目が暴投となつてしまい大上がホームイン。さらにアンジェロはレフト前ヒットを放ち棚橋もホームイン。この回3点を加えて6対1と一気に勝負がついた。

松浦はボンスに一発打たれたものの、全体的には伸びやかなストリートが低く決まるナイスピッチングだった。一度二軍に落ちたことで自分のピッチングを取り戻せたようでよかった。8回の王貞成、9回の伊東というリリーフ陣も安定していた。これで大連は70勝達成。また奉天も光州に勝利して70勝に同時到達した。奉天の相手は今日で引き分けを含めて7連敗中の光州で取りこぼしは計算に入れにくい。一方新京はローテーションを見ると明日エース久慈正を登板させる公算が高い。とにかく奉天には離されないようにしたい。

#### その他の試合結果

69勝55敗6分	チチハル	4 - 1	平壤	53勝68敗9分
70勝48敗12分	奉天	7 - 4	光州	43勝77敗10分
59勝64敗7分	開城	5 - 9	ハルビン	57勝63敗10分



エースの壁 開くゲーム差

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 1) - 古池 (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 0) - 1 石風呂 - 小松原

9 林 (4 - 2)

5 パウロ (3 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

3 ドラグノフ (3 - 1)

2 金重男 (4 - 1)

1 張尊 - 平野 - 宮畑 (1 - 0) - 趙雅憲 (0 - 0) - 譚秋雲 - 森茂

(2 - 0) - 6

「ビジター」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 久慈

新 0 3 0 0 0 0 1 0 0 4 久慈 - S 畑

6 4勝5敗12分

大 0 0 0 0 0 1 0 1 0 2 張尊 (1)

2 / 3) - 平野 (1 1 / 3) - 趙雅憲 (3) - 譚秋雲 (1) - 石

新京本日の先発は予想通りエース久慈一正。この大崩れする場面がまったく予想できない大物相手に大連打撃陣はどこまで戦えるかという局面だったが、その前に大連先発のベテラン張尊が崩れてしまった。奉天は案の定光州に連勝したためゲーム差がついてしまった。

2回、新京先頭の劉照凱に対して張はデッドボール。変化球がすっぽ抜けた失投だったが、これをきっかけに張のピッチングが乱れてくる。続く七沢はレフト前ヒット、玄新光は三振もバジーノがライト前にタイムリーヒットを放ち新京が1点先制。さらに攻撃は続き、ボンズは四球で満塁、久慈は三振もトップに戻って武沼がライト前に2点タイムリーで3点目とする。ここで大連の劉監督はピッチャーを交代させる。そして登板した平野は呉高波をセカンドゴロに仕留めた。しかし久慈を相手にした勝負で序盤に3点は重すぎた。

久慈の出来は良くもなく悪くもなくといった具合だった。しかし要所はしっかりと締めるあたりはさすがエースの精神力で、大連はランナーは出すものの得点までは後一步届かずという場面が多かった。ようやく点が入ったのは6回。先頭の林が右中間を破る3ベースヒットで出塁して、パウロのファーストゴロの間にホームインした。しかしその直後の7回表、大連の4番手譚秋雲が劉照凱にホームランを打たれる。ストレートのコース自体は良かったが、劉のパワーが譚のそれを上回ったという形だった。

8回にパウロのレフト線への2ベースヒットとアンジェロのライト前ヒットが飛び出して1点を還したが大連の反撃はここまで。9回は新京の抑え畑の前に打線は沈黙。最後は畑の得意な鋭く落ちるスライダーの前に代打古池のバットが空を切った。序盤の展開から

すると試合の体裁をうまく整えたものだが、見ていてまったく勝てる雰囲気ではなかった。

二軍ではノーリーが実戦に復帰しており一軍復帰は間近という。外国人に関して、3年契約の1年目であるパウロは残留確実。また、1年間ローテーションを守ったフローデセンも残留濃厚。そして育成メインのフェリックスも素質や練習態度に対して首脳陣の評価は高く、彼もまた残留だろう。

アンジェロは、球団は残留を求めているがアンジェロ本人は今季はロースターから漏れたので日本でプレーしたが来年はアメリカで考えているらしくどうなるかは未定。ノーリー、リンドは未だに不明だが来季の外国人選手との兼ね合いで残留か解雇か決まるといふボーダーライン上にいると見るべきだろう。ノーリーは今季怪我が相次いで真価を發揮できずにいるが、優勝争いが激化する今こそその万能の存在感を見せてほしい所である。

#### その他の試合結果

70勝55敗6分	チチハル	5 - 3	平壤	53勝69敗9分
71勝48敗12分	奉天	2 - 0	光州	43勝78敗10分
60勝64敗7分	開城	3 - 1	ハルビン	57勝64敗10分

危険な連敗 もはや後がない

「ホーム」大連

8 星渡 (3 - 0)

4 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (4 - 2)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (4 - 1)

3 ドラグノフ (3 - 0) - 立石 (1 - 0)

2 清水 (2 - 0) - 金重男 (2 - 0)

1 フローデセン (2 - 0) - フェリックス (1 - 1) - 小松原 - 野

藤 - 古池 (1 - 0)

「ビジター」新京

8 武沼

4 呉高波

2 英

9 劉照凱

7 七沢

3 玄新光

6 バジーノ

5 ボンズ

1 張良吉

新 0 0 0 0 2 0 0 3 0 5 張良吉 - 今井

- 阿野 - 鈴木芳 - S 畑 6 5 勝 5 5 敗 1 2 分

大 0 0 2 0 0 1 0 0 0 3 フローデセン

(7) - 小松原 (1) - 野藤 (1) 7 0 勝 5 0 敗 1 2 分

大連京の先発はフローデセン。これまでに7勝とかなか勝ち星に恵まれないがその内容は極めて安定している。新京の先発は張良吉。コントロールと多彩な変化球が武器のベテランである。大連の張尊と似たタイプだが血縁関係などはない。

先制したのは大連だった。3回一死後に、星渡がデッドボールで出塁、大上がライト線にヒットを放ち一三塁に。棚橋の打席の1球目に大上が盗塁を決めて二三塁として、2球目には棚橋がカーブにタイミングを合わせてサードの横を抜けるタイムリーヒット。さらに林の犠牲フライでこの回2点を奪った。

今日のフローデセンは変化球の切れ味は鋭かったがストレートは案外普通の出来で、総合すると普通だった。それでもスライダー、シンカー、チェンジアップなど持ち前の多彩な変化球で新京打線に的を絞らせずうまくかわしていった。しかし5回、下位打線ながら質力者のバジーノ、ボンズに連打を浴びる。ピッチャーの張は送りバントを決めてツーアウト二三塁、トップに戻って武沼がチェンジアップを打った。打球はファーストドラグノフの横を抜けてライト前へ。これで同点となってしまった。

しかし6回、パウロが張のバームボールを完璧に捕らえた。打った瞬間にホームランと分かる打球はグングンと伸びていき場外へ。さすがのパワーである。これで流れは大連に来たかと思われたが、それはかりそめの歓喜でしかなかった。フローデセンは7回で降板し、リリーフ勝負となるが、ここでつまづいてしまう。

8回、まず登場したのは小松原だった。小松原は先頭の武沼をショットゴロに打ち取った。そして呉高波もサードへの平凡なゴロだったがパウロが送球ミスで呉は一塁に生きる。そして英は、小松原

の内角へのストレートを強振してライトフェンス直撃のタイムリー  
2ベースを放ち1点差とする。4番劉照凱は四球で塁を埋めて七沢  
勝負を選択した。七沢は三振でこの目論見は当たった。しかし続く  
玄新光の代打袁海鵬がボール球になるフォークボールを振りぬいて  
左中間へ逆転のタイムリーヒットを放った。この技ありの一打が大  
連にとつてあまりにも痛かった。

8回は鈴木芳博、9回は畑陽一という新京が誇るリリーフ陣の前  
に大連は無得点でこの試合を落としてしまった。敗因は8回、パウ  
ロのエラーがなければこのような筋書きになっただろうか。ミスを  
すればそれだけ敗北への扉が近づくという典型的な試合だった。こ  
のような腑抜けた試合をするチームでは、優勝争いなどと口にする  
のとはばかられる。なお、新京とはこれが最終戦ではなく、レギュ  
ラーシーズンの最後に行われる沖縄シリーズの2戦目、つまりプレ  
ーオフを除いて今季ラストの試合が残っている。その試合では雪辱  
といきたいものだ。

大連は新京に1勝2敗と負け越す一方、奉天は光州を3タテして  
ゲーム差は2に開いた。明らかにまずい。これ以上差を広げられて  
しまうともう直接対決云々と言う以前の問題となってしまう。明日  
からは遠征して現在7位の平壤と戦うが、もう失速は一切許されな  
い。いきなりエース吉野の出番となるが、優勝できるか出来ないか  
という問題において次の試合が非常に大きな意味を持ちそうだ。

#### その他の試合結果

7 0 勝 5 5 敗 7 分	チチハル	1 - 1	平壤	5 3 勝 6 9 敗 1 0 分
7 2 勝 4 8 敗 1 2 分	奉天	9 - 3	光州	4 3 勝 7 9 敗 1 0 分
6 1 勝 6 4 敗 7 分	開城	7 - 6	ハルビン	5 7 勝 6 5 敗 1 0 分

吉野磐石の完封 奉天追撃は終わらない

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

6 大上 (4 - 1) - 4

5 パウロ (4 - 1)

9 林 (4 - 3)

7 アンジェロ (3 - 0) - 水内 (1 - 0)

3 古池 (3 - 0)

4 近堂 (4 - 1) - 6 森茂

2 清水 (4 - 1)

1 吉野 (4 - 0)

「ホーム」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

9 幕内

6 成田

5 陳志剛

2 仲里

1 中山

大 0 0 0 0 3 0 0 1 0 4  
 7 1 勝 5 0 敗 1 2 分  
 吉野 (9)

平 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
 中山 - 金朋

良 - 前田 - 西向 5 3 勝 7 0 敗 1 0 分

これ以上奉天に離されてはならない大連は吉野が先発で必勝の構え。平壤は中山が先発だがさすがに吉野とは格が違った。今日の勝利は最初から見えていたもの。大事なのは吉野以外の投手が先発の日にどれだけ勝ち星を得ることが出来るかだ。それぐらいの信頼をしてもいいほどに吉野は充実している。また、本日ようやく近堂が一軍に復帰し、早速7番セカンドで先発出場している。堅実な守備とパンチ力のある打撃はチームにとって大いにプラスとなるが、大上との兼ね合いはどうするのか。

さて、試合は三者凡退を連発する吉野と、失点こそないものの毎回のようにランナーを出す中山といった具合で明らかに流れは大連にあった。そしてそれが結実したのが5回だった。二死後、星渡が内野安打と盗塁でチャンスを作る。大上はレフト前にヒットを打ったが外野手は前進していたので星渡は自重。そして今日は欠場の棚橋に代わって3番に座るパウロがピッチャー強襲ヒットで1点をもぎ取った。また、この打球を左腕に受けた中山は緊急降板。2番手に金朋良が登場する。

この金は出てきたばかりなのでコントロールが乱れていた。3球連続ボールからカウントを整えるために投じたストレートを林は見逃さずライトオーバーの2点タイムリー2ベース。この回、スコアボードに3を刻んだ。そして勝利への流れをしっかりと掴んだのもこの回であった。

吉野の力強いピッチングは会を重ねても衰えは見られず、むしろさらにボルテージを上げているのではというほど磐石のピッチングだった。登板間隔を詰めたため、吉野には1試合100球までという制限があるが、今日は9回を投げて89球と制限をもつものもなかった。被安打は3で四死球はなし。無論完封である。試合は8回に林が今日3安打目となるソロホームランを放ち4対0で勝利した。



奉天は現在好調の開城に敗れたためゲーム差は1に縮まった。順位はまず奉天と大連のツートップが優勝争いをしている。その下にチチハルと新京の3位争いが繰り広げられている。さらに下は、少し前までは3球団が団子状態だったが今は開城が抜け出して借金返済も現実的な所までこぎつけている。ハルビンはやや離れ、平壤はさらに離れている。そして独自の戦いを繰り広げている光州に至る。下位は割と順位が見えてきたが上位はまだ流動的な部分が残っていると見えるだろう。大連がまだ流動的な範囲内にいるのは言うまでもない。

#### その他の試合結果

4 3 勝 8 0 敗 1 0 分	光州	2 - 8	チチハル	7 1 勝 5 5 敗 7 分
6 2 勝 6 4 敗 7 分	開城	6 - 3	奉天	7 2 勝 4 9 敗 1 2 分
6 6 勝 5 5 敗 1 2 分	新京	2 - 0	ハルビン	5 7 勝 6 6 敗 1 0 分

**吉野磐石の完封 奉天追撃は終わらない(後書き)**

平壤の勝敗数間違えてたので修正。

あまりに遠い1点 勝てた試合を落とす

「ビジター」大連

- 8 星渡 (5 - 2)
- 7 大上 (3 - 0) - 宮畑 (1 - 0)
- 6 棚橋 (5 - 0)
- 9 林 (4 - 3)
- 5 パウロ (3 - 0)
- 3 ドラグノフ (4 - 1)
- 4 近堂 (4 - 2)
- 2 金重男 (3 - 1) - 立石 (1 - 1) - 清水
- 1 赤坂 (3 - 0) - 古池 (1 - 0) - 小松原

「ホーム」平壤

- 7 小谷
- 4 鳥内
- 8 志田
- 3 趙民陽
- 9 幕内
- 6 成田
- 5 陳志剛
- 2 仲里
- 1 本田

大	0	0	0	0	0	0	1	0	1	赤坂 (7)					
- 小松原 (1)	7	1	勝	5	1	敗	1	2	分						
平	0	0	0	0	2	0	0	0	-	本田 - サイ					
デー	1	-	大河内	-	S	近藤	5	4	勝	7	0	敗	1	0	分

昨日は吉野の猛烈なピッチングで勝利を手にした大連。今日の先発は赤坂。現在までに9勝を挙げており、2桁勝利となれば新人王獲得もより現実的となる。平壤は本田が先発。球威はないものの大連の打撃陣はなぜか打ちあぐねてしまった。アンジェロを外してセカンド近堂、レフト大上という新たなスタメンを試したが不発に終わった。

初回、大連は星渡がライト前ヒットで出塁したが大上は三振、棚橋はショートゴロダブルプレーであっさりとチャンスをふいにしてしまった。このように、今日は大上と棚橋が無安打だったので打線がつかげなかった。星渡と4番林を分断してしまっており、うまくいくはずもない。

赤坂は相変わらずストレートとスライダーを軸にした力強いピッチングを見せたが、6回にこの回先頭の小谷にライト前ヒットを打たれる。鳥内の送りバントで二塁に進むと、志田が左中間にタイムリーヒットを放ち平壤が1点先制する。平壤名物である力強い声援がスタジアム内外にこだまする。これに威圧されたのか知らないが、赤坂は続く趙民陽に対して四球を与えてしまう。そして幕内にはレフト線に落ちるタイムリーヒットを打たれて2点目。

平壤の金監督は6回までに被安打7四球2と大量にランナーを出しながらも失点は0に抑えてきた本田をここで降板させリリース勝負に持ち込む。本田の無失点は明らかに結果だけが良かったものなのでこの判断は適切だったと言える。7回のサードは3人で抑えたが、8回のベテラン大河内は大連に捕まりかけてしまう。

この回先頭の林が2日連続の猛打賞となるライトフェンス直撃の2ベースで出塁する。大きく曲がるスライダーにうまくタイミングを合わせて見事な打球を飛ばした。続くパウロはセンターフライ。

ドラッグノフに対する3球目がワイルドピッチとなり林は三塁へ。ドラッグノフは三振に倒れたが、近堂がライトの頭上を越えるタイムリーヒットを放った。ジャンプした陳志剛のグラブを掠めたが収まりきらずにレフト前に転がったというギリギリのヒットだった。

8番金重男の所で大連は代打として立石を起用する。立石はそれに応えてしぶとくライト前に落とす。さらに代打攻勢は続き、ピッチャー赤坂に代えて古池。ここで平壤は近藤健輔を繰り出した。近藤は井垣故障後のストッパーを務めている。近藤は初球から150キロを超えるストレート。古池はフルスイングで応える。パワーとパワーのぶつかり合いを制したのは近藤だった。空振り三振で窮地を脱出した。そのまま9回も抑えてゲームセット。

この敗北は大連にとって痛い。赤坂は好調で、相手の本田はそれほど良いピッチングはしていなかった。その本田を攻めあぐねているうちに赤坂が失点してビハインドを取り返せなかったという、勝てるチャンスを自ら潰したもったいない敗戦だった。奉天は勝利したのでゲーム差は再び2に広がった。

#### その他の試合結果

4 4 勝 8 0 敗 1 0 分	光州	9 - 4	チチハル	7 1 勝 5 6 敗 7 分
6 2 勝 6 5 敗 7 分	開城	0 - 7	奉天	7 3 勝 4 9 敗 1 2 分
6 6 勝 5 6 敗 1 2 分	新京	3 - 6	ハルビン	5 8 勝 6 6 敗 1 0 分

炎の快勝 さあ決戦の13連戦へ

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 1)

5 大上 (3 - 2) - ドラゲノフ (1 - 0)

6 棚橋 (5 - 2)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (5 - 1)

7 アンジエロ (3 - 0) - 水内 (1 - 1)

4 近堂 (4 - 2)

2 清水 (3 - 0)

1 池田 (3 - 1) - フェリックス (1 - 1) - 譚秋雲 - 石風呂

「ホーム」平壤

7 小谷

4 鳥内

8 志田

3 趙民陽

9 後藤

6 成田

5 陳志剛

2 仲里

1 張公明

大 2 0 1 3 0 0 0 1 0 7 池田 (7)

- 譚秋雲 (1) - 石風呂 (1) 7 2 勝 5 1 敗 1 2 分

平 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 張公明 - 前

田 - 金朋良 5 4 勝 7 1 敗 1 0 分

今日の大連の先発は池田。さらに、守備位置を変更して近堂、棚橋で二遊間を形成してサードには大上、パウロはファーストという新たなフォーメーションを組んできた。今日の打撃結果はなかなか良かったがやはりサード大上は特に肩においてやや物足りないものがある。どのような形が一番共存しやすいか、それぞれの選手が異なった魅力を持っているのでなかなか難しいが、優勝のかかっている日々ゆえに試行錯誤の期間はそれほど長くは取れない。

さて、試合は初回から大連ペース。一死後に大上がレフト前に転がるヒットで出塁すると、棚橋もレフト前で一二塁に。林はセカンドゴロも二塁への送球が高くそれでセーフ。名手鳥内らしからぬミスで満塁のチャンスを得た。ここでパウロがショートの頭上を越す痛烈なライナー性のヒットを飛ばして大連が2点先制した。

続いては3回、先頭の大上が四球で出塁すると盗塁で二塁へ、さらに棚橋のセカンドゴロで三塁まで進む。そして林が張のカーブにタイミングを合わせてライト前にタイムリーヒット。4回にはまず近堂が復活の第8号ホームランで4点目。さらに一死後池田がレフト前ヒットで出塁すると星渡がストレートを完璧に捕らえてライトスタンドに突き刺さるホームラン。この一発攻勢で全てが決まった。

池田は相変わらず熱のこもったピッチングを見せた。とにかく今は優勝争いの中で先発として信頼されている事が喜びになっているようで、それが池田の実力を最大限に引き出している。ストレートの威力もさることながら、シュートや大連で覚えたという小さく落ちるフォークなどの変化球も冴えている。これほどの人材が埋められていたとは。ただ、チチハルが池田をトレードに出して獲得した折口も5番打者として勝負強いところを見せておりウインウインのトレードだったと言える。

池田は7回を投げて、失点は5回の仲里のタイムリーヒットによる1点だけに抑えて5勝目を挙げた。試合はその後、8回に代打フエリックスのタイムリーヒットが飛び出して7対1としてそのまま勝利した。奉天も勝利したためゲーム差は2で変わらず。

来週はまずビジターで光州と3連戦。次にホームでハルビンと3連戦を戦う。そこから休みなしで奉天との決戦4試合が来る。これこそ「絶対に負けられない戦い」そのものである。それが終われば開城との3連戦と、再来週は試合に明け暮れる。それが終われば次の週に沖縄シリーズの2試合が行われ、これでレギュラーシーズンは終了となる。もっとも大連はプレーオフ進出が濃厚なのでもう少し続く予定ではあるが。この戦いの前に成績を一旦まとめる。未来のために今どうすべきか、過去を見て考えるために。

#### その他の試合結果

4 4 勝 8 1 敗 1 0 分	光州	2 - 3	チチハル	7 2 勝 5 6 敗 7 分
6 2 勝 6 6 敗 7 分	開城	4 - 6	奉天	7 4 勝 4 9 敗 1 2 分
6 6 勝 5 7 敗 1 2 分	新京	1 - 3	ハルビン	5 9 勝 6 6 敗 1 0 分



大勝20得点 連戦突破の視界良好

「ホーム」光州

8 吉田

6 真野

7 佐藤

9 小金井

5 久保岡

3 大深

4 白知秋

2 山村

1 裴尊仁

「ビジター」大連

8 星渡(5-4)

5 大上(4-3) - 4

6 棚橋(6-3)

9 林(5-5)

3 パウロ(5-2) - ドラグノフ(2-1)

7 アンジエロ(7-3)

4 近堂(6-3) - 5 森茂

2 清水(4-2) - 中西(1-0)

1 松浦(4-1) - フェリックス(1-0) - 石風呂 - 古池(1-

0) - 黄直哉

大 4 3 3 1 3 2 1 1 2 2 0 松浦(6)

- 石風呂(2) - 黄直哉(1) 7 3 勝 5 1 敗 1 2 分

光 0 0 0 2 0 0 0 1 0 0 3 裴尊仁 -

山下 - ラスター - 李吉男 - 河原林 - 宮内 4 4 勝 8 2 敗 1 0 分

今季残り15試合。しかもその内の13試合が今日からの連戦で消費される。泣いても笑ってもそれで全てが決まる。言うまでもなく補強の期限はすでに過ぎており、現有戦力で最後まで戦うことになる。ここまで来たらもはや個々の技量など関係ない。勝利という唯一にして最大の目標に向けていかにチームがひとつになれるかである。

大連がまず戦うのは最下位独走の光州。すでに若手主体のメンバーで戦っているので、優勝に向けて主力選手総動員の大連との戦力差は大きい。しかも今日は序盤で勝負が決まってしまったためモチベーションにも差が付き、結果とんでもない結果となってしまった。

光州の先発裴尊仁はコントロールに苦しみ、いきなり星渡、大上に連続四球を与える。棚橋にはゆるいカーブを痛打されて早くも大連先制。林に四球で満塁として、パウロは三振としてようやくワナウトを取るもアンジェロ、近堂に連続タイムリーを浴びて4点目攻撃をする前から打者一巡の猛攻を浴びてはもうお話にならない。しかしこれはまだプレリユードにすぎなかった。

2回にはこの回先頭の大上がレフトオーバーの2ベースヒットで出塁。棚橋はサードゴロも、4番林がストレートを振りぬいてライトスタンドへ叩き込んだ。裴に引導を渡す18号ホームランでさらに光州をリードする。代わって登板した山下だが流れを止めることは出来ず。いきなりパウロにソロホームランを浴びてしまう。

3回には先頭のピッチャー松浦にライト前ヒットを打たれる。松浦は素人のような、まったく打てそうにないフォームだがこれはこれでひとつの完成形なのだろうか意外と打てるものだ。そして星渡がセンター前ヒット、大上が四球で満塁として、棚橋の左中間への

ヒットで9点目、林の犠牲フライで10点目が入った。これで山下は降板。続いてはラスターがマウンドに登る。

ラスターはパウロ、アンジェロを抑えた。しかし4回にはほぼど真ん中のカットボールを清水にレフトスタンドへ運ばれた。この清水のホームランで大連は先発全員安打となった。5回にはまず棚橋林が連打。パウロは凡退もアンジェロがレフトフェンス直撃の2点タイムリー2ベースでさらに加点。近堂もライト線へ流し打ちのタイムリーヒットで続いた。6回、星渡が四球で出塁。大上はサイドゴロも白知秋が送球を逸らして一三塁に。棚橋は凡退も、林がライト前へタイムリーヒット。さらにパウロも三遊間を破る痛烈なゴロで追加点を加えた。ここまでで16点。もはやどうにもならない。

7回は大上がタイムリーヒット、8回はアンジェロのタイムリーヒット、9回は星渡のソロホームランと林のタイムリーヒットが出て、合計27安打20得点となった。しかも毎回得点。林5安打、星渡4安打、猛打賞となる3安打は4人と猛烈すぎる攻撃だった。投手は、松浦が2失点、石風呂が1失点したが物の数ではない。大連がひたすら攻めまくったという印象しか残らない試合だった。

たまらないのはスタジアムに足を運びながら、このような秋の夜よりお寒い試合を見せられた光州ファンである。試合序盤は鳴り響いていた「また失点かよ」「少しは意地を見せる」などというヤジも中盤を過ぎると収まり、延々と続く大連の得点シーンをなすすべなく見つめるだけだった。光州の島田代理監督は憔悴しきった顔で「情けない試合をお見せしてしまい本当に申し訳ない」としぼり出すのが精一杯だった。

思えば今季の開幕戦は大連対光州だった。もともと結果は大連の3連勝ですでに差はあったのだが、ここまでは大きくなかったはず

だ。1年間目標を持って戦ったチームとそうでなかったチーム、ここまで成長に差がつくものなのか。逆に大連としては連戦のスタートでいきなり気分の良い勝利を挙げた。これで勢いに乗れるか。

#### その他の試合結果

6 0 勝 6 6 敗 1 0 分	ハルビン	2 - 1	奉天	7 4 勝 5 0 敗 1 2 分
5 5 勝 7 1 敗 1 0 分	平壤	8 - 4	新京	6 6 勝 5 8 敗 1 2 分
7 3 勝 5 6 敗 7 分	チチハル	3 - 1	開城	6 2 勝 6 7 敗 7 分

## 大勝20得点 連戦突破の視界良好（後書き）

第7回の成績表を上げたことで1から開幕戦までちょうど20章分になったのでちよつと便利に。具体的には今回は第156部ですが、これが136試合目というのがすぐ分かるようになりました。まあそれまでもちよつと計算すれば問題なかったわけですが、算数苦手だったから単純な計算じゃないとやる気なくすという

光州奥森好投 大連痛い取りこぼし

「ホーム」光州

8 吉田

6 真野

7 佐藤

9 小金井

5 久保岡

3 大深

4 白知秋

2 竹田

1 奥森

「ビジター」大連

8 星渡 (4 - 0)

5 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 0)

7 アンジエロ (2 - 1)

4 近堂 (3 - 0)

2 清水 (2 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 フローデセン (2 - 0) - 野藤 - 宮畑 (1 - 0) - 小松原

大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 フローデセ

ン (6) - 野藤 (1) - 小松原 (1) 7 3 勝 5 2 敗 1 2 分

光 0 0 0 0 1 0 0 0 0 1 奥森 4 5

勝 8 2 敗 1 0 分

大量得点の次の試合は打線が沈黙するというパターンにはまり光州に不覚を取ってしまった。昨日は2点や3点などいくらでも取れるという展開だったが本来得点なんてそうそう入るものではない。昨日は異常すぎただけだ。ここで冷や水を浴びていないと変な感覚のままこれから戦っていたかもしれない。光州に感謝しなければならぬ。

さて、光州の先発は奥森和世。20歳にしてエースとして祭り上げられた今シーズンだがやはりまだ重かったようで現在までに6勝14敗と苦戦している。しかし防御率は2点代後半で、実力はある。今日はストリートがよくコントロールされており、カーブとの緩急を織り交ぜたコンビネーションが冴えていた。まだまだ発展途上の投手だけに今季の経験をバネにして来季以降はさらなる飛躍を遂げるだろう。

大連先発フロードセンも奥森に負けず劣らずのピッチングを見せた。しかし5回に落としか穴が待っていた。ここまでにフロードセンが出したランナーは2人で、この回も先頭の大深をサイドフライに打ち取っていた。そして打席には今季ホームランが2本の白知秋。フロードセンもホームランはないと判断してか積極的に内角を突いてきたが、3球目の高めに浮いたストレートを振りぬいてライトスタンドへ叩き込んだ。強すぎる攻めが裏目に出て大連は先制を許す。

反撃を仕掛けたい大連だったが奥森のピッチングは最終回まで衰えなかった。奥森は被安打4の完封勝利。三塁を踏ませないという磐石の勝利だった。逆に大連にとっては最下位相手に痛い敗戦となってしまった。奉天とのゲーム差は2となっている。奉天と大連はつかず離れずの関係が続いている。来週の直接対決はどのような状況で迎えているのか分からないがこのままならなかなか面白い。

また、先日大連のドラフト候補として新たに水谷学園・升田憲次郎内野手の名前が上がった。升田はパワーフルな打撃に定評のある右投右打の高校生。今年は統一球採用でホームラン数が減少、特に右投げ左打ちのバッターのホームランが減ったと言われる。そこで重要になったのがホームランを狙って打てる大砲である。一塁に近いので有利といった理由でとりあえず左打席で打つ選手より、右利きの場合利き腕のパワーを生かせる右打ちの野手の評価が高まっており、升田も上位で指名されると見られる。

#### その他の試合結果

60勝67敗10分	ハルビン	3 - 5	奉天	75勝50敗12分
56勝71敗10分	平壤	6 - 3	新京	66勝59敗12分
73勝56敗8分	チチハル	2 - 2	開城	62勝67敗8分



光州奥森好投 大連痛い取りこぼし（後書き）

文章量がちょっと少ないと思ったらドラフト記事で穴埋めという賢しい手段。でも他人の将来にたいして無責任にああだこうだと言うのは妙に楽しいですからね。今年もどうなりましょうか。

また今年もやるドラフト会議観覧、応募しましたがきつと今年も駄目なんだろうな。まあCS中継でやるのでそっちを見るの準備はできているしPCで盛り上がるのも楽しいし、でも1回は生で見たいわドラフト会議。

先制されても焦らず 予定調和の逆転勝利

「ホーム」光州

8 吉田

6 真野

7 佐藤

9 小金井

5 久保岡

3 大深

4 白知秋

2 竹田

1 山西

「ビジター」大連

8 星渡 (5 - 2)

5 大上 (3 - 1) - 4 森茂 (1 - 1)

6 棚橋 (4 - 3)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 1) - 5

7 アンジェロ (4 - 1) - 1 野藤 - 比山

4 近堂 (3 - 0) - 古池 (1 - 1) - 3

2 清水 (4 - 1)

1 吉野 (2 - 1) - 李健太郎 (1 - 0) - 平野 - 水内 (1 - 0) - 7

大 0 0 0 1 1 2 1 1 0 6 吉野 (6)

- 平野 (1) - 野藤 (1) - S 比山 (1) 7 4 勝 5 2 敗 1 2 分

光 0 0 3 0 0 0 0 0 0 3 山西 - 李吉

男 - ラスター - 宮内 - 河原林 4 5 勝 8 3 敗 1 0 分

エース吉野を投入して磐石の勝利を狙った大連だが光州の抵抗に遭い苦戦した。しかしそのまま負けるとはとも思えないという感覚は常にあり、最終的にはやはり逆転した。13連戦のスタートは2勝1敗と及第点の滑り出しを見せた。しかし本番はまだまだこれからである。

3回裏、吉野はこの回先頭の白知秋に四球を与える。竹田は三振でワンナウト。ピッチャー山西は送りバントで、吉野は二塁に投げたもののセーフ。フィルダースチョイスとなりピンチを広げる。そして迎えた光州の新たなトップバッター吉田春樹。この吉田は打撃も守備も積極的なプレーが身上の選手で、現在の島田代理監督になつてから積極的に起用されるようになった選手の一人である。その吉田が吉野の初球外角へのストリートを振りぬいた。打球は思いのほか伸びてそのままライトスタンドへ先制の3ランホームランを叩き込んだ。

まさかの展開で大量リードを奪った光州だが、その直後に先発山西が崩れる。4回表、先頭の大上に今日初めてとなる四球を与える。ここから急激に山西のコントロールが乱れ始めた。棚橋の打席の2球目に大上が盗塁を成功。3球目は暴投となり三塁まで進む。そして棚橋のライト前への流し打ちが決まつてこの回1点を還す。その後林も四球でチャンスを作ったがパウロ、アンジェロが倒れてこの回はここまで。

5回は一死後に清水、吉野のバッテリーが連打でチャンスを作る。トップに戻って星渡の一二塁間を破るヒットで清水がホームイン。これで2対3と1点差まで来るが、大上のショートライナーで飛び出していた吉野が刺されてこの回も1点だけで終了。そして山西はこの回限りで降板した。山西の調子を見てもこれは間違いではない。しかし続くリリーフ陣が火に油を注いでしまった。

光州の2番手李吉男は先頭の柵橋をレフトフライに抑えたが、林にライト前ヒット、パウロにはストレートを狙われてフェンス直撃の2ベースを打たれて二三塁。そしてアンジェロはスライダーを叩いてレフト線に落とす2点タイムリーを放ち一気に逆転する。李はここで降板させられる。3番手はラスター。1年間一軍で投げたがはつきり言って満足のいく成績とは行かなかった。本来期待されていたセットアップや抑えではなくビハインドのロングリリーフが主な役割となってしまう。来季の契約は微妙である。

そのラスターは6回こそ抑えたが、7回一死後に星渡に四球、大上にレフト前ヒットを打たれる。柵橋はセンターフライも林にライト前タイムリーを打たれて5対3に。8回は4番手の宮内が古池に3ベースヒットを打たれ、清水のファーストゴロの間に6点目を追加した。この宮内や河原林といったリリーフを勝ち負け関係なく投入せざるを得ない苦しさは今季の象徴である。

試合は大連が6対3で勝利。リードされても慌てずに1点ずつ還していき、逆転に成功した。こうした展開でもバタバタせずに安定感のある試合運びが出来るようになるとは、成長を実感させる試合であった。奉天とのゲーム差は相変わらず2のままだが、雲行きはそれほど悪くない。

#### その他の試合結果

60勝68敗10分	ハルビン	0 - 4	奉天	76勝50敗12分
56勝72敗10分	平壤	1 - 2	新京	67勝59敗12分
73勝57敗8分	チチハル	5 - 7	開城	63勝67敗8分

総力戦の果てに いぶし銀の勝利

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

5 大上 (4 - 1) - 4

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 1)

7 アンジエロ (3 - 1) - 水内 (1 - 1)

4 近堂 (2 - 1) - 1 伊東 - 平野 - 野藤 - 古池 (1 - 0) - 比山

2 金重男 (4 - 1)

1 石風呂 - 宮畑 (1 - 1) - 趙雅憲 (1 - 0) - ノーリー (2 - 2)

- 5

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 原田

4 ロバーツ

7 田中

5 南吉展

1 ライル

哈 0 0 0 1 0 0 0 1 2 2 0 4 ライル - 藤崎

- 鈴木真 - 鄭明真 6 0 勝 6 9 敗 1 0 分

大 1 0 1 0 0 2 0 2 - 6 石風呂 (3)

- 趙雅憲 (3) - 伊東 (1) - 平野 (2 / 3) - 野藤 (1 / 3)

大連はここから沖縄シリーズまでずっとホームという豪快な日程となる。これからの厳しい日程をホームの熱い声援に囲まれて戦えるという恵まれた環境。これは生かすしかないだろう。まず最初に対戦するのは今季いまいち調子という波に乗り切れなかったハルビン。昨年は3位で今季は優勝を狙ったが現状はBクラスの6位に沈んでいる。なお、今日の大連はいわゆる先発の谷間に当たるので先発は石風呂で小刻みな継投策を用いるとあらかじめ決めていた。

ハルビンの先発はライル。今季は怪我もあり満足な働きが出来なかったこの外国人投手に対して大連は先制攻撃を仕掛ける。初回、先頭の星渡がショートの間を抜くヒットで出塁。大上は自分も生きようとするバントだったが結果的には送りバントとなってランナー二塁。棚橋はレフトフライに倒れたが4番林がライト前に落ちるポテンヒットを放つ間に星渡が一気にホームインで1点を先制する。さらに3回、まずは代打で登場の宮畑がサード強襲のヒットで出塁。一死後大上がレフト前ヒットで一二塁として、棚橋がストレートをセンター前に弾き返して宮畑が生還して2点目。

大連先発の石風呂は今季貴重な長いイニングも投げられる左のリリーフとしてブルペンを支えた。これが今季2回目の先発だが、気負いなく普通のピッチングをしてくれた。予定通り3回で交代して2番手の趙雅憲にバトンタッチ。この趙は3回を投げ、失点は田坂のホームランによる1点のみに抑えた。タフな両腕がしっかりと試合を作った。

6回裏、一死後にパウロがレフトオーバーの2ベースヒットで出塁。アンジェロもレフト前で続き二三塁。ここでアンジェロに代走水内が送られた。近堂は四球で満塁。金重男は三振に倒れたが、次

に代打で登場したのは今季は怪我に悩まされたものの今日一軍復帰したばかりのノーリー。このベテランは3球目のスライダーが甘く入ったところを逃さず捕らえてライト線へ。これでランナー2人が還った。この回以降ノーリーはサードに入りサード大上はセカンドに入った。そして近堂に代わってピッチャーの伊東が入った。

しかしここからハルビンの反撃が始まる。まずは7回、一死後に原田三希がレフトフェンス直撃の2ベースを放つ。この原田、守備に難があり主に代打として起用されているが打撃センスは抜群である。原田には代走竹原が送られた。続くのは先日怪我から復帰したロバーツ。高いバウンドの打球はノーリーの頭上を越えるタイムリーヒットとなった。

8回、大連のマウンドには平野。ツーアウトまではすぐ取れて、鈴木壮介に対しても優勢に進めたがショートゴロを柵橋が弾いてしまう。バッターは井沢というところで野藤を投入したがこれが裏目に出た。野藤のスライダーを捕らえられてバックスクリーンへ2ランホームランを浴びてしまった。これで4対4の同点。しかしこれで終わりではないのが今季の大連である。

8回裏、先頭のパウロがレフト前ヒットで出塁。水内もセンター前ヒットで続く。代打古池はレフトフライと不発も、キャッチャー金重男がサードの横を抜くタイムリーヒット。さらにノーリーもセンター前タイムリーヒットで一気に突き放した。9回は比山が4人で抑えて勝利。打者では金やノーリー、投手では石風呂や趙といったメインではない選手が渋い輝きを見せた試合だった。

#### その他の試合結果

6	7	勝	6	0	敗	1	2	分	新京	3	-	4	光州	4	6	勝	8	3	敗	1	0	分
7	7	勝	5	0	敗	1	2	分	奉天	7	-	1	チチハル	7	3	勝	5	8	敗	8	分	

6  
4  
勝  
6  
7  
敗  
8  
分  
  
開  
城  
  
3  
-  
0  
  
平  
壤  
  
5  
6  
勝  
7  
3  
敗  
1  
0  
分



無駄な完封負け 残りわずか10試合

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 0)

6 棚橋 (4 - 0)

9 林 (3 - 1)

5 パウロ (3 - 0)

7 水内 (2 - 0) - 古池 (1 - 0) - 3

3 ノーリー (3 - 1) - 7

2 金重男 (3 - 0)

1 赤坂 (1 - 0) - 李健太郎 (1 - 0) - 黄直哉 - 野藤 - ドラゲノ

フ (1 - 0) - 小松原

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 原田

4 ロバーツ

7 田中

5 南吉展

1 立石

哈 1 1 0 0 0 0 0 2 立石 6 1

勝 6 9 敗 1 0 分

大 0 0 0 0 0 0 0 0 赤坂 (6)

- 黄直哉 (1) - 野藤 (1) - 小松原 (1) 7 5 勝 5 3 敗 1 2 分

大連の先発は10勝目を目指す赤坂。また、野手ではノーリーが7番ファーストとして出場。パウロはサードに、大上はセカンドにそれぞれ戻った。また、アンジェロもベンチでスタメンには水内が起用されている。ハルビンの先発は若い立石駿大。今季これまでに7勝と飛躍のシーズンとなったが、その勢いは今日も発揮された。

ハルビンは初回、先頭打者のボルトがレフト前ヒットで出塁。鈴木壮介のサードゴロでボルトは二塁まで進む。井沢は三振に倒れたが、4番田坂がストレートをセンター前に弾き返して先制のタイムリーヒットを放った。2回には7番レフトに入っている田中海が初球のストレートをいきなり振りぬいてレフトスタンドにソロホームラン。これで0対2とリードした。

立石は5回までヒットはおろか一人のランナーも出さない磐石のピッチング。今日は特にストレートのが冴えていたので、スライダークやフォークといった変化球も相乗効果で切れ味が上がっていた。6回にノーリーがスライダーをセンター前に持って行ってようやく初めてランナーを出したが、金重男と赤坂の代打李健太郎は連続三振、トップに戻って星渡はショートゴロに倒れて得点ならず。

7回、大上四球、棚橋センターフライ、林ライト前ヒットでワンアウト一三塁とようやく得点のチャンスを作る。ここで打席に立ったパウロはストレートを上手く捕らえて三塁線に痛烈なライナー性の打球を飛ばしたが南吉展がダイビングキャッチでアウト。水内の代打古池はレフトフライに倒れてまたも得点は入らなかった。9回には先頭の星渡がセカンドへの内野安打で出塁したものの牽制で刺されるという失態。大上はショートゴロ、棚橋はセンターフライに倒れてそのままゲームセットとなった。

立石は力のある若手投手であり、今季の活躍で自信もつけているいい投手である。しかし優勝を争っておきながらわずか3安打に抑えられるのは不甲斐ない。幸いにも奉天が敗れたのでまだ望みはつながつたが、これ以降はひとつの敗北が絶望への道を一步進むと同じである。もう負けてはならない。

また、今月4日に一軍に昇格し、6日の光州戦で一軍デビューした李健太郎が今日もなかなかきびきびとしたプレーを見せており面白い。健太郎という名前は日本的だが父も母も朝鮮半島の出身という歴とした朝鮮民族である。解雇されて無所属の期間を経て一軍まで這い上がった粘り強さを劉監督から買われている。この厳しい時期、チームに最後の活力を与えることが出来るか。

#### その他の試合結果

6 7 勝 6 1 敗 1 2 分	新京	1 - 6	光州	4 7 勝 8 3 敗 1 0 分
7 7 勝 5 1 敗 1 2 分	奉天	2 - 5	チチハル	7 4 勝 5 8 敗 8 分
6 5 勝 6 7 敗 8 分	開城	7 - 4	平壤	5 6 勝 7 4 敗 1 0 分

お膳立ては整った　そして最終決戦へ

「ホーム」大連

8 星渡 (2 - 0)

5 大上 (4 - 2)

6 棚橋 (3 - 1)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (4 - 0) - 水内

4 近堂 (4 - 1)

2 金重男 (3 - 1)

1 池田 (1 - 0) - ドラゴノフ (1 - 0) - 北 - 伊東 - 比山

「ビジター」ハルビン

7 ボルト

9 鈴木壮

6 井沢

2 田坂

3 原田

4 ロバーツ

7 田中

5 南吉展

1 李正明

哈	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	李正明 - 横
浦 - 張秀君	6	1	勝	7	0	敗	1	0	分			
大	0	0	0	0	3	0	0	0	0	-	3	池田 (6)
- 北 (1)	-	伊東 (1)	-	S	比山 (1)						7	6
											勝	5
											敗	3
											1	2
											分	

奉天との直接対決まであと1試合を残すのみ。負けてはならない試合が続く毎日だが、大連今日の先発は池田。あれよあれよと5連勝してチームを救った男が今日も力強いピッチングを見せた。ハルビンの李正明もまた池田と同じタイプの投手で、意地と意地がぶつかり合う熱い試合となった。

序盤はお互いゼロ行進が続いた。ランナーをまったく出さないわけではなかったが、池田も李正明もここぞの場面でアドレナリンが多く放出されるタイプの投手なので決定打を出すには至らなかった。試合が動いたのは意外な形だった。5回表、ツーアウトまでは簡単に取った池田だが、李正明に対してやや甘く入ったストレートを完壁に振りぬかれた。まさかのホームランでハルビンが先制。

しかしこの1点で李正明の気が緩んだか、その裏に大連の反撃が始まる。一死後、キャッチャー金重男が左中間にベースヒットを放つと、池田はきっちりバントを決めて三塁へ。トップに戻って星渡が四球で一三塁となり、大上がサードの横を抜けるタイムリーヒットで同点。柵橋はセカンドゴロもエラーで満塁となり、林がストレートに詰まりながらもライト前にポテンヒット。ツーアウトなのでスタートを切っていた星渡と大上の俊足コンビが一気に生還してこの回3点を奪い逆転に成功した。

ハルビン最後の反撃は9回、大連の抑え比山を襲った。先頭の田坂がストレートを弾き返して左中間を破る2ベース。原田はサードゴロ、ロバーツは三振でツーアウトまでこぎつけたが、田中の代打助川拓男がショート柵橋の横を抜くタイムリーヒットを放った。さらに南吉展がライト前ヒットで一三塁とした。しかし最後は代打金四南をセンターフライに抑えて薄氷の勝利をもぎ取った。

そしてここで朗報。奉天が敗れた。決勝点となるタイムリーを放

つたのは今季途中まで大連に在籍していた折口だった。大連と奉天のゲーム差1という僅差で決戦を迎える。まさに天王山。この戦いで順位はほとんど決まる。大連が奉天と4試合でどういう勝敗なら差はどうなるかを大雑把にシミュレートしてみた。ちなみにこの4連戦が終わると残りは5試合。

- 4勝            3ゲーム差つける〓胴上げ待ったなし
- 3勝1分        2ゲーム差つける〓有利
- 3勝1敗〓2勝2分        1ゲーム差つける〓ちよつと有利
- 2勝1敗1分〓1勝3分        ゲーム差なし〓去年の順位が上の奉天有利か
- 2勝2敗〓1勝1敗2分〓4分        1ゲーム差つけられる〓ちよつときつい
- 1勝2敗1分〓1敗3分        2ゲーム差つけられる〓きつい
- 1勝3敗〓2敗2分        3ゲーム差つけられる〓絶望的
- 1分3敗        4ゲーム差つけられる〓ほぼ終戦
- 4敗            5ゲーム差つけられる〓奉天胴上げ開始

勝率が並んだ場合順位が上になるのは去年の順位が上の奉天となる。4連敗して5ゲーム差に離れるとその後大連5連勝奉天5連敗となつても勝率が並ぶだけで順位は変わらず、つまり奉天の優勝が決まる。負け越したらまず無理なのは言うまでもないとして、2勝2敗でも危ないので優勝するにはこの決戦に勝ち越すしかない。3勝か4勝してくれれば最高だが。まあ、考えすぎるのはファンや番記者だけでいい。選手たちにはこんな計算など考えず、ただ目の前の一戦に勝利することだけを考えてプレーしてほしい。

#### その他の試合結果

- 6 8勝6 1敗1 2分    新京    2 - 1    光州    4 7勝8 4敗1 0分
- 7 7勝5 2敗1 2分    奉天    1 - 4    チチハル    7 5勝5 8敗8分

6  
6  
勝  
6  
7  
敗  
8  
分  
  
開  
城  
  
9  
-  
3  
  
平  
壤  
  
5  
6  
勝  
7  
5  
敗  
1  
0  
分

賽は投げられた 松浦完封大連先勝

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

5 大上 (2 - 0) - ノーリー (1 - 0)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1) - 水内

3 パウロ (4 - 0)

7 アンジエロ (4 - 2)

4 近堂 (4 - 1)

2 清水 (2 - 0)

1 松浦 (2 - 0)

「ビジター」奉天

5 横山

4 佐藤

2 漢

8 長谷川

7 間口

9 浜口

3 蔡均森

6 田辺

1 王丈広

大	倉 - 朴賢侍	奉	王丈広 - 片
0	7 7 勝 5 3 敗 1 2 分	0	0
0	2	0	0
0	1	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	-	0	0
7 7 勝 5 3 敗 1 2 分		3	0
	松浦 (9)		



ついにこの日がやってきた。本日10月10日からの4日間は今季の総決算となる、奉天との直接対決が行われる。お互い負けられない試合の第1戦は大連が若い松浦心、奉天が経験豊富な33歳の王丈広を先発に起用した。こういったプレッシャーのかかる試合に実質1年目の松浦起用は危険に見えるが、劉監督は松浦の度胸にかけた。そして松浦は見事に、あるいは想像以上に大役を果たして見せた。

心臓に毛が生えているとはこのような男のことを言うのだろう。プレッシャーのかかる第1戦でありながらストレーターの威力はむしろ普段以上で、試合終盤になってもまったく衰えることはなかった。「プレッシャーはなかった。むしろ普段より楽しかった」と事もなげに言い放ったのは、まだ高校生どころか中学生にすら見える19歳の少年投手なのだから未恐ろしい。

大連打線は王丈広の安定感の高いピッチングに苦戦したが、5回に突破口を開く。一死後、キャッチャー清水がサードのエラーで出塁し、松浦の送りバントで二塁へ進む。そしてトップに戻って星渡が王の内角へのストレートを弾き返した。ライナー性の打球は奉天のライト浜口がジャンプしたグラブの少し上を飛んでいき、ライトスタンドに陣取る大連ファンを歓喜させる2ランホームランとなった。

さらに6回、この回の先頭打者林がライト前ヒットで出塁。パウロはセンターフライに倒れたが、アンジェロが左中間へのヒットで一三塁。そして近堂が王の秘球バームボールをセンター前に弾き返した。これで林が生還して3対0として、後は松浦に任せるだけでよかった。

任された松浦は9回を被安打3四死球1に抑えてピンチらしいピ

ンチもなかった。敢えて言えば、2回にヒットと進塁打でツーアウト二塁まで来た所だが、これも奉天が唯一得点圏にランナーが進んだというだけで、危ない雰囲気はまったくなかった。

後は9回まで力強いストレートを基調としてスライダー、フォーク、カーブなどを織り交ぜた正統派のピッチングが奉天の打者を次々となぎ倒していくだけだった。最後は4番長谷川をセンターライナーに打ち取り10勝目を完封で決めた。夏場に4連敗したようにまだシーズンを通じたスタミナはないが、成長によってそういった欠点を潰していけばどれほどの選手になるか、あまりにも楽しみだ。

重要な第1戦を制した大連。これで奉天とのゲーム差はなし。最高の形で決戦のスタートを切ることが出来た。この対決の残りは3試合。少なくとも目の前で奉天坂本監督の胸上げスタートという最悪の事態だけは避けられたことだしよりリラックスした精神状態で試合に臨めるようになるだろう。逆に奉天は追われる分プレッシャーもかかる。心理的にはもう逆転していると見てもいいだろう。明日からの第2戦以降も期待できそうだ。

#### その他の試合結果

6 8 勝 6 2 敗 1 2 分	新京	3 - 5	開城	6 7 勝 6 7 敗 8 分
7 6 勝 5 8 敗 8 分	チチハル	4 - 1	ハルビン	6 1 勝 7 1 敗 1 0 分
5 6 勝 7 6 敗 1 0 分	平壤	1 - 5	光州	4 7 勝 8 5 敗 1 0 分

打線援護なく もう後退は許されない

「ホーム」大連

8 星渡 (5 - 1)

5 大上 (3 - 1) - 立石 (0 - 0) - 水内

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 2)

7 アンジエロ (3 - 1)

4 近堂 (4 - 1)

2 清水 (3 - 0) - 金重男 (1 - 0)

1 瑞穂 (2 - 1) - 古池 (1 - 1) - 野藤 - 小松原 - ノーリー (1

- 0)

「ビジター」奉天

5 横山

4 佐藤

2 漢

8 長谷川

7 間口

9 浜口

3 蔡均森

6 田辺

1 サンタナ

奉 1 0 1 0 0 0 0 0 0 0 2 サンタナ -

丸茂 - Sファン 7 8 勝 5 3 敗 1 2 分

大 0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1 瑞穂 (7)

- 野藤 (1) - 小松原 (1) 7 7 勝 5 4 敗 1 2 分

大連VS奉天の第2戦は投手陣の奮闘に打線が応えきれずもつた  
ない敗戦となった。これでまた奉天とは1ゲームはなれた。もう  
これ以上の敗北は絶対に許されない。これ以降の7試合は全て勝利  
するぐらいでいかないと。

大連の先発は今日一軍に満を持して復帰した瑞穂。安定感のある  
コントロールをベースにした崩れにくいピッチングは健在だった。  
しかしこの瑞穂、どこか幸が薄いというか、勝ち運にはなかなか恵  
まれないところがある。今年もほとんどの期間で先発ローテーション  
を守って防御率2点台と良好な数字を残したにもかかわらず、今  
日を含めて5勝8敗となぜか黒星が先行してしまっている。しかし  
だからと言って今季の瑞穂は大連にとって重要な貢献をして見せた  
事は間違いない。勝敗は全てがその投手の責任ではないのだから。

失点の様子は以下の通りである。まず初回、一死後に佐藤がライ  
ト前ヒットで出塁。続く漢はサードゴロでダブルプレーを狙ったが  
オールセーフとなってしまう。4番長谷川はライトフライに抑えた  
が、5番間口がスライダーをセンター前に弾き返して佐藤のホーム  
インを許してしまう。漢の打席ではヒットエンドランがかかってい  
たのもあるが、やはりサード大上はやや非力か。しかしその俊足と  
当たっている打撃は捨てがたいので難しい問題だ。

続いての失点は3回、ツーアウトまでは簡単に奪ったが3番の漢  
がセンター前ヒット、長谷川は強いセカンドゴロだったが近堂がエ  
ラーで一二塁に。そしてまたもチャンスで回ってきた間口がレフト  
前にタイムリーヒットを放った。この間口浩司はぎよろりとした目  
玉と骨っぽい輪郭から想像できるとおりの無骨な男で、普段は地味  
ながらもここぞという場面ではしっかりと仕事をする、まさに奉天  
の良きDNAを忠実に継承している選手の一人である。

そして続く浜口にもライト前ヒットを打たれたが、林の好返球によりホームで長谷川を刺して3点目は与えず。この浜口浩司は口さがないファンから「偽間口」などと言われているが、パワーとテクニクのバランスがよくなかなかの好選手である。一度は後輩の西崎にポジションを奪われたが、現在西崎は負傷中と浜口にとってはチャンスなので猛烈にアピールを続けている。結論は西崎が復帰する来季まで持ち越すだろう。

奉天の先発は向川投手コーチの秘蔵っ子である سانتアナ。今日の سانتアナの調子のはつきり言って悪かったが、それでも熱くならず、決定打を許さない投球が今年は出来ていた。大連のヒット数は10で奉天は6だったが点差はごらんの通り。大連の得点は7回、代打で出した古池の一発だけで、タイムリーヒットはなかった。これもまた野球のよくある姿である。最後は柵橋が奉天の抑えケリー・ファンにショートフライに抑えられて敗北が決まった。

もったいない敗戦だった。まったく手が出せないような負け方はなかっただけにあそこで一本出ていたらと悔やむ気持ちも出現しやすいが、もう終わったことである。まだ厳しくなったとはいえ可能性は大きく残っている。今日のような試合もある。しかしもう今季はこのような試合をしてはならない。全ては明日の勝利に向けて全力を尽くしてもらいたい。

#### その他の試合結果

6 9 勝 6 2 敗 1 2 分	新京	4 - 3	開城	6 7 勝 6 8 敗 8 分
7 6 勝 5 9 敗 8 分	チチハル	2 - 6	ハルビン	6 2 勝 7 1 敗 1 0 分
5 7 勝 7 6 敗 1 0 分	平壤	6 - 0	光州	4 7 勝 8 6 敗 1 0 分

リーサルウエポンの一撃 大一番を制す

「ホーム」大連

8 星渡 (4 - 1)

4 大上 (3 - 1)

6 棚橋 (4 - 1)

9 林 (4 - 1)

3 パウロ (4 - 1)

7 宮畑 (3 - 1) - 水内 (0 - 0)

5 ノーリー (2 - 0) - 古池 (1 - 0)

2 清水 (3 - 0) - ドラゲノフ (1 - 1)

1 フローデセン (2 - 1) - 黄直哉 - 小松原 - 立石 (1 - 0) - 野藤 - 比山 - 李健太郎 (1 - 1)

「ビジター」奉天

5 横山

4 佐藤

2 漢

8 長谷川

7 間口

9 浜口

3 蔡均森

6 田辺

1 星村

奉 0 0 0 0 0 1 0 1 星村 - 松本 -

丸茂 - ファン 7 8 勝 5 4 敗 1 2 分

大 0 0 0 0 1 0 0 3 4 フローデセン

(6 1 / 3) - 黄直哉 (1 / 3) - 小松原 (1 / 3) - 野藤 (1)

- 比山(1) 78勝54敗12分

時間は9時12分、9回ツーアウト一二塁、マウンドには奉天の信頼できる抑え投手であるケリー・ファンが立つ。この豪腕ストツパーがこの回5人目の打者に対して2球目に投じた外角へのストリートが捕らえられる。打球は勢いよく伸びていき、レフトスタンド下段に突き刺さる。球場に大勢詰め掛けたホームの大連ファンが狂喜する中で幕を閉じた試合。全てを決めた男はこれがプロ初ヒットであった。

今日の試合は重要重要と言われ続けてきた4連戦の中でも最も重要と目される試合であった。ここまで2試合で1勝1敗と星を分け合った。まだどちらの流れとも決められない中でどちらが主導権を握るか、それは今日の試合にかかっていると言われた。そしてその試合の先発は大連が今季入団ながらも安定したピッチングを見せているフローデセン、そして奉天は切り札であるエース星村を繰り出してきた。

星村は今季ここまでの防御率は1点台で16勝とまさに磐石そのもの。この絶対的エースを前に大連は待球作戦を敢行した。アンジエロではなく宮畑やノーリーをスタメン起用したのもこの作戦を徹底させるためである。結果的に凡退となっても可能な限り早打ちをせず、球数を重ねるように務めた。初回の大上は星村に10球、3回のノーリーは11球投げさせるなどギリギリとスタミナを消耗させた。

先制点を奪ったのは6回だった。一死後、星渡がショート内野安打で出塁、大上は四球を選び一二塁とする。そして柵橋が外角に逃げるスライダーをうまく流し打ちしてライト線に落ちるタイムリーヒットを放った。今季3番ショートに抜擢されて1年間ポジション

を守り通してきた棚橋が最重要場面で大きな仕事を果たした。

しかしその直後の7回表の一死後、漢と長谷川に連打を浴びる。ここでピッチャーを黄直哉に交代。間口をサードフライに打ち取ってワンポイントリリーフとしての役割を全うする。しかし続いて登板した小松原が浜口にタイムリーヒットを浴びてしまい振り出しに戻る。

以降は大連と奉天のリリーフ陣が奮闘して9回裏まで1対1で来た。勝利のなくなった奉天は試合を締めるために抑えのファンを投入。しかしこのファンに大連打線が食って掛かる。まず先頭のパウロがストレートをセンター前に弾き返すヒット。続く宮畑に代わって8回からレフトの守備に入った水内が堅実に送りバントを決める。大連の代打攻勢は続き、ノーリーに代えて古池を送ったが、切れ味の鋭いフォークボールの前に三振。ツーアウトとなってドラグノフは何と初球打ち。詰まった打球だったがそれが幸いしてサード内野安打。そして9番ピッチャー比山の代打として、李健太郎が登場した。この李健太郎こそ冒頭で述べた「全てを決めた男」である。

殊勲打の李健太郎はドラフトでは1位棚橋、2位星渡、6位大上と今季の躍進に貢献した選手と同期のドラフト7位で入団したが、わずか2年で素行不良を理由に退団した。やることなくなりとりあえず故郷に戻ったが、そこで高校時代の恩師である具淳烈監督に大喝を食らってようやく一念発起。2年間独立リーグでみっちり鍛えて、一昨年の大連秋季キャンプに参加し、就任したばかりだった劉瑞生監督に潜在能力の高さを見込まれて採用された。元々はキャッチャーだったが身体能力を生かすため外野にコンバートされたのもこの時である。

このような経歴や、抜群のパワーから「大連のリーサルウェポン」



などと呼ばれている。去年は怪我もあり出遅れたが、今年ようやく  
念願の一軍昇格を果たした。そして一軍3試合目、一振りチーム  
の歴史にその名前を刻んでみせた。遠回りしたがまだ23歳とまだ  
まだ若く、これからの成長は大いに期待できる男だ。とにかくこの  
勝利の意義は大きい。劇的な勝利によって完全に流れは大連のもの  
となった。

一方奉天にとっては単なる1敗以上のダメージを受けた。絶対的  
エース星村を立てながら伏兵の一発に沈み、大連と並ばれた。明日、  
大連は間違いなくエース吉野を先発に起用する。勢いで言うところ  
かに上の大連を止める術はあるのか。

#### その他の試合結果

70勝62敗12分	新京	14-5	開城	67勝69敗8分
76勝60敗8分	チチハル	3-9	ハルビン	63勝71敗10分
58勝76敗10分	平壤	2-1	光州	47勝87敗10分

リールサルウエポンの一撃 大一番を制す(後書き)

明日オリックスの試合で自由席が無料らしいし行こうかな

投手は野手のために 野手は投手のために

「ホーム」大連

8 星渡(4-2)

5 大上(4-1) - 1 小松原 - 比山

6 棚橋(4-3)

9 林(3-1)

3 パウロ(4-1)

7 アンジエロ(4-1) - 水内

4 近堂(4-2)

2 清水(3-0)

1 吉野(1-0) - ドラグノフ(1-0) - 野藤 - 平野 - 5 ノーリ

1 (1-0)

「ビジター」奉天

5 横山

4 島原

2 漢

8 長谷川

7 間口

9 浜口

3 蔡均森

6 田辺

1 長沢

奉 0 2 0 0 1 0 0 1 4 長沢 - 乙部

- 小林 - 片倉 - 朴賢侍 - 丸茂 7 8 勝 5 5 敗 1 2 分

大 0 0 2 3 0 0 0 1 - 6 吉野(5)

- 野藤(1) - 平野(1) - 小松原(1) - S 比山(1) 7 9 勝

54敗12分

ついにこの時が来た。大連が残り5試合という段階で奉天を抜き去り首位に躍り出たのだ。必勝を期して送り出したエース吉野の出来はあまりよくなかったが、打線の強力な援護によって勝利を手にした。チームの勢いは最高潮。ここから一気に突っ走ってそのまま優勝を決めたい。

直接対決の最終戦、満を持して登場の吉野は前述の通り不安定なピッチング。気負いすぎたか、本来の球威や変化球のキレは出せず、コントロールも甘かった。2回、四球の間口を一塁に置いて7番の蔡均森に真ん中に入ったスライダーを振り抜かれ、先制となる2ランホームランを与えてしまう。しかし3回のワンナウト三塁というピンチにおいてはクリーンナップの漢、長谷川を連続三振に切って取るなどさすがの実力を見せた。

奉天の先発は2年目の長沢広之。今年台頭した伸びのいいストリートが武器の若手投手である。序盤こそプレッシャーを感じさせない堂々としたピッチングを見せたが、大連の打順が二巡目に入ると捕らえられるようになる。3回、二死後に星渡がライト前、大上がセンター前に連打で一二塁として、棚橋がカーブにタイミングを合わせて左中間を破りフェンスに到達する2点タイムリーヒットを放ち同点に追いつく。

4回にはパウロのホームランでいきなり逆転すると、一死後に近堂のレフト前ヒットと清水の四球で出たランナーを吉野が送って二三塁。そして星渡がセカンドの横を抜くヒットで一気に2人生還して一気に差をつける。長沢はここで降板し、奉天の2番手として乙部公文が登板する。乙部は得意の速球で大上をセカンドフライに打ち取った。しかしこの時点で5対2とかなり離されており、試合の

流れも明らかに大連のものだった。

吉野は5回、奉天の新鋭島原蒼大にタイムリーヒットを浴びて5回3失点でマウンドを降りた。それ以降はリリーフ陣を使いまくって逃げ切りを図った。無類のタフネスさでブルペンを支えぬいた野藤秀親、変則フォームとポーカーフェイスで相手を翻弄した平野錦切れ味の鋭いストレートとスライダーが鮮やかな小松原泰誠、そして弱気を克服して強烈なフォークを使いこなせるようになった比山仁。皆がそれぞれの技量を発揮してくれた。

今日出なかつた選手ではサイドスローを完全にものにした黄直哉、ロングリリーフで実力を発揮した趙雅憲、長い回もこなせる左腕の石風呂幹伸、ベテランとして味のあるピッチングを見せた伊東聡司など綺羅星の如く様々な選手が躍動した。誰が欠けてもこの躍進はなかつた、最高のブルペン陣だ。

試合は大連が8回にアンジェロのソロホームランでさらに差を広げた。9回に比山が代打黄勇真にタイムリーヒットを浴び、その後も横山に四球を与えてワンナウト満塁という大ピンチを作った。しかし比山は慌てない。島原を三振、漢をレフトフライに打ち取って熱戦に決着をつけた。そして優勝に限りなく近づく1勝をもぎ取った。天王山を制した大連が次に対戦するのは3連敗中の開城。ここまで熱く応援してくれたファンのためにも沖縄に行く前に勝負を決めたい。

その他の試合結果

7 1 勝 6 2 敗 1 2 分	新京	3 - 0	開城	6 7 勝 7 0 敗 8 分
7 7 勝 6 0 敗 8 分	チチハル	5 - 2	ハルビン	6 3 勝 7 2 敗 1 0 分

5 9 勝 7 6 敗 1 0 分	平壤	3 - 0	光州	4 7 勝 8 8 敗 1 0 分
-------------------	----	-------	----	-------------------

投手は野手のために 野手は投手のために（後書き）

明らかに風邪を引いたので試合見に行くどころではない。こういうタイミングで何という体調管理のまずさ。文章を書くには問題ない程度なのでまあいいけど

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2934r/>

---

大日本リーグ-大連戦記-

2011年10月13日16時50分発行